

令和 4 年度
市民意識調査報告書



船 橋 市

は じ め に



昭和12年に人口4万3千人ほどで歩み始めた船橋市は、現在では約64万人を擁し、市民の皆様が文化、スポーツ、福祉、環境、教育など、さまざまな分野で輝きを放つ活力あふれる大都市へと発展しました。

また、船橋市は、東京湾に面して恵み豊かな干潟である三番瀬、内陸部には工業地、商業地、住宅地、農地が広がり、バランスのとれた産業と、発達した交通網により、全国有数の都市としてのポテンシャルを持っています。

この全国に誇れるすばらしい市民力と都市力を活かし、住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるまち、快適で豊かに暮らせる人と環境にやさしいまちを目指して、さまざまな施策に全力で取り組んでいるところです。

船橋市市民意識調査は、皆様の意見を市政運営に役立てるため、昭和47年度から毎年実施しております。

現在、市では新型コロナウイルス感染症の感染対策をとりながら市民活動の促進や市内経済の回復に向けた取り組みを市民・事業者の皆様と連携・協力しながら進めております。

令和4年度は、世界的に脱炭素社会の実現に向けた動きが加速する中でゼロカーボンシティ推進室を新たに設置し、地球的視野での環境問題への取り組みを進めるため、「市の施策」の評価や「地球温暖化」等をテーマとして調査を行いました。

今回の調査結果は、今後の市政運営における貴重な基礎資料として活用してまいります。

結びに、調査にご協力いただいた多くの市民の皆様に心より御礼申し上げます。

船橋市長 松戸 徹

市章・市の花・市の木



市章(昭和12年制定)

「舟」の文字を図案化したもので、船橋発展のシンボルです。



市の木 サザンカ

若潮国体(昭和48年に千葉県で開催)を記念して、昭和45年に市民の皆さんに選んでいただきました。

市の花



ヒマワリ

太陽に向かって咲き、力強く、将来の船橋市の子どもたちに勇気と希望を与える花



カザグルマ

船橋市に自生している貴重種であり、市のシンボルマークとして、大切に保護していくべき花

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査内容	3
4. 配布・回収結果	3
5. 居住地区区分	4
6. 報告書の見方	5
II. 調査回答者の属性	7
1. 性別	9
2. 年齢	9
3. 職業	10
4. 世帯状況	10
5. 居住年数	11
6. 居住地区	11
7. 以前の居住地	12
III. 調査結果の分析	13
1. 「住みごち」について	15
(1) 船橋市への愛着	15
(2) 船橋市への定住意向	18
(3) 船橋市の住みごち	21
(3-1) 船橋市が住みよい理由	24
(3-2) 船橋市が住みにくい理由	27
(4) 「住みごち」概観	31
2. 「広報活動」について	32
(1) 情報を入手するためによく利用するもの	32
(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法	34
(3) 広報紙やホームページで知りたい情報	36
(4) 「広報ふなばし」の閲読状況	38
(4-1) 「広報ふなばし」の入手方法	40
(4-2) 「広報ふなばし」の発行回数	42
(4-3) 「広報ふなばし」の読みやすさ	44
(4-4) 「広報ふなばし」を読まない理由	46
(4-5) 「広報ふなばし」が読みにくい理由	48
(5) 「広報活動」概観	49

3. 「自殺対策に関する意識」について	50
(1) 自殺対策の取組みの認知状況	50
(2) 「ゲートキーパー」の認知状況	52
(3) 自分の気持ちを理解してくれる人がいると思うか	54
(4) 不満や悩み等に耳を傾けてくれる人はいると思うか	56
(5) 悩みを抱えたときの相談相手	58
(6) 自殺についてどのように思うか	60
(7) 自殺したいと思ったことがあるか	62
(7-1) 自殺を考えた要因	64
(7-2) 自殺を考えた時にどのように思いとどまったか	66
(8) 身近な人から死にたいと打ち明けられたときの対応	68
(9) うつ病のサインに気づいたときの相談窓口	70
(10) 今後求められる有効な自殺対策	72
(11) 今後求められる子ども・若者向けの有効な自殺対策	74
(12) 「自殺対策に関する意識」概観	76
4. 「地球温暖化」について	77
(1) 日常行っている地球温暖化対策	77
(1-1) (ア)電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなど CO2 排出量の把握に努めている	78
(1-2) (イ)季節や天候・気温などに適した服装を選び、過度な冷暖房に頼らないようにしている	80
(1-3) (ウ)公共交通機関を活用してマイカー使用を控えている	82
(1-4) (エ)ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている	84
(1-5) (オ)賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている	86
(1-6) (カ)使わなくなったものはリサイクルショップ等を活用している	87
(1-7) (キ)照明は LED を選んでいる	89
(1-8) (ク)住宅の断熱性能を向上するため、断熱材やペアガラスを採用している	90
(2) 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況	92
(2-1) (ア)使用していない部屋の電気は消そう	93
(2-2) (イ)冷蔵庫の温度は適切にしよう（夏、冬で変えるなど）	94
(2-3) (ウ)エアコンの温度は適切にしよう	96
(2-4) (エ)マイバッグやマイボトルを持ち歩こう	98
(2-5) (オ)エコマーク・省エネラベルの製品を選ぼう	100
(2-6) (カ)エコドライブを実践しよう	102
(2-7) (キ)省エネ性能の高い家電や機器を選択しよう	104
(2-8) (ク)地元の食材を使うなどエコ・クッキングを実践しよう	106
(2-9) (ケ)宅配便の再配達を防止しよう	108
(2-10) (コ)緑のカーテンや、すだれを設置しよう	109

(2-11) (サ)暑さを避け、こまめな水分補給などの熱中症対策をしよう	111
(2-12) (シ)ハザードマップ等を活用して避難場所・経路を確認しよう	112
(2-13) (ス)災害発生に備えて防災グッズを準備しよう	113
(3) 家庭での再生可能エネルギー由来の電力契約状況	115
(4) 家庭での太陽光発電システム等の設置状況	117
(4-1) (ア)太陽光発電システム	118
(4-2) (イ)太陽熱利用システム	120
(4-3) (ウ)エネファーム（家庭用燃料電池）	122
(4-4) (エ)家庭用蓄電池（定置式）	124
(4-5) (オ)V2H	126
(4-6) (カ)HEMS	128
(5) 太陽光発電システムの設置時期と導入予定時期	130
(6) 家庭で所有する自動車の種類	132
(6-1) 家庭で所有する自動車の台数	134
(7) 次世代自動車の導入意向	135
(7-1) (ア)EV（電気自動車）	136
(7-2) (イ)HV（ハイブリッド車）	138
(7-3) (ウ)PHV（プラグインハイブリッド車）	140
(7-4) (エ)FCV（燃料電池自動車）	142
(8) 冷蔵庫等電化製品の使用年数	144
(8-1) (ア)冷蔵庫・冷凍庫	145
(8-2) (イ)エアコン	146
(8-3) (ウ)テレビ	147
(9) 冷蔵庫等電化製品の買い替えの契機	148
(10) 冷蔵庫等の電化製品買い替え・新規購入時の商品選びの優先項目	150
(11) 自宅の照明機器のLED電球への切替状況	152
(12) 市から発信して欲しい情報(地球温暖化防止)	154
(13) 地球温暖化や省エネの主たる情報源	156
(14) 「地球温暖化」概観	158
5. 「市の施策」について	159
(1) ここ数年でよかったもの	160
(2) 力を入れるべきもの	165
6. 自由意見	170
(1) 自由意見のまとめ	170
(2) 自由意見の抜粋	171

IV. 調査票..... 183

I. 調査概要

I. 調査概要

1. 調査目的

本調査は、住み良さや定住意識、愛着心、市政の各分野における市民ニーズの基本動向を把握分析するとともに、これまで実施してきた市民意識調査結果との時系列分析等を行うことにより、今後の施策展開に資することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：船橋市全域
- (2) 調査対象：船橋市在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標 本 数：3,000 人
- (4) 標本抽出：住民基本台帳から性別、年齢、地域などを考慮して無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送回収
(※ 調査期間中に督促を兼ねた「礼状はがき」を 1 回送付)
- (6) 調査期間：令和 4 年 9 月 2 日（金）～9 月 26 日（月）
- (7) 調査機関：株式会社総合企画

3. 調査内容

- (1) 「住みごころ」について
- (2) 「広報活動」について
- (3) 「自殺対策に関する意識」について
- (4) 「地球温暖化」について
- (5) 「市の施策」について

4. 配布・回収結果

- (1) 標 本 数：3,000
- (2) 回 収 数：1,362
- (3) 有効回収率：45.4%

年度	有効回収率
平成30年度	45.6%
令和元年度	47.5%
令和2年度	56.6%
令和3年度	49.5%
令和4年度	45.4%

5. 居住地区区分

本調査での船橋市内の地区区分（行政ブロック）は、下表・下図の通りである。

◆居住地区内町名

地 区	該 当 町 名
南部地区	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台、本町、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町、南本町、海神、海神町、海神町東、海神町西、海神町南、南海神
西部地区	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山、二子町、本中山、旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町、丸山、上山町、馬込西、馬込町、藤原
中部地区	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町、高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台、高根台、芝山、新高根
東部地区	前原東、前原西、中野木、二宮、飯山満町、滝台町、滝台、薬円台、薬園台町、七林町、三山、田喜野井、習志野、習志野台、西習志野
北部地区	二和東、二和西、三咲町、三咲、南三咲、八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台、松が丘、大穴町、大穴南、大穴北、小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町、坪井東、坪井西、坪井町

◆居住地区区分図（行政ブロック）



6. 報告書の見方

(1) 結果の表示方法

本報告書を見るにあたって、留意すべきこととして以下の事項があげられる。

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての選択肢の比率の合計が100%にならないことがある。
 - ②基数となるべき実数はnとして掲載した。各比率はnを100%として算出した。
 - ③複数回答の質問では、すべての選択肢の比率の合計は通常100%を超える。
 - ④誤差を考慮し、nが小さい場合（10未満）は、基本的に検討の対象としない。
 - ⑤図中にある「その他」の比率は、選択肢として「その他」を選んだ回答者数の比率であり、表にある「その他」の内訳は具体的な内容についての件数である。選択肢「その他」を選んでも内容の記入がないものや、1人の回答者が複数の内容を記入しているものがあるため、「その他」の比率と「その他」の内訳件数は一致しない。
- ※今回の調査では、年齢区分を60～69歳と70歳以上に細分化して区分した。

(2) 標本誤差

標本誤差は、次式により得られる。ただし、信頼度は一般的に用いられる95%とする。

（注）「信頼度95%」とは、100回同じ調査を実施したときに、おおむね95回はこの精度が得られることを示す。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \div \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ただし、b＝標本誤差

N＝母集団数（船橋市全体・人）

n＝サンプル数（人）…本報告書ではこれをn（比率算出の基数）で示す。

P＝回答比率

また、Nはnより十分大きいと、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなしている。

上式をもとに、本調査の標本誤差の早見表を掲げる。

◆ 今回の調査結果の標本誤差（信頼度95%）

回答比率(P) n（人）	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,362	±1.59%	±2.12%	±2.43%	±2.60%	±2.66%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.04%	±3.10%
790	±2.09%	±2.79%	±3.20%	±3.42%	±3.49%
530	±2.55%	±3.41%	±3.90%	±4.17%	±4.26%
300	±3.39%	±4.53%	±5.19%	±5.54%	±5.66%
200	±4.16%	±5.54%	±6.35%	±6.79%	±6.93%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%

（表の見方）例えば、ある設問の回答者数が1,362人であり、その設問中にある選択肢の回答比率が50%であった場合、「回答比率の誤差の範囲は±2.66%以内（47.34%～52.66%）である。ただし信頼度が95%であるので、誤差の範囲が±2.66%以内となる確率は95%である。」と見ることができる。

(3) 時系列比較の出典について

時系列比較の出典は、過年度に実施した市民意識調査の結果によるものである。

Ⅱ．調査回答者の属性

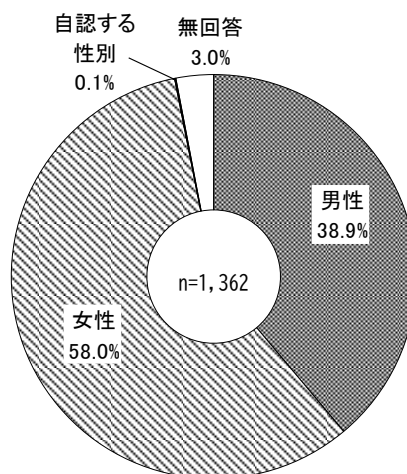
Ⅱ. 調査回答者の属性

1. 性別

回答者の性別は、女性（790 人・58.0％）の割合が、男性（530 人・38.9％）より高くなっている。

	基数	構成比 (%)	配布数
1. 男性	530	38.9	1,515
2. 女性	790	58.0	1,485
3. 自認する性別	1	0.1	
(無回答)	41	3.0	
合 計	1,362	100.0	3,000

※ 3. 自認する性別への回答 1 件は、その性別が
未記入のため性別の集計からは除外した。

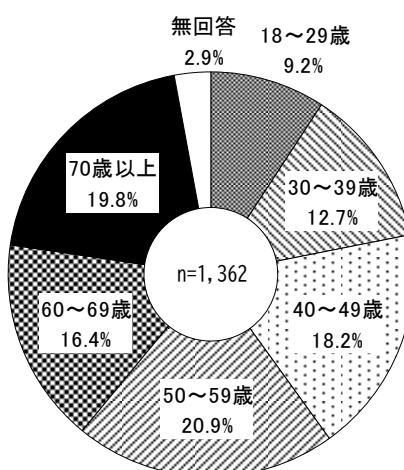


図Ⅱ－1 性別

2. 年齢

回答者の年齢は、50～59 歳（284 人・20.9％）の割合が最も高く、次いで 70 歳以上（270 人・19.8％）が 2 割となっている。なお、18～29 歳（125 人・9.2％）は 1 割弱と最も低くなっている。

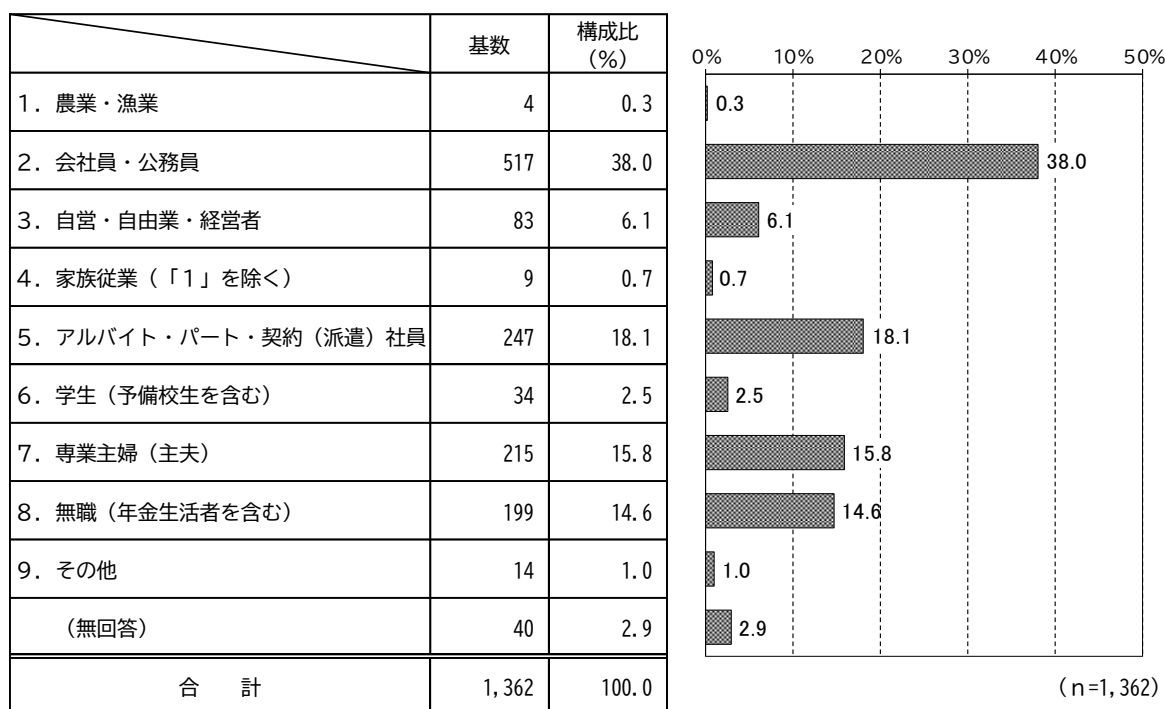
	基数	構成比 (%)
1. 18～29歳	125	9.2
2. 30～39歳	173	12.7
3. 40～49歳	248	18.2
4. 50～59歳	284	20.9
5. 60～69歳	223	16.4
6. 70歳以上	270	19.8
(無回答)	39	2.9
合 計	1,362	100.0



図Ⅱ－2 年齢

3. 職業

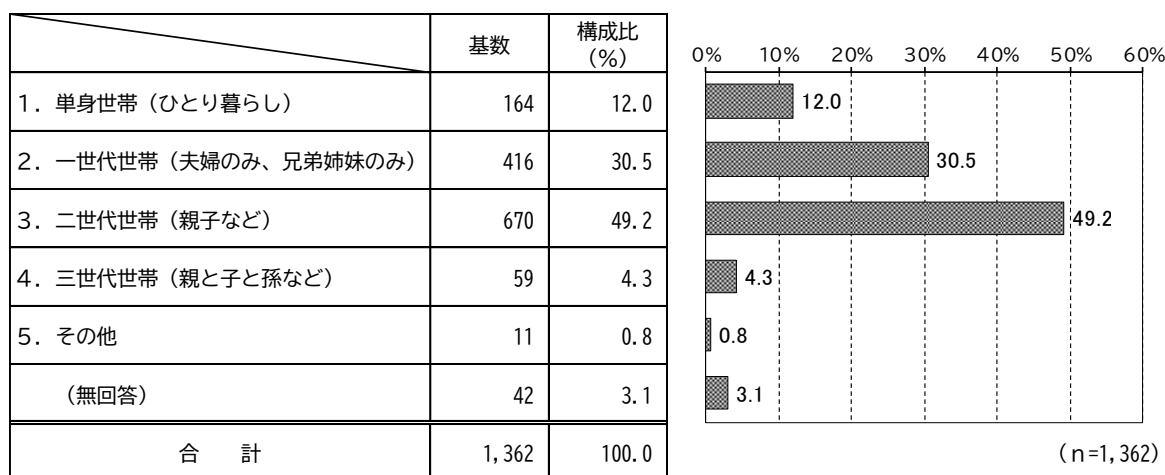
回答者の職業は、会社員・公務員（517 人・38.0%）の割合が最も高く、4 割弱となっている。次いで、アルバイト・パート・契約（派遣）社員（247 人・18.1%）、専業主婦（主夫）（215 人・15.8%）、無職（年金生活者を含む）（199 人・14.6%）と続いている。



図Ⅱ－3 職業

4. 世帯状況

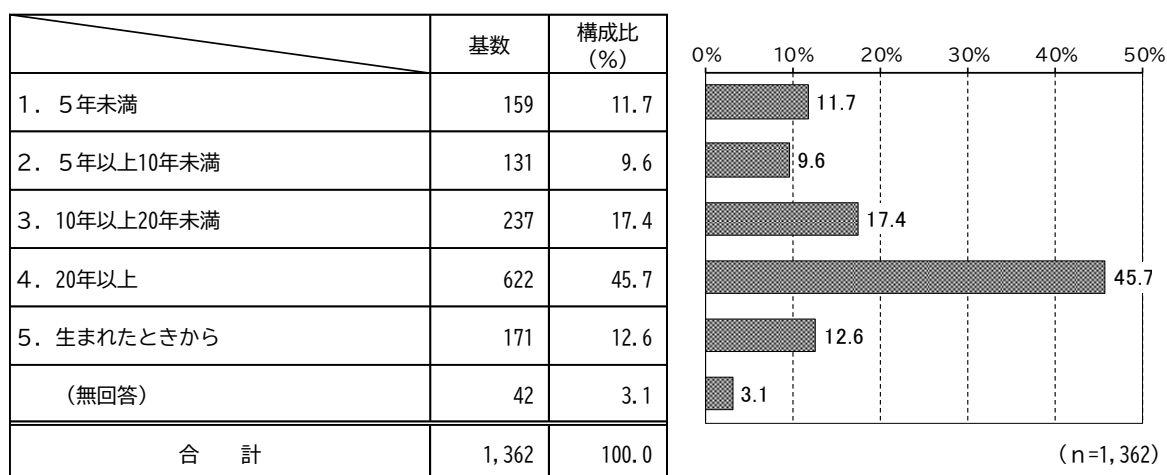
回答者の世帯状況は、二世帯世帯（親子など）（670 人・49.2%）の割合が最も高く、5 割弱となっている。次いで、一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）（416 人・30.5%）、単身世帯（ひとり暮らし）（164 人・12.0%）と続いている。



図Ⅱ－4 世帯状況

5. 居住年数

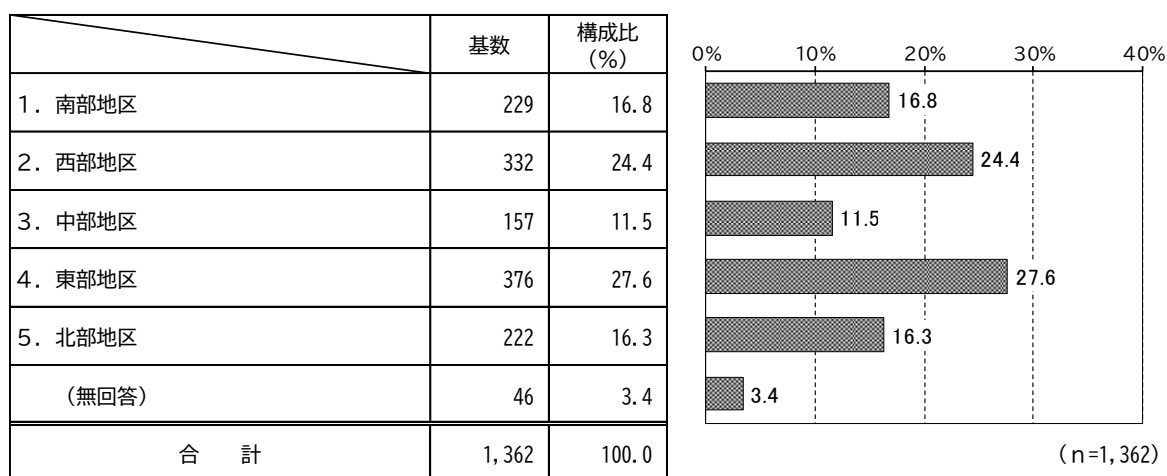
回答者の居住年数は、20 年以上（622 人・45.7%）の割合が最も高く、4 割を超えている。次いで、10 年以上 20 年未満（237 人・17.4%）、生まれたときから（171 人・12.6%）、5 年未満（159 人・11.7%）、5 年以上 10 年未満（131 人・9.6%）の順になっている。



図Ⅱ－5 居住年数

6. 居住地区

回答者の居住地区は、東部地区（376 人・27.6%）、西部地区（332 人・24.4%）が 2 割を超え、次いで、南部地区（229 人・16.8%）、北部地区（222 人・16.3%）、中部地区（157 人・11.5%）の順になっている。

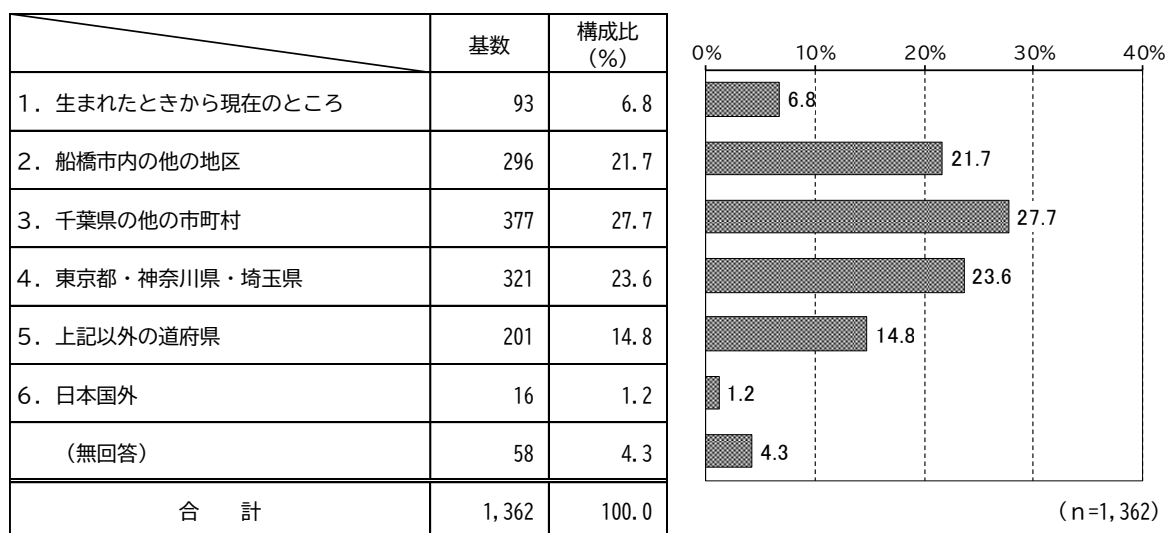


図Ⅱ－6 居住地区

7. 以前の居住地

回答者の以前の居住地は、千葉県の他の市町村（377 人・27.7%）、東京都・神奈川県・埼玉県（321 人・23.6%）、船橋市内の他の地区（296 人・21.7%）が 2 割を超え、次いで、上記以外の道府県（201 人・14.8%）が続いている。

生まれたときから現在のところ（93 人・6.8%）、日本国外（16 人・1.2%）は 1 割を下回っている。



図Ⅱ－7 以前の居住地

Ⅲ. 調査結果の分析

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 「住みごころ」について

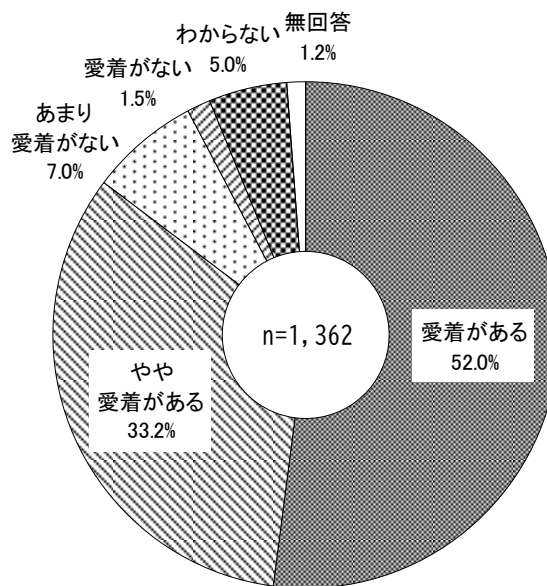
(1) 船橋市への愛着

『愛着を持っている人』は8割超

【問1】「船橋市」に愛着を持っていますか。(○は1つ)

船橋市に愛着を持っているかの質問に、「愛着がある」の割合は 52.0%と5割を超えた人が回答している。「やや愛着がある」(33.2%)を合わせた『愛着を持っている人』の割合は、85.2%と8割を超えている。

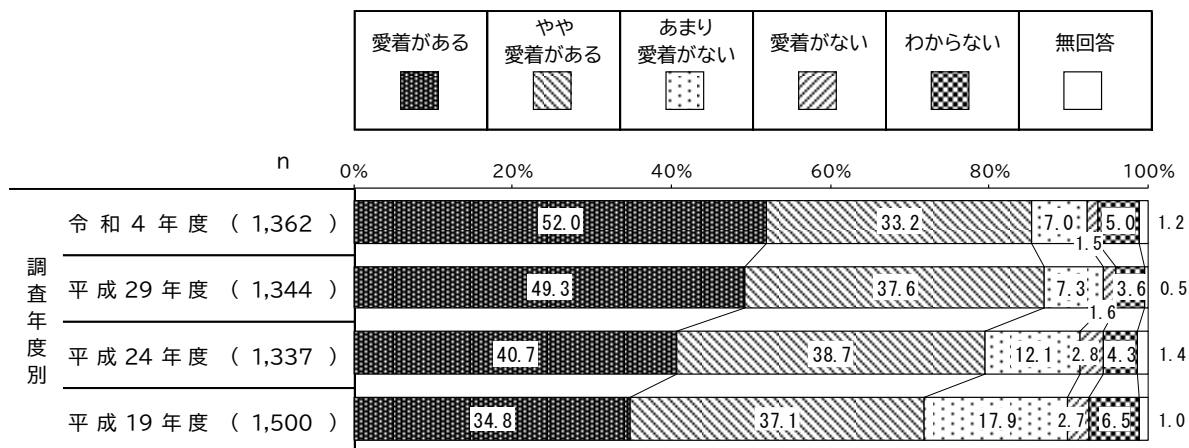
一方、「あまり愛着がない」(7.0%)と「愛着がない」(1.5%)を合わせた『愛着を持っていない人』の割合は、8.5%で1割弱となっている。



図Ⅲ－1 船橋市への愛着

【時系列比較】

時系列で比較すると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている人』の割合（85.2%）は年々高くなる傾向にあったものの、平成 29 年度（86.9%）と比べると 1.7 ポイント減少しているが、「愛着がある」の割合（52.0%）は年々高くなっており、平成 29 年度（49.3%）と比べると 2.7 ポイント増加している。

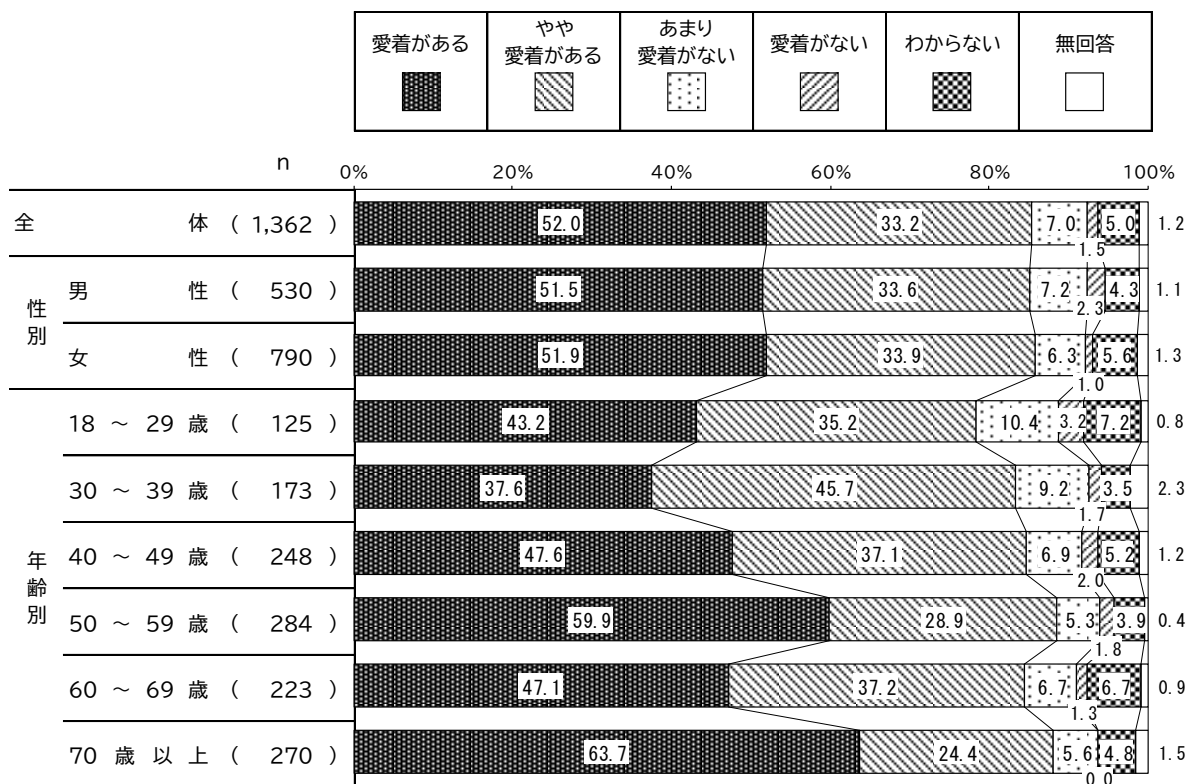


図Ⅲ－2 船橋市への愛着（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている人』の割合は、男性（85.1%）、女性（85.8%）でおおむね変わらない。

年齢別にみると、『愛着を持っている人』の割合は、50～59 歳では 88.8%、70 歳以上では 88.1%と 9 割弱に達している。

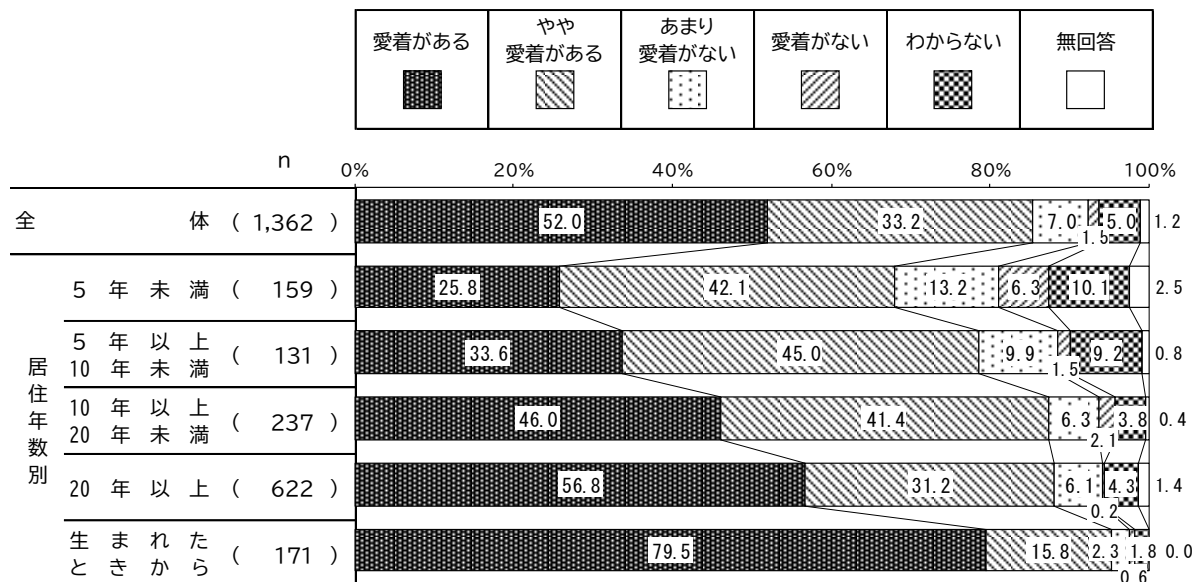


図Ⅲ－3 船橋市への愛着（性別／年齢別）

【居住年数別】

居住年数別にみると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている人』の割合は、「生まれたときから」（95.3%）が最も高く 9 割を超えている。

「生まれたときから」を除いた居住年数だけで比べると、居住年数が長いほど『愛着を持っている人』の割合が高く、最も高い「20 年以上」（88.0%）と最も低い「5 年未満」（67.9%）の差は 20.1 ポイントある。

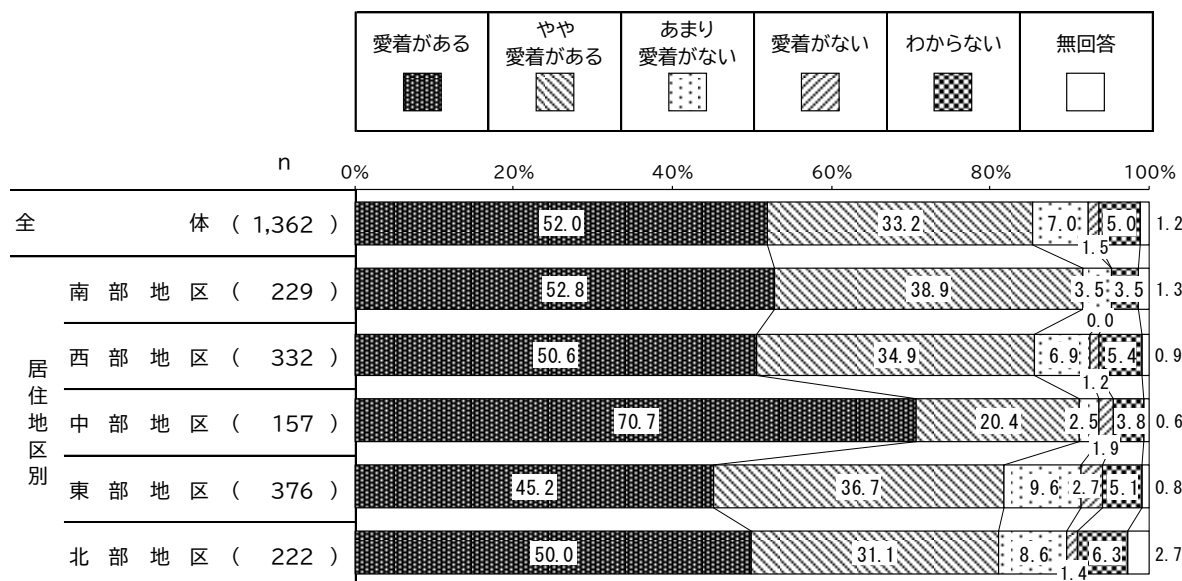


図Ⅲ－4 船橋市への愛着（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「愛着がある」は、中部地区（70.7%）で 7 割を超えている。

「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている人』の割合は、南部地区（91.7%）、中部地区（91.1%）、西部地区（85.5%）、東部地区（81.9%）、北部地区（81.1%）となっており、全ての地区で 8 割を超えている。



図Ⅲ－5 船橋市への愛着（居住地区別）

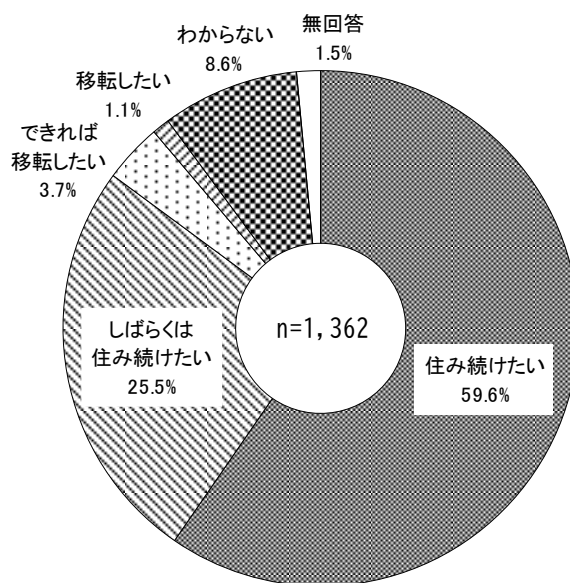
(2) 船橋市への定住意向

『住み続けたい人』は8割超

【問2】今後も「船橋市」に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

今後も船橋市に住み続けたいと思うかの質問に対し、「住み続けたい」(59.6%)と「しばらくは住み続けたい」(25.5%)を合わせた『住み続けたい人』の割合は、85.1%と8割を超えている。

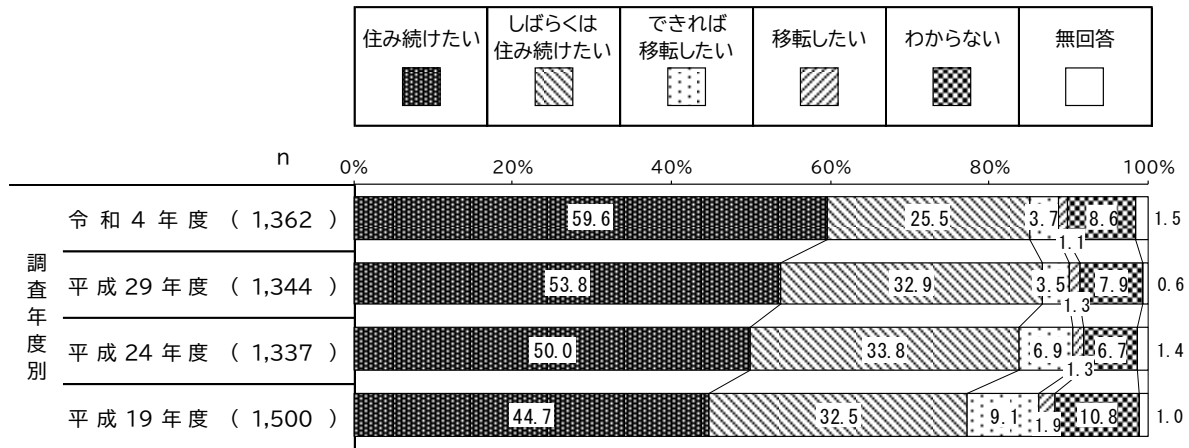
一方、「できれば移転したい」(3.7%)と「移転したい」(1.1%)を合わせた『移転したい人』の割合は、4.8%となっている。



図Ⅲ－6 船橋市への定住意向

【時系列比較】

時系列で比較すると、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続けたい人』の割合（85.1%）は、平成 29 年度（86.7%）と比べ 1.6 ポイント減少しているが、「住み続けたい」の割合（59.6%）は、年々高くなっており、平成 29 年度（53.8%）と比べて 5.8 ポイント増加している。

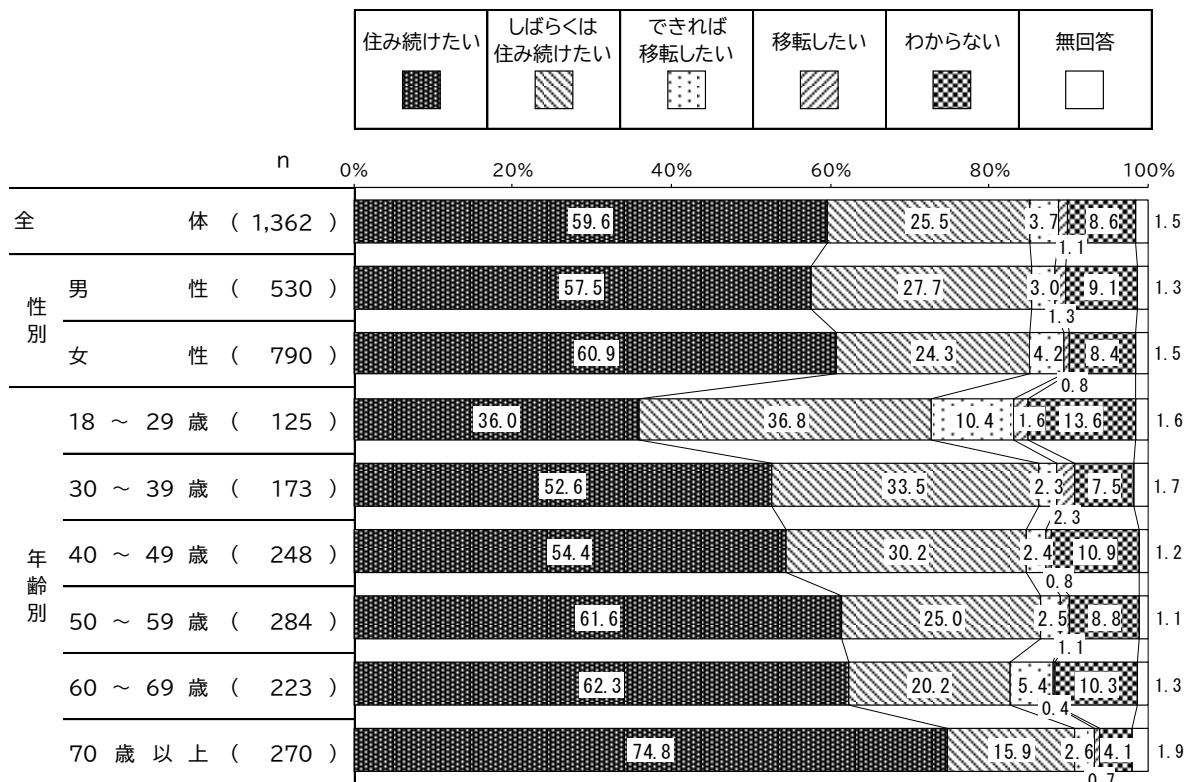


図Ⅲ－7 船橋市への定住意向（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続けたい人』の割合は、男性（85.2%）も女性（85.2%）も同率で8割を超えている。

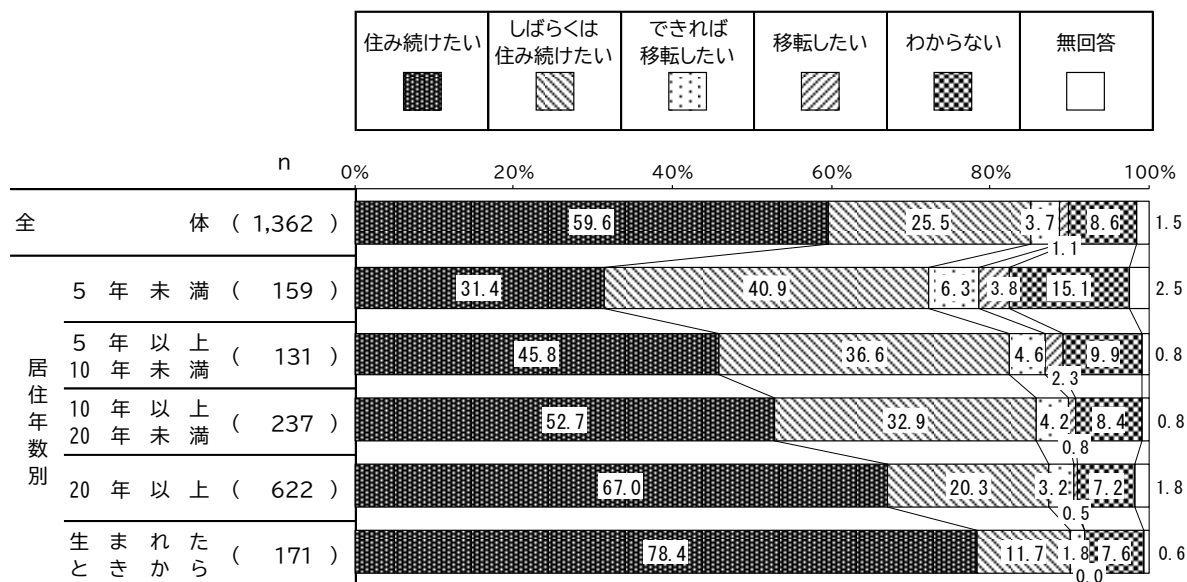
年齢別にみると、『住み続けたい人』の割合は、18～29歳（72.8%）を除いて、8割を超え、70歳以上では90.7%と、9割を超えている。



図Ⅲ－8 船橋市への定住意向（性別／年齢別）

【居住年数別】

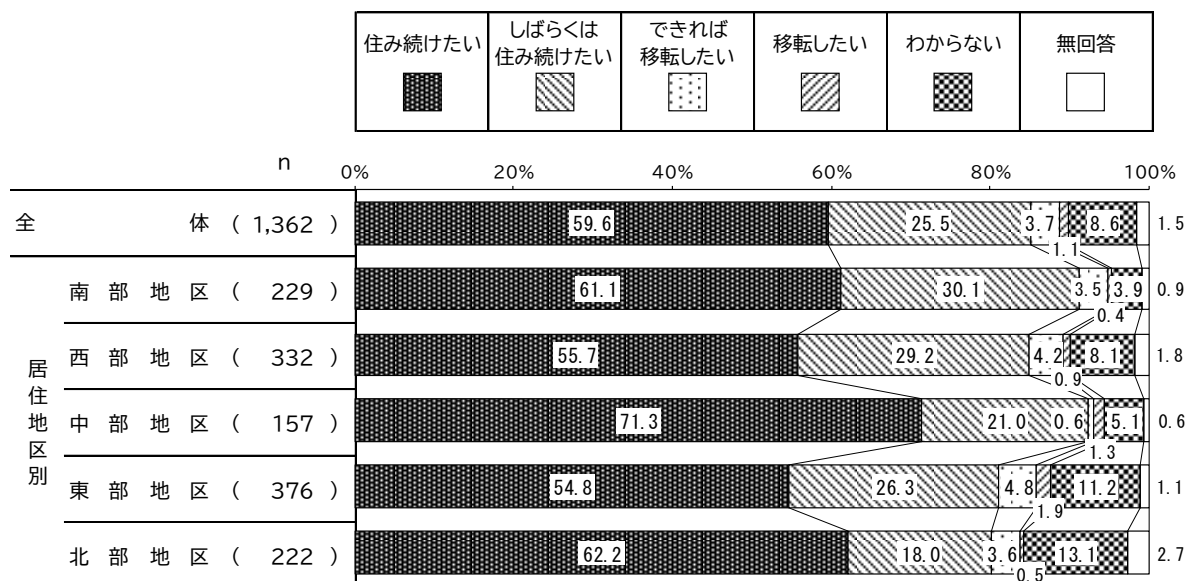
居住年数別にみると、「住み続けたい」と答えた割合が、生まれたときから（78.4%）、20年以上（67.0%）で高く、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続けたい人』の割合は、5年未満（72.3%）を除き、82.4%～90.1%の範囲にあり、8割を超えている。



図Ⅲ－９ 船橋市への定住意向（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「住み続けたい」は東部地区（54.8%）と西部地区（55.7%）を除く3地区で6割を超え、なかでも中部地区（71.3%）で最も高く、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続けたい人』の割合でも、中部地区（92.3%）が最も高く、次に高い南部地区（91.2%）を含む2地区では9割を超えている。



図Ⅲ－１０ 船橋市への定住意向（居住地区別）

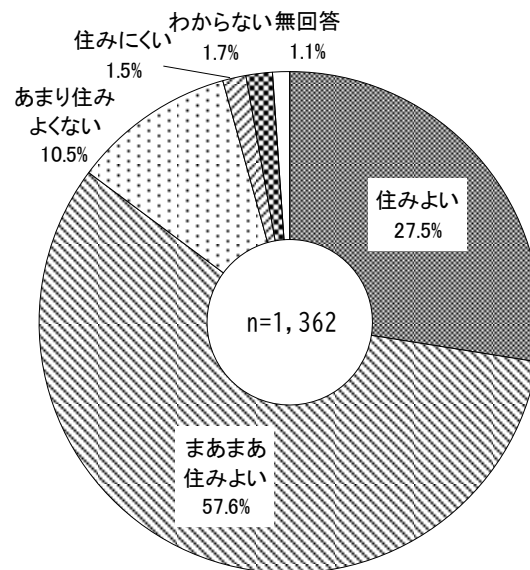
(3) 船橋市の住みごころ

『住みよく思う人』は8割超

【問3】「船橋市」を住みよいまちと感じていますか。(〇は1つ)

船橋市の住みごころを聞いたところ、「住みよい」(27.5%)と「まあまあ住みよい」(57.6%)を合わせた『住みよく思う人』の割合は、85.1%と8割を超えている。

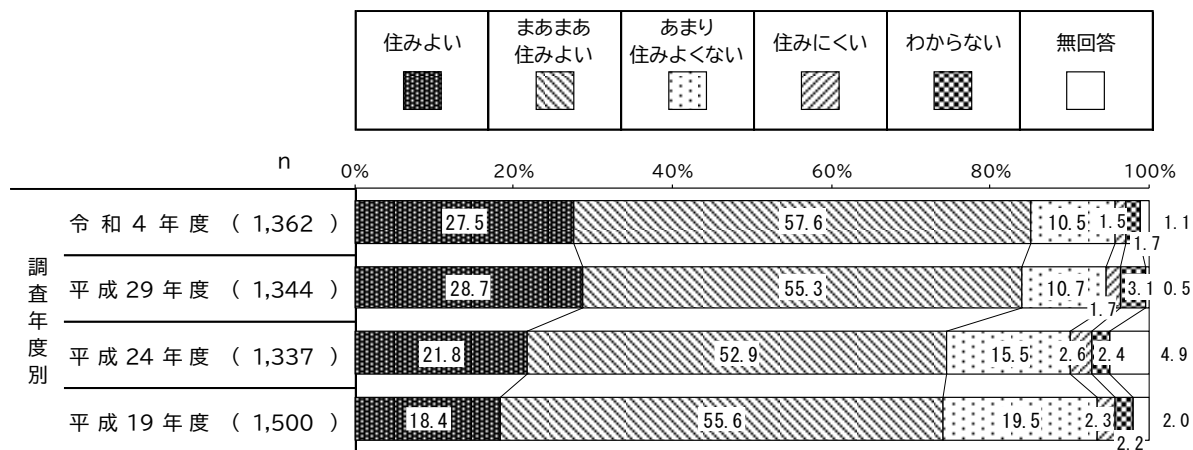
一方、「あまり住みよくない」(10.5%)と「住みにくい」(1.5%)を合わせた『住みよく思わない人』の割合は、12.0%となっている。



図Ⅲ－１１ 船橋市の住みごころ

【時系列比較】

時系列で比較すると、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う人』の割合（85.1%）は年々高くなっており、平成 29 年度（84.0%）と比べて 1.1 ポイント増加している。

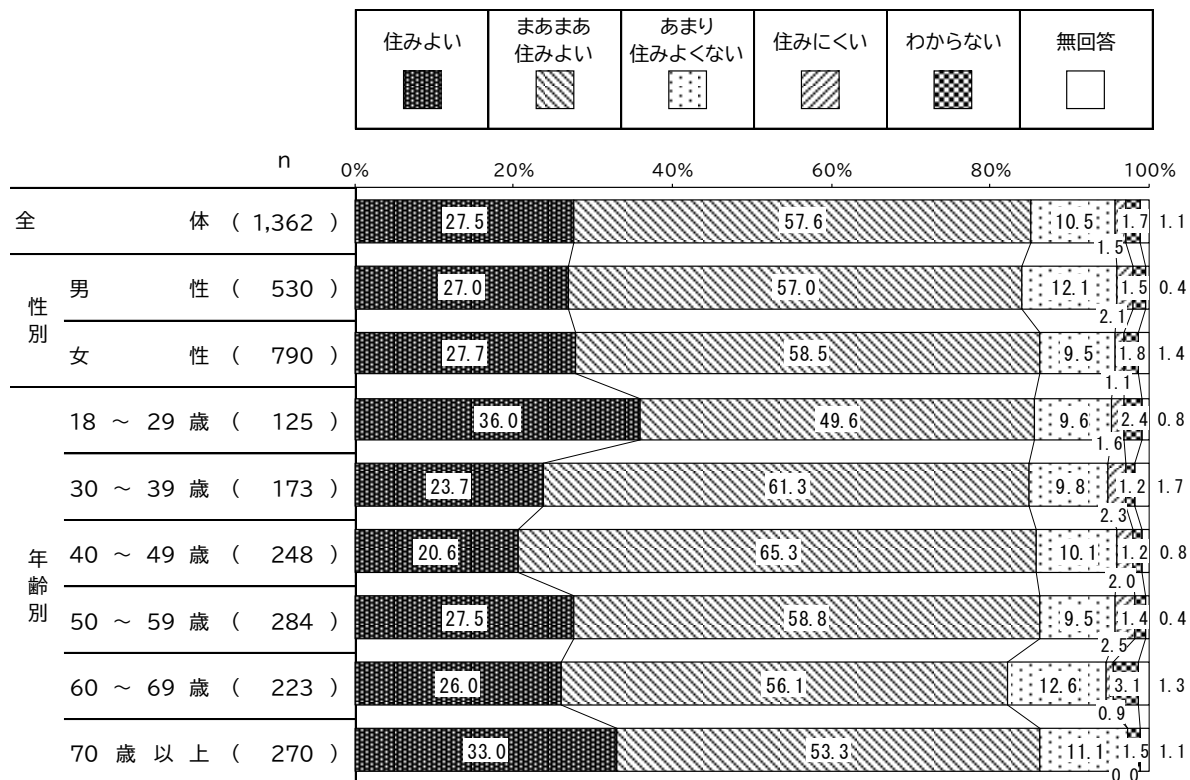


図Ⅲ－１２ 船橋市の住みごち（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う人』の割合は、女性（86.2%）が男性（84.0%）より 2.2 ポイント高くなっている。

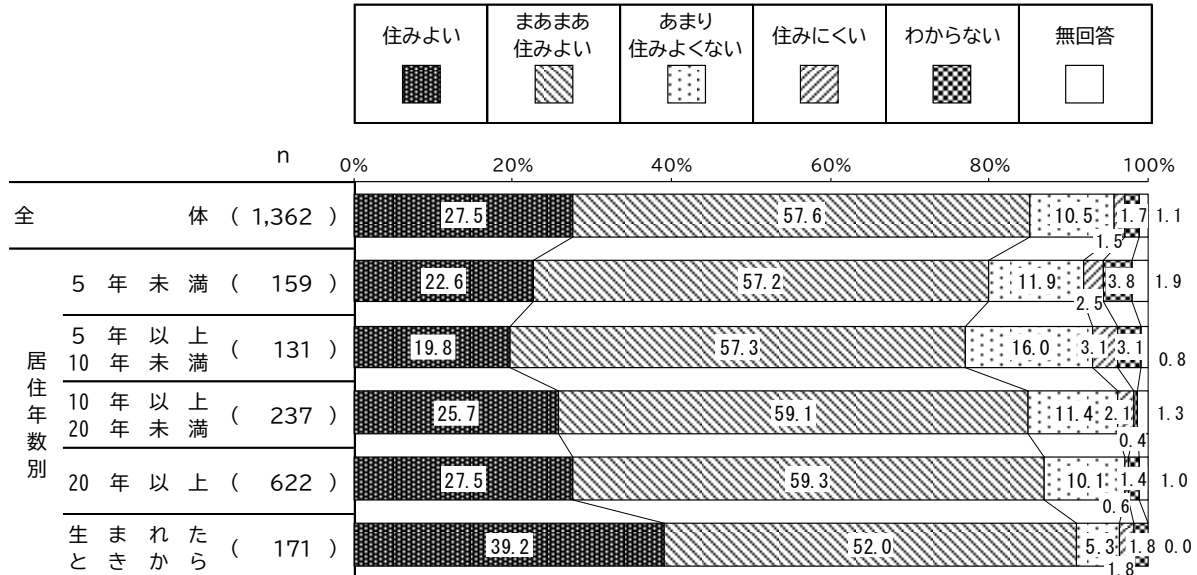
年齢別にみると、『住みよく思う人』の割合は、50～59歳と70歳以上（ともに86.3%）が最も高くなっているが、他の全ての年齢でも8割を超えている。



図Ⅲ－１３ 船橋市の住みごち（性別／年齢別）

【居住年数別】

居住年数別にみると、「住みよい」は生まれたときから（39.2%）が最も高く、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う人』の割合も、生まれたときから（91.2%）が最も高くなっている。

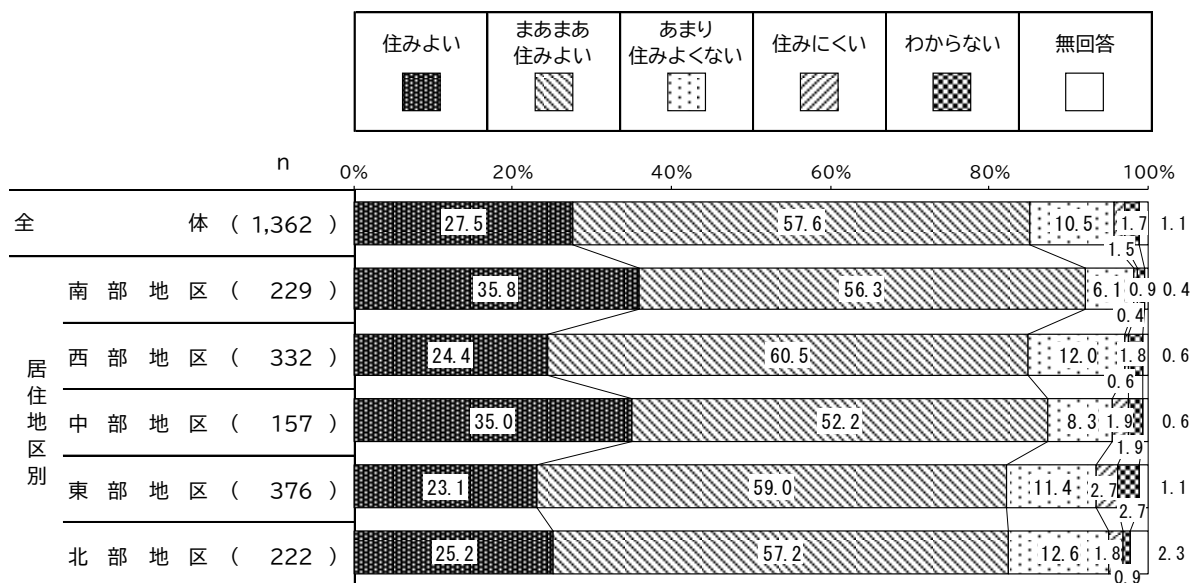


図Ⅲ－１４ 船橋市の住みごち（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「住みよい」の割合は、南部地区（35.8%）が最も高く、東部地区（23.1%）で最も低くなっている。

「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う人』の割合は、全ての地区で8割を超えており、南部地区（92.1%）では9割を超えている。



図Ⅲ－１５ 船橋市の住みごち（居住地区別）

(3-1) 船橋市が住みよい理由

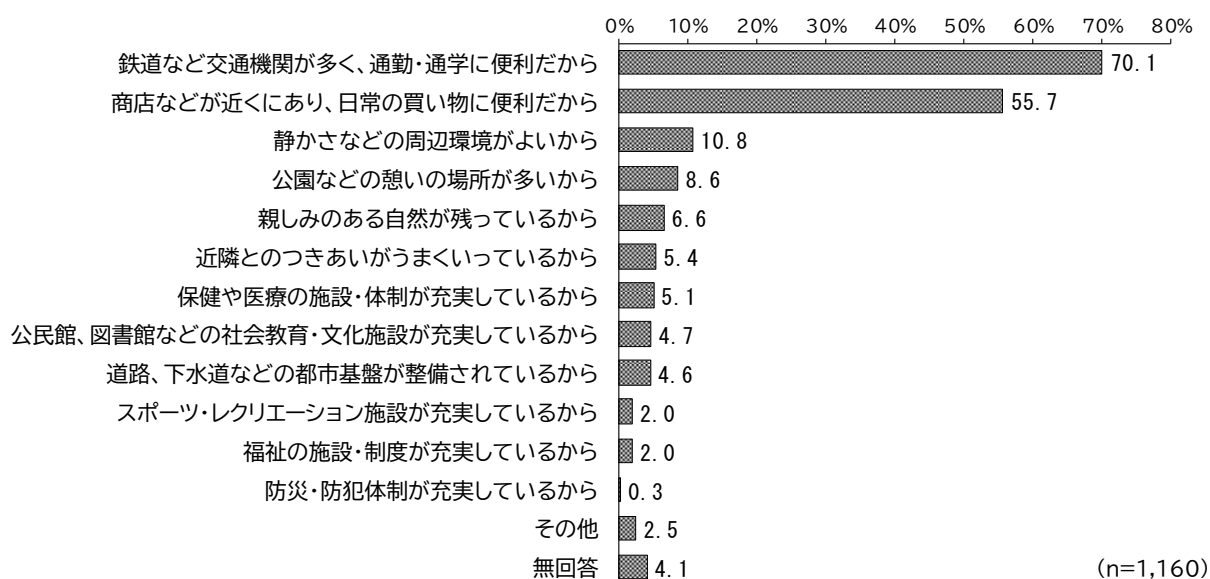
「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」住みよいが7割

(問3で「1. 住みよい」または「2. まあまあ住みよい」とお答えの方)

【問3-1】住みよいと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

船橋市の住みごちについて「住みよい」、「まあまあ住みよい」と答えた人(1,160人)に対して、その理由を聞いたところ、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」が70.1%で最も高く、次いで「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」(55.7%)までが5割を超えており、この2つを理由として挙げる人が多い。

「その他」については、「生まれ育ったところ・住み慣れたまちだから」(8件)、「アクセスがいいから」(4件)などが挙げられている。



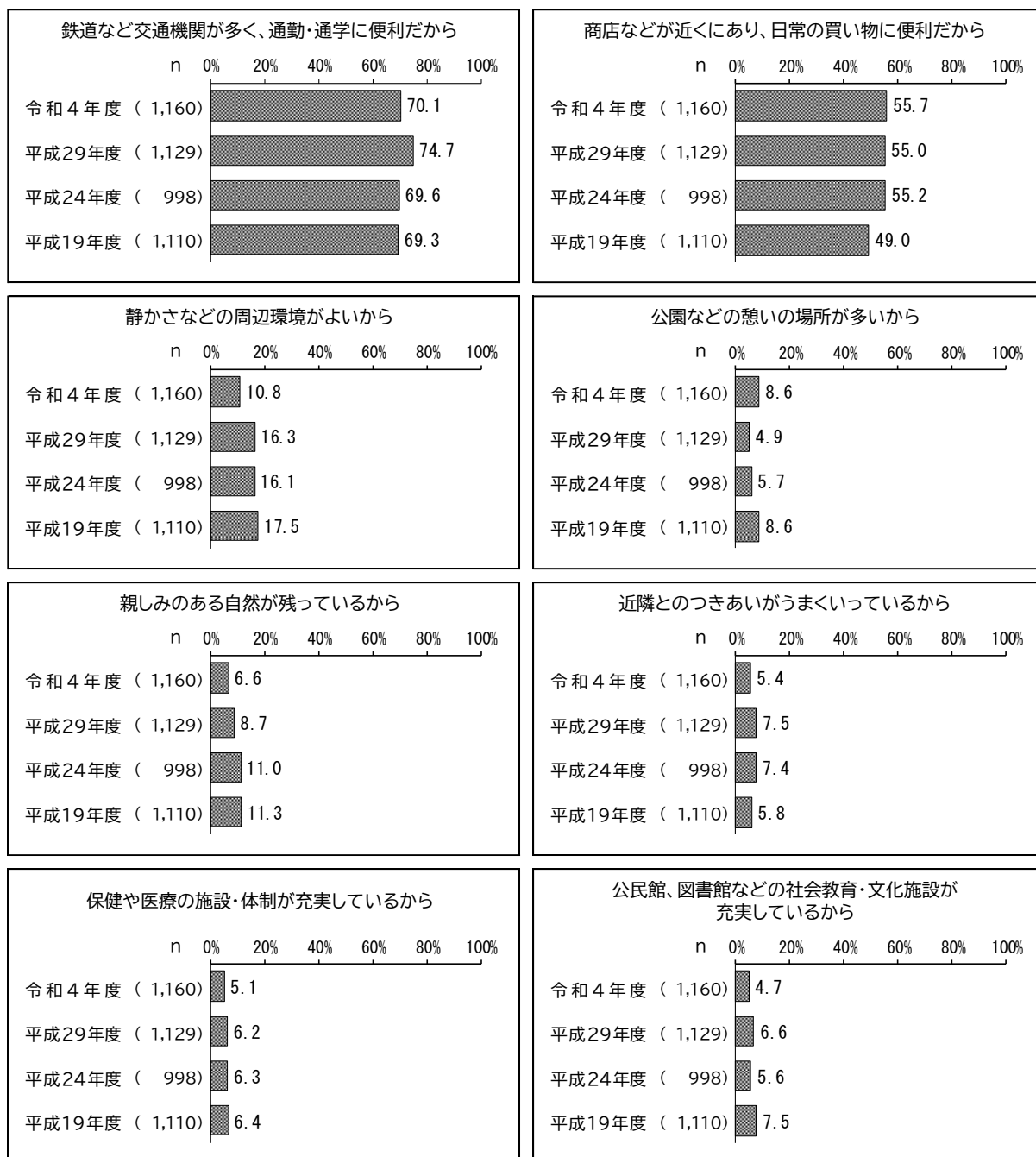
図Ⅲ-16 船橋市が住みよい理由

表Ⅲ-1 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
生まれ育ったところ・住み慣れたまちだから	8
アクセスがいいから	4
災害が少ないから	3
都内に近いから	3
住みやすいから	2
百貨店・商業施設があるから	2
若い家族が多いから	2
田舎過ぎず都会過ぎないから	1
気候がいいから	1
大きな犯罪がないから	1
中山競馬場があるから	1
行田公園があるから	1
なんとなく	1
合 計	30

【時系列比較】（上位 8 項目）

住みよい理由として挙げられている割合が高い上位 8 項目について、時系列で比較すると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」（70.1%）は平成 29 年（74.7%）と比べて 4.6 ポイント減少している。また、「静かさなどの周辺環境がよいから」（10.8%）は平成 29 年（16.3%）と比べて 5.5 ポイント減っている。一方、「公園などの憩いの場所が多いから」（8.6%）は平成 29 年（4.9%）と比べて 3.7 ポイント増加している。



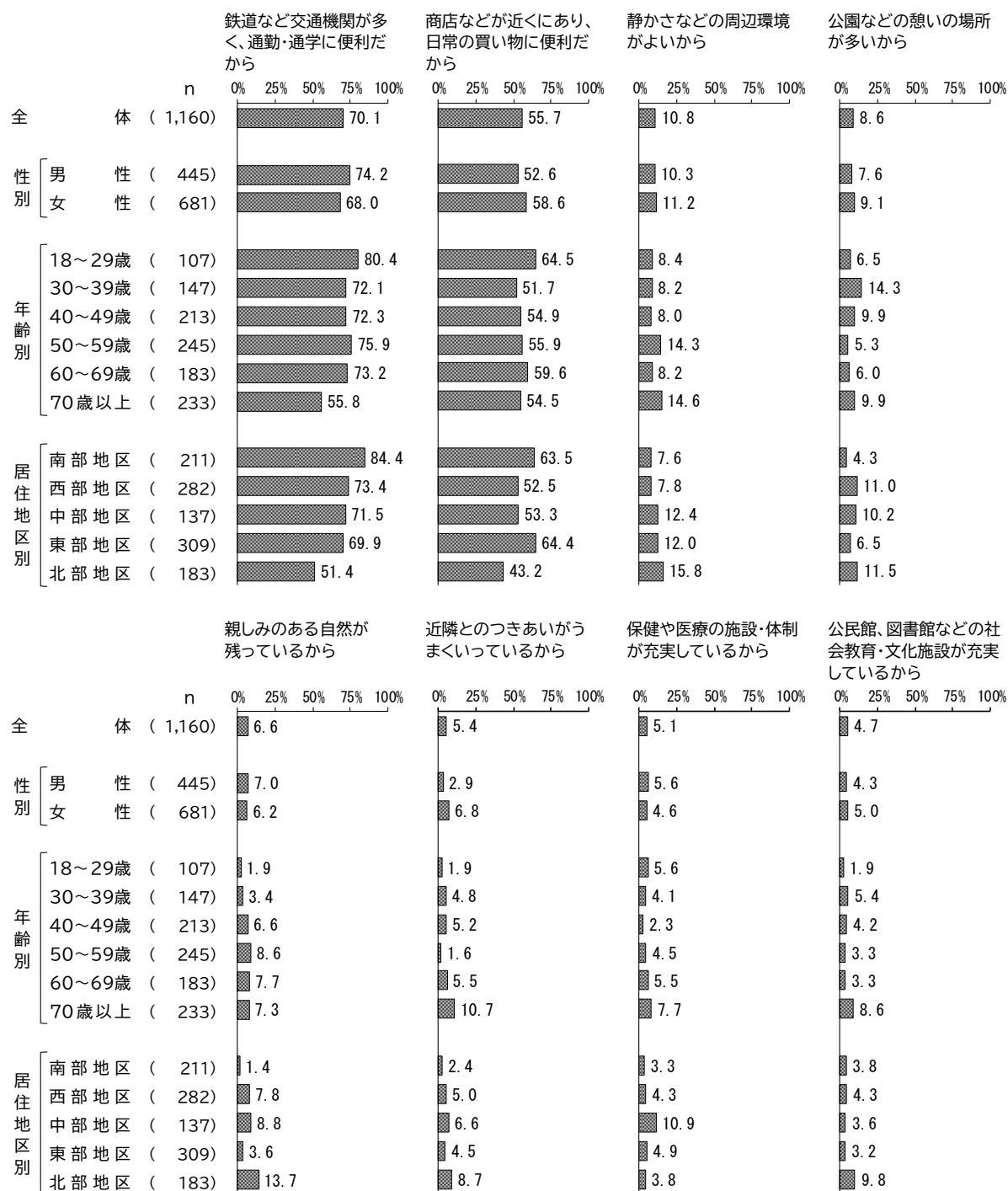
図Ⅲ－１７ 船橋市が住みよい理由（時系列比較）（上位 8 項目）

【性別／年齢別／居住地区別】（上位8項目）

性別で比較すると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」で男性（74.2%）が女性（68.0%）より 6.2 ポイント高くなっている。一方、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」で女性（58.6%）が男性（52.6%）より 6.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、18～29 歳で「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」が 80.4% で最も高くなっている。

居住地区別にみると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」で南部地区（84.4%）、「静かさなどの周辺環境がよいから」、「親しみのある自然が残っているから」で北部地区（15.8%、13.7%）の割合が高く、地区別の特色が見られる。



図Ⅲ－18 船橋市が住みよい理由（性別／年齢別／居住地区別）（上位8項目）

(3-2) 船橋市が住みにくい理由

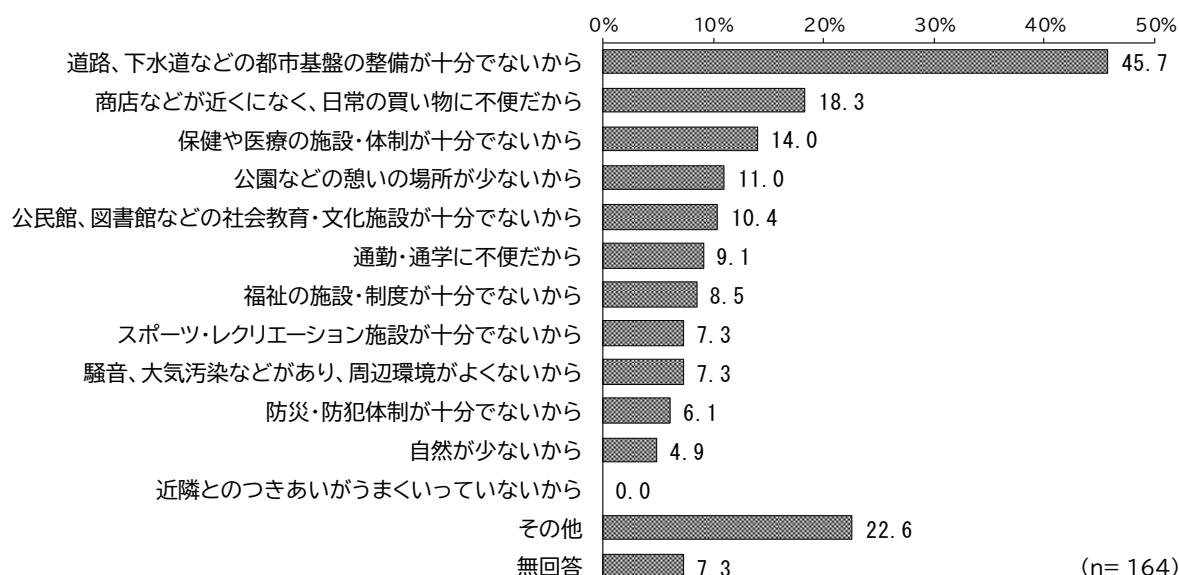
「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」住みにくいが4割超

(問3で「3. あまり住みよくない」または「4. 住みにくい」とお答えの方)

【問3-2】住みよくないと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

船橋市の住みごころについて「あまり住みよくない」、「住みにくい」と答えた人(164人)にその理由を聞いたところ、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」が45.7%で最も高く、次いで「商店などが近づくに近く、日常の買い物に不便だから」(18.3%)、「保健や医療の施設・体制が十分でないから」(14.0%)、「公園などの憩いの場所が少ないから」(11.0%)が続いている。

「その他」については、「渋滞が激しい・道路が混んでいるから」(11件)、「道・車道・歩道が狭い・歩道がない・危険な道が多いから」(8件)などが挙がっている。



図Ⅲ-19 船橋市が住みにくい理由

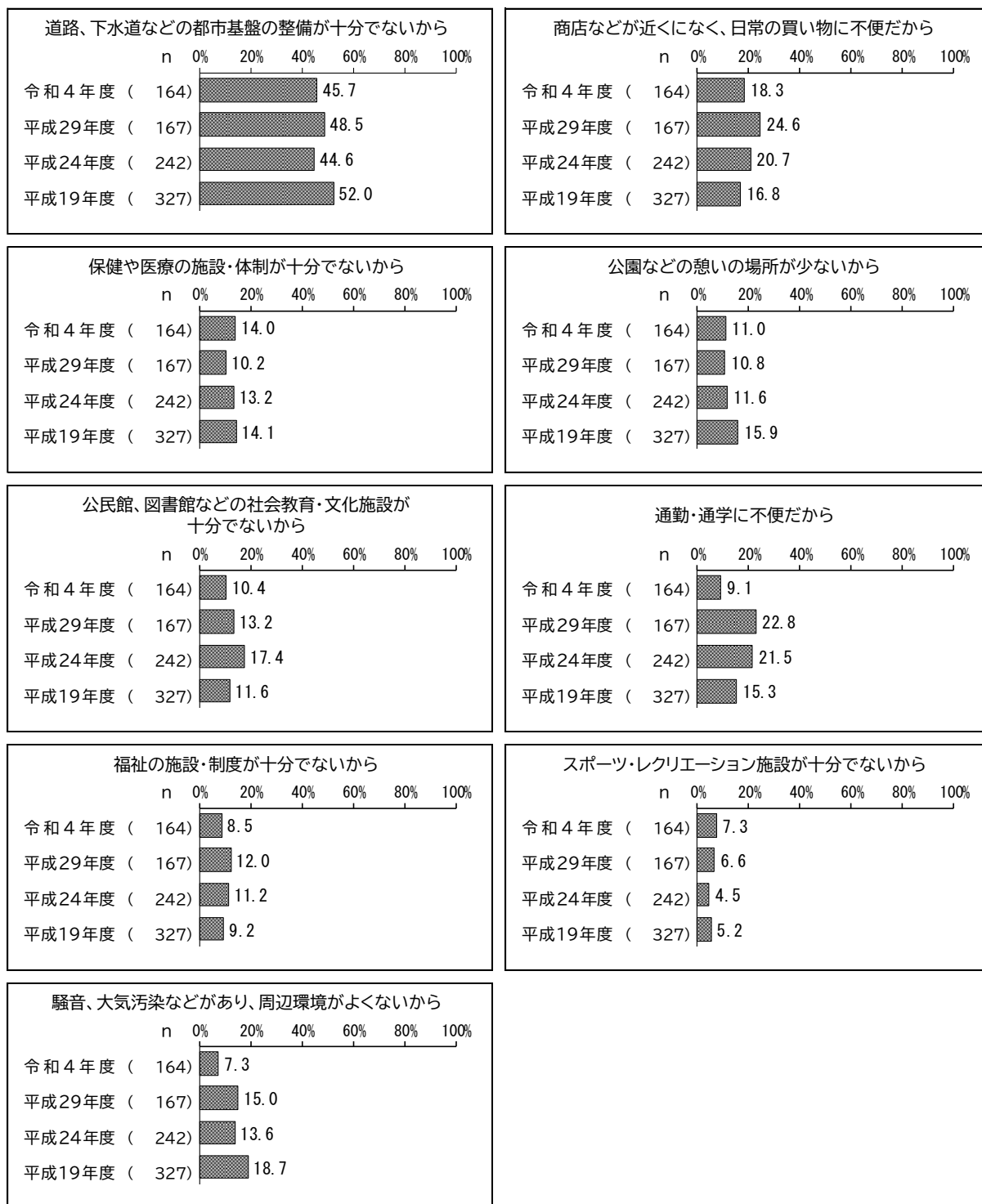
表Ⅲ-2 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
渋滞が激しい・道路が混んでいるから	11
道・車道・歩道が狭い・歩道がない・危険な道が多いから	8
子どもに手厚くない・子育て環境がよくないから	3
客引きが多い・ガラが悪い・マナーが悪いから	3
ごみの収集が週2回しかないから	3
主要機関・施設が偏っている・遠くてアクセスしにくいから	2
その他	10
(記載なし)	1
合 計	41

【時系列比較】（上位8項目）（8位が同率で2つあるため9項目を掲載）

住みにくい理由として挙げられている割合が高い上位9項目について、時系列で比較すると、全体での割合が最も高い「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」（45.7%）は、平成29年度（48.5%）から2.8ポイント減少している。

「通勤・通学に不便だから」（9.1%）は、平成29年度（22.8%）と比べて13.7ポイント、「騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから」（7.3%）は、平成29年度（15.0%）と比べて7.7ポイント減少している。



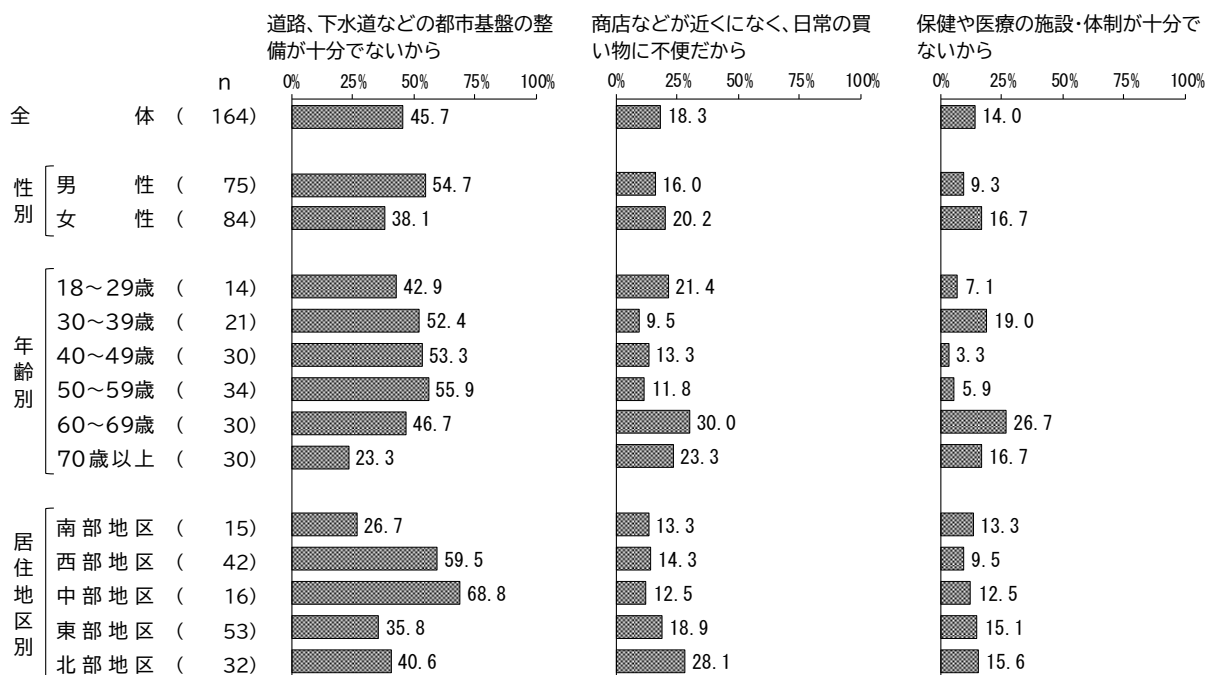
図Ⅲ－２０ 船橋市が住みにくい理由（時系列比較）（上位8項目）

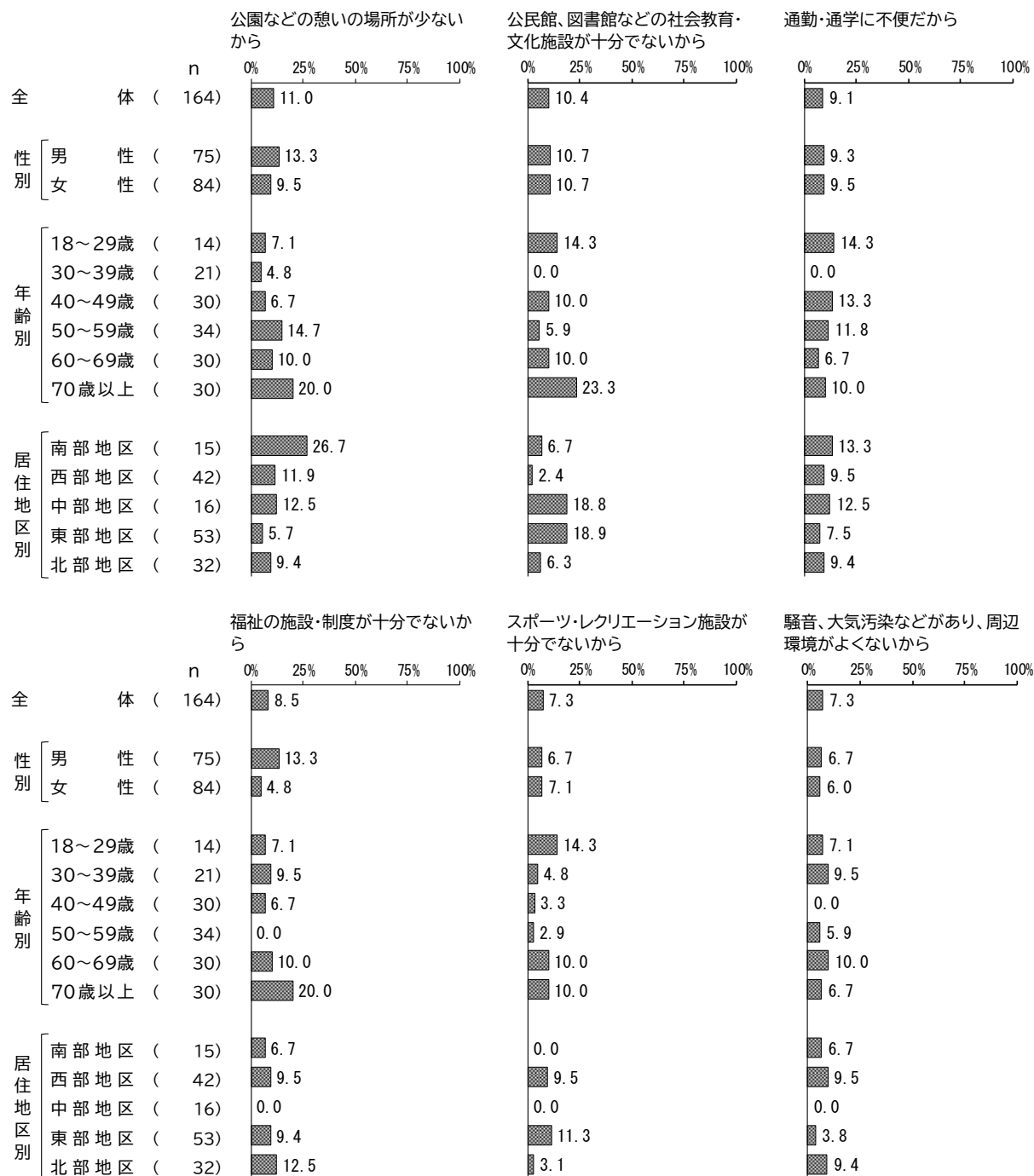
【性別／年齢別／居住地区別】（上位8項目）（8位が同率で2つあるため9項目を掲載）

性別で比較すると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」は、男性（54.7%）が女性（38.1%）より 16.6 ポイント高くなっているが、「保健や医療の施設・体制が十分でないから」は、女性（16.7%）が男性（9.3%）より 7.4 ポイント高い。

年齢別にみると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」は、50～59 歳（55.9%）が最も高く、「商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから」、「保健や医療の施設・体制が十分でないから」は 60～69 歳（30.0%、26.7%）の割合が高い。「公園などの憩いの場所が少ないから」、「公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分でないから」、「福祉の施設・制度が十分でないから」では、70 歳以上（20.0%、23.3%、20.0%）の割合が最も高く、「通勤・通学に不便だから」、「スポーツ・レクリエーション施設が十分でないから」では 18～29 歳（ともに 14.3%）の割合が高くなっている。

居住地区別にみると、中部地区は「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」（68.8%）、北部地区は「商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから」（28.1%）、南部地区は「公園などの憩いの場所が少ないから」（26.7%）などの割合が高く、地区による差が見られる。





図Ⅲ－２１ 船橋市が住みにくい理由（性別／年齢別／居住地区別）（上位８項目）

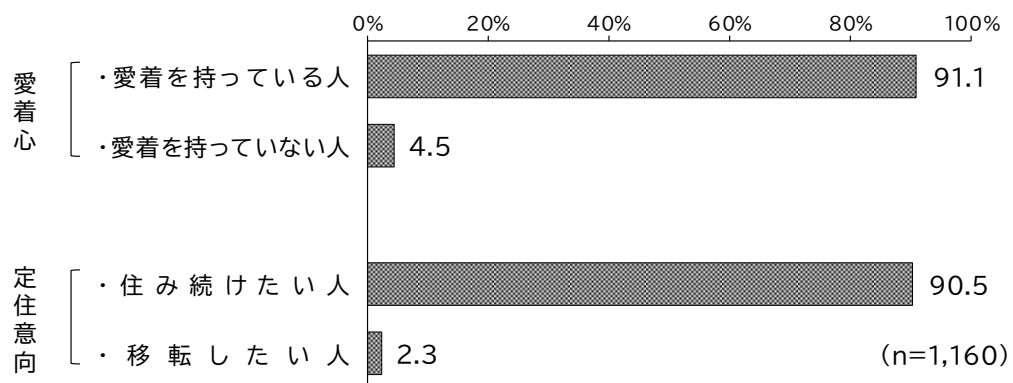
(4) 「住みごころ」概観

『住みよく思う人』は『愛着を持っている人』『住み続けたい人』がともに9割超え

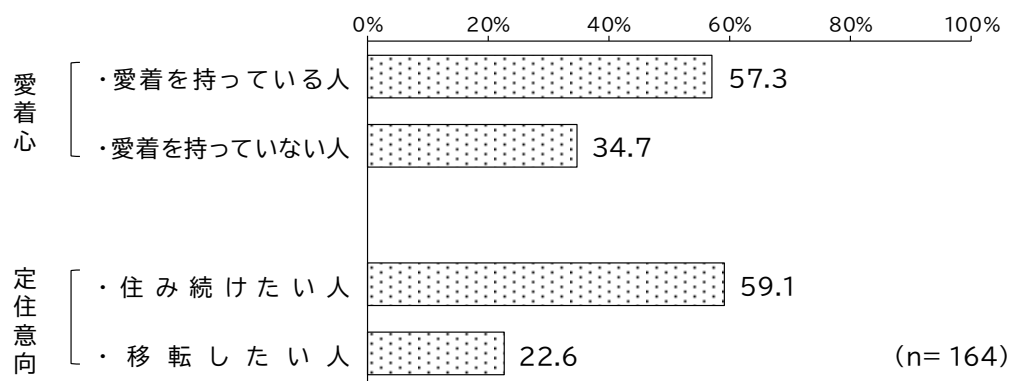
本調査では、市民の船橋市に対する愛着心、定住意向、住みごころ（住みよさ意識）を経年的に聞いている。「人もまちも輝く笑顔あふれる船橋」を実現するため、また、堅調な人口増加が見込まれるなか、人口構造に変化があっても持続的な発展を遂げていくためには、「愛着があるまち」、「住み続けたいまち」として評価され、多くの人に選ばれるまちとなる必要がある。

そこで、「愛着心」、「定住意向」と「住みごころ」との設問集計を行ったところ、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う人』（1,160 人）では、「愛着がある」、「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている人』と、「住み続けたい」、「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続けたい人』の割合は、ともに9割を超える。一方、「あまり住みよくない」と「住みにくい」を合わせた『住みよく思わない人』（164 人）であっても、『愛着を持っている人』、『住み続けたい人』の割合は、6割弱となっている。

『住みよく思う人』（n=1,160）



『住みよく思わない人』（n= 164）



図Ⅲ－２２ 船橋市への愛着心と定住意向（船橋市の住みごころ別）

2. 「広報活動」について

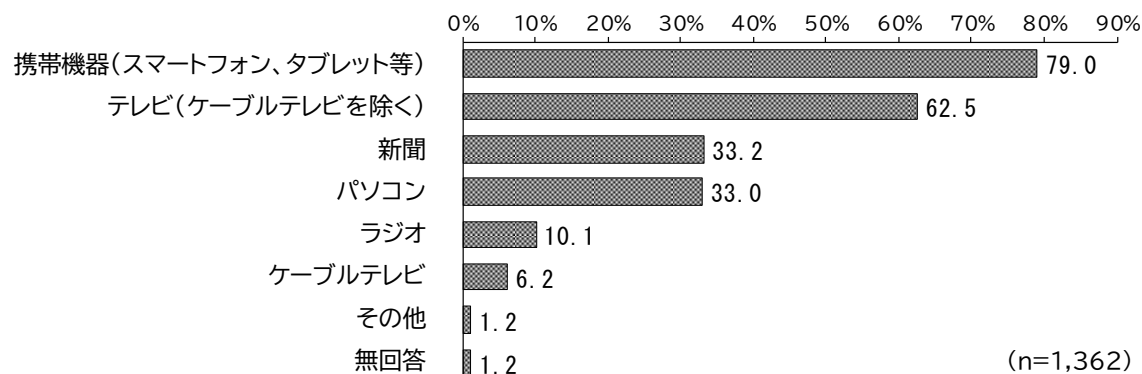
(1) 情報を入手するためによく利用するもの

情報入手は、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の利用が8割弱

【問4】普段、情報を入手するためによく利用する情報媒体は何ですか。(〇はいくつでも)

情報を入手するためによく使われているのは、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」(79.0%)で最も高く、次ぐ「テレビ（ケーブルテレビを除く）」(62.5%)までは6割を超え、以下、「新聞」(33.2%)、「パソコン」(33.0%)では3割を超えており、これらの情報媒体が広く利用されている。

「その他」については、「広報紙」(6件)などが挙げられている。



図Ⅲ－２３ 情報を入手するためによく利用するもの

表Ⅲ－３ 「その他」の内訳

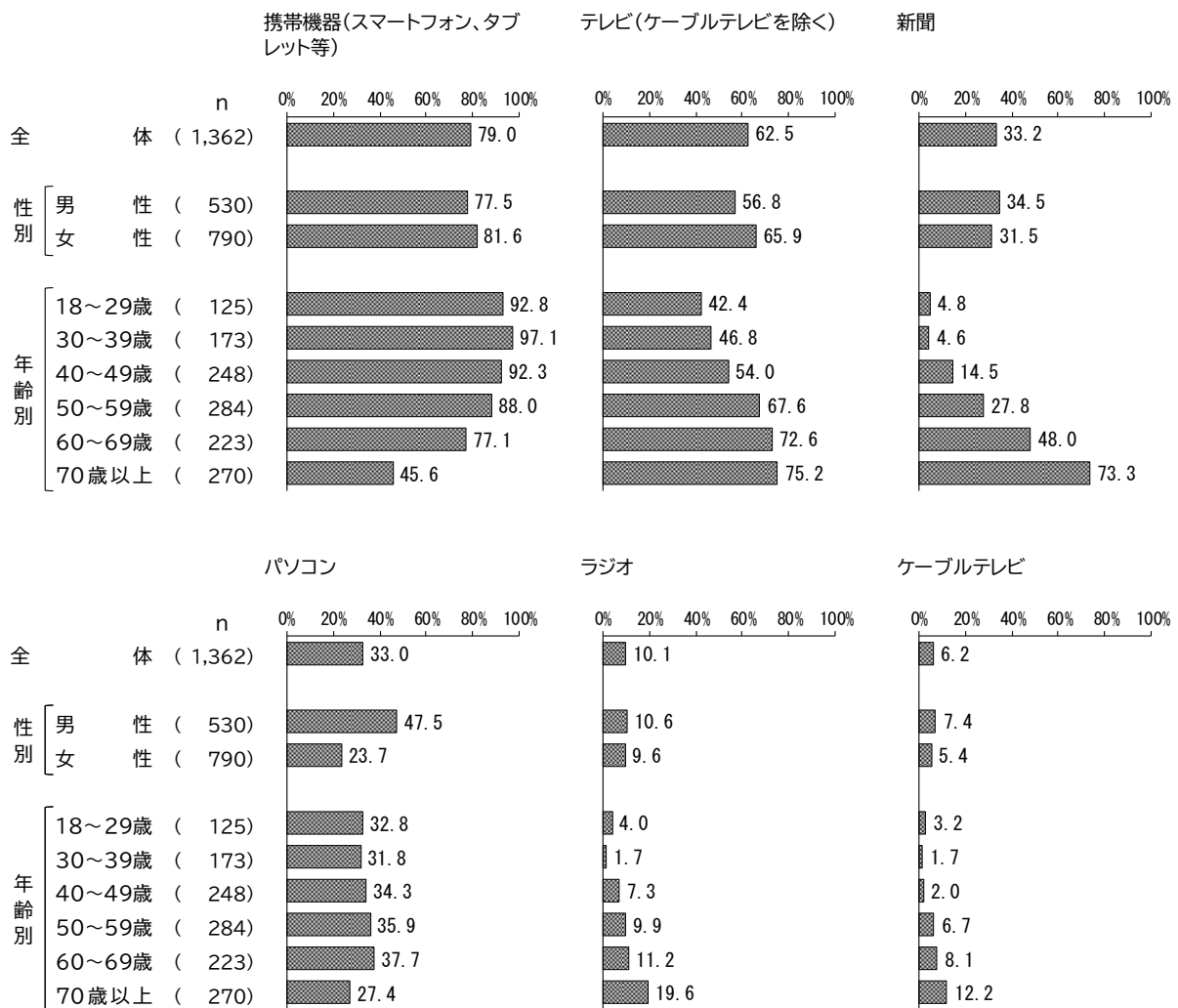
「その他」の内容	件数
広報紙	6
家族・職場・近所・友人・知人からの口コミ	2
情報誌・チラシ・駅のポスター	2
インターネット環境・Wi-Fiがない	2
雑誌	1
地域新聞	1
YOUTUBE	1
(記載なし)	1
合 計	16

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」では女性（81.6%、65.9%）の割合が、「パソコン」、「新聞」では男性（47.5%、34.5%）の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の割合は、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い30～39歳（97.1%）と最も低い70歳以上（45.6%）に51.5ポイントの差が見られるが、70歳以上でも4割を超える人が利用している。

一方、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」、「新聞」の割合は、年齢が上がるに従い高くなっており、「新聞」においては、最も高い70歳以上（73.3%）と最も低い30～39歳（4.6%）に68.7ポイントの差がある。



図Ⅲ－２４ 情報入手するためによく利用するもの（性別／年齢別）

(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法

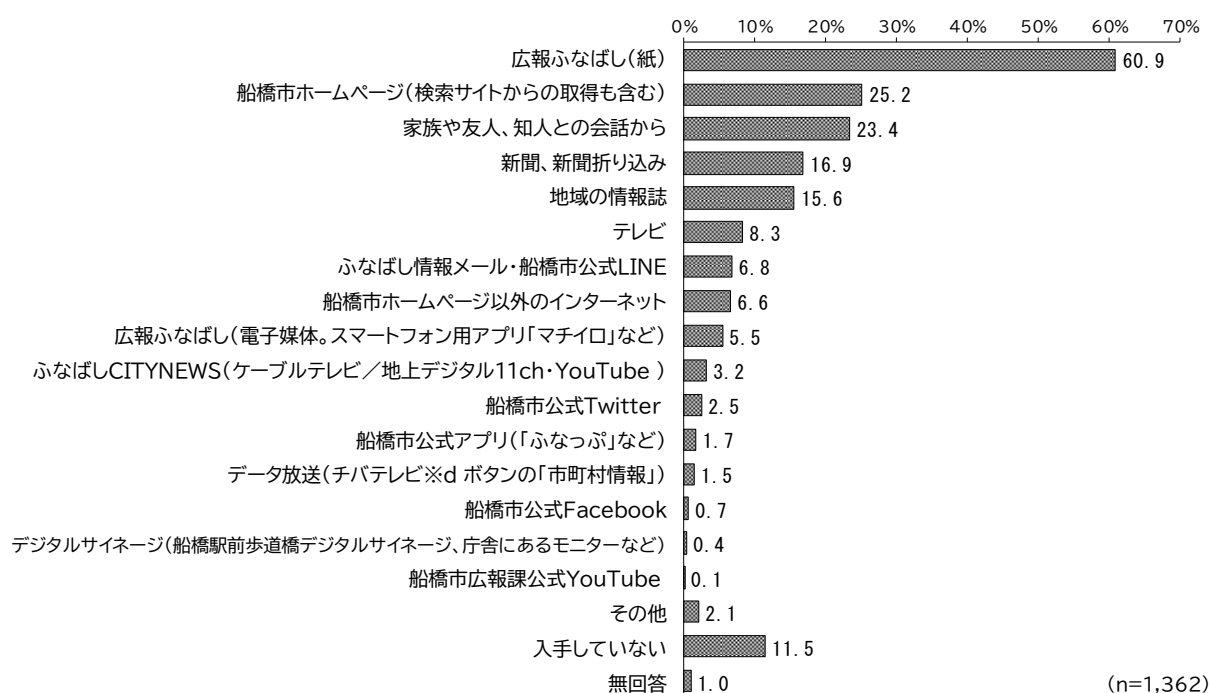
「広報ふなばし（紙）」から情報を得ている人は6割超

【問5】 普段、市の事業やイベント情報などをどこから入手していますか。（〇はいくつでも）

市の事業やイベント情報などを得る手段として、「広報ふなばし（紙）」の割合は、60.9%と最も高く6割を超えている。

次いで、「船橋市ホームページ（検索サイトからの取得も含む）」（25.2%）、「家族や友人、知人との会話から」（23.4%）、「新聞、新聞折り込み」（16.9%）、「地域の情報誌」（15.6%）と続いている。

「その他」については、「学校・幼稚園・保育園等での配布物」（8件）などが挙げられている。



図Ⅲ－２５ 市の事業やイベント情報などの入手方法

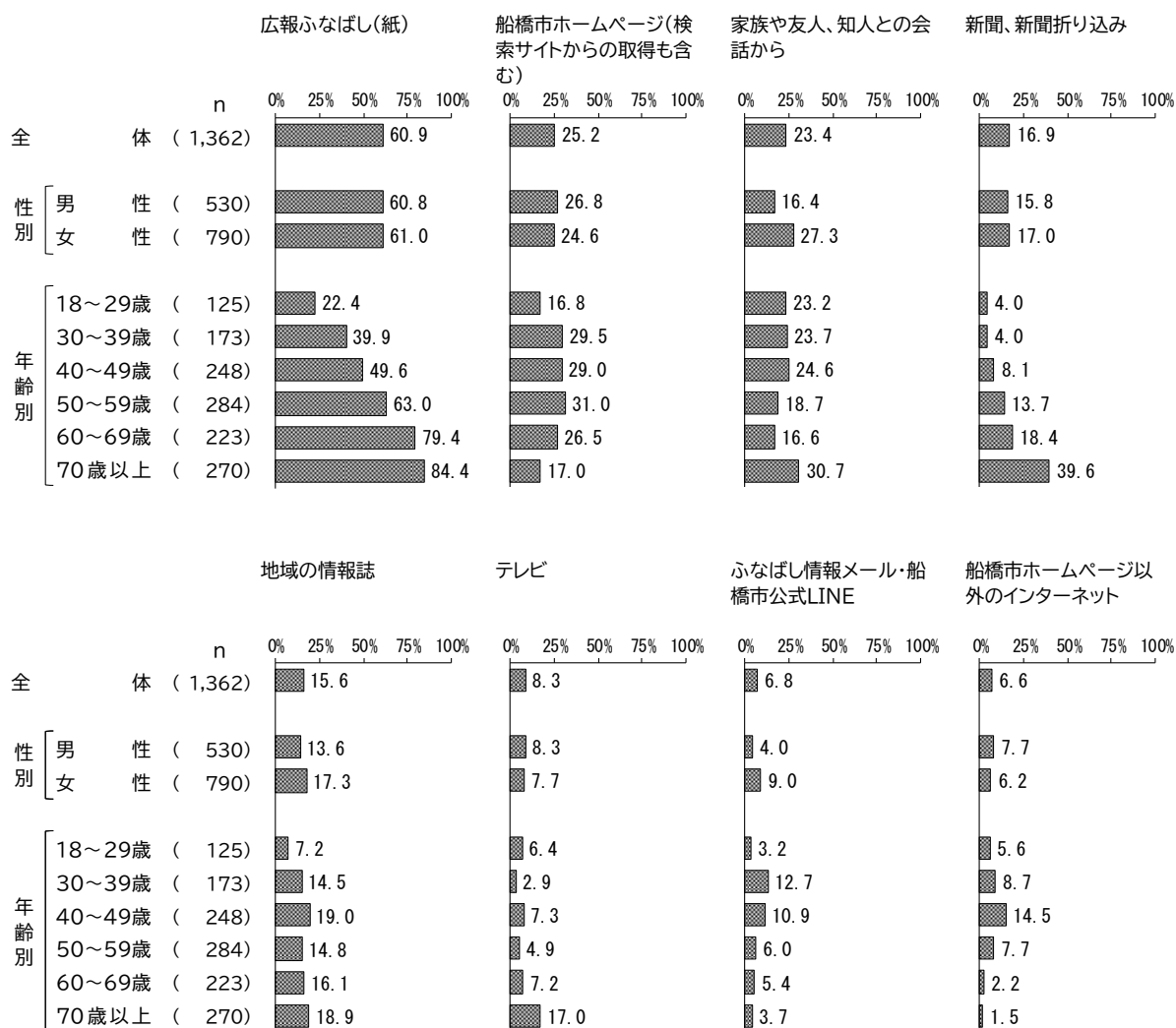
表Ⅲ－４ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
学校・幼稚園・保育園等での配布物	8
SNSやアプリ、ホームページ検索	5
町会・自治会の掲示板、回覧板、配布物	5
公共施設での掲示物、配布物	3
交通機関での掲示物、配布物	3
職場	2
その他	4
(記載なし)	1
合 計	31

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「家族や友人、知人との会話から」では、女性（27.3%）の割合が、男性（16.4%）に比べ 10.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「広報ふなばし（紙）」、「新聞、新聞折り込み」といった紙媒体の割合は年齢が上がるに従い高くなり、70 歳以上では 84.4%、39.6%と最も高くなっている。



図Ⅲ－26 市の事業やイベント情報などの入手方法（性別／年齢別）（上位 8 項目）

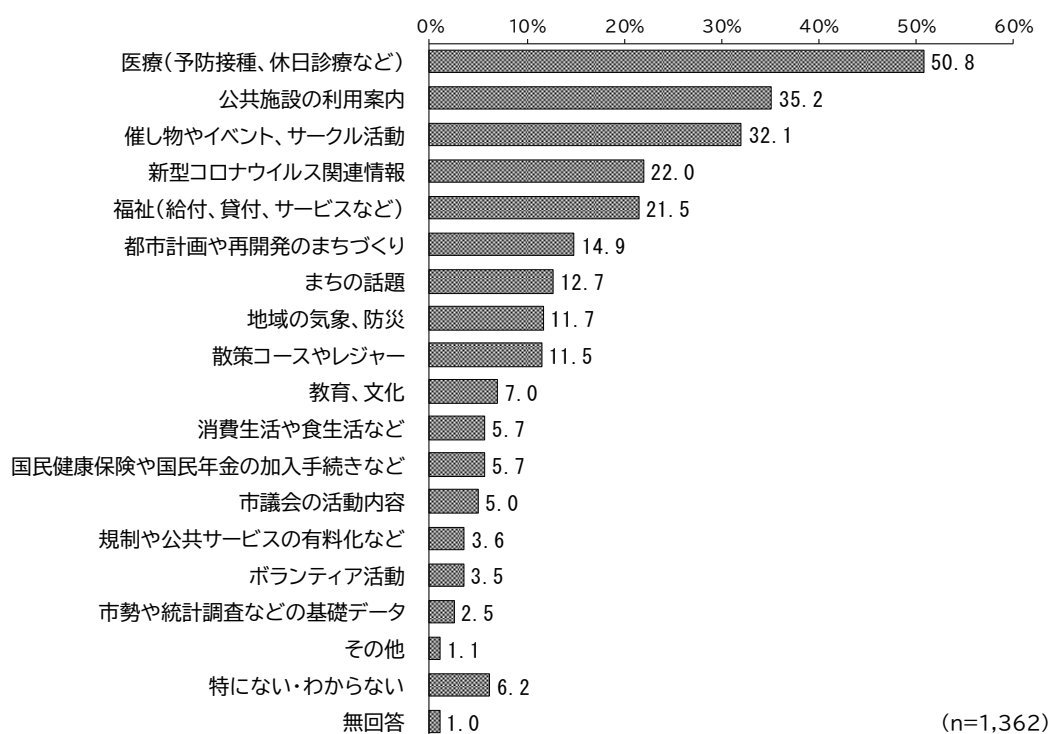
(3) 広報紙やホームページで知りたい情報

知りたい情報は、「医療（予防接種、休日診療など）」が5割超

【問6】 広報紙やホームページで知りたい情報は何ですか。（〇は3つまで）

広報紙やホームページで知りたい情報として、「医療（予防接種、休日診療など）」（50.8%）が最も高く、次いで、「公共施設の利用案内」（35.2%）、「催し物やイベント、サークル活動」（32.1%）が続き、「新型コロナウイルス関連情報」（22.0%）、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」（21.5%）までが2割を超えている。

「その他」については、「ゴミの分別・収集関係」（4件）などが挙がっている。



図Ⅲ－２７ 広報紙やホームページで知りたい情報

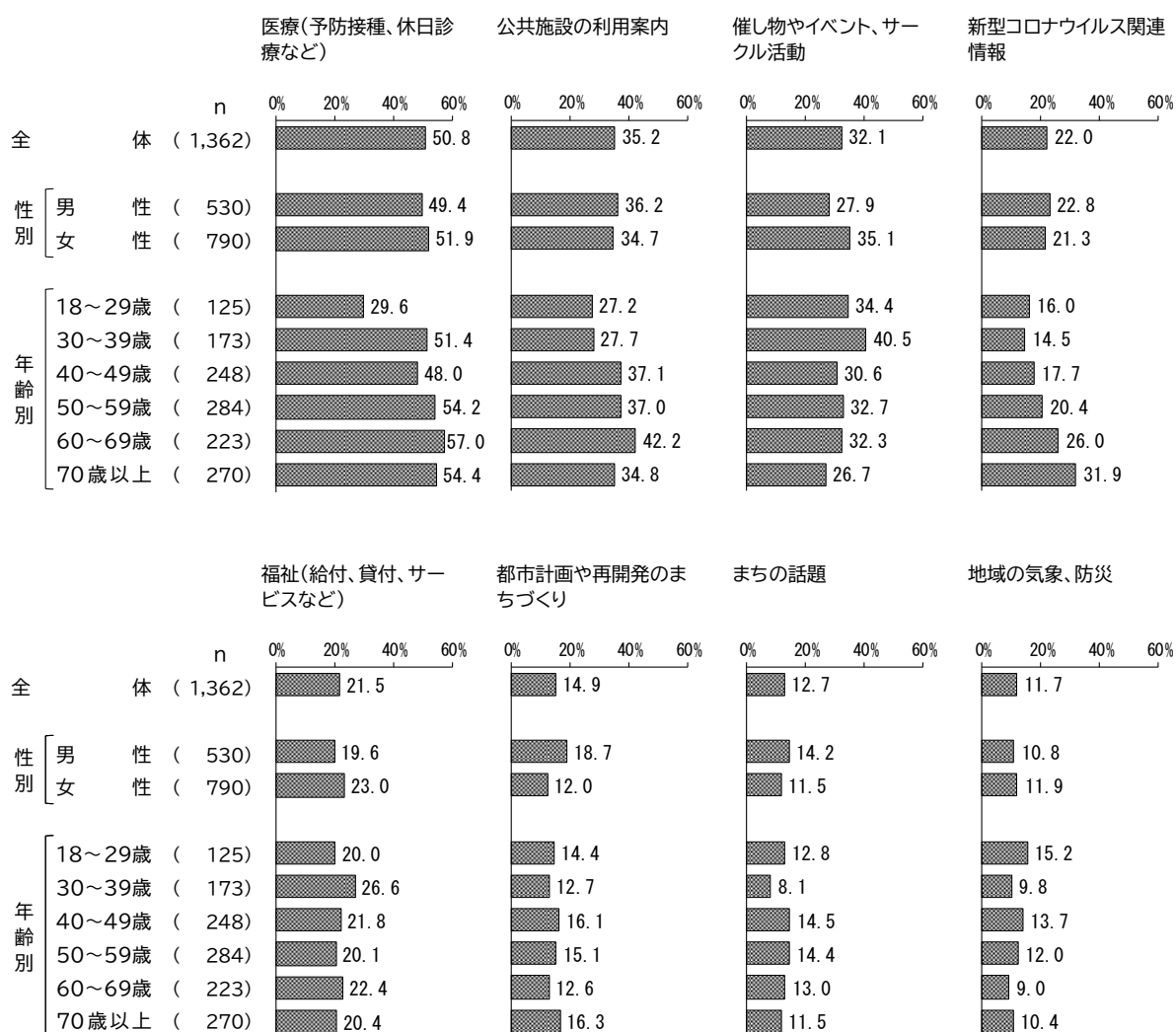
表Ⅲ－５ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ゴミの分別・収集関係	4
税金のこと	3
助成金の情報や確定申告ほか各種届出の方法	2
市役所採用等の求人情報	2
レジャー・スポーツのこと	2
講習	1
その時々的重要なこと	1
(記載なし)	1
合 計	16

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「催し物やイベント、サークル活動」は、女性（35.1%）が男性（27.9%）より、7.2 ポイント高い。一方、「都市計画や再開発のまちづくり」は、男性（18.7%）が女性（12.0%）より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」では、30 歳以上の全ての年齢で 4 割を超え、「公共施設の利用案内」では、40 歳以上の全ての年齢で 3 割を超えている。また、「新型コロナウイルス関連情報」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、70 歳以上では 31.9% と最も高くなっている。



図Ⅲ－２８ 広報紙やホームページで知りたい情報（性別／年齢別）（上位 8 項目）

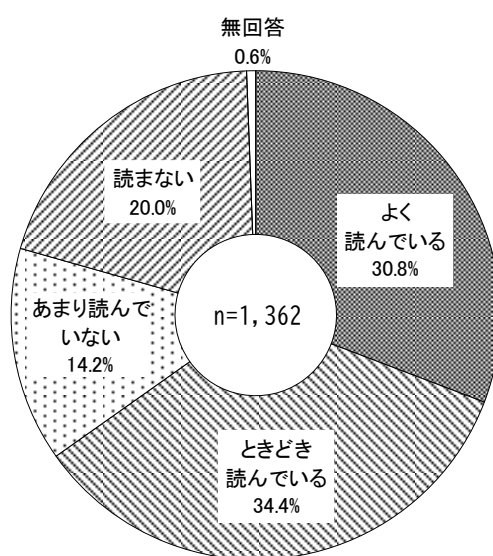
(4) 「広報ふなばし」の閲読状況

『読んでいる人』は6割超

【問7】「広報ふなばし」を読んでいますか。次の中から1つ選んでください。(〇は1つ)

「広報ふなばし」を読んでいるかについて聞いたところ、「よく読んでいる」(30.8%)と「ときどき読んでいる」(34.4%)を合わせた『読んでいる人』の割合は、65.2%と6割を超えている。

一方、「あまり読んでいない」(14.2%)と「読まない」(20.0%)を合わせた『読まない人』の割合は、34.2%で3割を超えている。

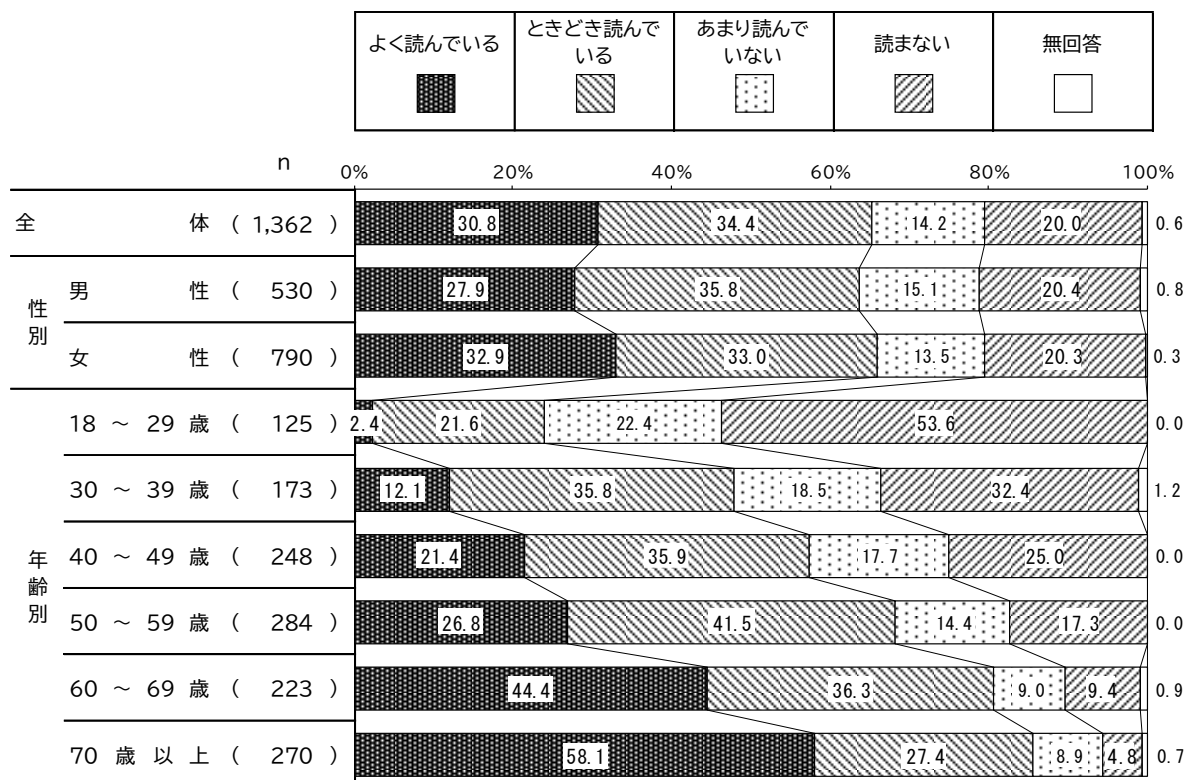


図Ⅲ－２９ 「広報ふなばし」の閲読状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「よく読んでいる」の割合は、女性（32.9％）が男性（27.9％）より 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「よく読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせた『読んでいる人』の割合が高くなっており、割合が最も低い 18～29 歳（24.0％）と最も高い 70 歳以上（85.5％）には 61.5 ポイントの差がある。



図Ⅲ－３０ 「広報ふなばし」の閲読状況（性別／年齢別）

(4-1) 「広報ふなばし」の入手方法

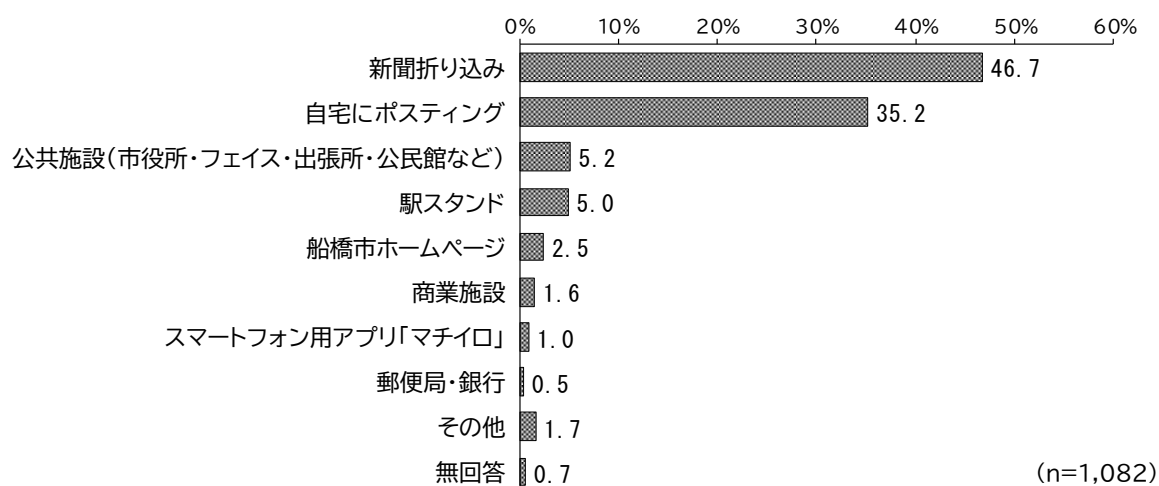
「広報ふなばし」の入手方法は、「新聞折り込み」が5割近く

(問7で「1～3」とお答えの方)

【問7-1】「広報ふなばし」をどこで入手していますか。次の中から1つ選んでください。
(〇は1つ)

「広報ふなばし」を「よく読んでいます」または「ときどき読んでいます」、「あまり読んでいない」と答えた人(1,082人)に、その入手方法を聞いたところ、「新聞折り込み」が46.7%で最も高く、次いで、「自宅にポスティング」(35.2%)までが3割を超えており、これら以外の入手方法は全て1割未満となっている。

「その他」については、「職場」(5件)などが挙がっている。



図Ⅲ－3 1 「広報ふなばし」の入手方法

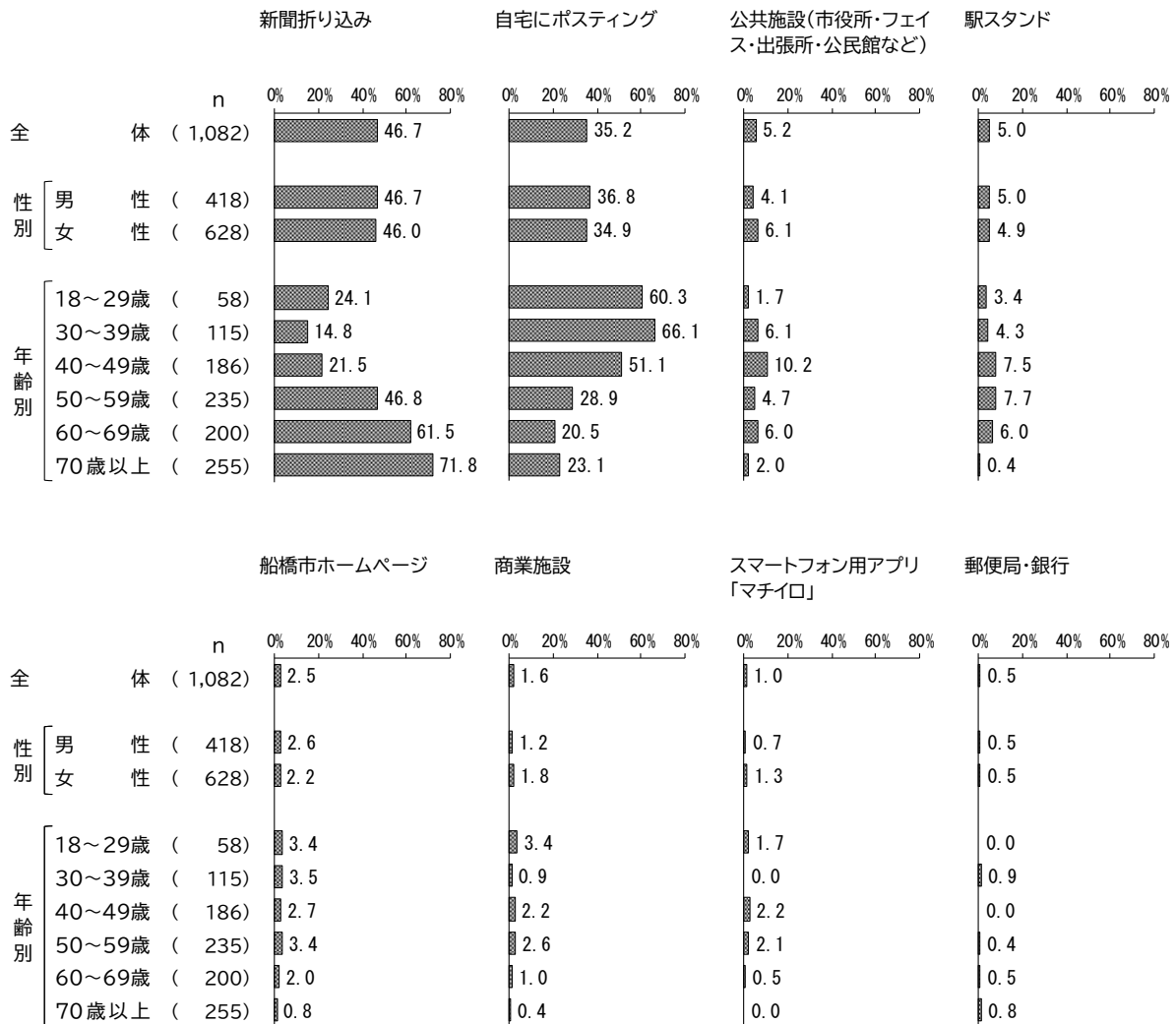
表Ⅲ－6 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
職場	5
町会・自治会の回覧板	3
SNSやアプリ	2
大型スーパー・民間施設	2
家族	1
広報	1
目に留まったとき	1
市からのメール	1
よくわからない	1
(記載なし)	1
合 計	18

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「自宅にポスティング」では、男性（36.8%）が女性（34.9%）より 1.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「新聞折り込み」では、30～39 歳からは年齢が上がるに従い割合が高くなっており、割合が最も低い 30～39 歳（14.8%）と最も高い 70 歳以上（71.8%）には 57.0 ポイントの差がある。一方、「自宅にポスティング」では、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、割合が最も低い 60～69 歳（20.5%）と最も高い 30～39 歳（66.1%）には 45.6 ポイントの差がある。



図Ⅲ－３２ 「広報ふなばし」の入手方法（性別／年齢別）

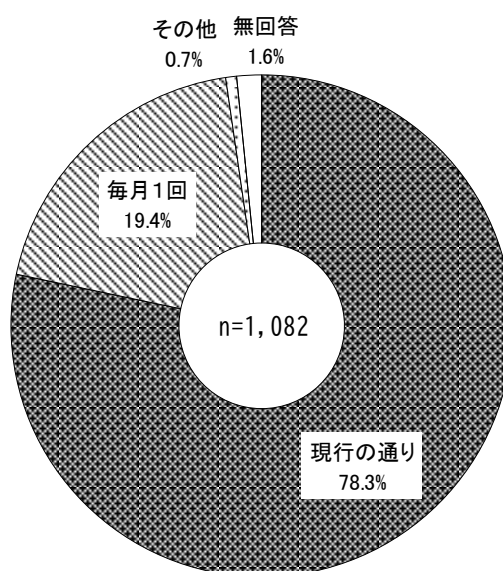
(4-2) 「広報ふなばし」の発行回数

「現行の通り」が8割弱

【問7-2】「広報ふなばし」は月2回（1日・15日）発行しています。発行回数で好ましいものを、次の中から1つ選んでください。（〇は1つ）

「広報ふなばし」を「よく読んでいる」または「ときどき読んでいる」、「あまり読んでいない」と答えた人（1,082人）に、好ましい発行回数を聞いたところ、「現行の通り」が78.3%、「毎月1回」が19.4%となっている。

「その他」については、「現行でも毎月1回でもどちらでもよい」（2件）などが挙げられている。



図Ⅲ－３３ 「広報ふなばし」の発行回数

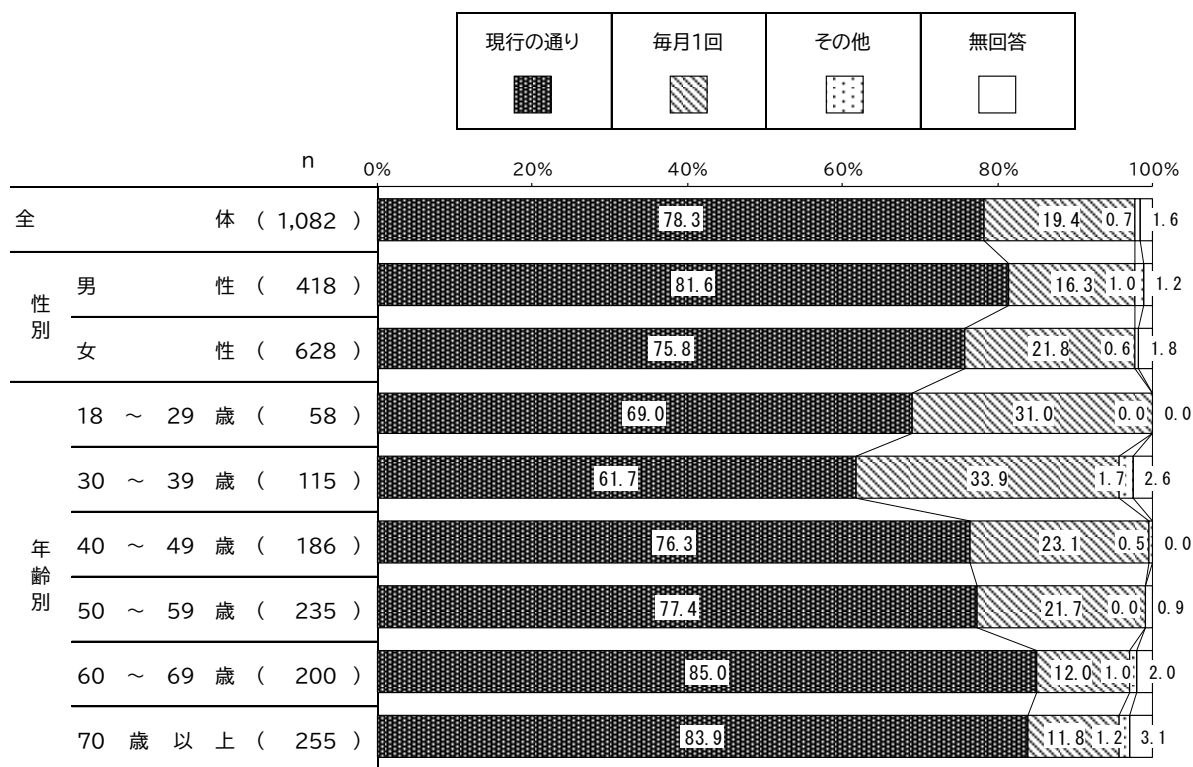
表Ⅲ－７ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
現行でも毎月1回でもどちらでもよい	2
時と場合によっては速報性のあるもの	1
費用次第	1
2か月に1回	1
発行を止めてほしい	1
（記載なし）	2
合 計	8

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「現行の通り」は、男性（81.6％）が女性（75.8％）より 5.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「現行の通り」の割合が最も低い 30～39 歳（61.7％）と最も高い 60～69 歳（85.0％）には 23.3 ポイントの差がある。



図Ⅲ－３４ 「広報ふなばし」の発行頻度（性別／年齢別）

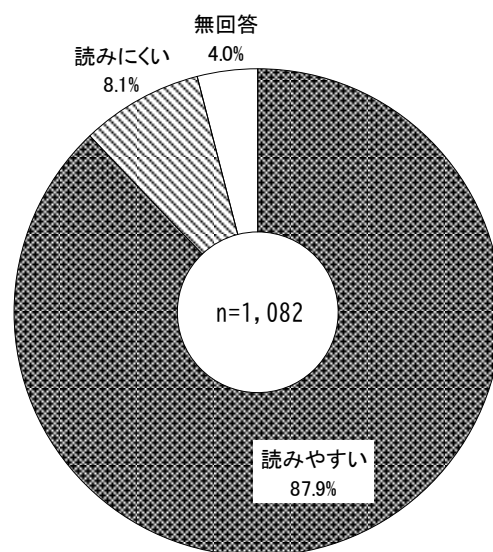
（４－３）「広報ふなばし」の読みやすさ

「読みやすい」が9割近く

（問7で「1～3」とお答えの方）

【問7-3】「広報ふなばし」は読みやすいですか。次の中から1つ選んでください。（○は1つ）

「広報ふなばし」を「よく読んでいる」または「ときどき読んでいる」、「あまり読んでいない」と答えた人（1,082人）に、読みやすさを聞いたところ、「読みやすい」が87.9%、「読みにくい」が8.1%となっている。

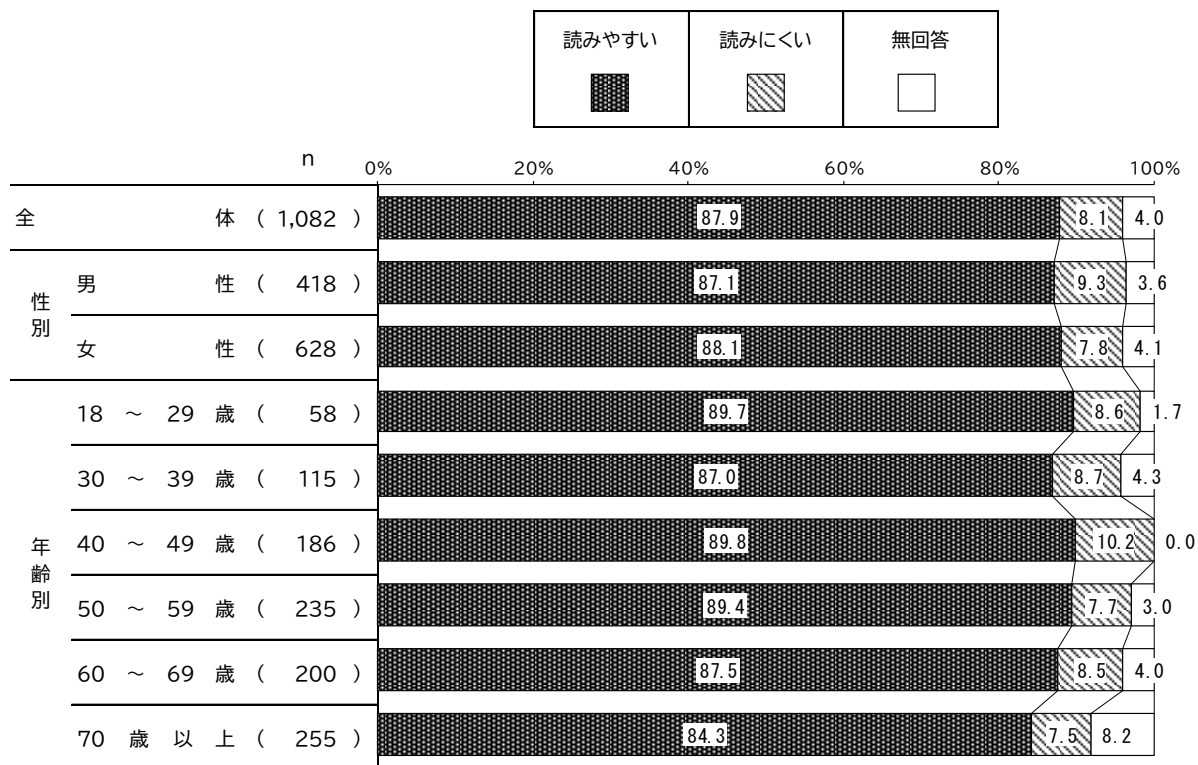


図Ⅲ－３５ 「広報ふなばし」の読みやすさ

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「読みやすい」は女性（88.1%）が男性（87.1%）より 1.0 ポイント高くなっているが、「読みにくい」は、男性（9.3%）が女性（7.8%）より 1.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「読みやすい」の割合が最も低い 70 歳以上（84.3%）と最も高い 40～49 歳（89.8%）には 5.5 ポイントの差がある。



図Ⅲ－３６ 「広報ふなばし」の読みやすさ（性別／年齢別）

(4-4) 「広報ふなばし」を読まない理由

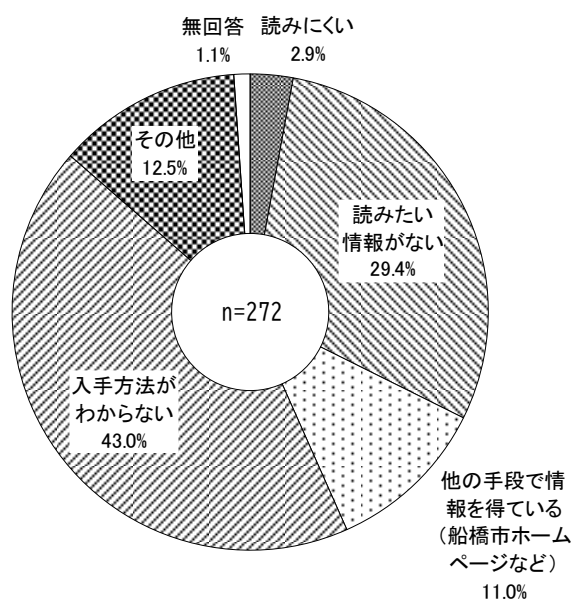
読まない理由は、「入手方法がわからない」が4割超

(問7で「4. 読まない」とお答えの方)

【問7-4】「広報ふなばし」を読まない理由を次の中から1つ選んでください。(〇は1つ)

「広報ふなばし」を「読まない」と答えた人(272人)に、読まない理由を聞いたところ、「入手方法がわからない」が43.0%で最も高く、次いで、「読みたい情報がない」(29.4%)、「他の手段で情報を得ている(船橋市ホームページなど)」(11.0%)と続いている。

「その他」については、「興味・関心がないから」(7件)などが挙げられている。



図Ⅲ-37 「広報ふなばし」を読まない理由

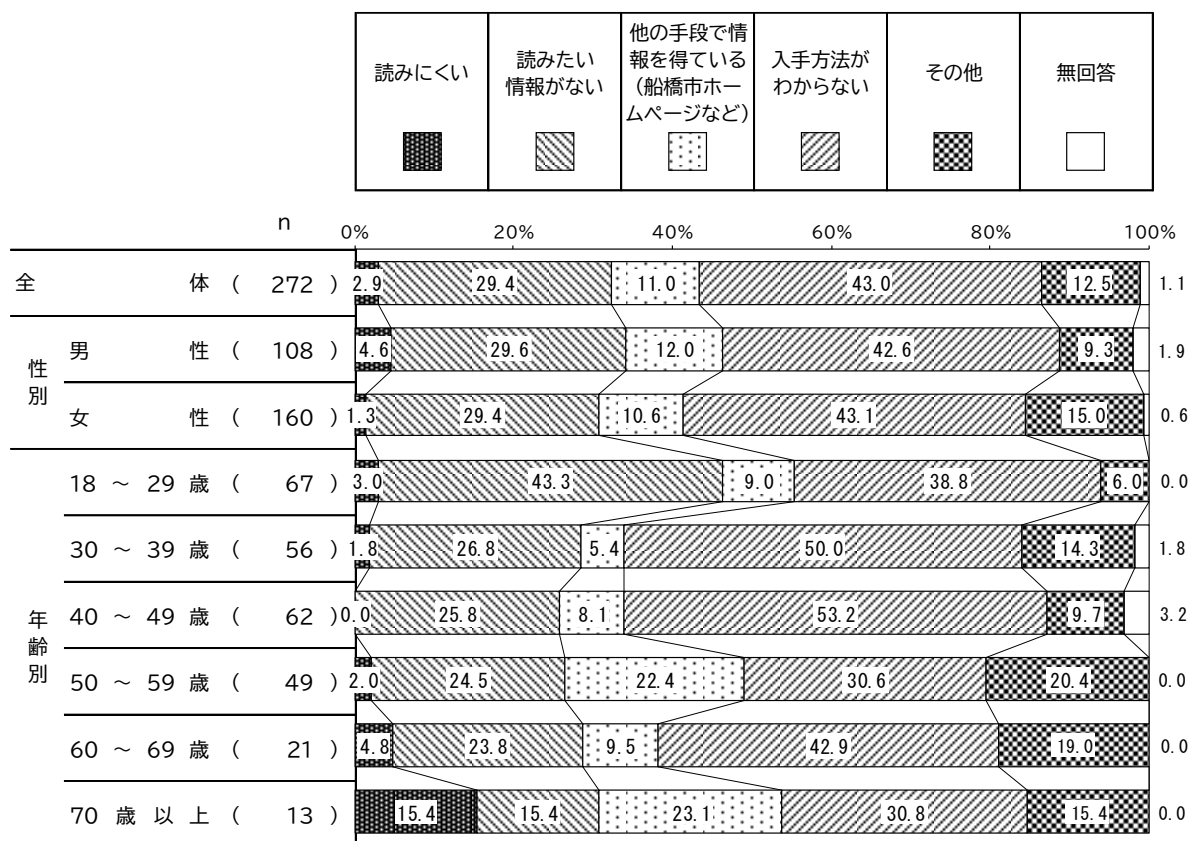
表Ⅲ-8 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
興味・関心がないから	7
新聞をとっていないから・新聞購読を止めたから	6
読む時間がないから	5
「広報ふなばし」を知らなかったから	4
必要がないから	4
ポストに入っていないから・家に配達されないから	2
入手していないから	2
その他	3
(記載なし)	1
合 計	34

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「読みにくい」は、男性（4.6％）が女性（1.3％）より 3.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「入手方法がわからない」は、最も低い 50～59 歳（30.6％）と最も高い 40～49 歳（53.2％）には 22.6 ポイントの差があり、「読みたい情報がない」は、最も低い 70 歳以上（15.4％）と最も高い 18～29 歳（43.3％）には 27.9 ポイントの差がある。



図Ⅲ－３８ 「広報ふなばし」を読まない理由（性別／年齢別）

(4-5) 「広報ふなばし」が読みにくい理由

読みにくい理由は、「文字・活字が小さすぎる」、「ページが多すぎる、記事・情報を詰め込み過ぎ、ごちゃごちゃしている」が多い

(問7-3で「2. 読みにくい」または 問7-4で「1. 読みにくい」とお答えの方)

【問7-5】読みにくいとされた具体的な理由をご自由にお書きください。

「広報ふなばし」を「読みにくい」と答えた人(96人)に、読みにくい具体的な理由について自由意見を聞いたところ、「文字・活字が小さすぎる」が11件で最も多く、次いで、「ページが多すぎる、記事・情報を詰め込み過ぎ、ごちゃごちゃしている」(10件)、「興味のある情報・記事がない、少ない、マンネリ」(9件)、「情報がわかりにくい、必要な情報が探しにくい、どれが重要かわからない」(7件)と続いている。

表Ⅲ-9 「広報ふなばし」が読みにくい理由の内容

「広報ふなばし」が読みにくい理由の内容	件数
文字・活字が小さすぎる	11
ページが多すぎる、記事・情報を詰め込み過ぎ、ごちゃごちゃしている	10
興味のある情報・記事がない、少ない、マンネリ	9
情報がわかりにくい、必要な情報が探しにくい、どれが重要かわからない	7
文字・活字が多すぎる	6
レイアウト・配置がよくない	4
色の使い方がよくない	4
形式的、堅苦しい、記事が偏っている	4
見出しがわかりにくい、見出しが見にくい	3
横書き、左開きでない、冊子になっていない	3
スペースが小さい、行間が狭すぎる	3
書体が多すぎる、書体が見にくい	2
視力の衰えのため、眼鏡がないと見えない	2
その他	4
(記載なし)	35
合 計	107

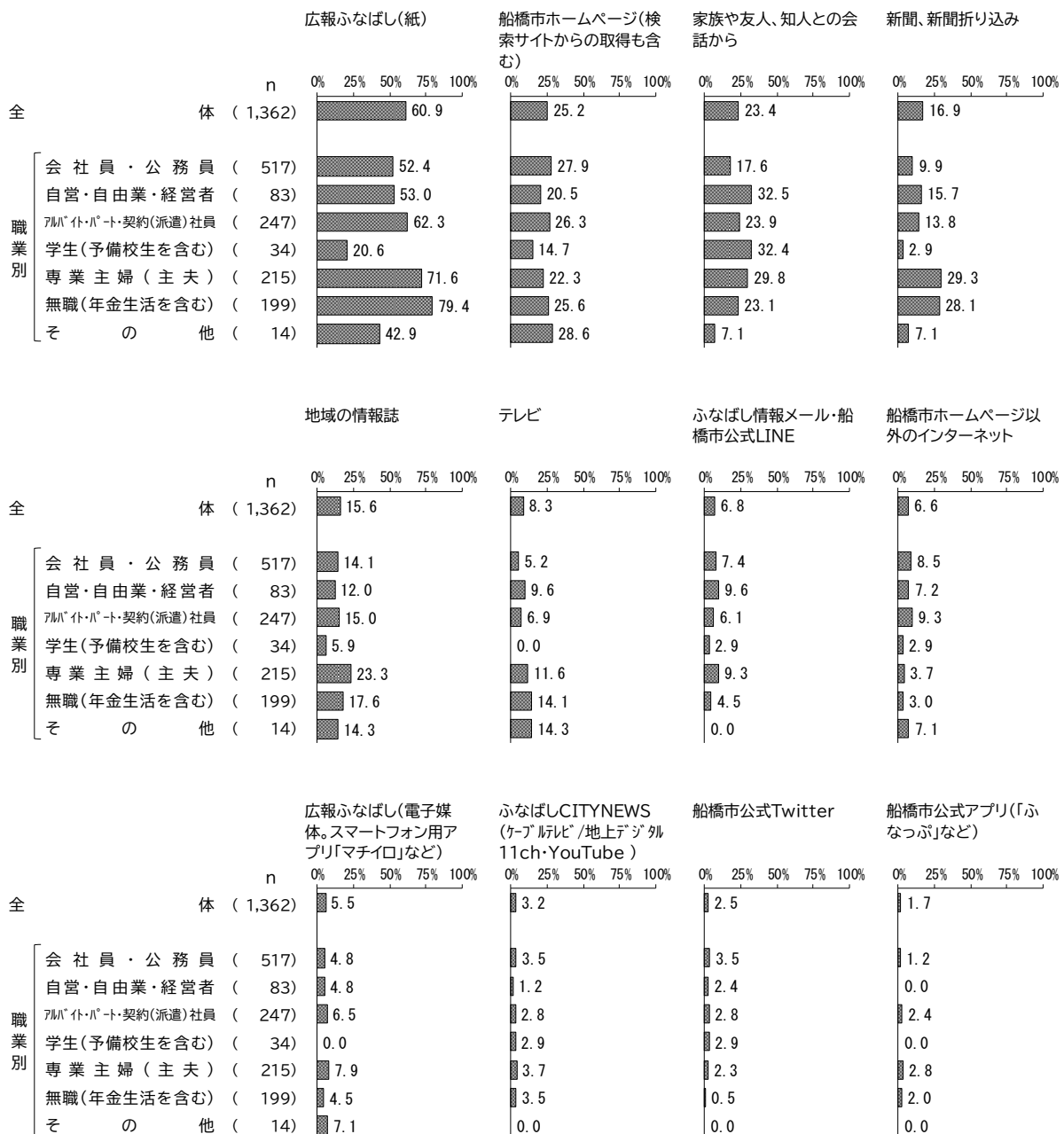
(5) 「広報活動」概観

市の事業やイベント情報などを得る手段は、職業によって大きな差がある

市の事業やイベント情報などを得る手段については、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、職業別の区分間で差が見られる項目を挙げる。

※「農業・漁業」はn数が4、「家族従業（農業・漁業を除く）」はn数が9と少ないため掲載せず

職業別にみると、「広報ふなばし（紙）」では、無職（年金生活を含む）（79.4%）、専業主婦（主夫）（71.6%）の割合が高くなっている。「船橋市ホームページ（検索サイトからの取得も含む）」では、会社員・公務員（27.9%）の割合が、「家族や友人、知人との会話から」では、自営・自由業・経営者（32.5%）と学生（予備校生を含む）（32.4%）の割合が高い傾向が見られる。



図Ⅲ－３９ 市の事業やイベント情報などの入手方法（職業別）（上位 12 項目）

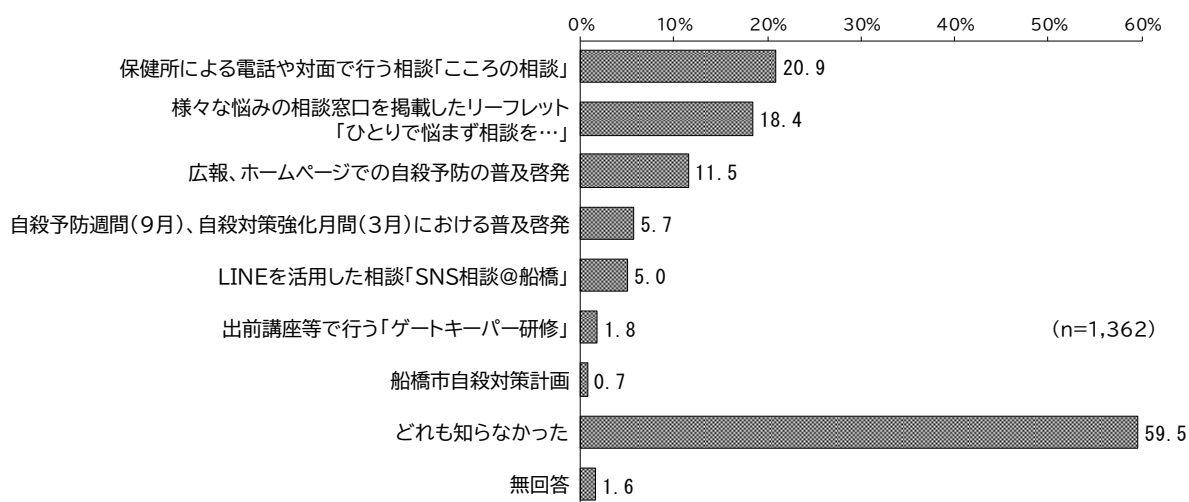
3. 「自殺対策に関する意識」について

(1) 自殺対策の取組みの認知状況

「どれも知らなかった」が6割
【問8】あなたは、市の自殺対策に関する以下の取組みについて知っていますか。知っているもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

自殺対策の取組みの認知状況について聞いたところ、「保健所による電話や対面で行う相談『こころの相談』」が20.9%で最も高く、「様々な悩みの相談窓口を掲載したリーフレット『ひとりで悩まず相談を…』」(18.4%)、「広報、ホームページでの自殺予防の普及啓発」(11.5%)と続いている。

一方、「どれも知らなかった」の割合は、59.5%となっている。

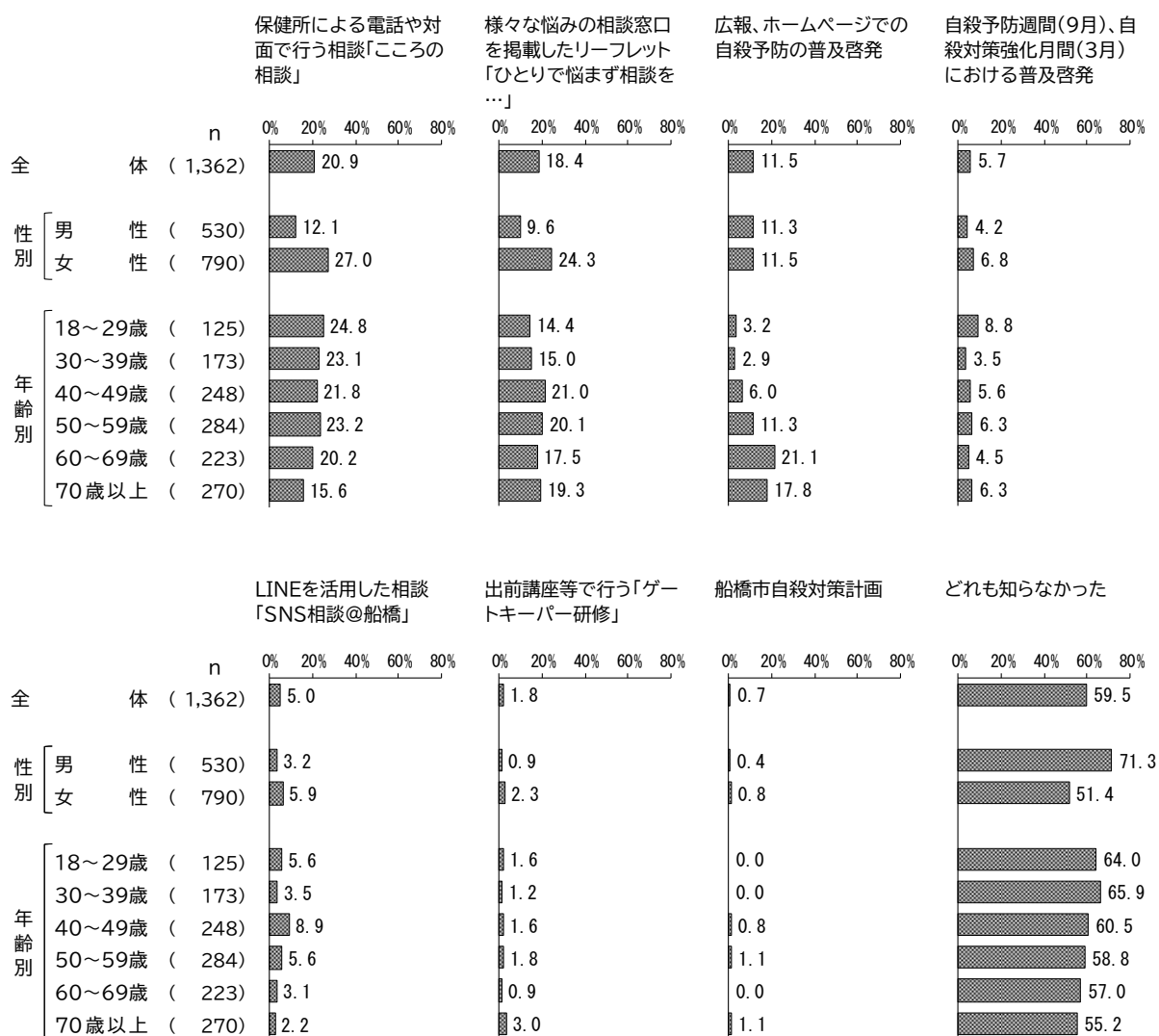


図Ⅲ－40 自殺対策の取組みの認知状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「保健所による電話や対面で行う相談『こころの相談』」では、女性(27.0%)が男性(12.1%)より14.9ポイント高く、「様々な悩みの相談窓口を掲載したリーフレット『ひとりで悩まず相談を…』」でも、女性(24.3%)が男性(9.6%)より14.7ポイント高くなっている。また、「どれも知らなかった」では、男性(71.3%)が女性(51.4%)より19.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「広報、ホームページでの自殺予防の普及啓発」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、割合が最も低い30～39歳(2.9%)と最も高い60～69歳(21.1%)には18.2ポイントの差がある。



図Ⅲ－4 1 自殺対策の取組みの認知状況（性別／年齢別）

(2) 「ゲートキーパー」の認知状況

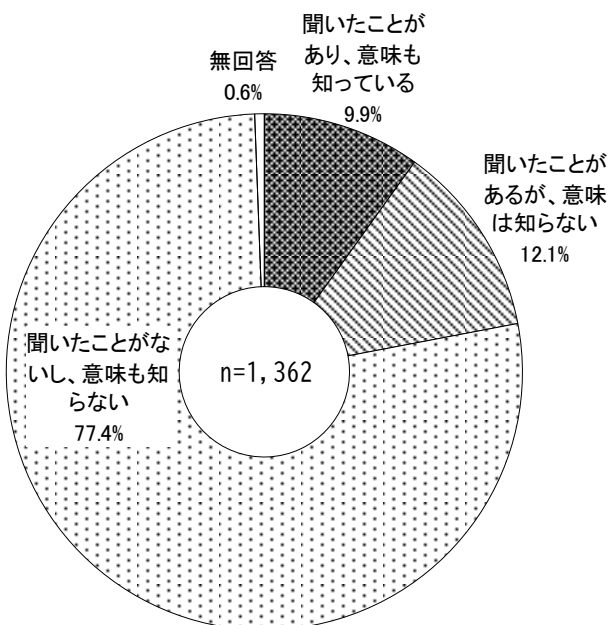
『聞いたことがある人』は2割超

【問9】あなたは、「ゲートキーパー」という言葉について聞いたことがありますか。また、その意味を知っていますか。いずれか1つに○をしてください。(○は1つ)

※ゲートキーパーとは、自殺のリスクにつながるような悩みに気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る人のこと。

「ゲートキーパー」という言葉について聞いたことがあるか、その意味を知っているかについて聞いたところ、「聞いたことがあり、意味も知っている」(9.9%)と「聞いたことがあるが、意味は知らない」(12.1%)を合わせた『聞いたことがある人』の割合は、22.0%となっている。

一方、「聞いたことがないし、意味も知らない」の割合は、77.4%で最も高くなっている。

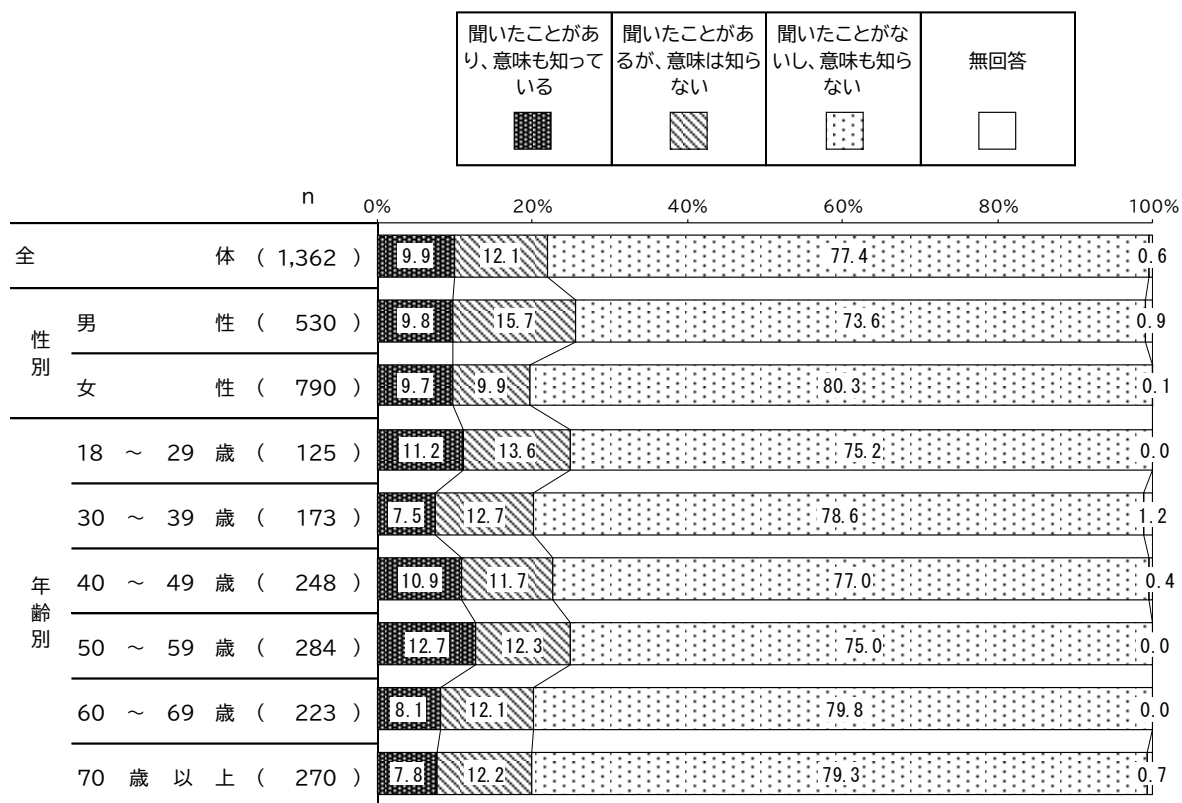


図Ⅲ－４２ 「ゲートキーパー」の認知状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「聞いたことがあり、意味も知っている」と「聞いたことがあるが、意味は知らない」を合わせた『聞いたことがある人』の割合は、男性（25.5%）が女性（19.6%）より 5.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『聞いたことがある人』の割合は、50～59 歳（25.0%）が最も高く、70 歳以上（20.0%）で最も低くなっている。



図Ⅲ－４３ 「ゲートキーパー」の認知状況（性別／年齢別）

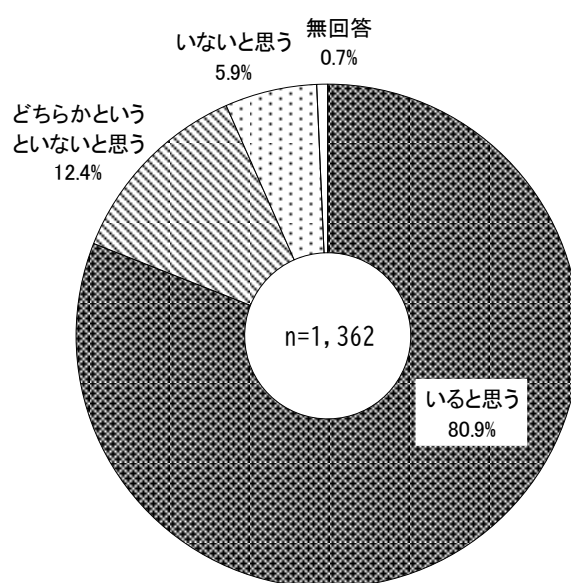
(3) 自分の気持ちを理解してくれる人がいると思うか

「いると思う」が8割超

【問10】あなたは自分の気持ちを理解してくれる人がいると思いますか。いずれか1つに○をしてください。(○は1つ)

自分の気持ちを理解してくれる人がいると思うかについて聞いたところ、「いると思う」の割合は、80.9%となっている。

一方、「どちらかというといないと思う」(12.4%)と「いないと思う」(5.9%)を合わせた『いないと思う人』の割合は、18.3%となっている。

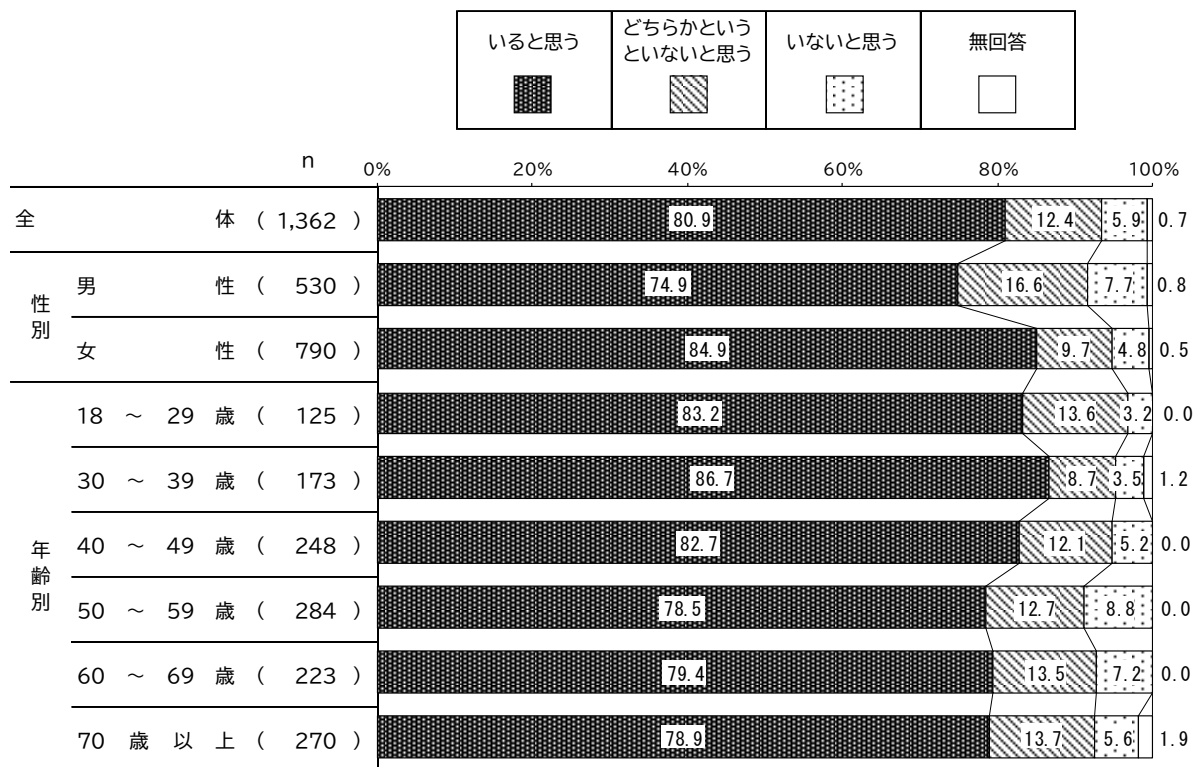


図Ⅲ－４４ 自分の気持ちを理解してくれる人がいると思うか

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「いると思う」の割合は、女性（84.9%）が男性（74.9%）より 10.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「いると思う」の割合は、30～39 歳（86.7%）が最も高く、50～59 歳（78.5%）で最も低くなっており、8.2 ポイントの差がある。



図Ⅲ－４５ 自分の気持ちを理解してくれる人がいると思うか（性別／年齢別）

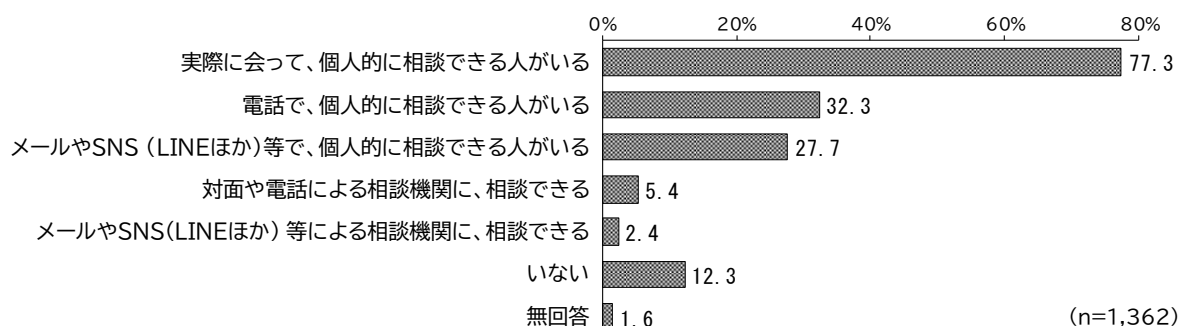
(4) 不満や悩み等に耳を傾けてくれる人はいると思うか

「実際に会って、個人的に相談できる人がいる」が8割近く

【問11】あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると思いますか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると思うかについて聞いたところ、「実際に会って、個人的に相談できる人がいる」が77.3%で最も高く、次いで、「電話で、個人的に相談できる人がいる」(32.3%)、「メールやSNS(LINEほか)等で、個人的に相談できる人がいる」(27.7%)までが2割を超えている。

なお、「いない」の割合は、12.3%となっている。

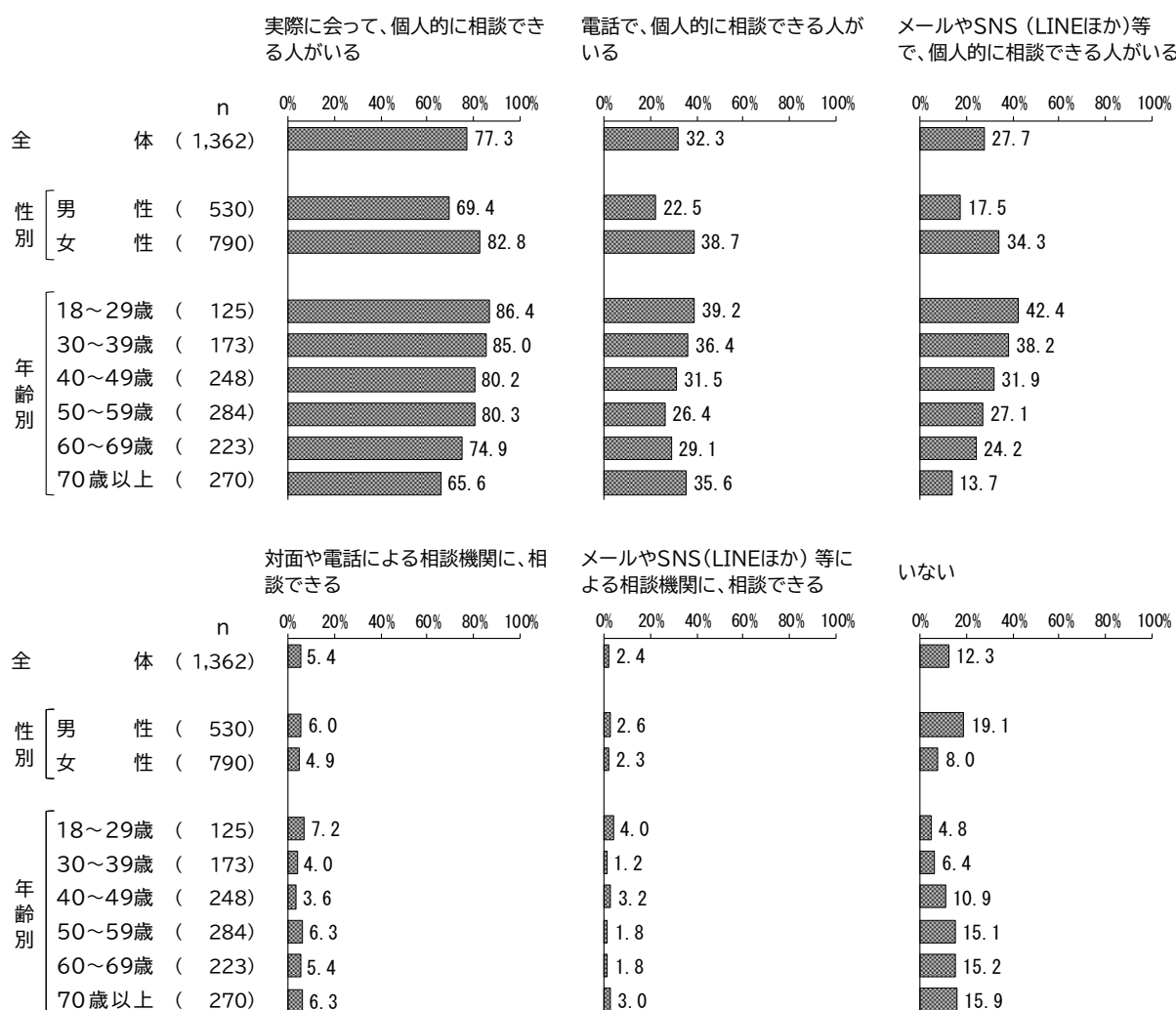


図Ⅲ－46 不満や悩み等に耳を傾けてくれる人はいると思うか

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「実際に会って、個人的に相談できる人がある」、「電話で、個人的に相談できる人がある」、「メールや SNS（LINE ほか）等で、個人的に相談できる人がある」では、女性（82.8%、38.7%、34.3%）が男性（69.4%、22.5%、17.5%）よりそれぞれ 13.4、16.2、16.8 ポイント高くなっている。一方、「いない」では、男性（19.1%）が女性（8.0%）より 11.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実際に会って、個人的に相談できる人がある」と「メールや SNS（LINE ほか）等で、個人的に相談できる人がある」では、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向があり、割合が最も低い 70 歳以上（65.6%、13.7%）と最も高い 18～29 歳（86.4%、42.4%）にはそれぞれ 20.8、28.7 ポイントの差がある。一方、「いない」は年齢が上がるに従い割合が高くなっており、割合が最も低い 18～29 歳（4.8%）と最も高い 70 歳以上（15.9%）には 11.1 ポイントの差がある。



図Ⅲ－４７ 不満や悩み等に耳を傾けてくれる人はいると思うか（性別／年齢別）

(5) 悩みを抱えたときの相談相手

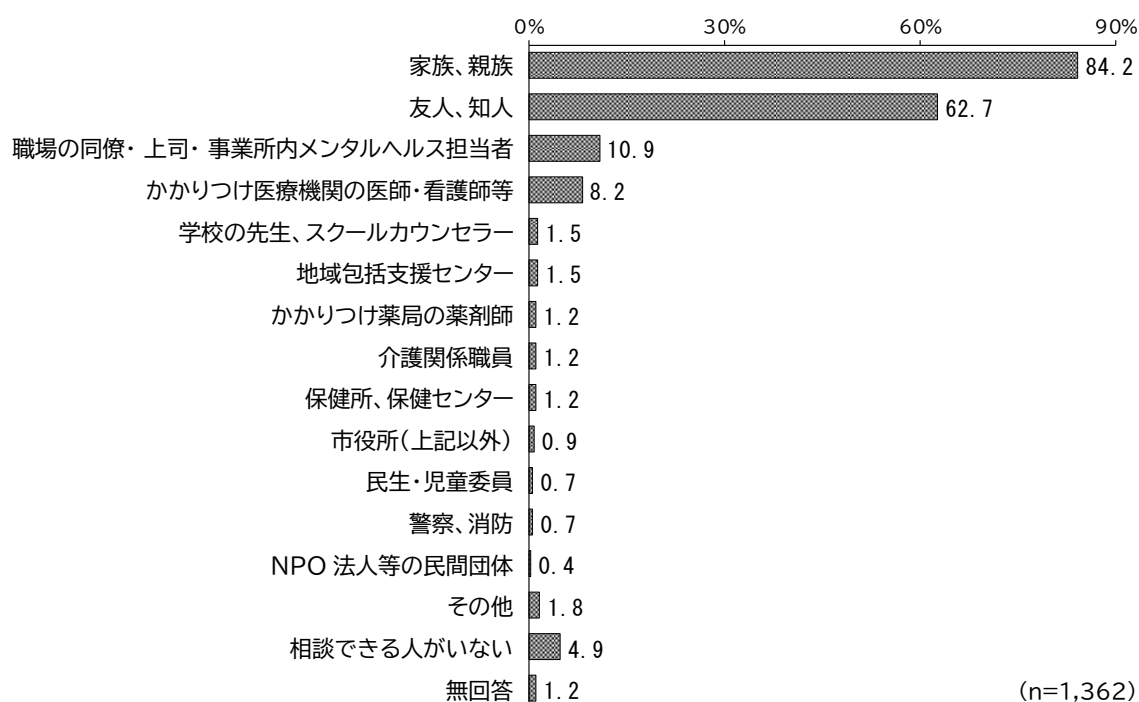
「家族、親族」が8割超、「友人、知人」は6割超

【問12】あなたが悩みを抱えたとき、相談できる相手は誰（どこ）ですか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。（○はいくつでも）

悩みを抱えたとき、相談できる相手は誰（どこ）かについて聞いたところ、「家族、親族」が84.2%で最も高く、次いで、「友人、知人」が62.7%と、この2つの相談相手の割合が突出して高く6割を超えている。以下、「職場の同僚・上司・事業所内メンタルヘルス担当者」が10.9%、「かかりつけ医療機関の医師、看護師等」が8.2%となっている。専門的な相談機関の職員が相談相手になっている割合（0.4%～1.5%）は総じて低い。

一方、「相談できる人がいない」の割合は、4.9%となっている。

「その他」については、「相談しても解決しないから相談しない・必要ない・相談する悩みは特にない」（3件）などが挙がっている。



図Ⅲ－４８ 悩みを抱えたときの相談相手

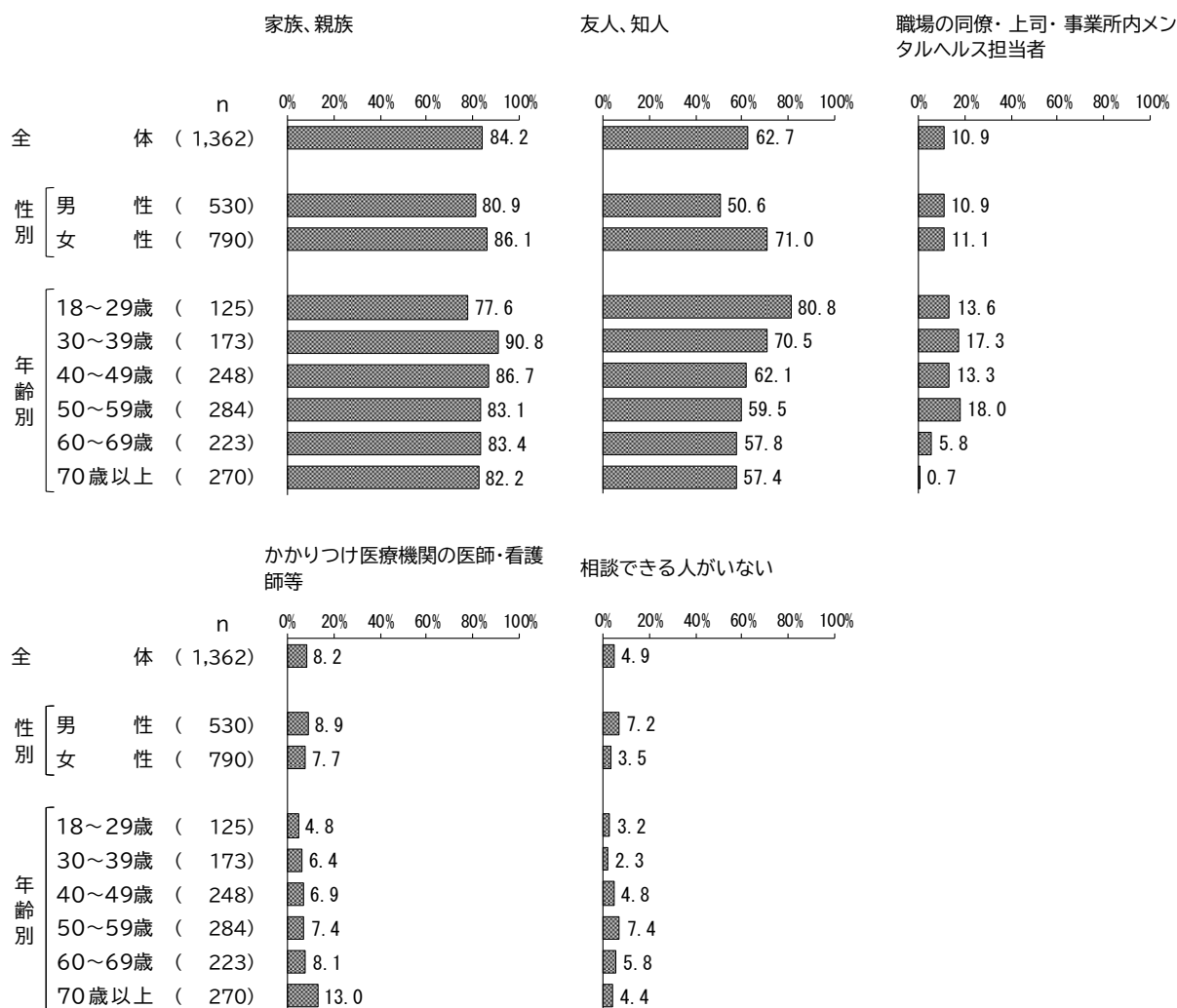
表Ⅲ－１０ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
相談しても解決しないから相談しない・必要ない・相談する悩みは特にない	3
悩みを抱えてから探す	2
弁護士	1
その他	15
(記載なし)	3
合 計	24

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「友人、知人」では、女性（71.0％）が男性（50.6％）より 20.4 ポイント高くなっている。一方「相談できる人がいない」では、男性（7.2％）が女性（3.5％）より 3.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「友人、知人」では、年齢が下がるに従い割合が高くなっており、割合が最も低い 70 歳以上（57.4％）と最も高い 18～29 歳（80.8％）には 23.4 ポイントの差がある。一方、「かかりつけ医療機関の医師・看護師等」は年齢が上がるに従い割合が高くなっており、割合が最も低い 18～29 歳（4.8％）と最も高い 70 歳以上（13.0％）には 8.2 ポイントの差がある。また、「相談できる人がいない」では、50～59 歳（7.4％）が最も高く、割合が最も低い 30～39 歳（2.3％）とでは 5.1 ポイントの差がある。



図Ⅲ－４９ 悩みを抱えたときの相談相手（性別／年齢別）（上位５項目）

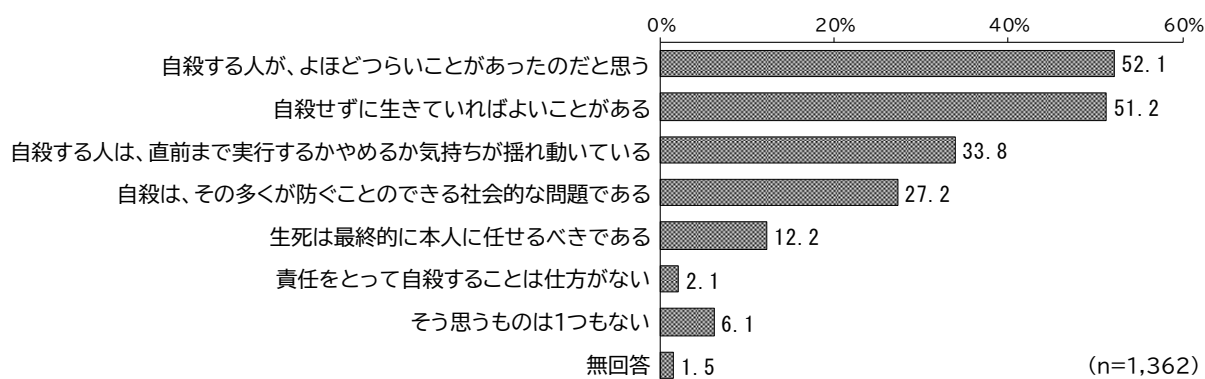
(6) 自殺についてどのように思うか

「自殺する人が、よほどつらいことがあったのだと思う」と「自殺せずに生きていけばよいことがある」が5割超

【問13】あなたは自殺について、どのように思いますか。以下の中から、あなたが「そう思う」もの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

自殺について、どのように思うかについて聞いたところ、「自殺する人が、よほどつらいことがあったのだと思う」が52.1%で最も高く、「自殺せずに生きていけばよいことがある」が51.2%で続き、次いで、「自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」(33.8%)、「自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である」(27.2%)までが2割を超えている

なお、「そう思うものは1つもない」は6.1%となっている。

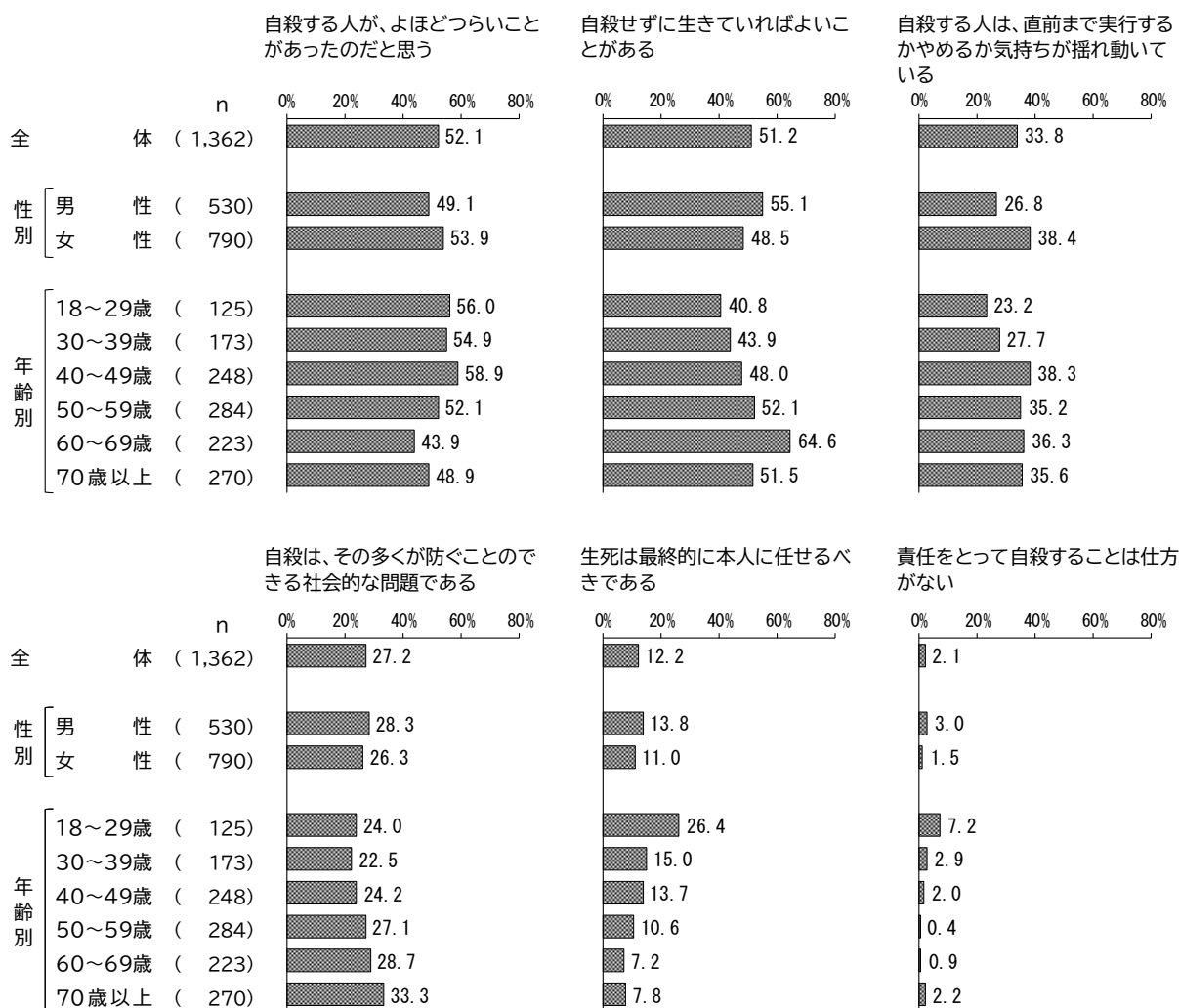


図Ⅲ－50 自殺についてどのように思うか

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」では、女性（38.4%）が男性（26.8%）より 11.6 ポイント高く、「自殺せずに生きていればよいことがある」では、男性（55.1%）が女性（48.5%）より 6.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自殺せずに生きていればよいことがある」の割合は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、割合が最も低い 18～29 歳（40.8%）と最も高い 60～69 歳（64.6%）には 23.8 ポイントの差がある。一方、「生死は最終的に本人に任せるべきである」では、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向があり、割合が最も低い 60～69 歳（7.2%）と最も高い 18～29 歳（26.4%）には 19.2 ポイントの差がある。



図Ⅲ－５１ 自殺についてどのように思うか（性別／年齢別）

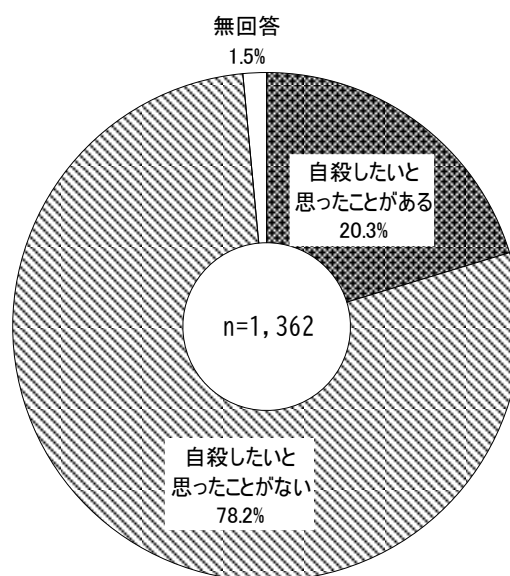
(7) 自殺したいと思ったことがあるか

「自殺したいと思ったことがある」が2割

【問14】あなたはこれまでの人生のなかで、本気で自殺したいと思ったことがありますか。いずれか1つに○をしてください。(○は1つ)

これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと思ったことがあるかについて聞いたところ、「自殺したいと思ったことがある」の割合は20.3%となっている。

一方、「自殺したいと思ったことがない」の割合は78.2%となっている。



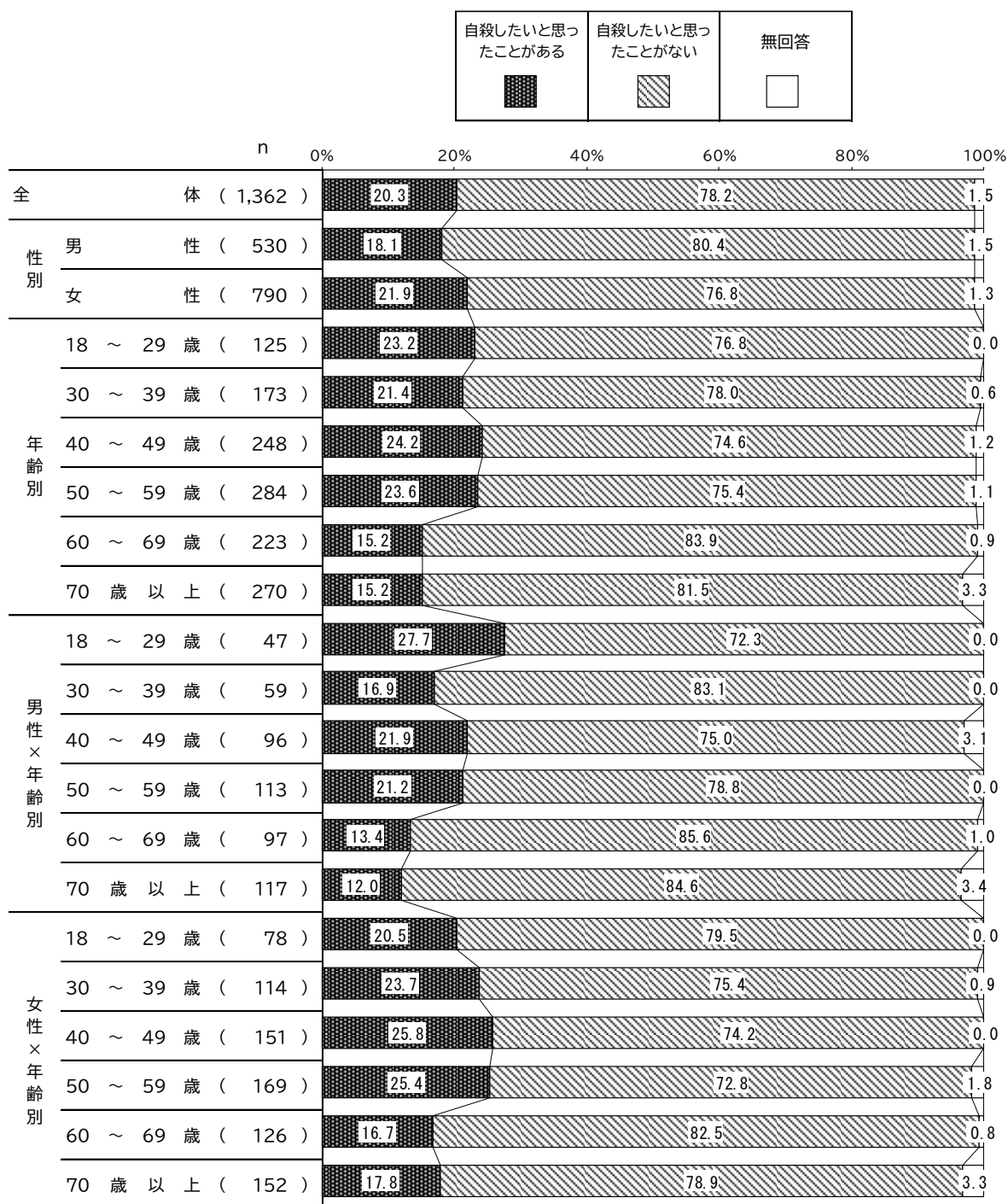
図Ⅲ－５２ 自殺したいと思ったことがあるか

【性別／年齢別／性別×年齢別】

性別で比較すると、「自殺したいと思ったことがある」の割合は、女性(21.9%)が男性(18.1%)より 3.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自殺したいと思ったことがある」の割合は、40～49 歳で 24.2%と最も高く、最も低い 60～69 歳、70 歳以上（ともに 15.2%）と比べて 9.0 ポイント高くなっている。

性別×年齢別にみると、「自殺したいと思ったことがある」の割合は、男性の 18～29 歳で 27.7%と最も高く、最も低い男性の 70 歳以上（12.0%）とは 15.7 ポイント、同年代である女性の 18～29 歳（20.5%）と比べても 7.2 ポイント高くなっている。



図Ⅲ－５３ 自殺したいと思ったことがあるか（性別／年齢別／性別×年齢別）

(7-1) 自殺を考えた要因

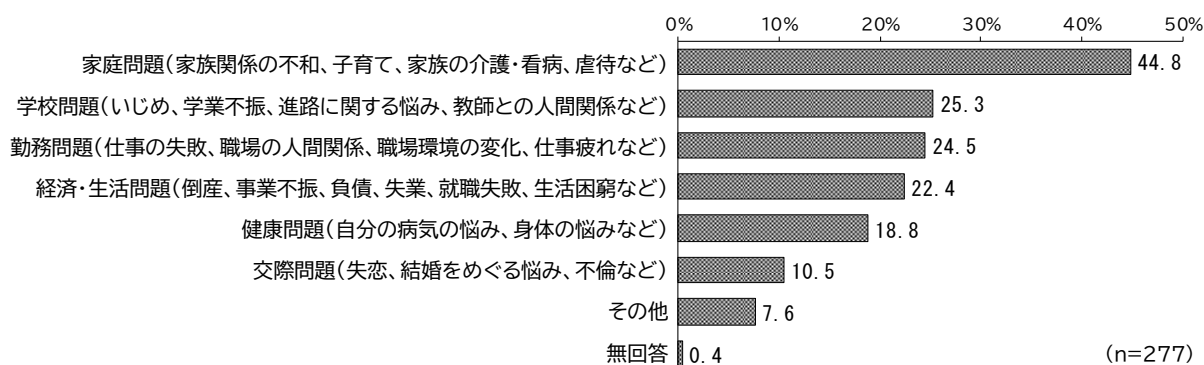
「家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など）」が4割超

(問14で「1. 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方)

【問14-1】あなたが、自殺、またはそれに近いことを考えた要因となったものは何ですか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

「自殺したいと思ったことがある」と答えた人(277人)に、自殺、またはそれに近いことを考えた要因となったものは何かについて聞いたところ、「家庭問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など)」が44.8%で最も高く、次いで、「学校問題(いじめ、学業不振、進路に関する悩み、教師との人間関係など)」(25.3%)、「勤務問題(仕事の失敗、職場の人間関係、職場環境の変化、仕事疲れなど)」(24.5%)、「経済・生活問題(倒産、事業不振、負債、失業、就職失敗、生活困窮など)」(22.4%)が2割を超えている。

「その他」については、「生きている意味が分からなくなったとき・自分に価値がないと思ったとき」(3件)などが挙げられている。



図Ⅲ-54 自殺を考えた要因

表Ⅲ-11 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
生きている意味が分からなくなったとき・自分に価値がないと思ったとき	3
将来への不安	2
家族の死	1
その他	10
(記載なし)	6
合 計	22

【性別／年齢別／性別×年齢別】

性別で比較すると、「家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など）」では、女性（53.8%）が男性（27.1%）より 26.7 ポイント高くなっている。一方、「勤務問題（仕事の失敗、職場の人間関係、職場環境の変化、仕事疲れなど）」と「経済・生活問題（倒産、事業不振、負債、失業、就職失敗、生活困窮など）」では、男性（35.4%、32.3%）が女性（19.1%、16.2%）よりそれぞれ 16.3、16.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「学校問題（いじめ、学業不振、進路に関する悩み、教師との人間関係など）」では、18 歳～29 歳（72.4%）が最も高く、「家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など）」では、70 歳以上（53.7%）が最も高く、「経済・生活問題（倒産、事業不振、負債、失業、就職失敗、生活困窮など）」では、60～69 歳（35.3%）が最も高くなっている。

性別×年齢別にみると、「家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など）」では、女性の 40 歳以上の全ての年齢で 5 割を超えており、なかでも女性の 70 歳以上では 66.7% と最も高くなっている。「学校問題（いじめ、学業不振、進路に関する悩み、教師との人間関係など）」では、男女ともに 18～29 歳でそれぞれ 76.9%、68.8% と 6 割を超え、「経済・生活問題（倒産、事業不振、負債、失業、就職失敗、生活困窮など）」では、男性の 50～59 歳で 50.0% と高くなっている。

		n	家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など）	学校問題（いじめ、学業不振、進路に関する悩み、教師との人間関係など）	勤務問題（仕事の失敗、職場の人間関係、職場環境の変化、仕事疲れなど）	経済・生活問題（倒産、事業不振、負債、失業、就職失敗、生活困窮など）	健康問題（自分の病気の悩み、身体の悩みなど）	交際問題（失恋、結婚をめぐる悩み、不倫など）	(%)
全 体		277	44.8	25.3	24.5	22.4	18.8	10.5	
性別	男性	96	27.1	26.0	35.4	32.3	17.7	9.4	
	女性	173	53.8	26.0	19.1	16.2	18.5	11.6	
年齢別	18～29歳	29	37.9	72.4	34.5	20.7	31.0	6.9	
	30～39歳	37	35.1	32.4	32.4	13.5	13.5	18.9	
	40～49歳	60	40.0	28.3	28.3	21.7	18.3	16.7	
	50～59歳	67	47.8	22.4	23.9	26.9	11.9	13.4	
	60～69歳	34	50.0	8.8	17.6	35.3	14.7	2.9	
	70歳以上	41	53.7	4.9	12.2	12.2	26.8	-	
男性×年齢別	18～29歳	13	38.5	76.9	38.5	23.1	46.2	7.7	
	30～39歳	10	40.0	20.0	40.0	10.0	10.0	20.0	
	40～49歳	21	9.5	23.8	42.9	38.1	9.5	19.0	
	50～59歳	24	29.2	25.0	37.5	50.0	4.2	8.3	
	60～69歳	24	30.8	15.4	15.4	38.5	23.1	-	
	70歳以上	13	28.6	-	28.6	14.3	28.6	-	
女性×年齢別	18～29歳	16	37.5	68.8	31.3	18.8	18.8	6.3	
	30～39歳	27	33.3	37.0	29.6	14.8	14.8	18.5	
	40～49歳	39	56.4	30.8	20.5	12.8	23.1	15.4	
	50～59歳	43	58.1	20.9	16.3	14.0	16.3	16.3	
	60～69歳	21	61.9	4.8	19.0	33.3	9.5	4.8	
	70歳以上	27	66.7	7.4	3.7	11.1	25.9	-	

図Ⅲ－55 自殺を考えた要因（性別／年齢別／性別×年齢別）

(7-2) 自殺を考えた時にどのように思いとどまったか

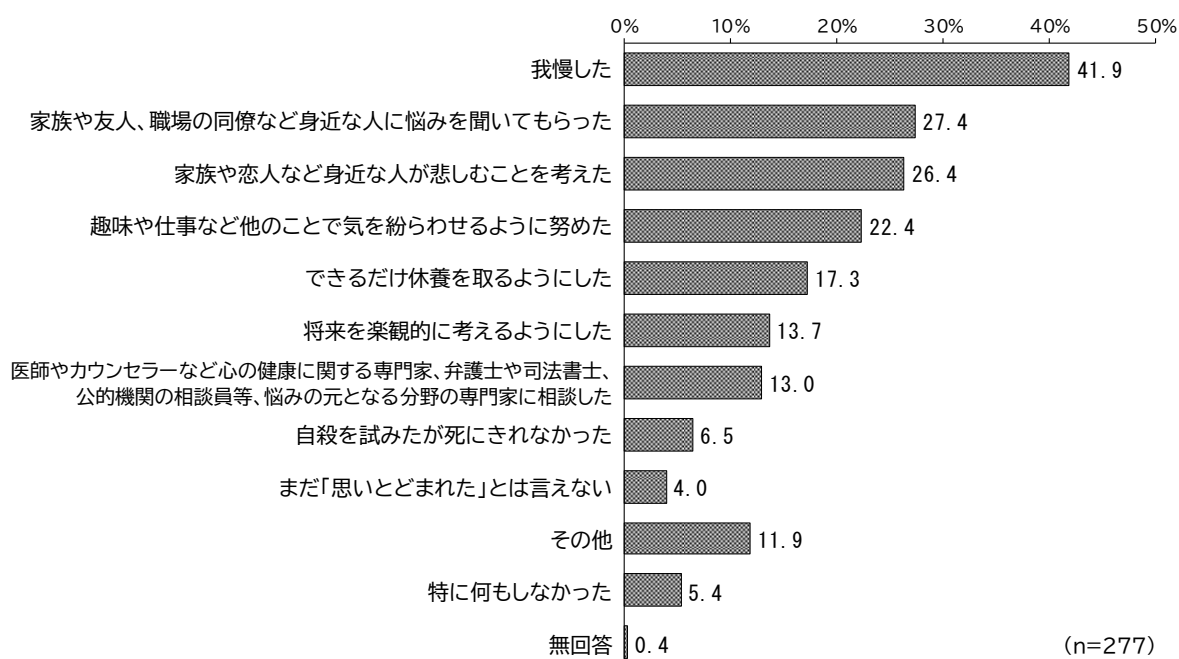
「我慢した」が4割超

(引き続き、問14で「1. 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方)

【問14-2】そのように考えた時に、どのようにして自殺を思いとどまりましたか。
 以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

「自殺したいと思ったことがある」と答えた人(277人)に、自殺を考えた時にどのように思いとどまったかについて聞いたところ、「我慢した」が41.9%で最も高く、次いで、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」(27.4%)、「家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた」(26.4%)、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」(22.4%)、「できるだけ休養を取るようにした」(17.3%)などと続いている。

「その他」については、「自分の考え方を改めた・変えた」(6件)などが挙がっている。



図Ⅲ-56 自殺を考えた時にどのように思いとどまったか

表Ⅲ-12 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
自分の考え方を改めた・変えた	6
死ぬ勇気がなかった	5
自殺の方法を考えているうちに止めた	4
親・家族・友人が救ってくれた	3
家族に迷惑がかかると思って止めた	2
神道、仏教に触れた	2
その他	9
(記載なし)	4
合 計	35

【性別／年齢別／性別×年齢別】

性別で比較すると、「我慢した」、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」、「家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた」は、女性（44.5%、31.8%、32.9%）が男性（38.5%、20.8%、16.7%）より、各々6.0、11.0、16.2 ポイント高い。一方、「できるだけ休養を取るようにした」は、男性（19.8%）が女性（15.6%）より 4.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」では、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も低い60～69歳（11.8%）と最も高い18～29歳（51.7%）では、39.9 ポイントの差がある。

性別×年齢別にみると、「我慢した」では、女性の40～49歳（51.3%）と18～29歳（50.0%）、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」では、女性の30～39歳（51.9%）が、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」では、男性、女性ともに18～29歳（それぞれ53.8%、50.0%）で5割以上と高くなっている。

n		我慢した	家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった	家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた	趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた	できるだけ休養を取るようにした	将来を楽観的に考えるようにした	医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家、弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した	自殺を試みたが死にきかなかった	(%)
全 体	277	41.9	27.4	26.4	22.4	17.3	13.7	13.0	6.5	
性 別	男性	38.5	20.8	16.7	24.0	19.8	13.5	11.5	6.3	
	女性	44.5	31.8	32.9	22.0	15.6	14.5	13.3	6.4	
年 齢 別	18～29歳	41.4	41.4	31.0	51.7	34.5	10.3	24.1	3.4	
	30～39歳	43.2	43.2	13.5	35.1	16.2	5.4	21.6	10.8	
	40～49歳	46.7	33.3	33.3	20.0	21.7	10.0	10.0	5.0	
	50～59歳	38.8	19.4	23.9	13.4	13.4	20.9	10.4	9.0	
	60～69歳	47.1	17.6	32.4	11.8	14.7	14.7	2.9	8.8	
	70歳以上	39.0	19.5	29.3	19.5	7.3	19.5	12.2	-	
男 性 × 年 齢 別	18～29歳	30.8	38.5	23.1	53.8	30.8	7.7	23.1	-	
	30～39歳	30.0	20.0	10.0	40.0	10.0	-	10.0	10.0	
	40～49歳	38.1	33.3	14.3	19.0	33.3	14.3	19.0	4.8	
	50～59歳	45.8	12.5	20.8	20.8	16.7	16.7	4.2	8.3	
	60～69歳	46.2	15.4	15.4	7.7	7.7	15.4	-	15.4	
	70歳以上	35.7	7.1	14.3	14.3	14.3	21.4	14.3	-	
女 性 × 年 齢 別	18～29歳	50.0	43.8	37.5	50.0	37.5	12.5	25.0	6.3	
	30～39歳	48.1	51.9	14.8	33.3	18.5	7.4	25.9	11.1	
	40～49歳	51.3	33.3	43.6	20.5	15.4	7.7	5.1	5.1	
	50～59歳	34.9	23.3	25.6	9.3	11.6	23.3	14.0	9.3	
	60～69歳	47.6	19.0	42.9	14.3	19.0	14.3	4.8	4.8	
	70歳以上	40.7	25.9	37.0	22.2	3.7	18.5	11.1	-	

図Ⅲ－５７ 自殺を考えた時にどのように思いとどまったか（性別／年齢別／性別×年齢別）

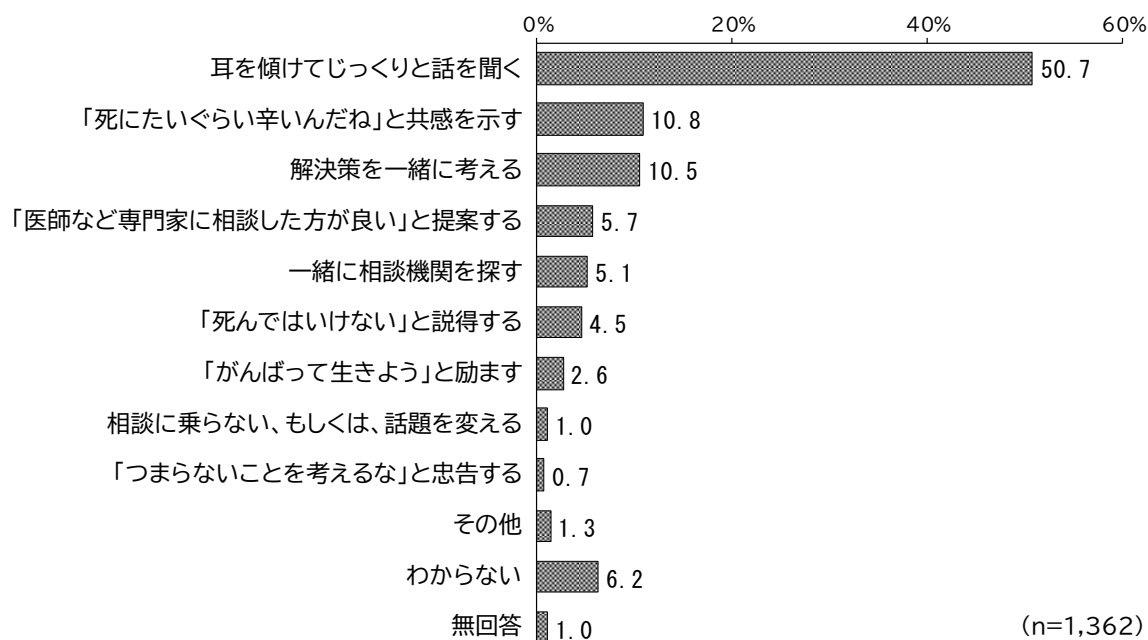
(8) 身近な人から死にたいと打ち明けられたときの対応

「耳を傾けてじっくりと話を聞く」が5割超

【問15】あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたら、どう対応するのが良いと思いますか。以下の中であなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をしてください。(○は1つ)

もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたら、どう対応するのが良いと思うかについて聞いたところ、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」が50.7%で突出して高く、次いで、『死にたいぐらい辛いんだね』と共感を示す(10.8%)、「解決策を一緒に考える」(10.5%)が1割超で続いている。

「その他」については、「耳を傾けてじっくりと話を聞きつつ、解決策を一緒に考える」、「生きる希望を見出せるまでカウンセリングする・話す」(ともに3件)などが挙げられている。



図Ⅲ－５８ 身近な人から死にたいと打ち明けられたときの対応

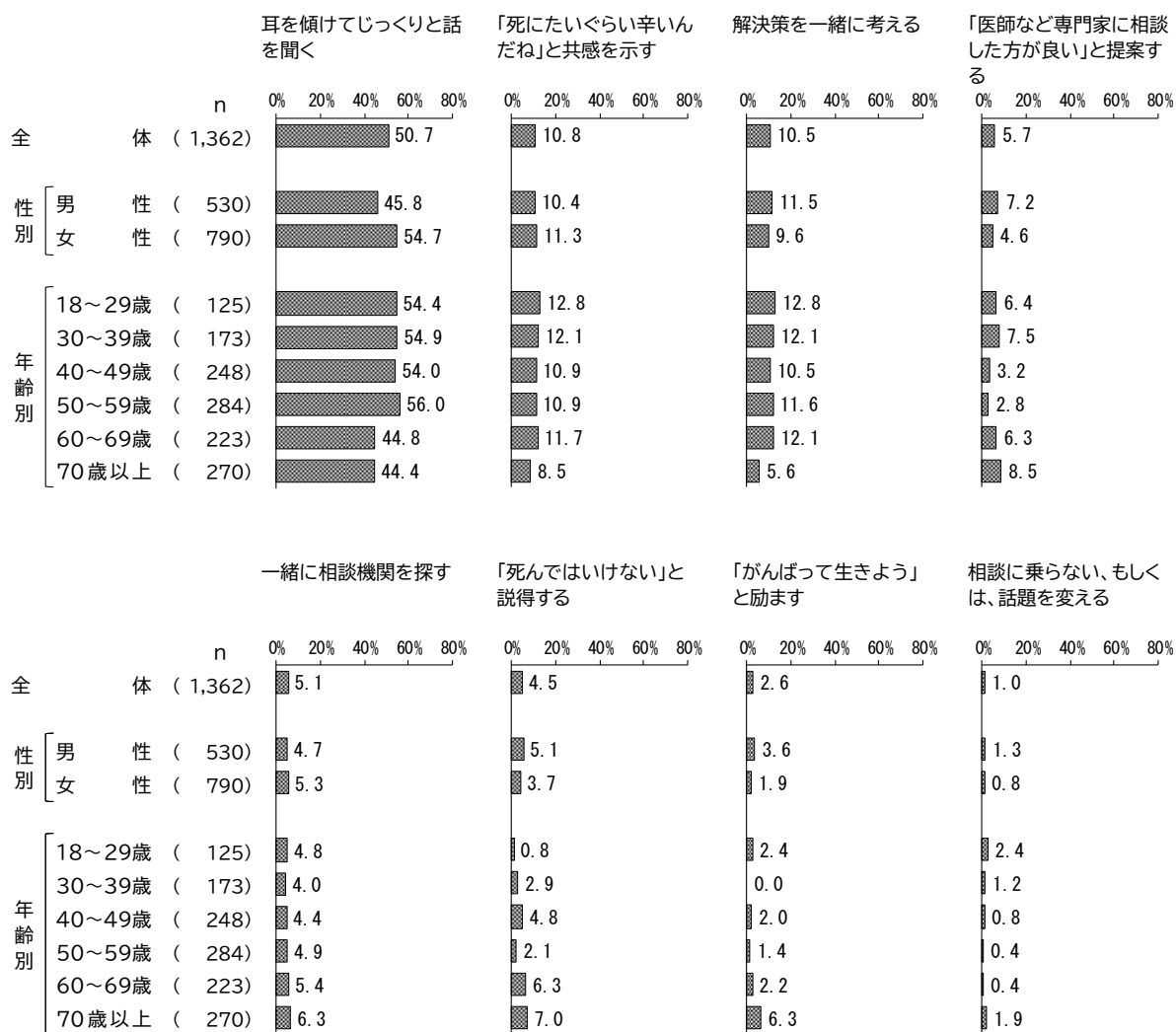
表Ⅲ－１３ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
耳を傾けてじっくりと話を聞きつつ、解決策を一緒に考える	3
生きる希望を見出せるまでカウンセリングする・話す	3
生きていてほしいと告げる・人生の大切さを話す	2
説得・忠告・励ますことで解決することではない・決断は本人に任せる	2
その他	8
合 計	18

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」の割合は、女性(54.7%)が男性(45.8%)より 8.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」の割合は、50～59 歳以下の全ての年齢で 54.0～56.0%と 5 割を超えているが、60～69 歳と 70 歳以上ではそれぞれ 44.8%、44.4%と 4 割台にとどまっている。



図Ⅲ－５９ 身近な人から死にたいと打ち明けられたときの対応（性別／年齢別）（上位８項目）

(9) うつ病のサインに気づいたときの相談窓口

「精神科や心療内科等の医療機関」が5割超

【問16】もし仮に、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたら、以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。以下の中であなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をしてください。(○は1つ)

「うつ病のサイン」とは、以下に掲げた症状をいいます。

○自分で感じる症状

気分が沈む、悲しい、イライラする、集中力がない、好きなこともやりたくない、大事なことを先送りする、物事を悪いほうへ考える、決断ができない、自分を責める、死にたくなる

○周りから見てわかる症状

表情が暗い、涙もろい、反応が遅い、落ち着きがない、飲酒量が増える

○身体に出る症状

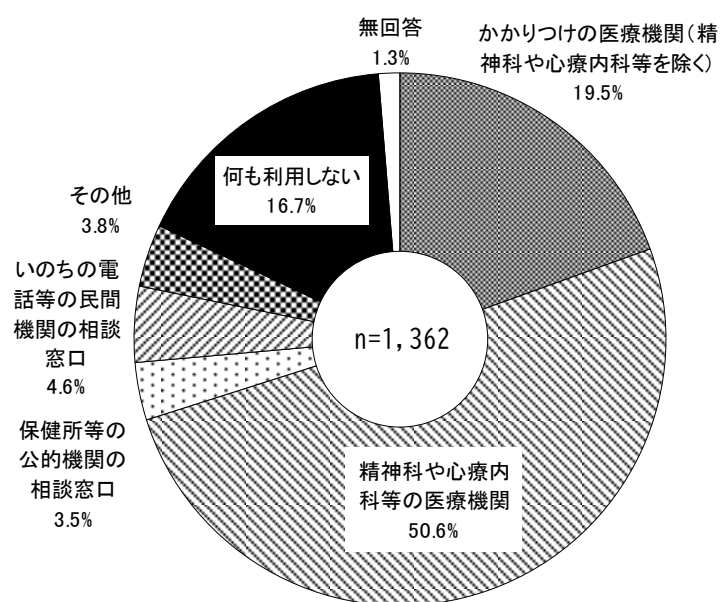
眠れない、食欲がない、便秘がち、身体がだるい、疲れやすい、性欲がない、頭痛、動悸、胃の不快感、めまい

※このような症状が2週間以上続く場合、うつ病の可能性あります。

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたら、専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思うかについて聞いたところ、「精神科や心療内科等の医療機関」が50.6%で最も高く、次いで、「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」（19.5%）、「いのちの電話等の民間機関の相談窓口」（4.6%）と続いている。

一方、「何も利用しない」は16.7%となっている。

なお、「その他」については、「家族」（11件）、「その時にならないとわからない」（9件）などが挙がっている。



図Ⅲ－60 うつ病のサインに気づいたときの相談窓口

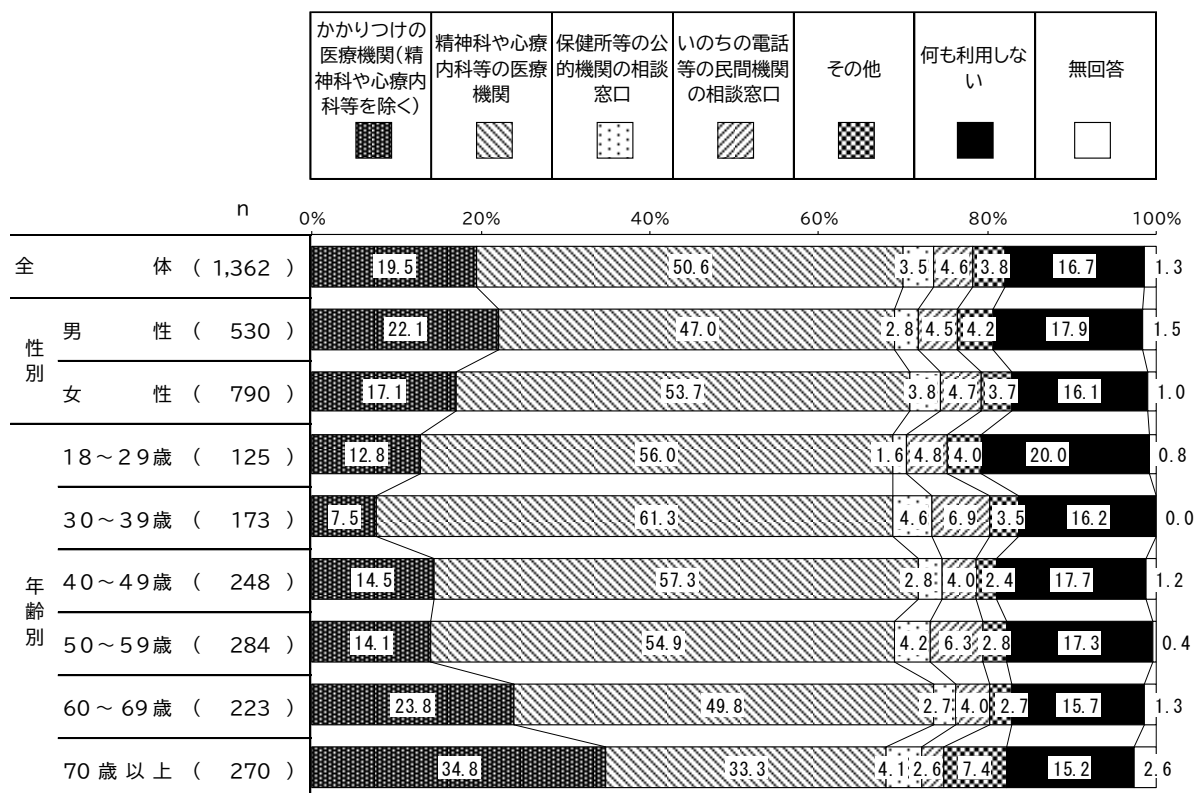
表Ⅲ－１４ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
家族	11
その時にならないとわからない	9
友人・知人・恋人	5
職場・学校のメンタルヘルス担当・保健師・産業医	5
インターネット・SNS・本で調べる	4
その他	17
(記載なし)	5
合 計	56

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」は、男性（22.1%）が女性（17.1%）より、5.0 ポイント高い。一方、「精神科や心療内科等の医療機関」は、女性（53.7%）が男性（47.0%）より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」では、70 歳以上が 34.8%と最も高く、「精神科や心療内科等の医療機関」では、30～39 歳が 61.3%と最も高く、「何も利用しない」では、18～29 歳（20.0%）が最も高くなっている。



図Ⅲ－６１ うつ病のサインに気づいたときの相談窓口（性別／年齢別）

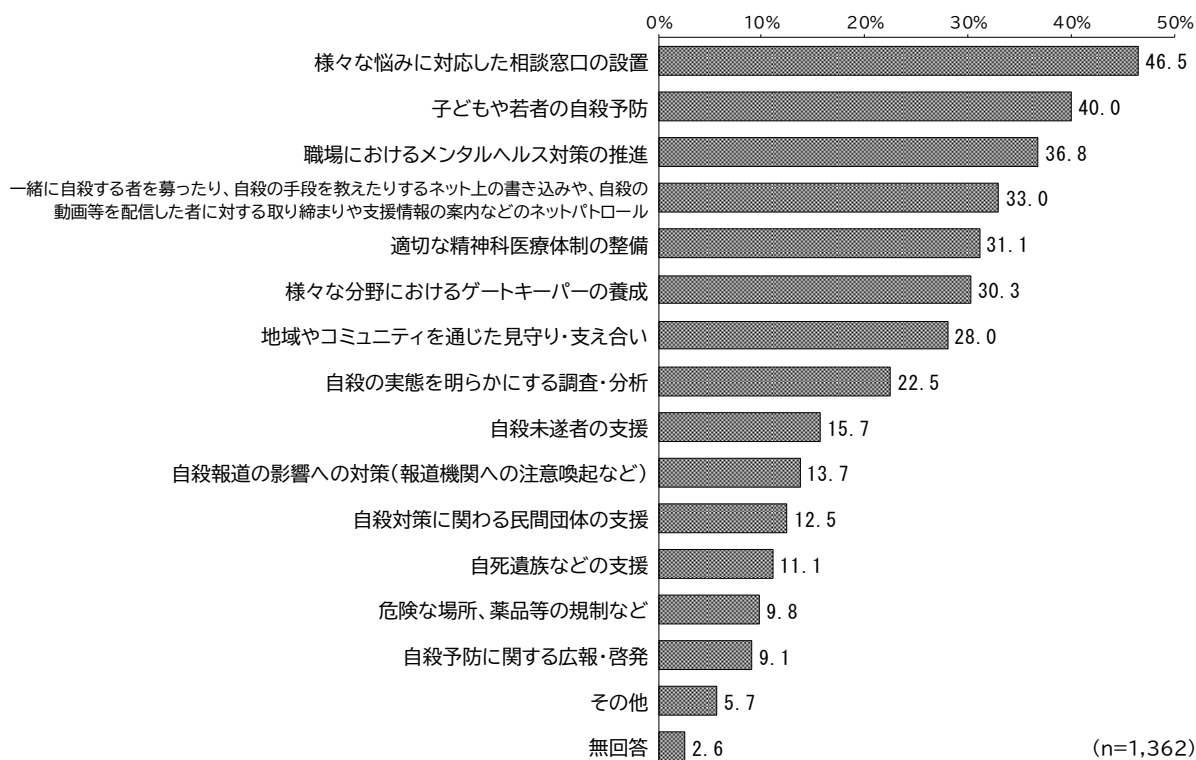
(10) 今後求められる有効な自殺対策

「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が5割近く

【問17】 今後求められるものとして、どのような自殺対策が有効であると思いますか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

今後求められるものとして、どのような自殺対策が有効であると思うかについて聞いたところ、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」の割合が46.5%と最も高く、次いで「子どもや若者の自殺予防」(40.0%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(36.8%)、「一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まりや支援情報の案内などのネットパトロール」(33.0%)、「適切な精神科医療体制の整備」(31.1%)「様々な分野におけるゲートキーパーの養成」(30.3%)が3割を超えている。

「その他」については、「経済的、金銭的な援助・支援・対策・政策」、「相談窓口 (SNS 含む)、カウンセリング、セラピーの充実・拡充」(ともに12件)などが挙がっている。



図Ⅲ－62 今後求められる有効な自殺対策

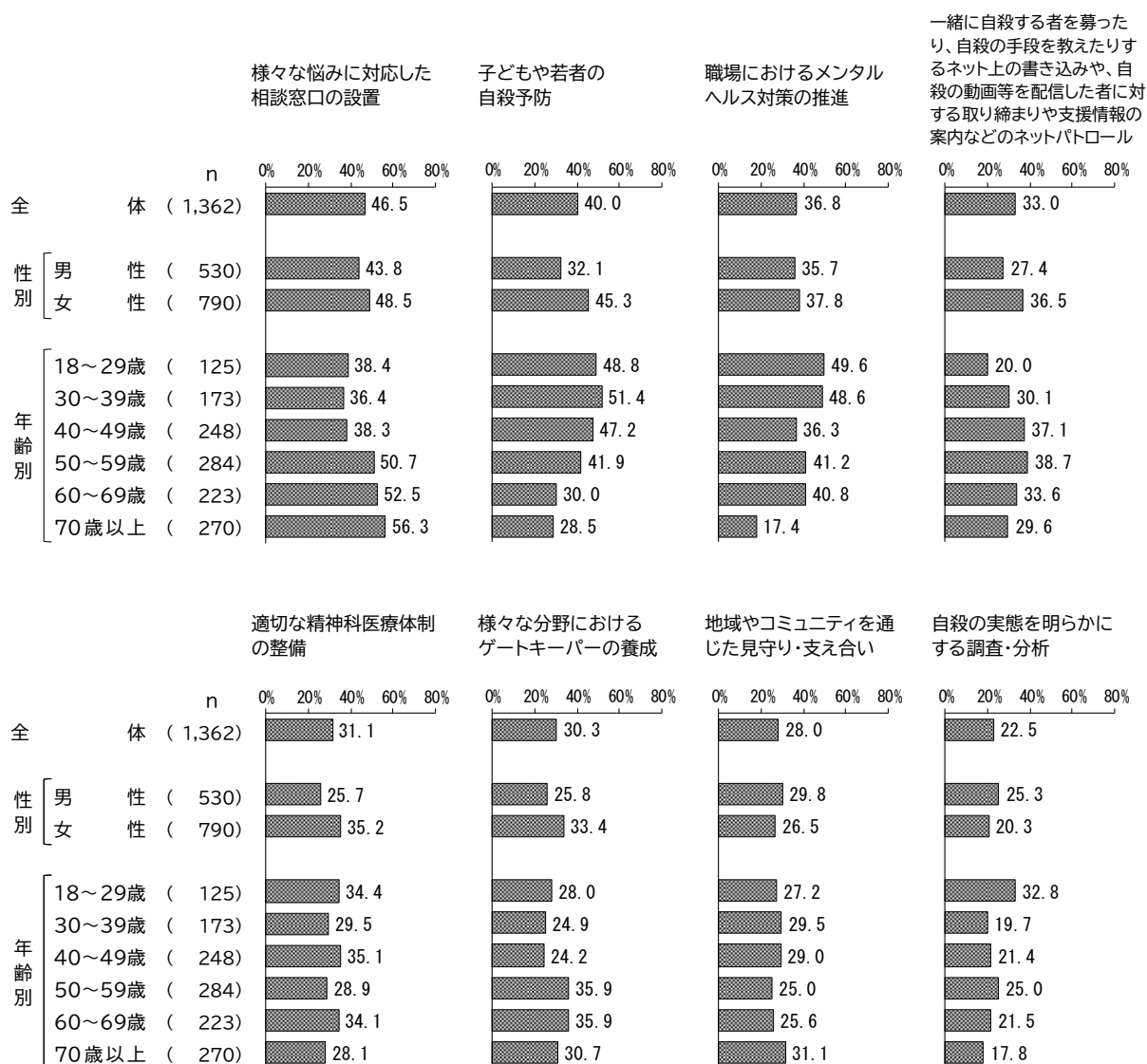
表Ⅲ－15 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
経済的、金銭的な援助・支援・対策・政策	12
相談窓口 (SNS含む)、カウンセリング、セラピーの充実・拡充	12
わからない	9
有効な対策・手段・方策は特はない	6
その他	37
(記載なし)	4
合 計	80

【性別／年齢別】

性別で比較すると、男性、女性ともに「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(43.8%、48.5%)の割合が最も高く、次いで男性では「職場におけるメンタルヘルスの推進」(35.7%)、女性では「子どもや若者の自殺予防」(45.3%)と続いている。

年齢別にみると、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、70歳以上では56.3%と最も高くなっている。また、「子どもや若者の自殺予防」は、30～39歳で51.4%と最も高く、5割を超えている。



図Ⅲ－６３ 今後求められる有効な自殺対策（性別／年齢別）（上位８項目）

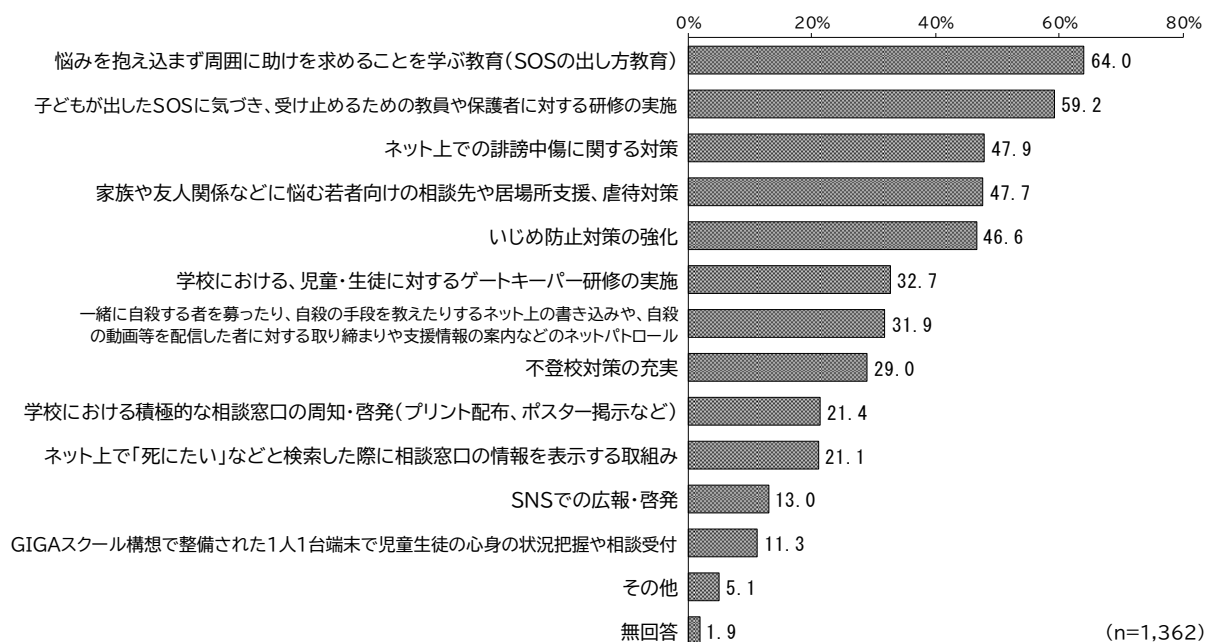
(11) 今後求められる子ども・若者向けの有効な自殺対策

「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）」が6割超

【問18】 今後求められるものとして、どのような子ども・若者向けの自殺対策が有効であると思いますか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。（○はいくつでも）

今後求められるものとして、どのような子ども・若者向けの自殺対策が有効であると思うかについて聞いたところ、「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）」が64.0%と最も高く、次いで「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」（59.2%）、「ネット上での誹謗中傷に関する対策」（47.9%）、「家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策」（47.7%）、「いじめ防止対策の強化」（46.6%）が4割を超えている。

「その他」については、「いじめ加害者への教育・カウンセリング・厳罰化」（9件）などが挙げられている。



図Ⅲ－64 今後求められる子ども・若者向けの有効な自殺対策

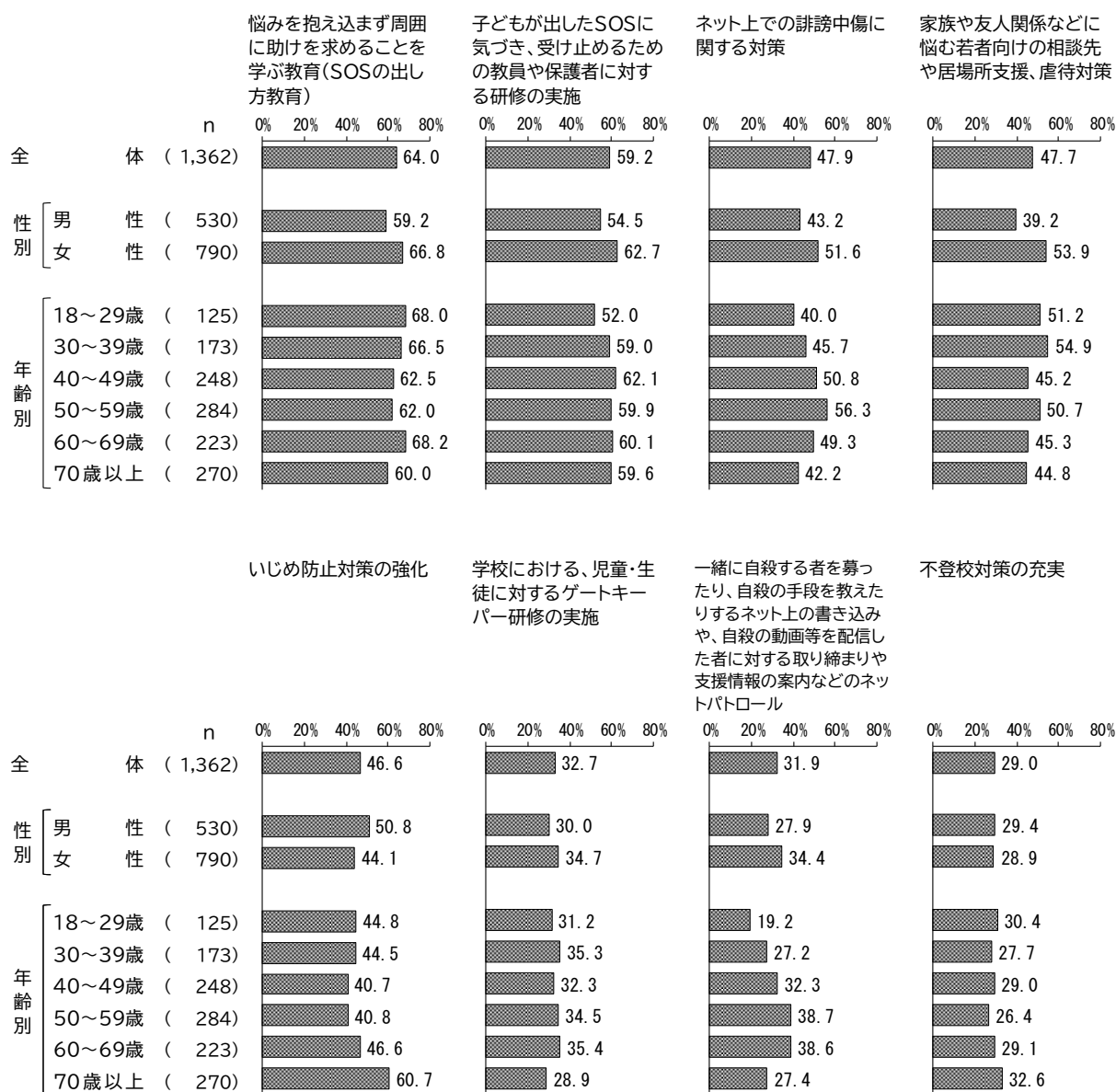
表Ⅲ－16 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
いじめ加害者への教育・カウンセリング・厳罰化	9
教員・親への教育	8
スクールカウンセラーの配置・カウンセリング体制の強化	4
わからない・対策なし	6
その他	36
(記載なし)	6
合 計	69

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）」、「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」、「ネット上での誹謗中傷に関する対策」、「家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策」は、女性（66.8%、62.7%、51.6%、53.9%）が男性（59.2%、54.5%、43.2%、39.2%）より、それぞれ 7.6、8.2、8.4、14.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」では、40～49 歳で 62.1%と最も高く、「ネット上での誹謗中傷に関する対策」では、50～59 歳が 56.3%、「家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策」は、30～39 歳が 54.9%、「いじめ防止対策の強化」では、70 歳以上が 60.7%で他の年齢に比べて高くなっている。



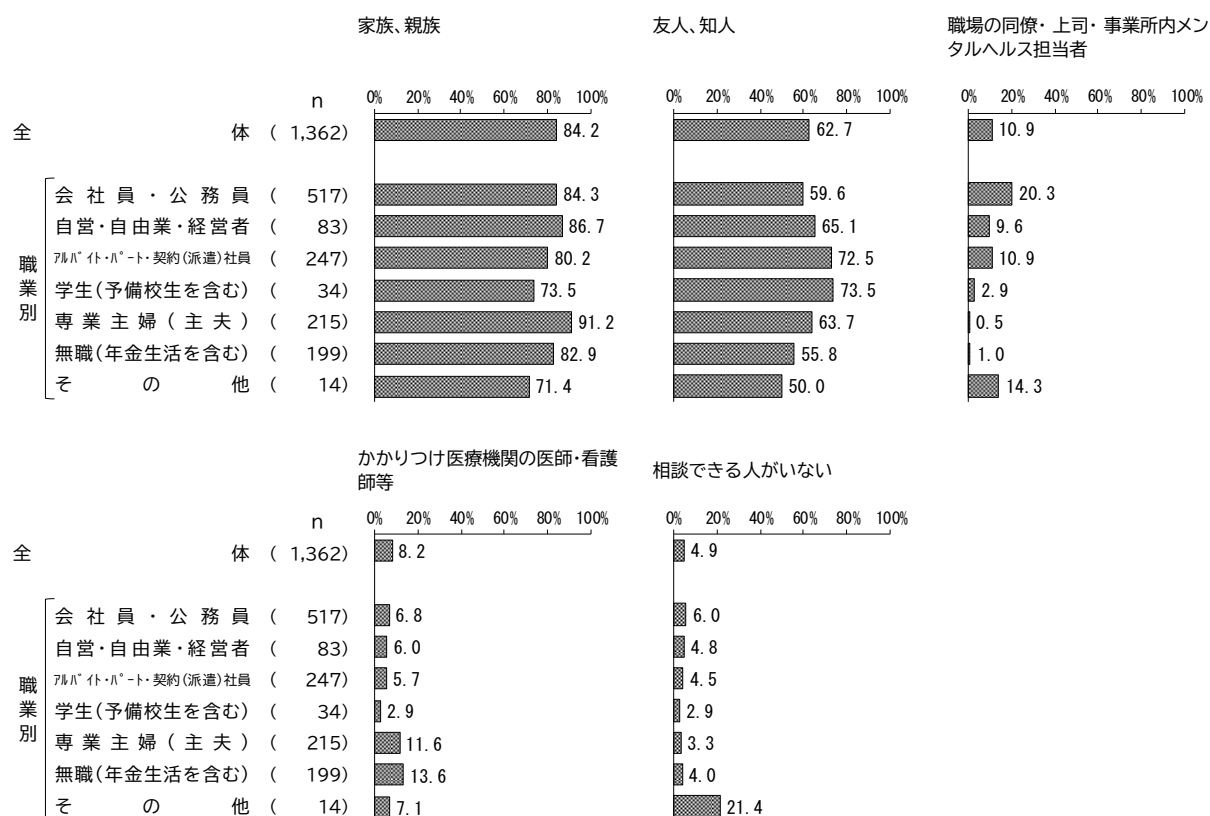
図Ⅲ－65 今後求められる子ども・若者向けの有効な自殺対策（性別／年齢別）（上位8項目）

(12) 「自殺対策に関する意識」概観

職業によっても、相談相手に差異あり

悩みを抱えたとき、相談できる相手は誰（どこ）かについて、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、職業別に比較した結果を挙げる。

職業別にみると、「家族、親族」では、専業主婦（主夫）で91.2%と9割を超えており、「友人、知人」では、学生（予備校生を含む）（73.5%）とアルバイト・パート・契約（派遣）社員（72.5%）で高く、7割を超えている。「職場の同僚・上司・事業所内メンタルヘルス担当者」では、会社員・公務員（20.3%）で高く、「学校の先生、スクールカウンセラー」は学生（予備校生を含む）（14.7%）で高い。「かかりつけ医療機関の医師・看護師等」は、無職（年金生活を含む）が13.6%、専業主婦（主夫）が11.6%と他と比べて高くなっており、職業によっても相談相手に違いがあることがわかる。



図Ⅲ－66 悩みを抱えたときの相談相手（職業別）（上位5項目）

4. 「地球温暖化」について

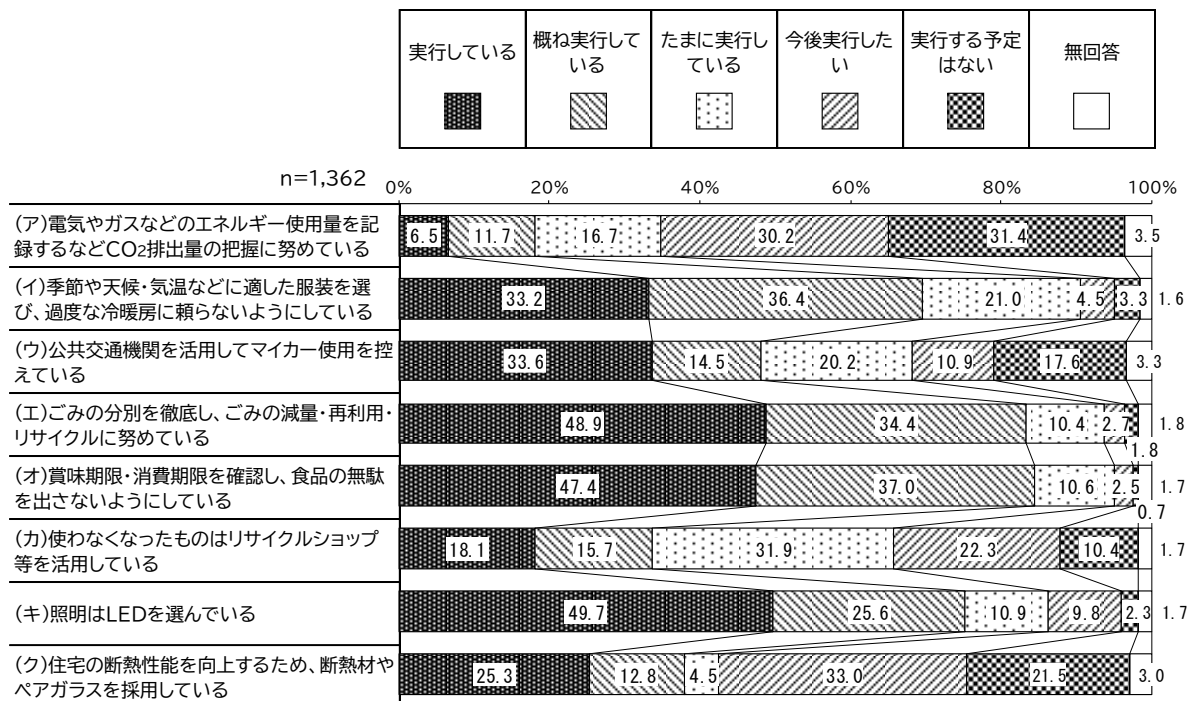
(1) 日常行っている地球温暖化対策

実行している対策は「照明はLEDを選んでいる」が5割で最も高い

【問19】あなたは日常生活の中で、下記(ア)から(ク)の地球温暖化防止のための配慮や行動をどの程度実行していますか。それぞれ最も近いと思う番号を1つ選んで○をしてください。また、「実行する予定はない」の「5」を選んだ場合は、下記の「実行を妨げる主な理由」からそれぞれ1つ選んで、その番号を「5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

日常生活の中で、地球温暖化防止のための配慮や行動をどの程度実行しているか聞いたところ、「実行している」の割合は、「(キ)照明はLEDを選んでいる」(49.7%)が最も高く、次いで「(エ)ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている」(48.9%)、「(オ)賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている」(47.4%)が4割を超えている。

一方、「実行する予定はない」の割合は、「(ア)電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなどCO₂排出量の把握に努めている」(31.4%)が3割を超えて最も高く、次いで、「(ク)住宅の断熱性能を向上するため、断熱材やペアガラスを採用している」(21.5%)が2割を超えている。

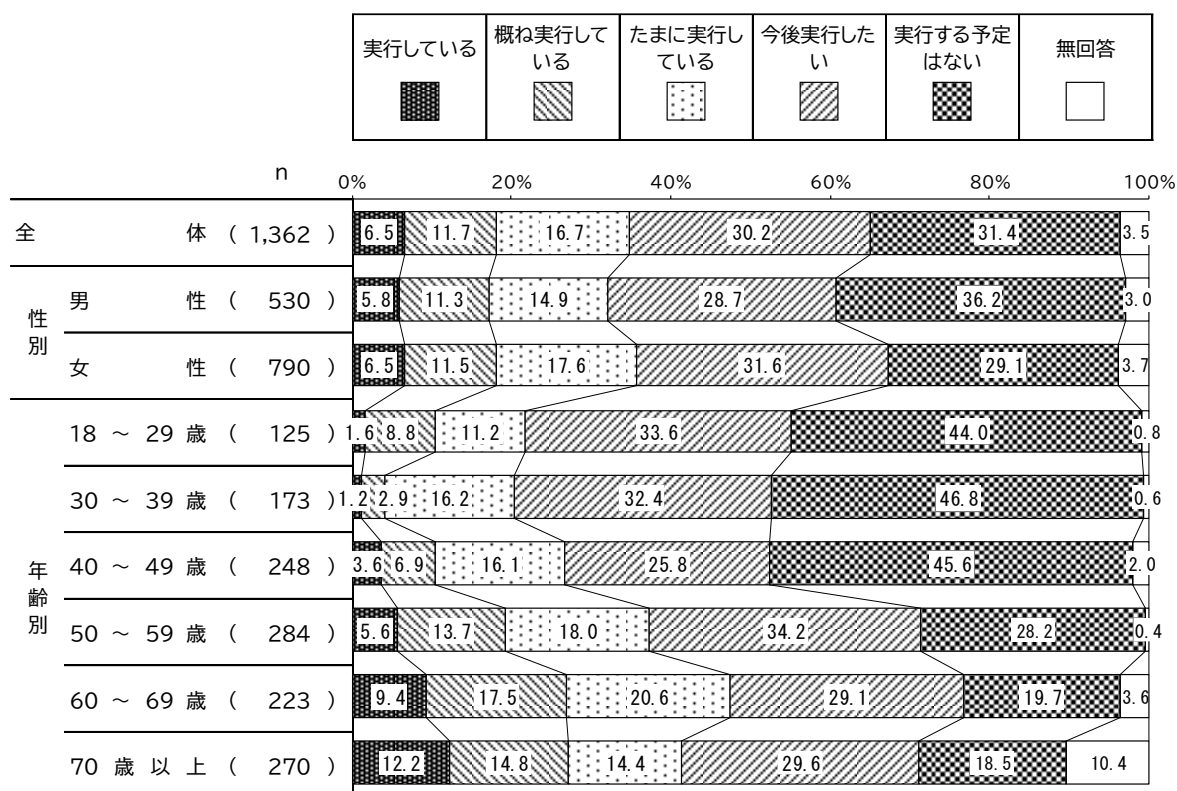


図Ⅲ－67 日常行っている地球温暖化対策

(1-1) (ア)電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなど CO₂ 排出量の把握に努めている

性別で比較すると、「実行する予定はない」は、男性（36.2%）が女性（29.1%）より 7.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 30～39 歳（1.2%）と最も高い 70 歳以上（12.2%）では、11.0 ポイントの差がある。



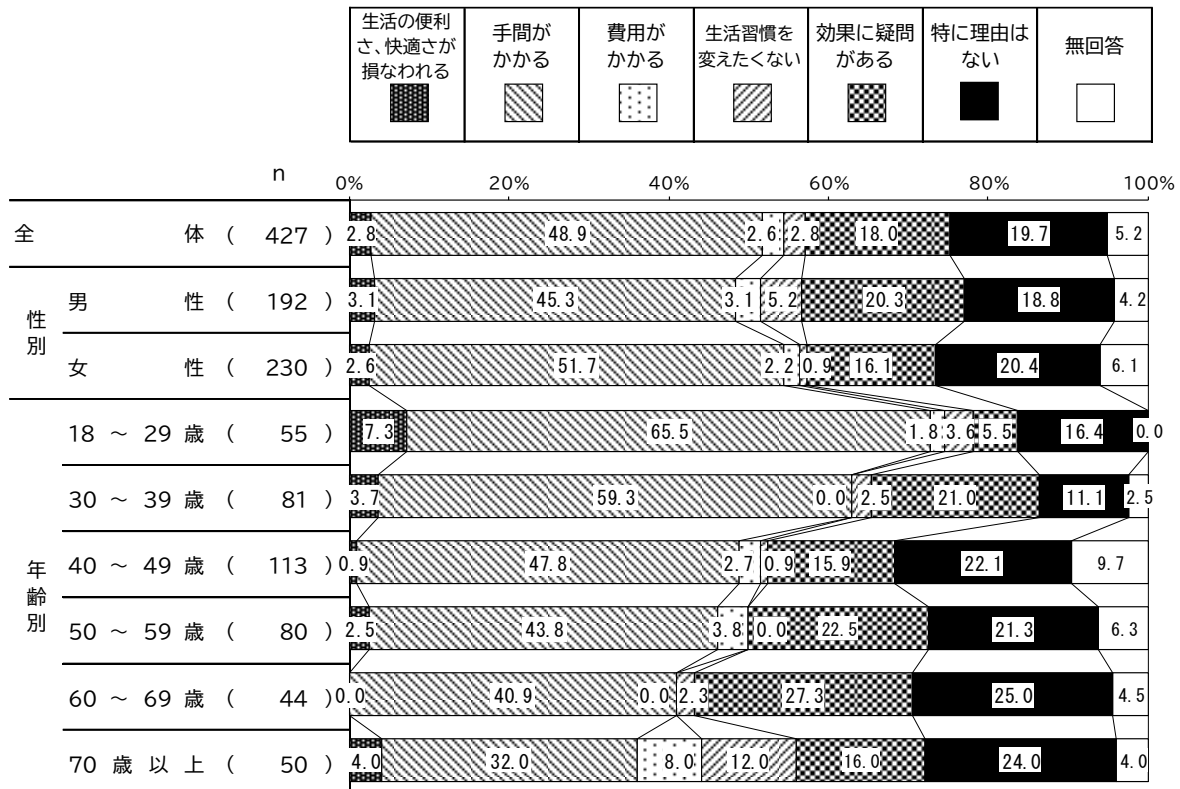
図Ⅲ－６８ 日常行っている地球温暖化対策(ア)電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなど CO₂ 排出量の把握に努めている（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（427 人）に、その理由について聞いたところ、「手間がかかる」が 48.9%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「手間がかかる」は女性（51.7%）が男性（45.3%）より 6.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかる」は年齢が下がるに従い高くなり、最も低い 70 歳以上（32.0%）と最も高い 18～29 歳（65.5%）では、33.5 ポイントの差がある。

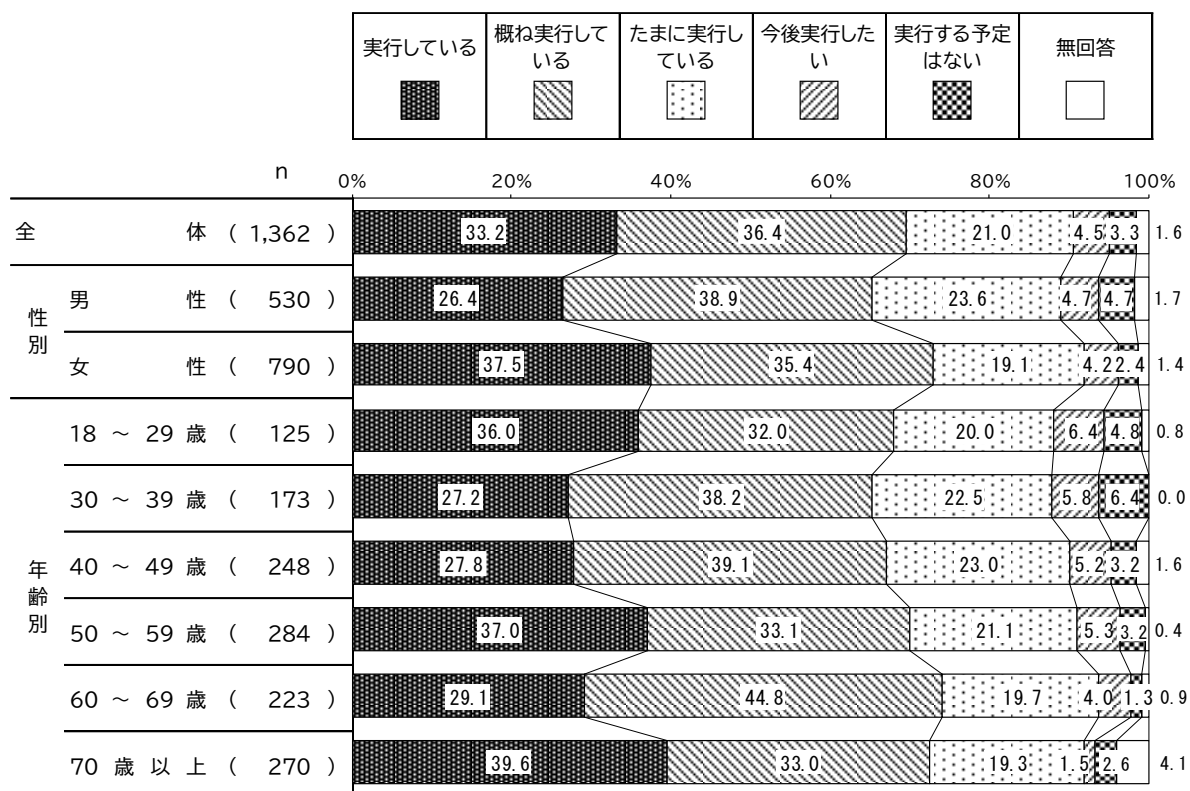


図Ⅲ－６９ （ア）電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなど CO₂ 排出量の把握に努めている（性別／年齢別）

(1-2) (イ)季節や天候・気温などに適した服装を選び、過度な冷暖房に頼らないようにしている

性別で比較すると、「実行している」は、女性（37.5%）が男性（26.4%）より 11.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も高い 70 歳以上（39.6%）と最も低い 30～39 歳（27.2%）では、12.4 ポイントの差がある。

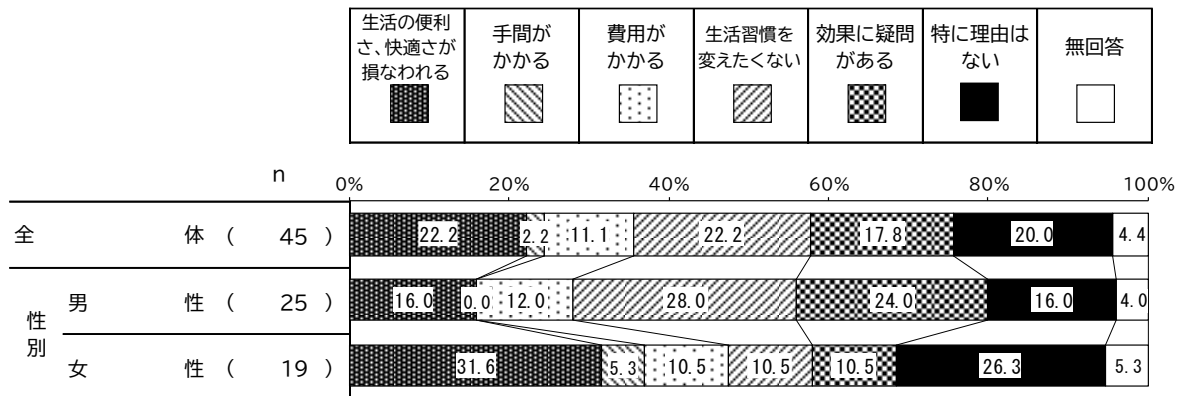


図Ⅲ－７０ 日常行っている地球温暖化対策(イ)季節や天候・気温などに適した服装を選び、過度な冷暖房に頼らないようにしている（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（45人）に、その理由について聞いたところ、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」と「生活習慣を変えたくない」がともに22.2%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は、女性（31.6%）が男性（16.0%）より15.6ポイント高く、「生活習慣を変えたくない」は男性（28.0%）が女性（10.5%）より17.5ポイント高くなっている。



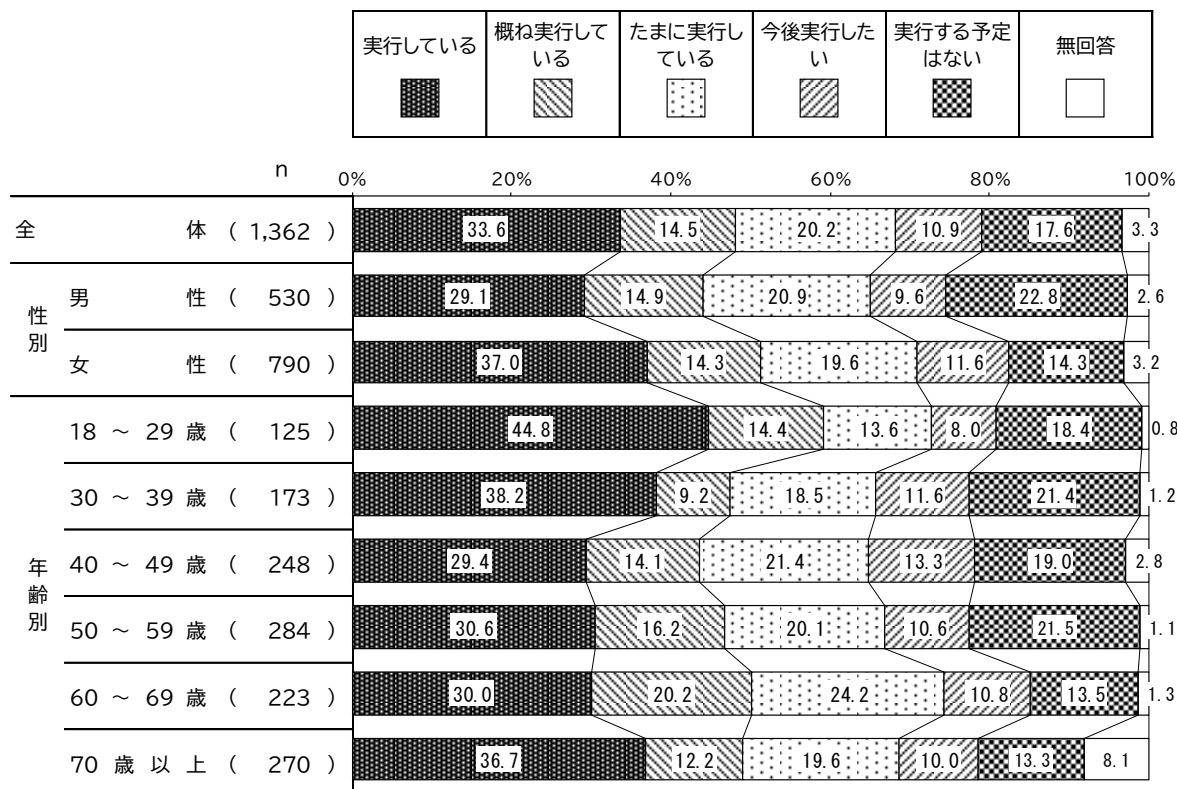
※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－７１ （イ）季節や天候・気温などに適した服装を選び、過度な冷暖房に頼らないようにしている（性別）

(1-3) (ウ)公共交通機関を活用してマイカー使用を控えている

性別で比較すると、「実行している」は、女性（37.0%）が男性（29.1%）より 7.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 40～49 歳（29.4%）と最も高い 18～29 歳（44.8%）では、15.4 ポイントの差がある。



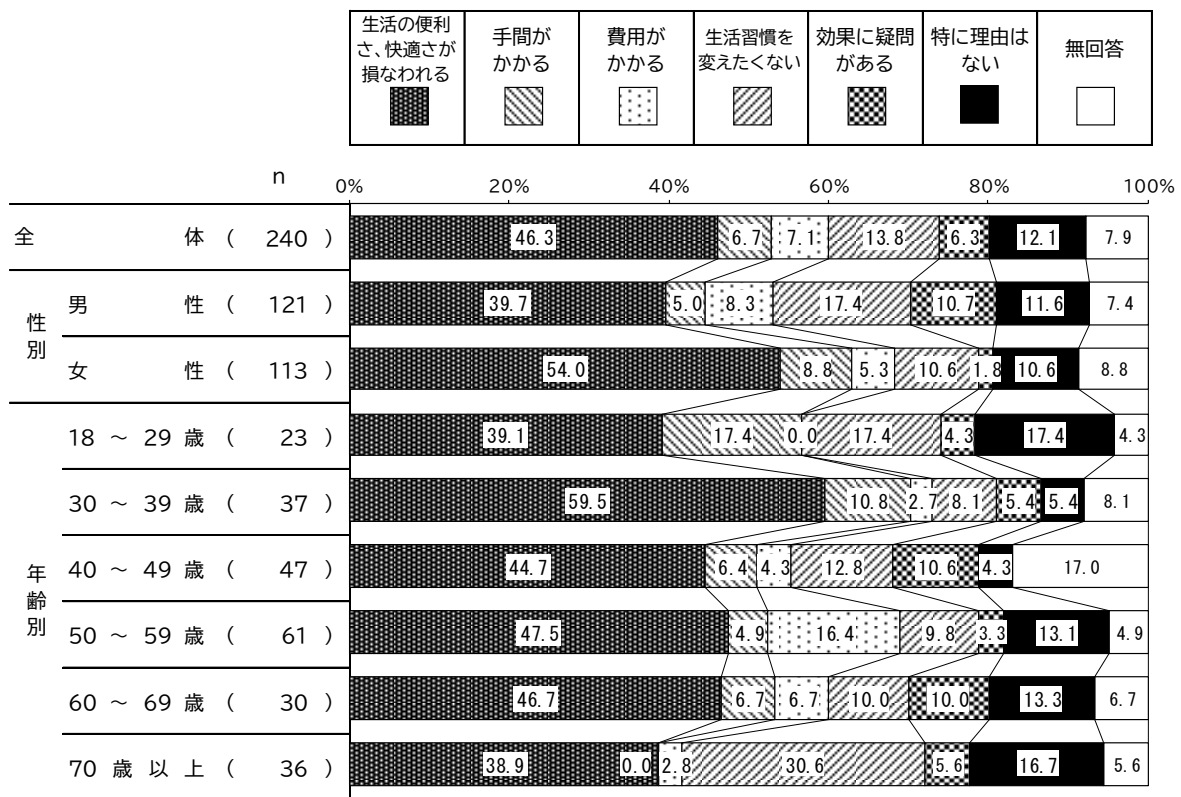
図Ⅲ－７２ 日常行っている地球温暖化対策(ウ)公共交通機関を活用してマイカー使用を控えている（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（240 人）に、その理由について聞いたところ、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」が 46.3%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は女性（54.0%）が男性（39.7%）より 14.3 ポイント高く、「生活習慣を変えたくない」は男性（17.4%）が女性（10.6%）より 6.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は、最も低い 70 歳以上（38.9%）と最も高い 30～39 歳（59.5%）では、20.6 ポイントの差があり、「生活習慣を変えたくない」は、最も低い 30～39 歳（8.1%）と最も高い 70 歳以上（30.6%）で、22.5 ポイントの差がある。

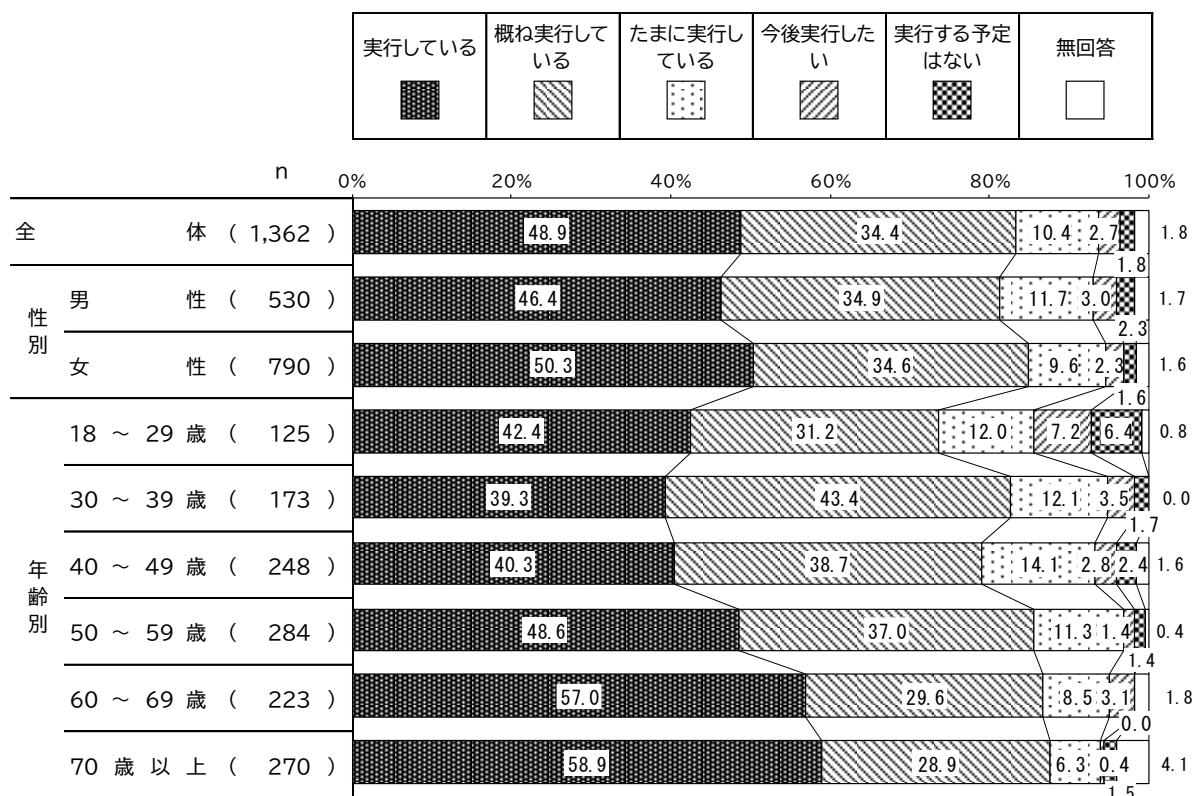


図Ⅲ－７３ （ウ）公共交通機関を活用してマイカー使用を控えている（性別／年齢別）

(1-4) (エ)ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている

性別で比較すると、「実行している」は、女性（50.3%）が男性（46.4%）より 3.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 30～39 歳（39.3%）と最も高い 70 歳以上（58.9%）では、19.6 ポイントの差がある。

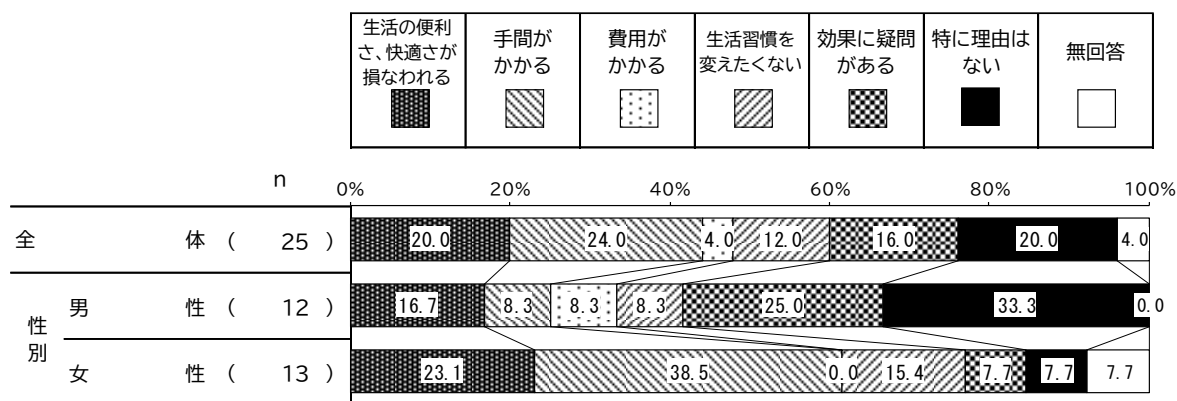


図Ⅲ－７４ 日常行っている地球温暖化対策(エ)ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（25人）に、その理由について聞いたところ、「手間がかかる」が24.0%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「手間がかかる」は女性（38.5%）が男性（8.3%）より30.2ポイント高くなっている。



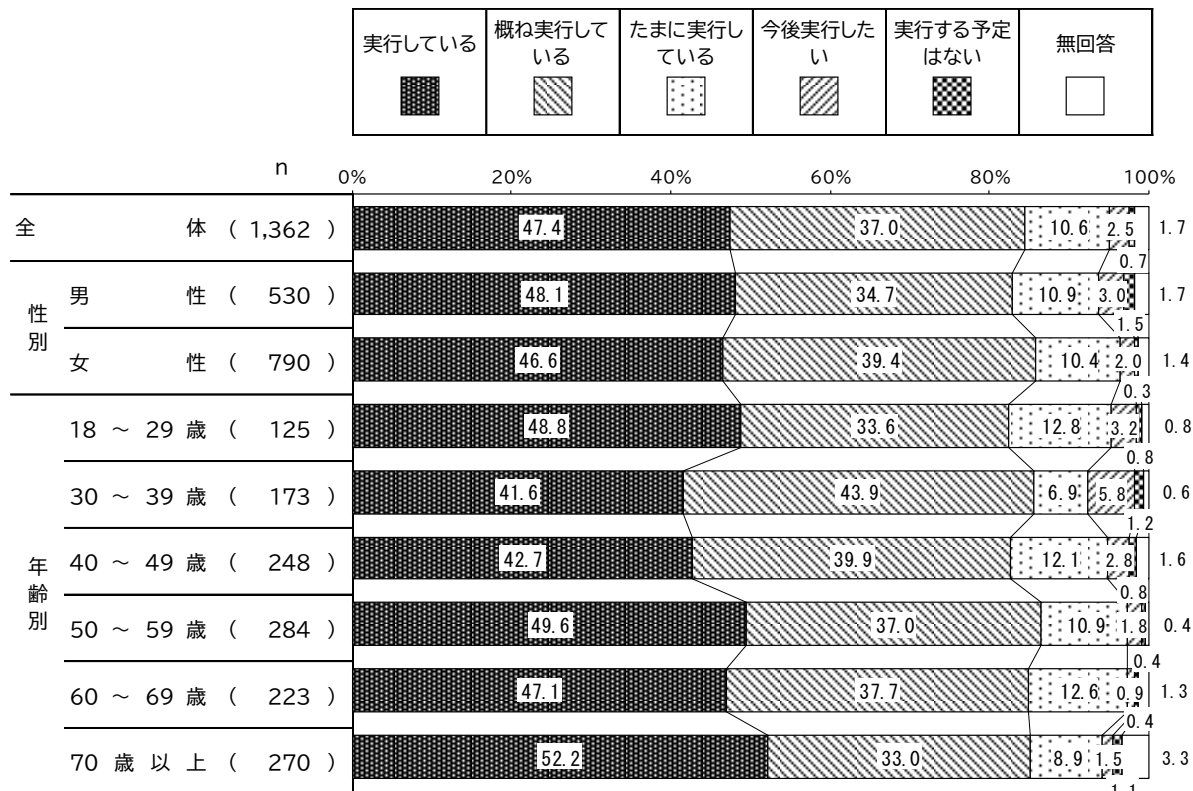
※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－７５ （エ）ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている（性別）

(1-5) (オ)賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている

性別で比較すると、「実行している」は、男性（48.1%）が女性（46.6%）より 1.5 ポイント高くなっている。

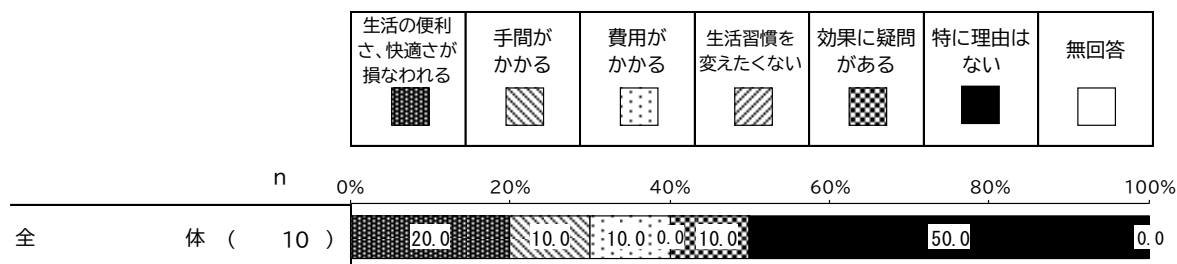
年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 30～39 歳（41.6%）と最も高い 70 歳以上（52.2%）では、10.6 ポイントの差がある。



図Ⅲ－７６ 日常行っている地球温暖化対策(オ)賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（10 人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 50.0%で最も高くなっている。



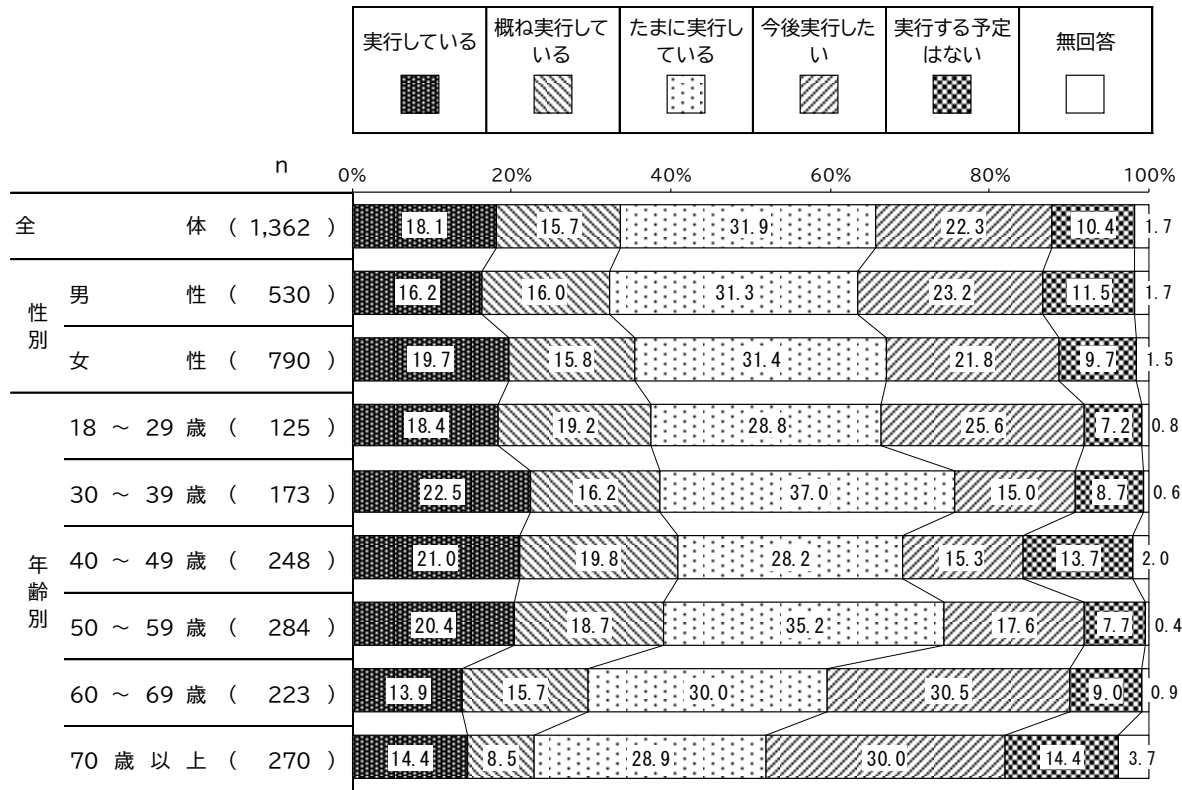
※性別、年齢別でみた場合、n 数が少ないため、性別、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－７７ (オ)賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている（全体）

(1-6) (カ)使わなくなったものはリサイクルショップ等を活用している

性別で比較すると、「実行している」は、女性（19.7%）が男性（16.2%）より 3.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 60～69 歳（13.9%）と最も高い 30～39 歳（22.5%）では、8.6 ポイントの差がある。



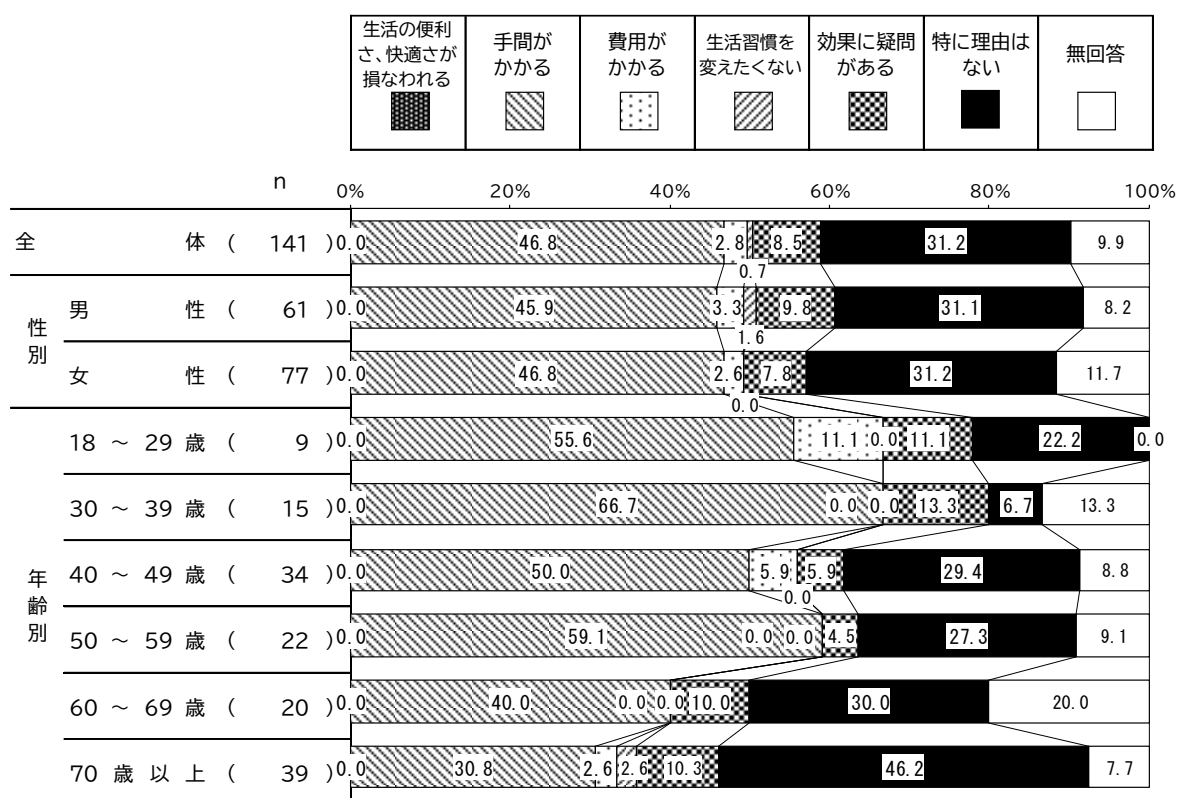
図Ⅲ－７８ 日常行っている地球温暖化対策(カ)使わなくなったものはリサイクルショップ等を活用している（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（141 人）に、その理由について聞いたところ、「手間がかかる」が 46.8% で最も高くなっている。

性別で比較すると、「効果に疑問がある」は男性（9.8%）が女性（7.8%）より 2.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかる」は 30～39 歳（66.7%）で 6 割を超えるほか、59 歳以下の全年齢で 5 割以上となり、最も低い 70 歳以上（30.8%）と最も高い 30～39 歳（66.7%）では、35.9 ポイントの差がある。

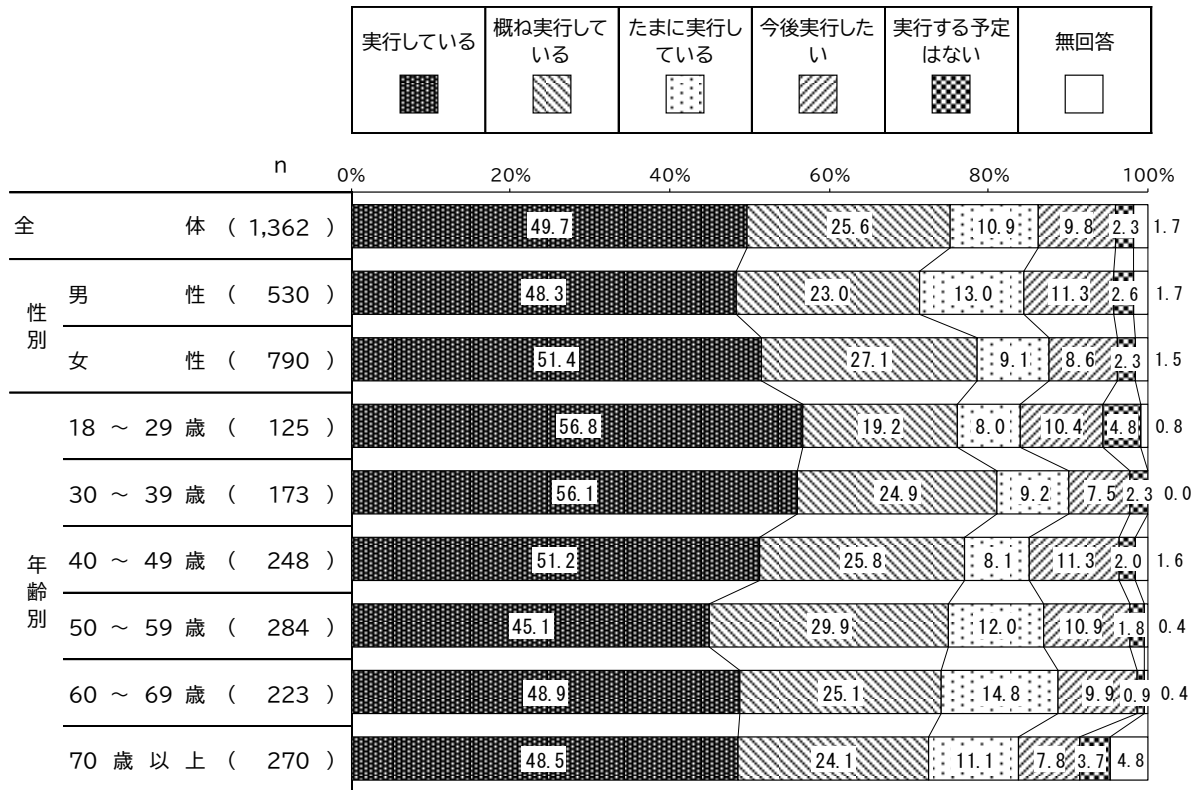


図Ⅲ－７９ （カ）使わなくなったものはリサイクルショップ等を活用している（性別／年齢別）

(1-7) (キ)照明はLED を選んでいる

性別で比較すると、「実行している」は、女性（51.4%）が男性（48.3%）より 3.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 50～59 歳（45.1%）と最も高い 18～29 歳（56.8%）では、11.7 ポイントの差がある。

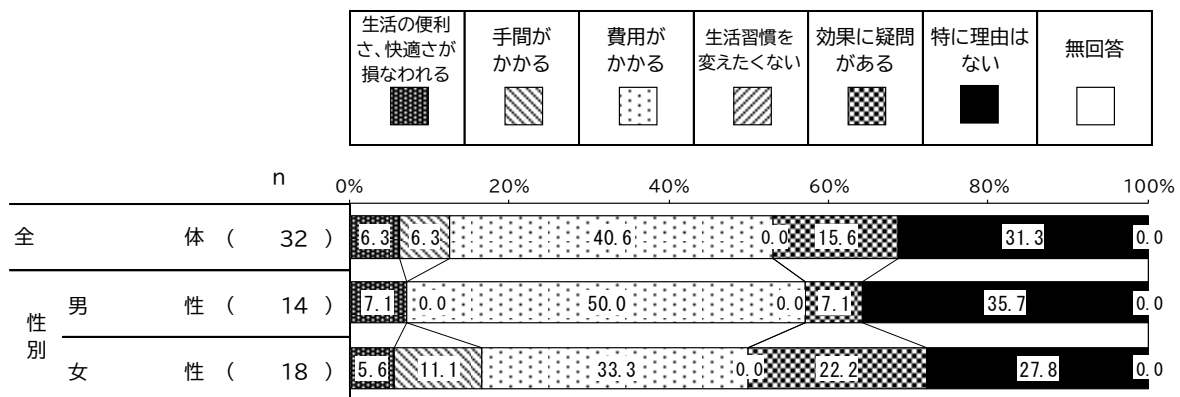


図Ⅲ－８０ 日常行っている地球温暖化対策(キ)照明はLEDを選んでいる（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（32人）に、その理由について聞いたところ、「費用がかかる」が40.6%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「費用がかかる」は男性（50.0%）が女性（33.3%）より 16.7 ポイント高くなっている。



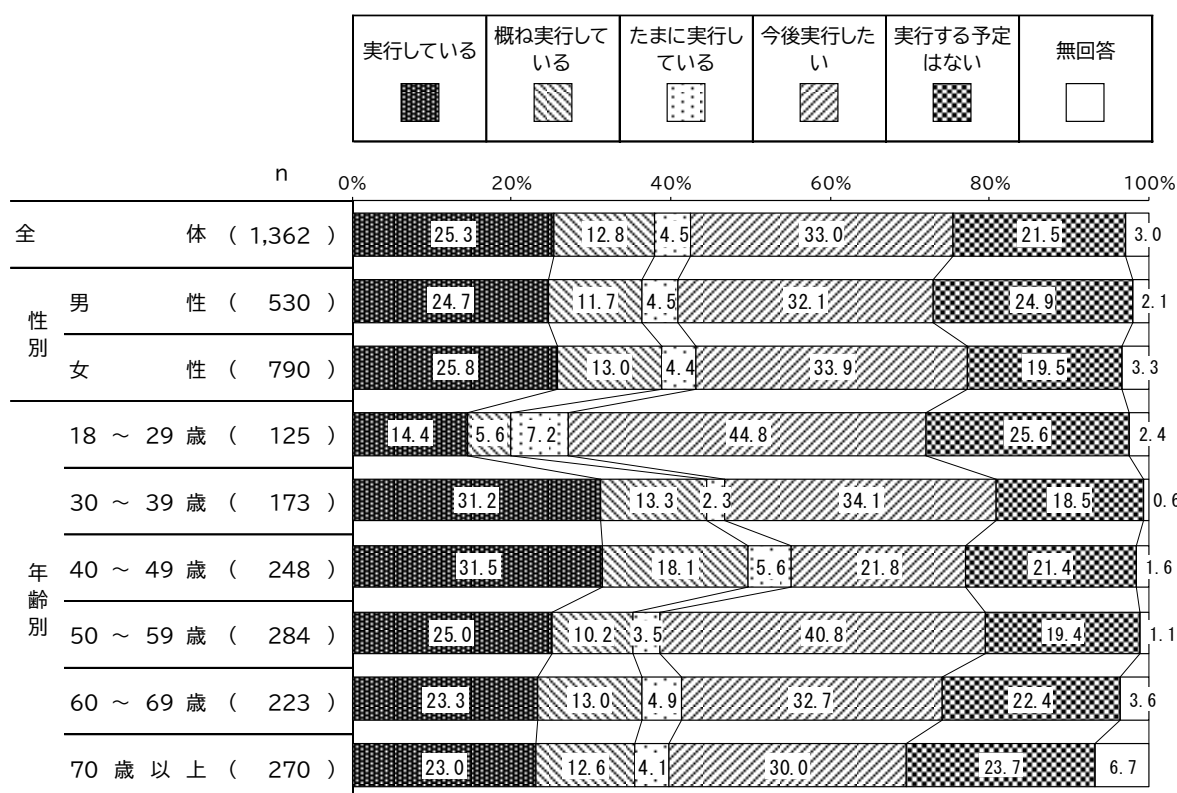
※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－８１ 実行を妨げる主な理由(キ)照明はLEDを選んでいる（性別）

(1-8) (ク)住宅の断熱性能を向上するため、断熱材やペアガラスを採用している

性別で比較すると、男性、女性ともに「実行している」「概ね実行している」「たまたま実行している」を合わせると4割を超え、これに「今後実行したい」の3割超を合わせると、それぞれ7割を超える方が住宅の断熱性能の向上のために、断熱材やペアガラスの採用を考えている。なお、「実行する予定はない」は、男性（24.9%）が女性（19.5%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い18～29歳（14.4%）と最も高い40～49歳（31.5%）では、17.1ポイントの差が、また、「今後実行したい」は、最も低い40～49歳（21.8%）と最も高い18～29歳（44.8%）では、23.0ポイントの差がある。



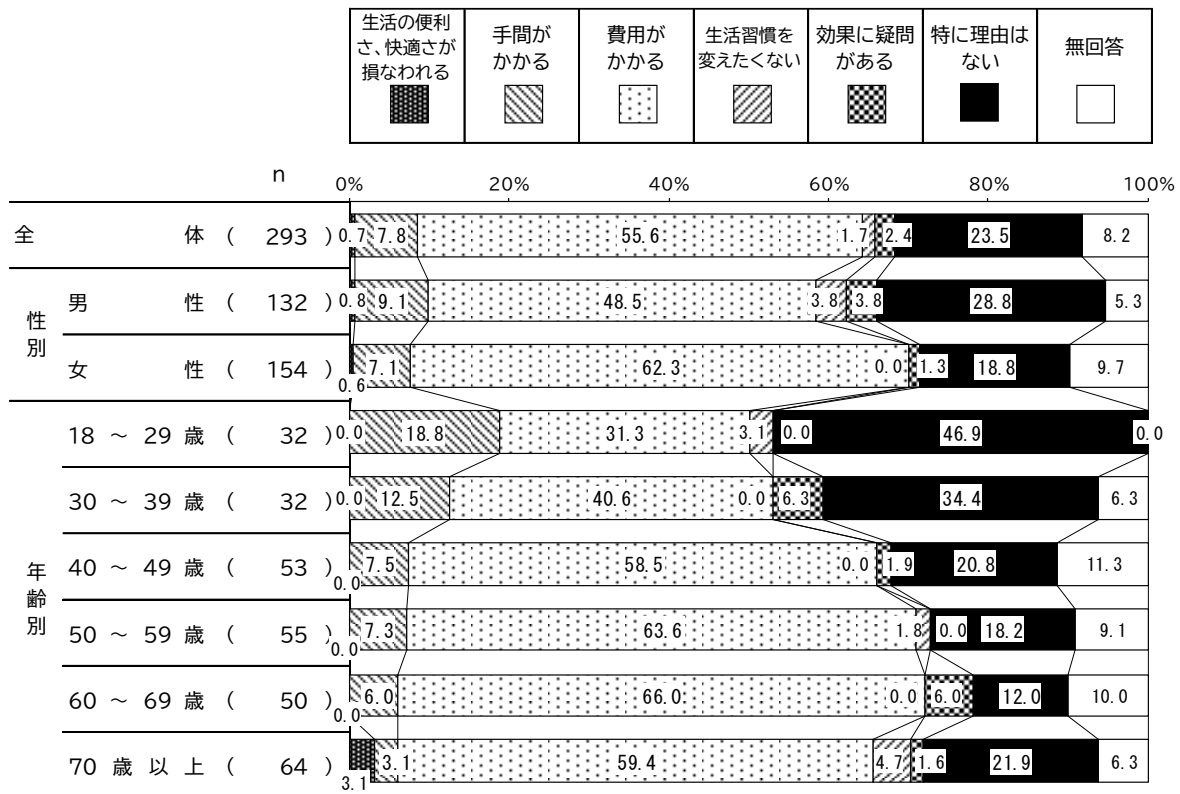
図Ⅲ－８２ 日常行っている地球温暖化対策(ク)住宅の断熱性能を向上するため、断熱材やペアガラスを採用している（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（293 人）に、その理由について聞いたところ、「費用がかかる」が 55.6%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「費用がかかる」は女性（62.3%）が男性（48.5%）より 13.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「費用がかかる」は年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い 18～29 歳（31.3%）と最も高い 60～69 歳（66.0%）では、34.7 ポイントの差がある。一方、「手間がかかる」は年齢が下がるに従い高くなっており、最も低い 70 歳以上（3.1%）と最も高い 18～29 歳（18.8%）では、15.7 ポイントの差がある。



図Ⅲ－８３ （ク）住宅の断熱性能を向上するため、断熱材やペアガラスを採用している（性別／年齢別）

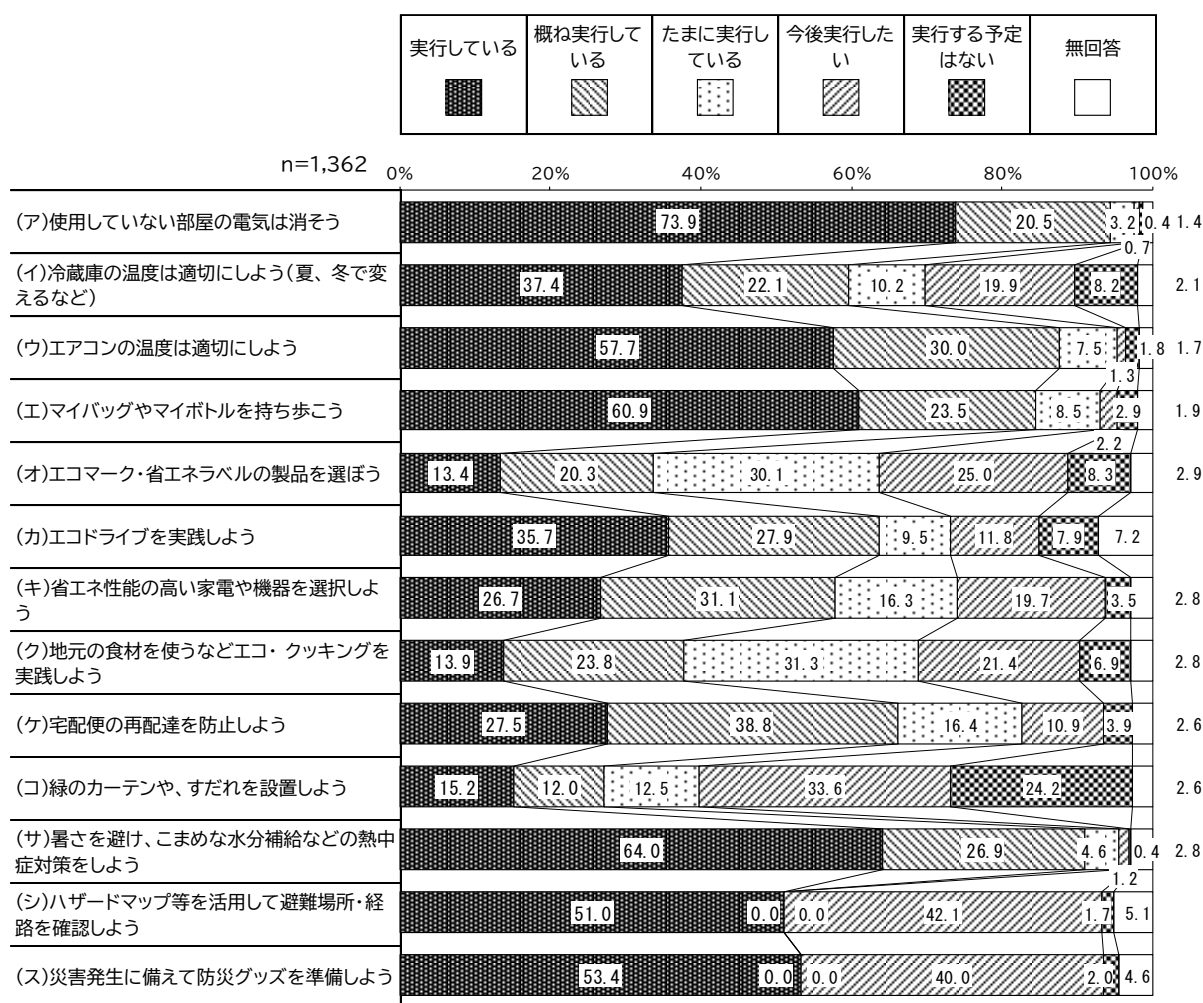
(2) 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況

実行している対策は「使用していない部屋の電気は消そう」が7割を超え最も高い

【問20】「ふなエコ」では、市民の皆様身近にできる地球温暖化対策として「行動計画（アクションプラン）」を推進しております。下記（ア）から（ス）の行動内容の中であなたの実行状況にあてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をしてください。また、「実行する予定はない」の「5」を選んだ場合は、下記の《実行を妨げる主な理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の行動内容の中で、どの程度実行しているか聞いたところ、「実行している」の割合は、「(ア)使用していない部屋の電気は消そう」(73.9%)が最も高く、次いで「(サ)暑さを避け、こまめな水分補給などの熱中症対策をしよう」(64.0%)、「(エ)マイバッグやマイボトルを持ち歩こう」(60.9%)が6割を超えている。

一方、「実行する予定はない」の割合は、「(コ)緑のカーテンや、すだれを設置しよう」(24.2%)が2割を超えて最も高くなっている。

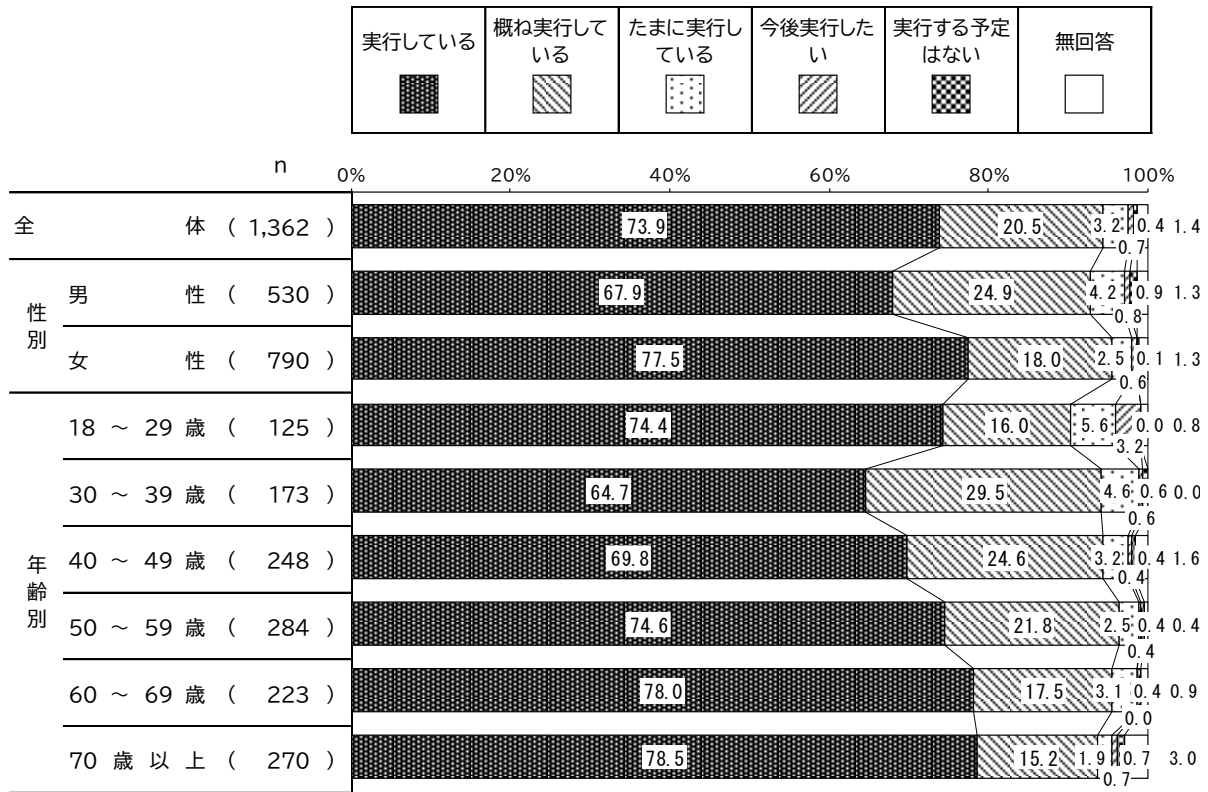


図Ⅲ－84 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況

(2-1) (ア)使用していない部屋の電気は消そう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（77.5%）が男性（67.9%）より 9.6 ポイント高くなっている。

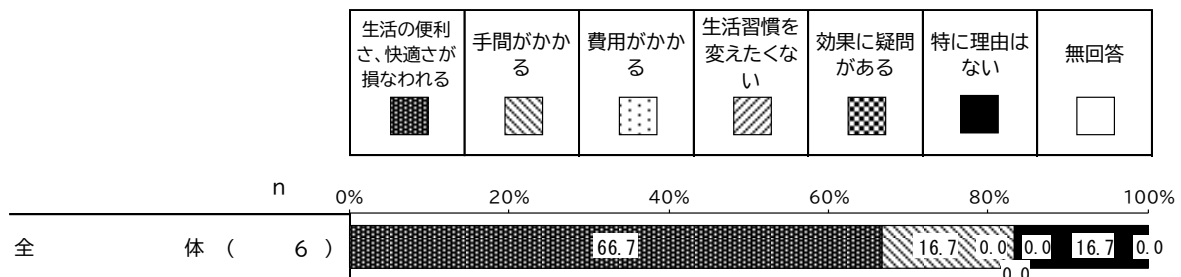
年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 30～39 歳（64.7%）と最も高い 70 歳以上（78.5%）では、13.8 ポイントの差がある。



図Ⅲ－８５ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(ア)使用していない部屋の電気は消そう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（6人）に、その理由について聞いたところ、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」が 66.7% で最も高くなっている。



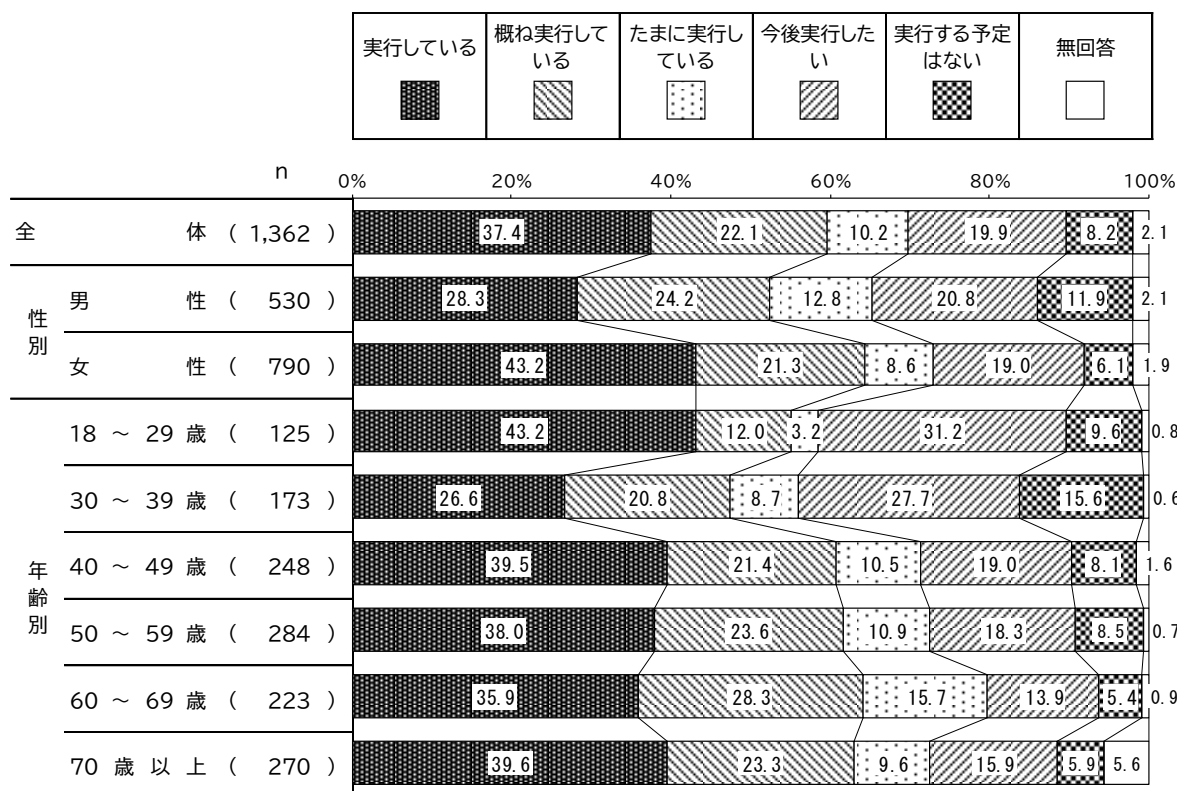
※性別、年齢別でみた場合、n 数が少ないため、性別、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－８６ (ア)使用していない部屋の電気は消そう（全体）

(2-2) (イ)冷蔵庫の温度は適切にしよう(夏、冬で変えるなど)

性別で比較すると、「実行している」は、女性(43.2%)が男性(28.3%)より14.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い30～39歳(26.6%)と最も高い18～29歳(43.2%)では、16.6ポイントの差がある。



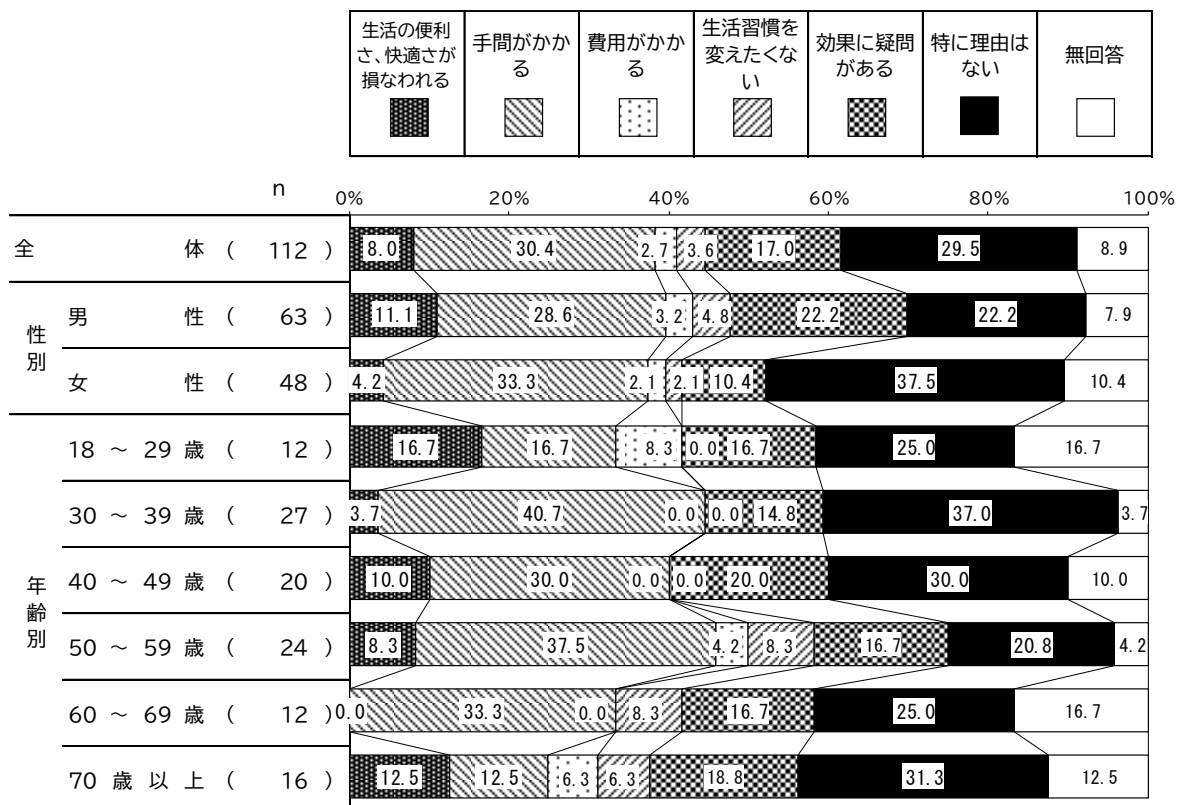
図Ⅲ－８７ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(イ)冷蔵庫の温度は適切にしよう(夏、冬で変えるなど)(性別／年齢別)

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（112 人）に、その理由について聞いたところ、「手間がかかる」が 30.4%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「手間がかかる」は女性（33.3%）が男性（28.6%）より 4.7 ポイント高く、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」、「効果に疑問がある」は男性（11.1%、22.2%）が女性（4.2%、10.4%）よりそれぞれ 6.9、11.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかる」は、最も低い 70 歳以上（12.5%）と最も高い 30～39 歳（40.7%）では、28.2 ポイントの差があり、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は、最も低い 60～69 歳（0.0%）と最も高い 18～29 歳（16.7%）では、16.7 ポイントの差がある。

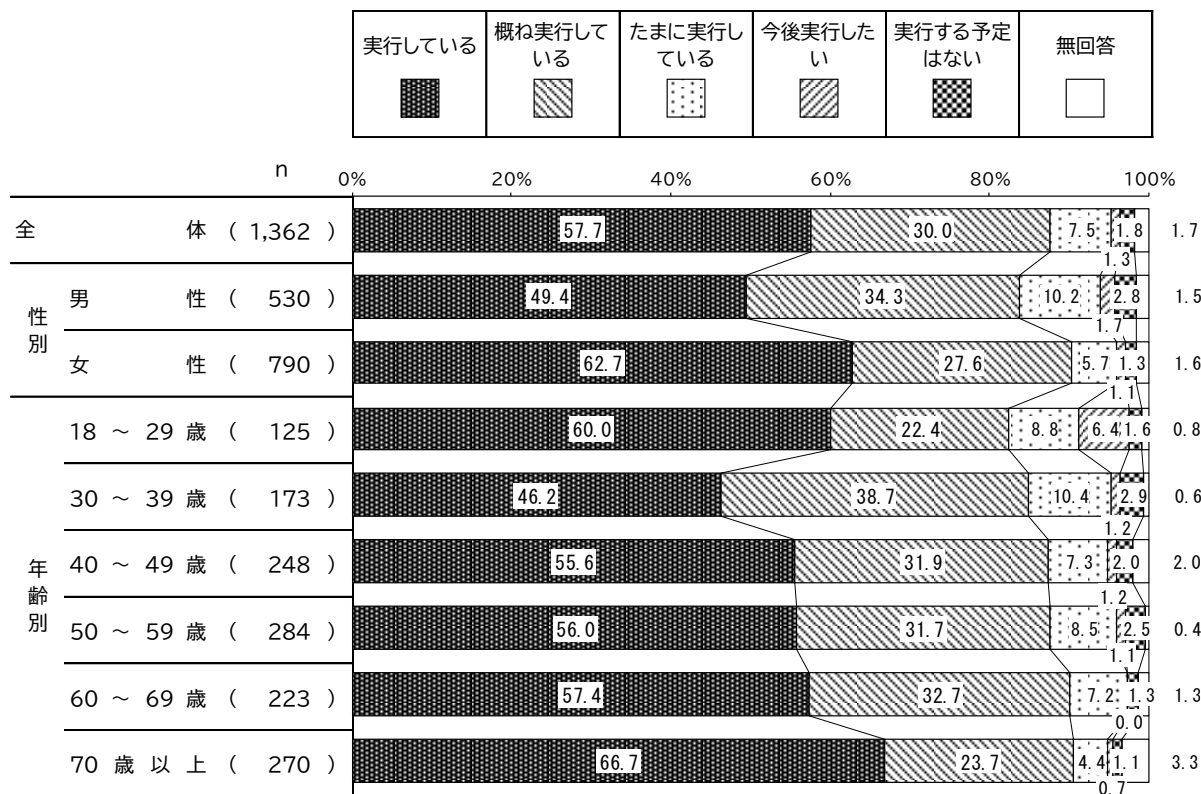


図Ⅲ－８８ (イ)冷蔵庫の温度は適切にしよう（夏、冬で変えるなど）（性別／年齢別）

(2-3) (ウ) エアコンの温度は適切にしよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（62.7%）が男性（49.4%）より 13.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い 30～39 歳（46.2%）と最も高い 70 歳以上（66.7%）では、20.5 ポイントの差がある。

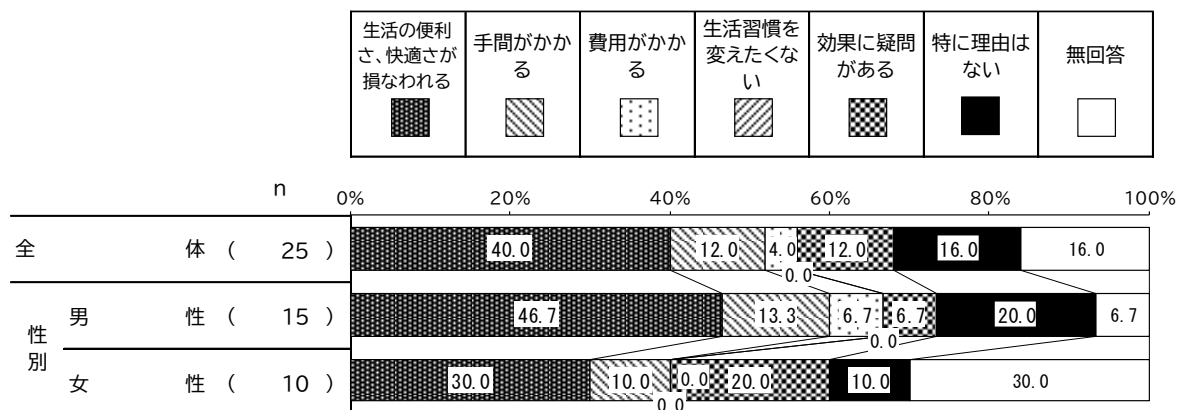


図Ⅲ－８９ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(ウ) エアコンの温度は適切にしよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（25人）に、その理由について聞いたところ、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」が40.0%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は男性（46.7%）が女性（30.0%）より16.7ポイント高くなっている。

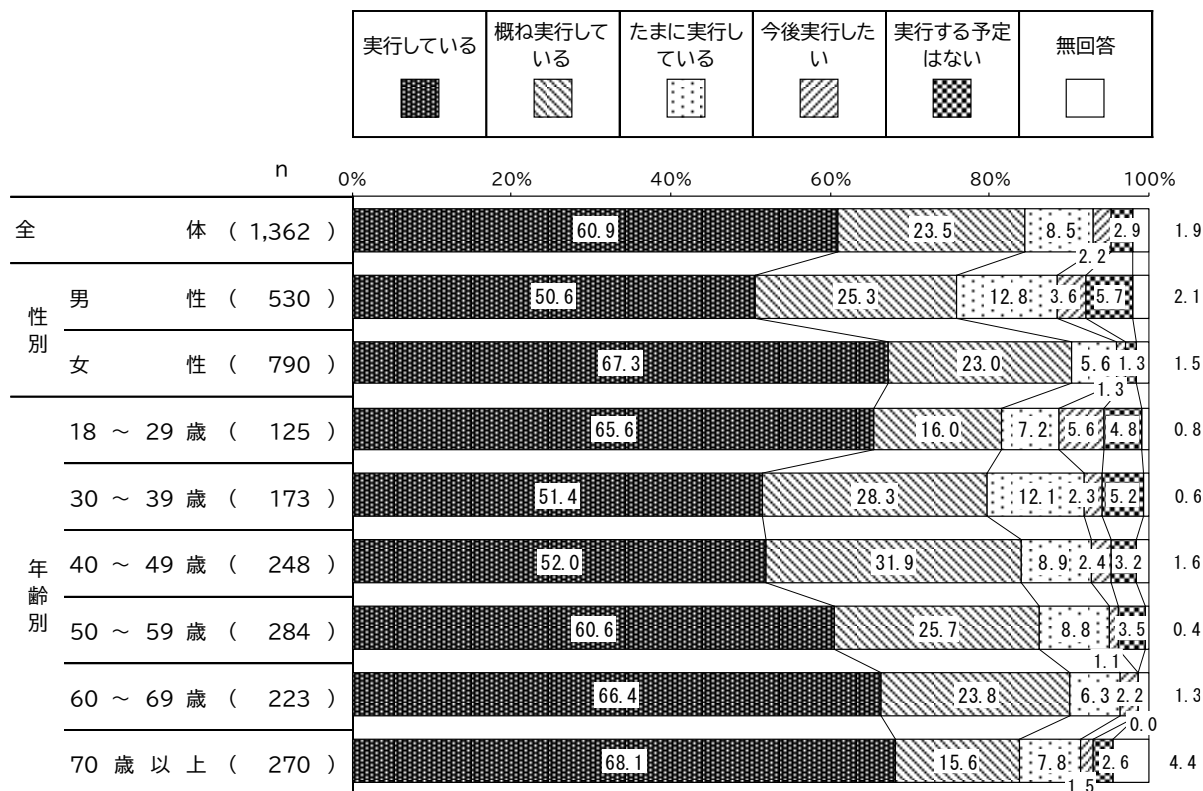


図Ⅲ－９０ （ウ）エアコンの温度は適切にしよう（性別）

(2-4) (エ)マイバッグやマイボトルを持ち歩こう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（67.3%）が男性（50.6%）より 16.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 30～39 歳（51.4%）と最も高い 70 歳以上（68.1%）では、16.7 ポイントの差がある。

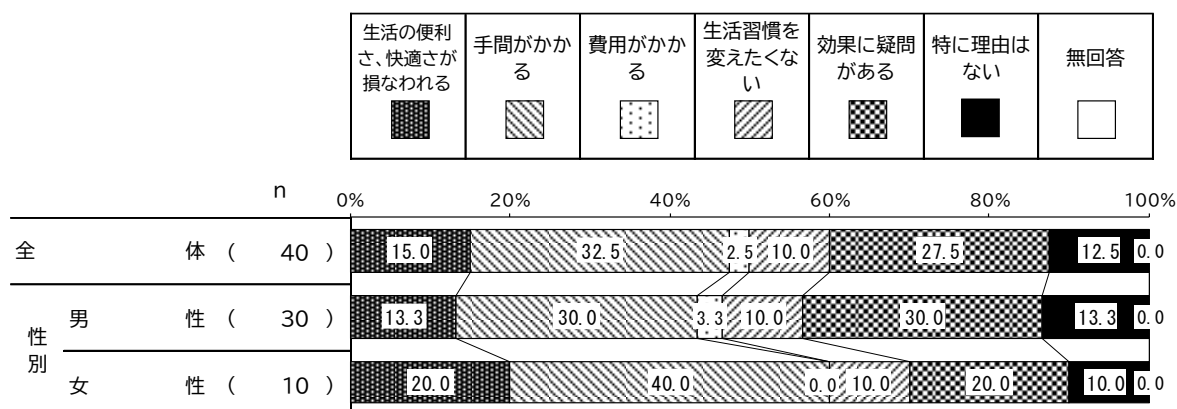


図Ⅲ－９１ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(エ)マイバッグやマイボトルを持ち歩こう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（40人）に、その理由について聞いたところ、「手間がかかる」が32.5%で最も高く、次いで、「効果に疑問がある」が27.5%と2割を超えている。

性別で比較すると、「手間がかかる」は女性（40.0%）が男性（30.0%）より10.0ポイント高く、「効果に疑問がある」は男性（30.0%）が女性（20.0%）より10.0ポイント高くなっている。



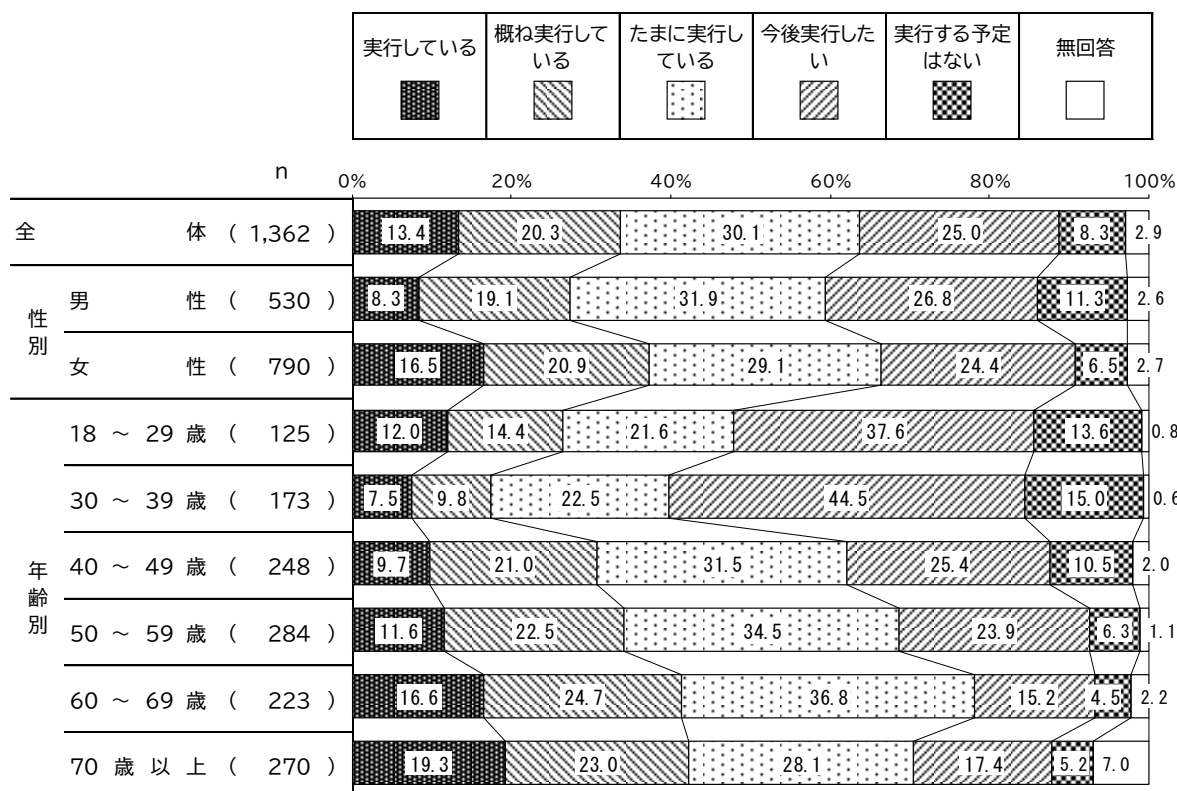
※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－９２ （エ）マイバッグやマイボトルを持ち歩こう（性別）

(2-5) (オ)エコマーク・省エネルギーの製品を選ぼう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（16.5%）が男性（8.3%）より 8.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い 30～39 歳（7.5%）と最も高い 70 歳以上（19.3%）では、11.8 ポイントの差がある。



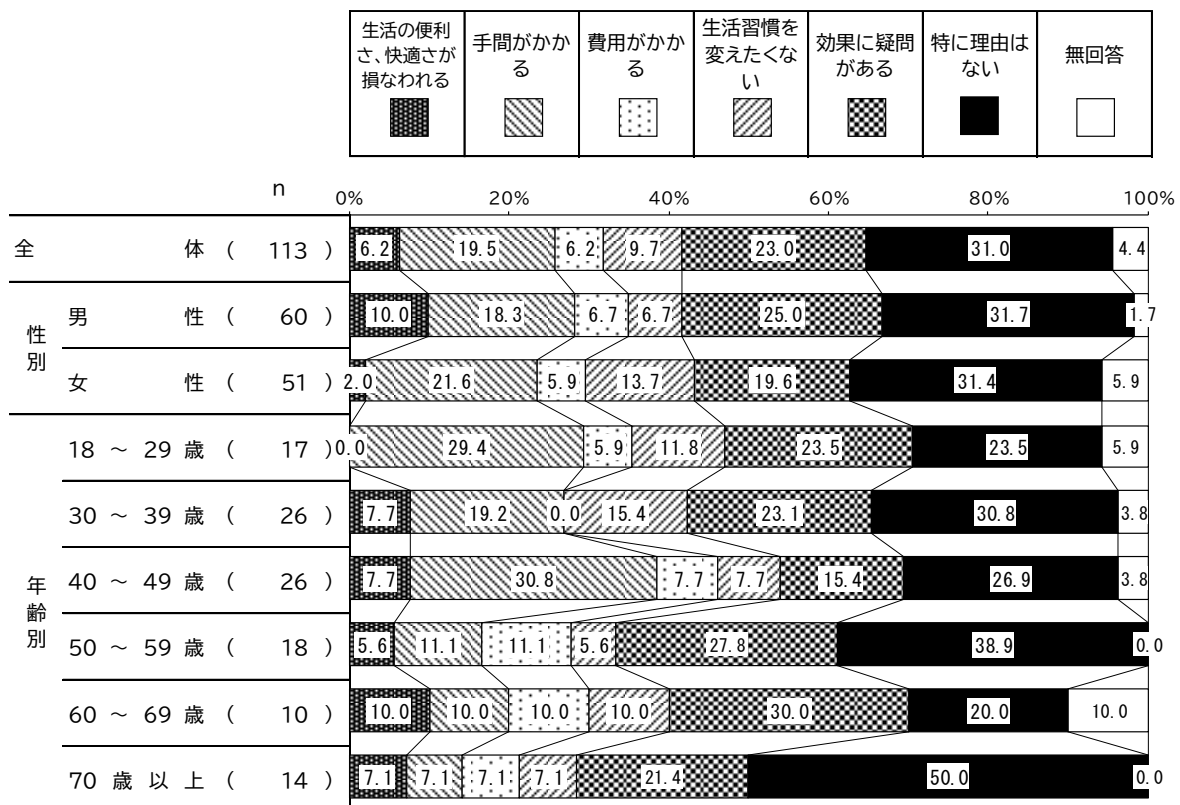
図Ⅲ－９３ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(オ)エコマーク・省エネルギーの製品を選ぼう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（113 人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 31.0%で最も高く、次いで、「効果に疑問がある」が 23.0%と 2 割を超えている。

性別で比較すると、「生活習慣を変えたくない」は女性（13.7%）が男性（6.7%）より 7.0 ポイント高く、「効果に疑問がある」は男性（25.0%）が女性（19.6%）より 5.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかる」は、最も低い 70 歳以上（7.1%）と最も高い 40～49 歳（30.8%）では、23.7 ポイントの差があり、「効果に疑問がある」は、最も低い 40～49 歳（15.4%）と最も高い 60～69 歳（30.0%）では、14.6 ポイントの差がある。



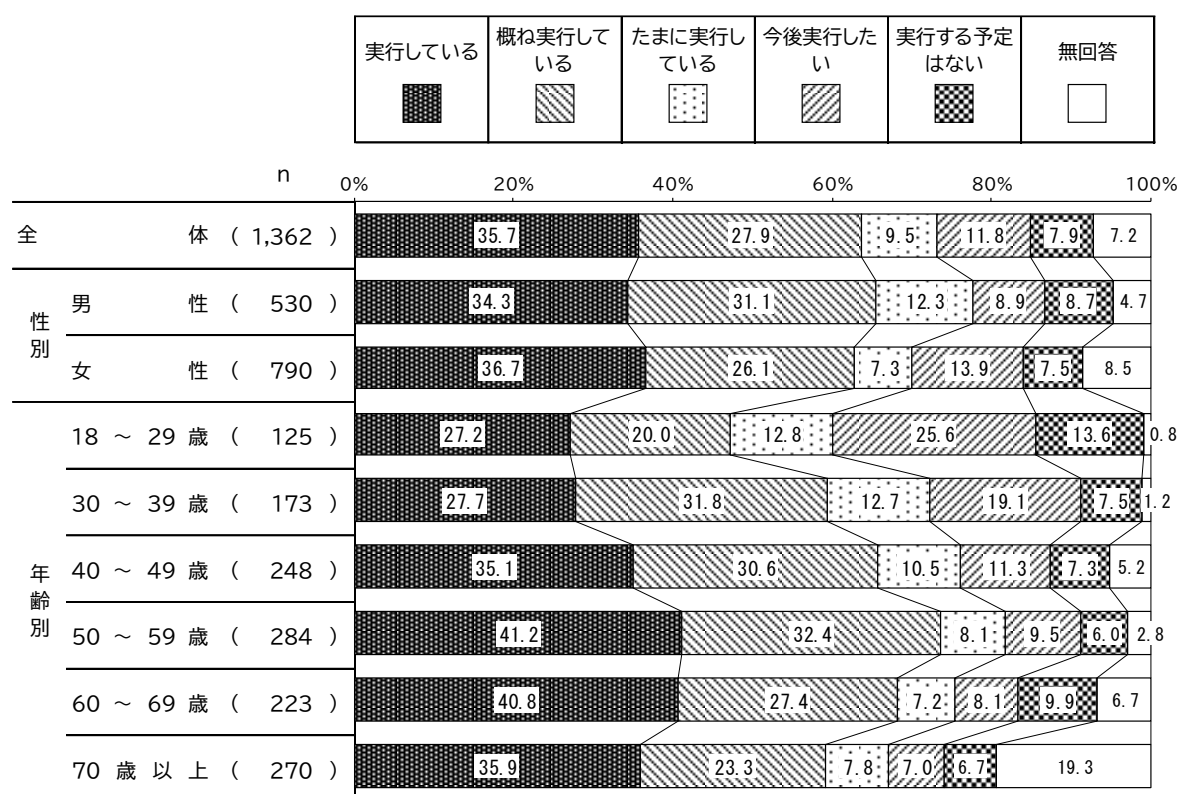
図Ⅲ－９４ （オ）エコマーク・省エネラベルの製品を選ぼう（性別／年齢別）

(2-6) (カ)エコドライブを実践しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（36.7%）が男性（34.3%）より 2.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 18～29 歳（27.2%）と最も高い 50～59 歳（41.2%）では、14.0 ポイントの差がある。

※「エコドライブ」とは、急発進、急加速、空ぶかしなどを行わず、燃料を効率的に使用するような自動車の運転方法のこと。経済性も良く地球温暖化対策にもなる。



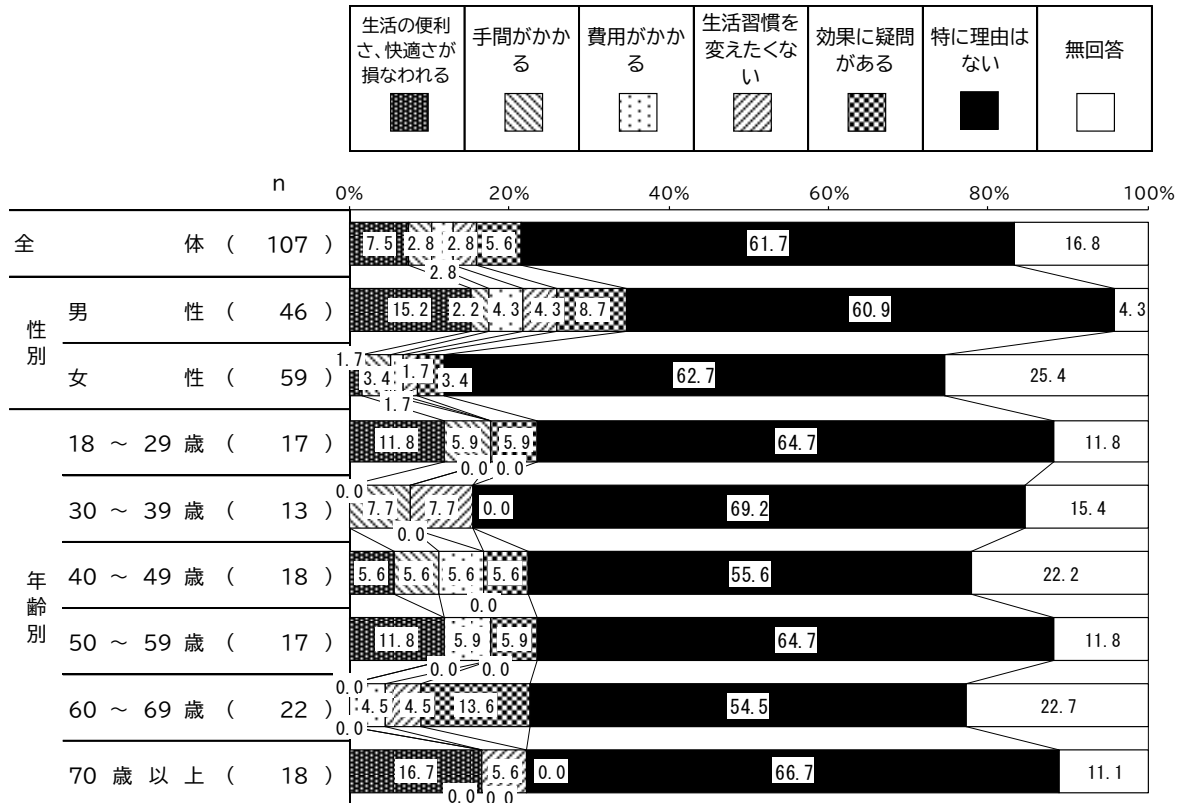
図Ⅲ－９５ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(カ)エコドライブを実践しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（107 人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 61.7%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は男性（15.2%）が女性（1.7%）より 13.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は、最も低い 30～39 歳、60～69 歳（ともに 0.0%）と最も高い 70 歳以上（16.7%）では、16.7 ポイントの差がある。

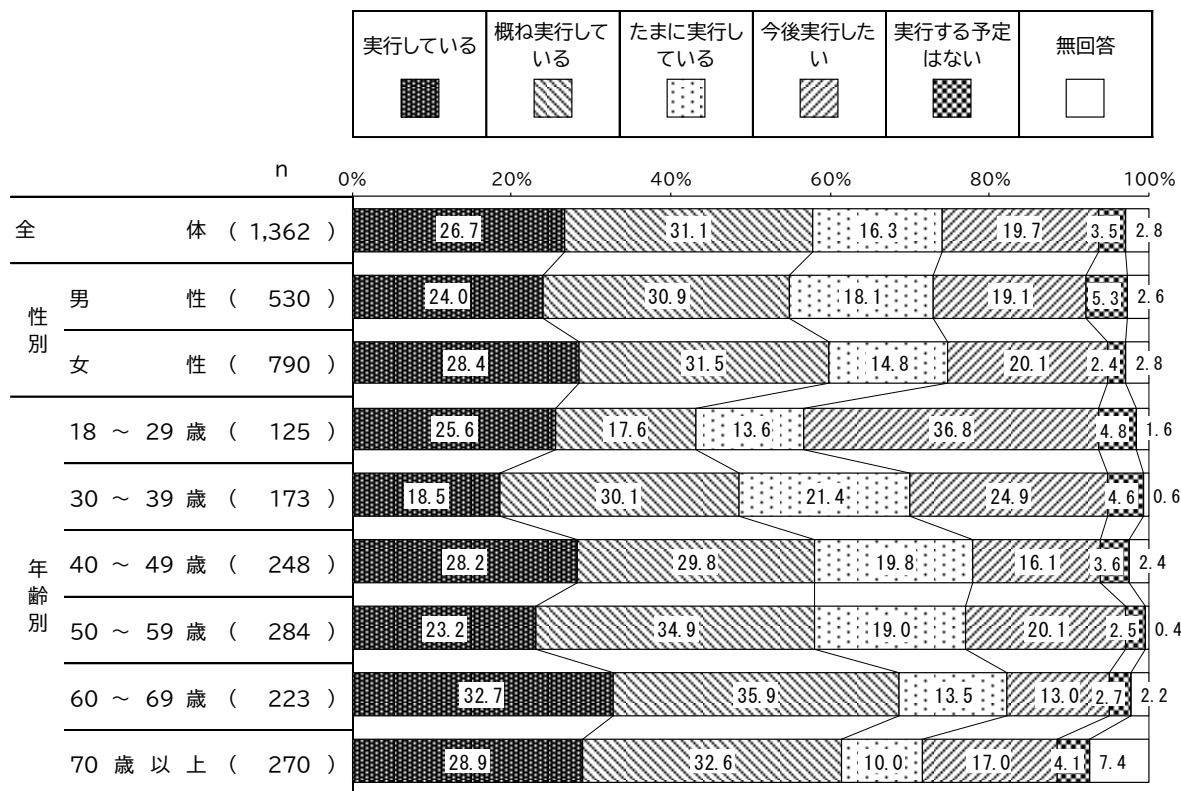


図Ⅲ－９６ （カ）エコドライブを実践しよう（性別／年齢別）

(2-7) (キ)省エネ性能の高い家電や機器を選択しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（28.4%）が男性（24.0%）より 4.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 30～39 歳（18.5%）と最も高い 60～69 歳（32.7%）では、14.2 ポイントの差がある。

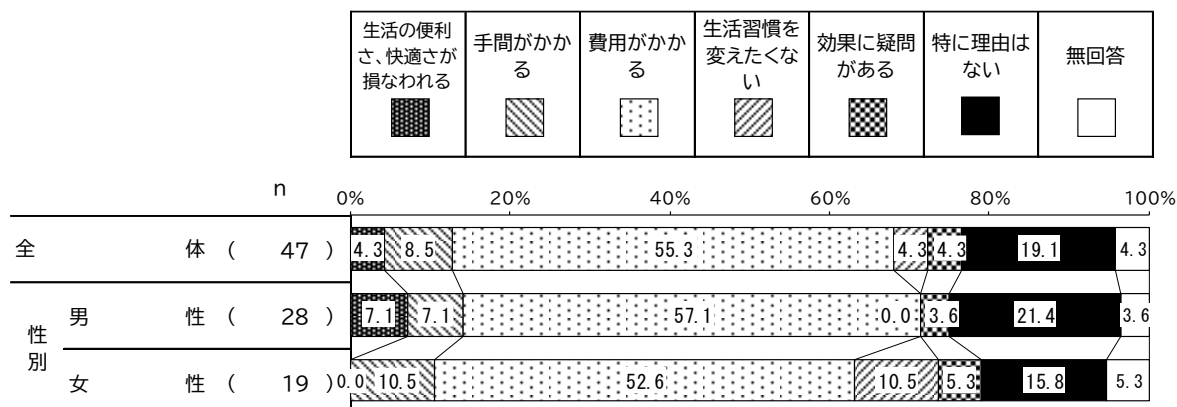


図Ⅲ－９７ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(キ)省エネ性能の高い家電や機器を選択しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（47人）に、その理由について聞いたところ、「費用がかかる」が55.3%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」、「費用がかかる」は男性（7.1%、57.1%）が女性（0.0%、52.6%）よりそれぞれ7.1、4.5ポイント高く、「生活習慣を変えたくない」は女性（10.5%）が男性（0.0%）より10.5ポイント高くなっている。



※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

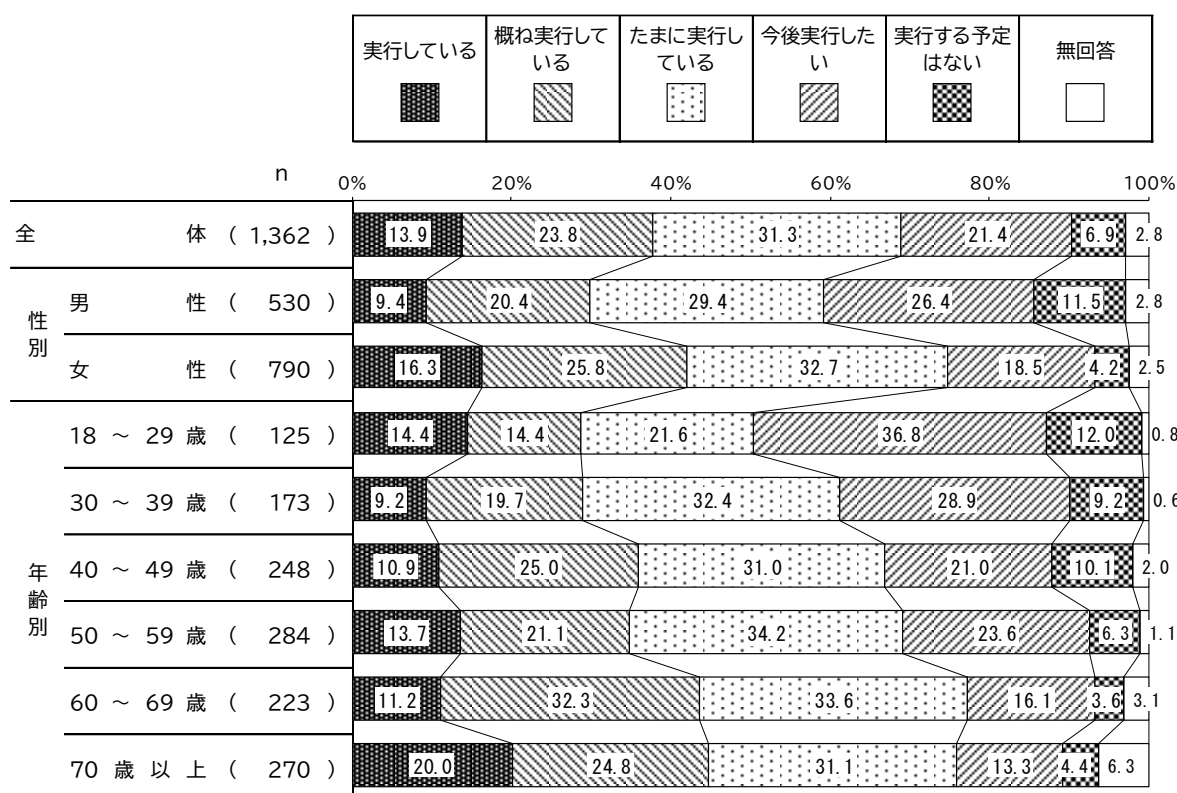
図Ⅲ－９８ （キ）省エネ性能の高い家電や機器を選択しよう（性別）

(2-8) (ク)地元の食材を使うなどエコ・クッキングを実践しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（16.3%）が男性（9.4%）より 6.9 ポイント高いが、「今後実行したい」では、男性（26.4%）が女性（18.5%）より 7.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 30～39 歳（9.2%）と最も高い 70 歳以上（20.0%）では、10.8 ポイントの差がある。

※エコ・クッキングとは、食べ物やエネルギーを無駄にせず、水を汚さないように工夫したり、ごみを減らしたりして、環境に配慮しながら料理すること。



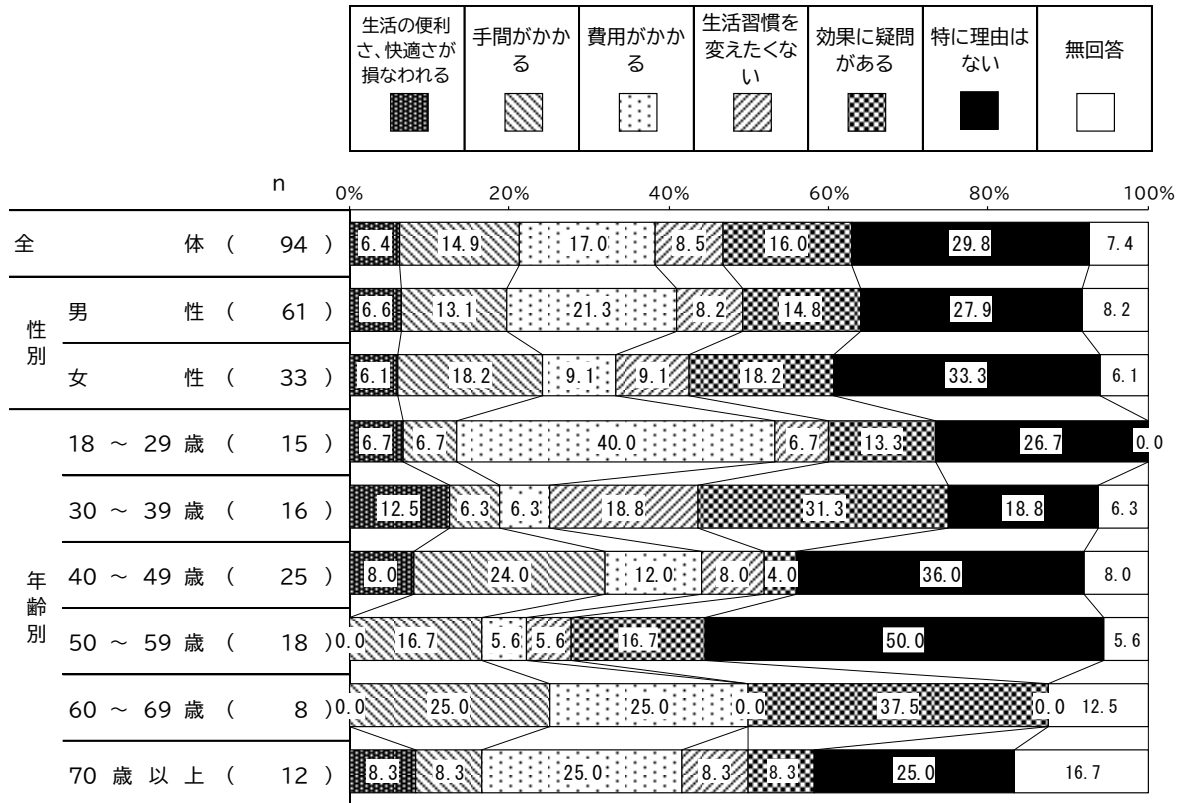
図Ⅲ－９９ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(ク)地元の食材を使うなどエコ・クッキングを実践しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（94 人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 29.8%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「費用がかかる」は男性（21.3%）が女性（9.1%）より 12.2 ポイント高く、「手間がかかる」は女性（18.2%）が男性（13.1%）より 5.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「費用がかかる」は、最も低い 50～59 歳（5.6%）と最も高い 18～29 歳（40.0%）では、34.4 ポイントの差がある。

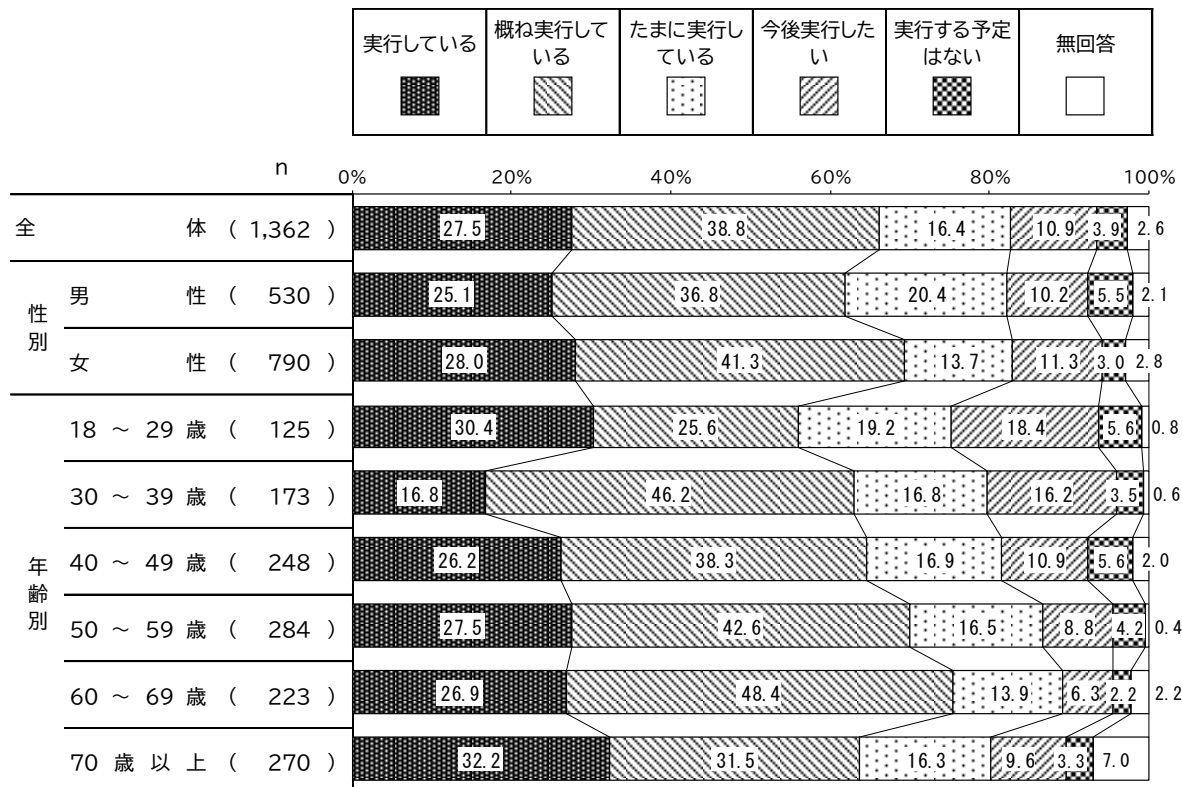


図Ⅲ－１００ （ク）地元の食材を使うなどエコ・クッキングを実践しよう（性別／年齢別）

(2-9) (ケ)宅配便の再配達を防止しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（28.0%）が男性（25.1%）より 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 30～39 歳（16.8%）と最も高い 70 歳以上（32.2%）では、15.4 ポイントの差がある。

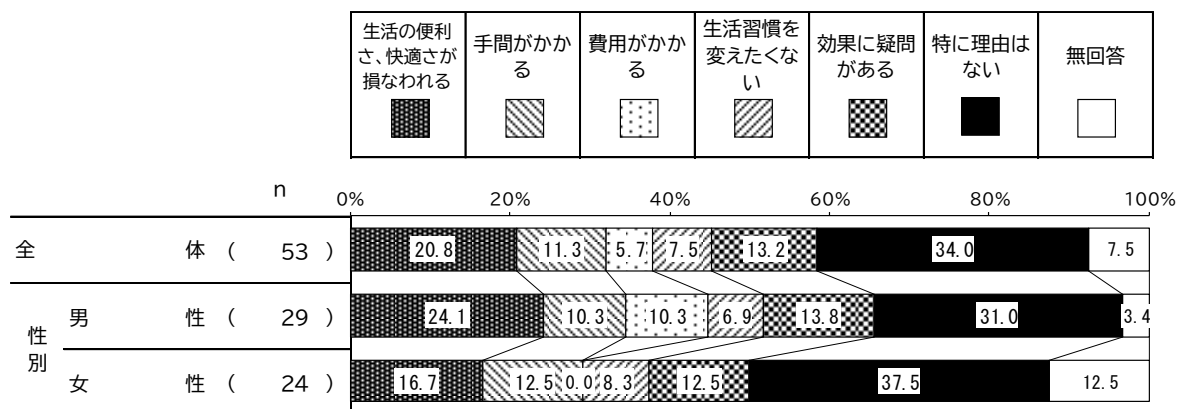


図Ⅲ－１０１ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(ケ)宅配便の再配達を防止しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（53人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 34.0%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「生活の便利さ、快適さが損なわれる」は男性（24.1%）が女性（16.7%）より 7.4 ポイント高くなっている。



※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

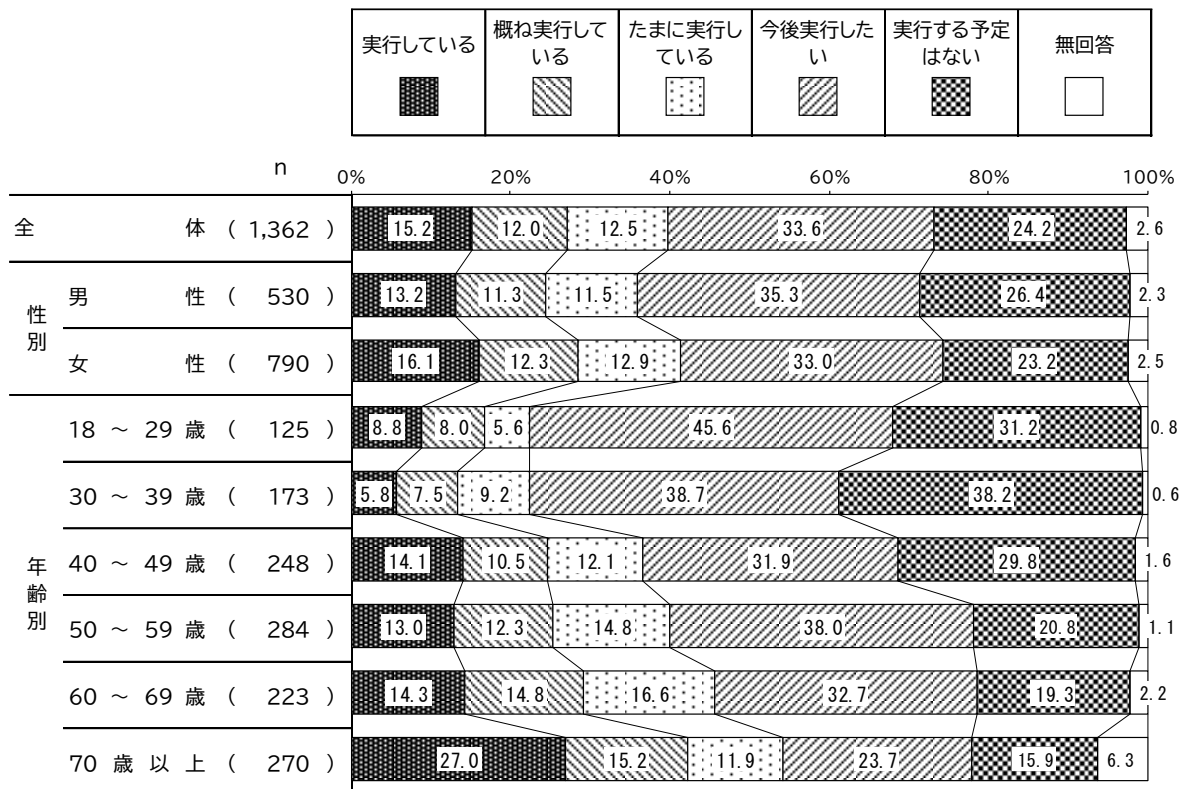
図Ⅲ－１０２ (ケ)宅配便の再配達を防止しよう（性別）

(2-10) (コ)緑のカーテンや、すだれを設置しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（16.1%）が男性（13.2%）より 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 30～39 歳（5.8%）と最も高い 70 歳以上（27.0%）では、21.2 ポイントの差がある。

※緑のカーテンとは、夏に南側の窓につける性植物（ゴーヤ、アサガオ等）をネットなどにはわせて育てたもの。日差しをさえぎり、部屋の温度上昇を防ぐ効果が期待できる。



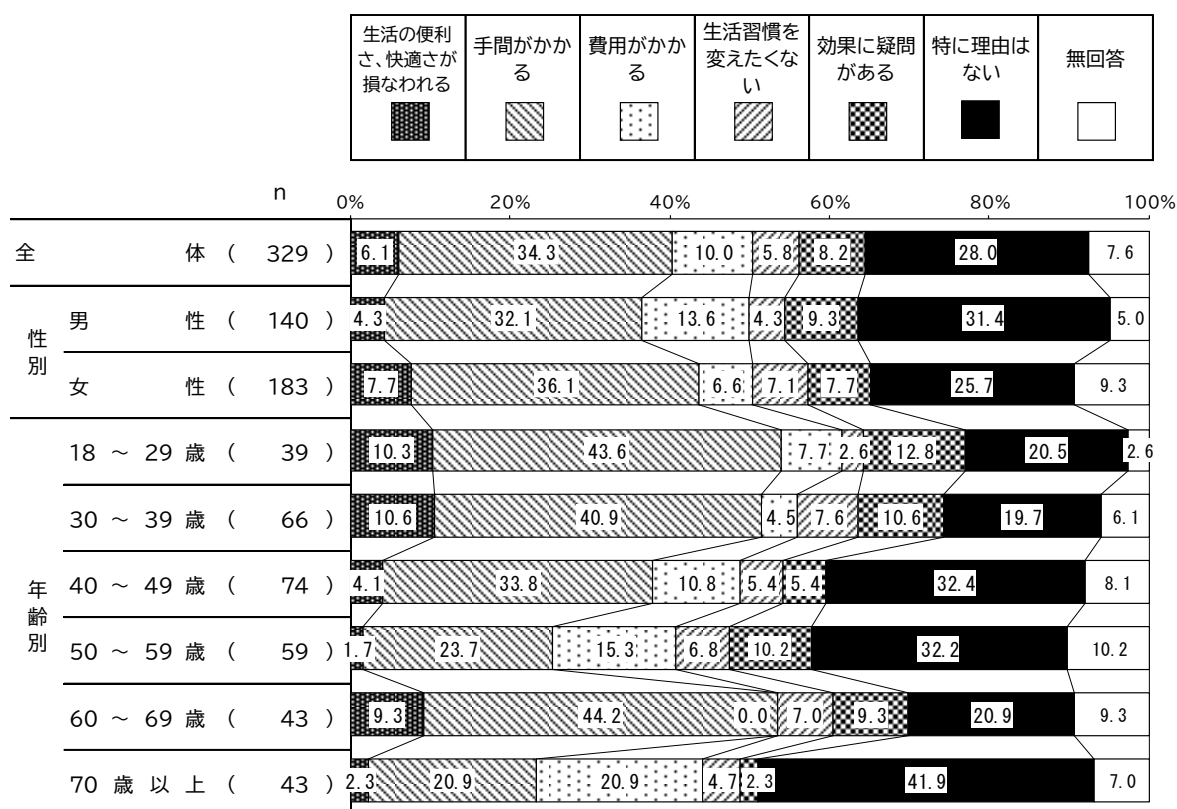
図Ⅲ－１０３ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(コ)緑のカーテンや、すだれを設置しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（329 人）に、その理由について聞いたところ、「手間がかかる」が 34.3%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「手間がかかる」は女性（36.1%）が男性（32.1%）より 4.0 ポイント高く、「費用がかかる」は男性（13.6%）が女性（6.6%）より 7.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「手間がかかる」は、最も低い 70 歳以上（20.9%）と最も高い 60～69 歳（44.2%）では、23.3 ポイントの差があり、「費用がかかる」は、最も低い 60～69 歳（0.0%）と最も高い 70 歳以上（20.9%）では、20.9 ポイントの差がある。

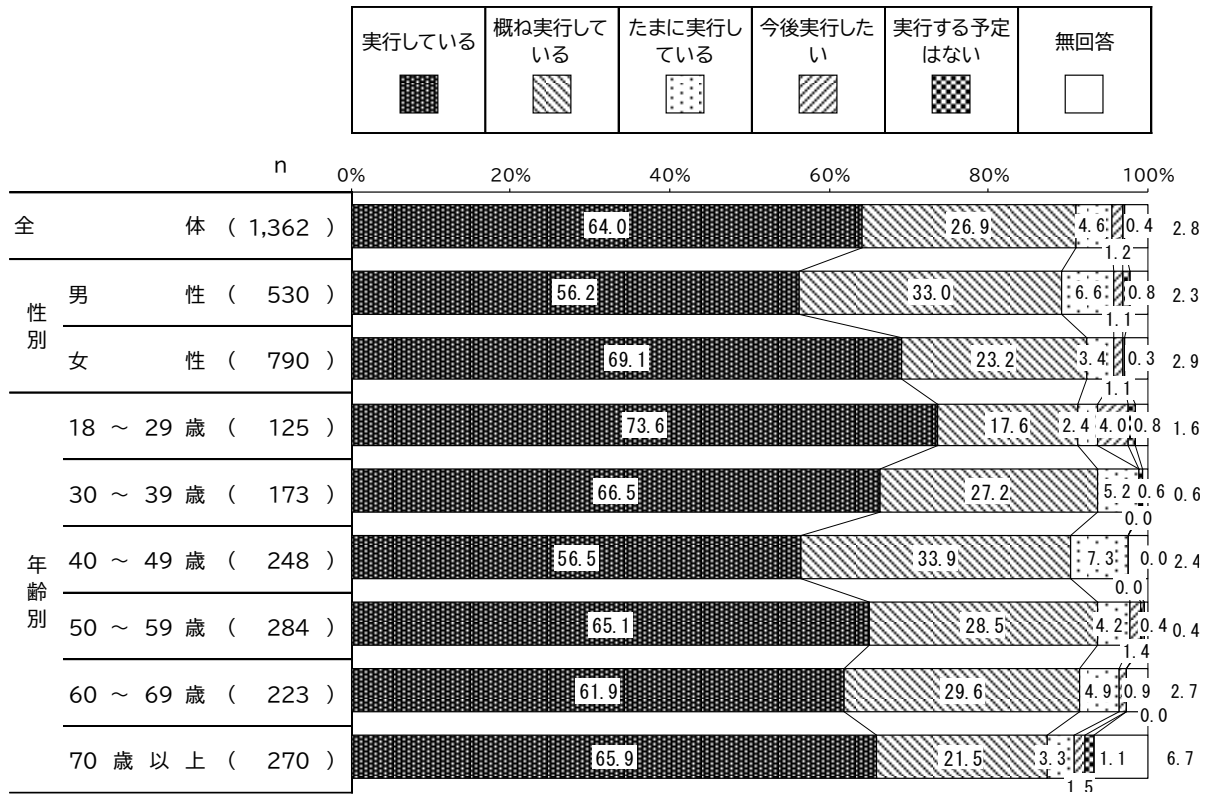


図Ⅲ－１０４ （コ）緑のカーテンや、すだれを設置しよう（性別／年齢別）

(2-11) (サ)暑さを避け、こまめな水分補給などの熱中症対策をしよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（69.1%）が男性（56.2%）より 12.9 ポイント高くなっている。

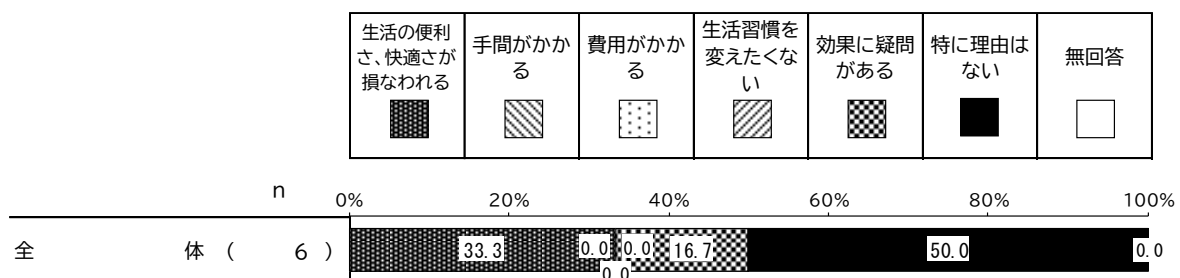
年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 40～49 歳（56.5%）と最も高い 18～29 歳（73.6%）では、17.1 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１０５ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(サ)暑さを避け、こまめな水分補給などの熱中症対策をしよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（６人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 50.0%で最も高くなっている。



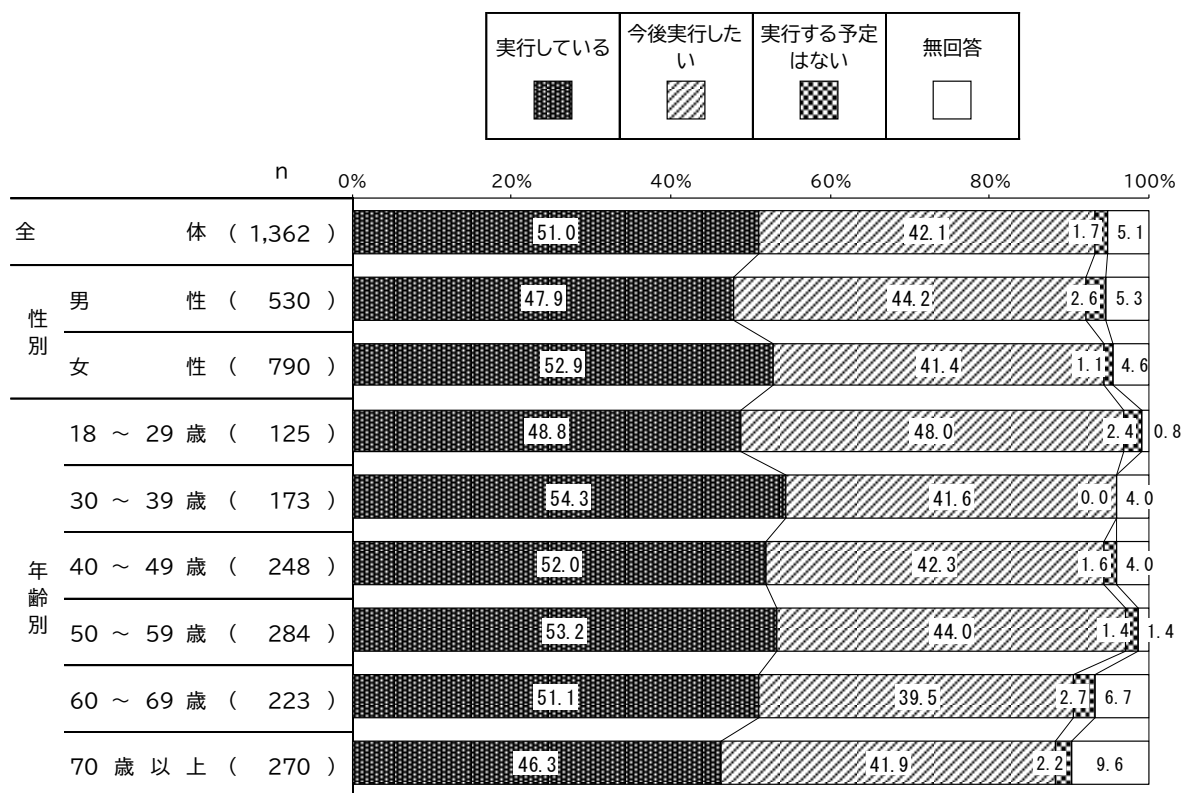
※性別、年齢別でみた場合、n 数が少ないため、性別、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－１０６ (サ)暑さを避け、こまめな水分補給などの熱中症対策をしよう（全体）

(2-12) (シ)ハザードマップ等を活用して避難場所・経路を確認しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（52.9%）が男性（47.9%）より 5.0 ポイント高くなっている。

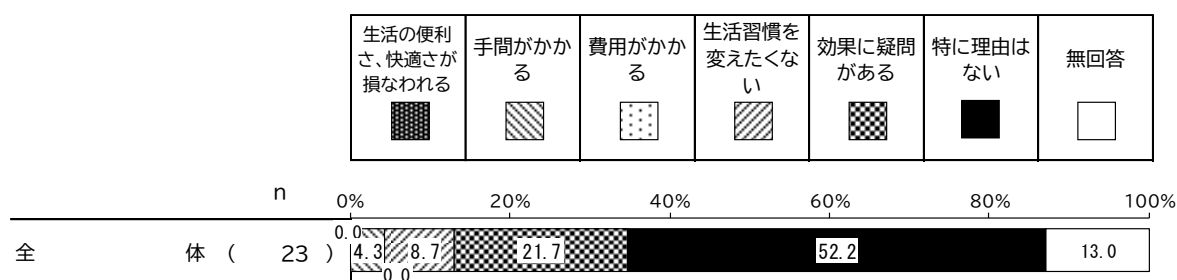
年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 70 歳以上（46.3%）と最も高い 30～39 歳（54.3%）では、8.0 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１０７ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(シ)ハザードマップ等を活用して避難場所・経路を確認しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（23人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が 52.2%で最も高くなっている。



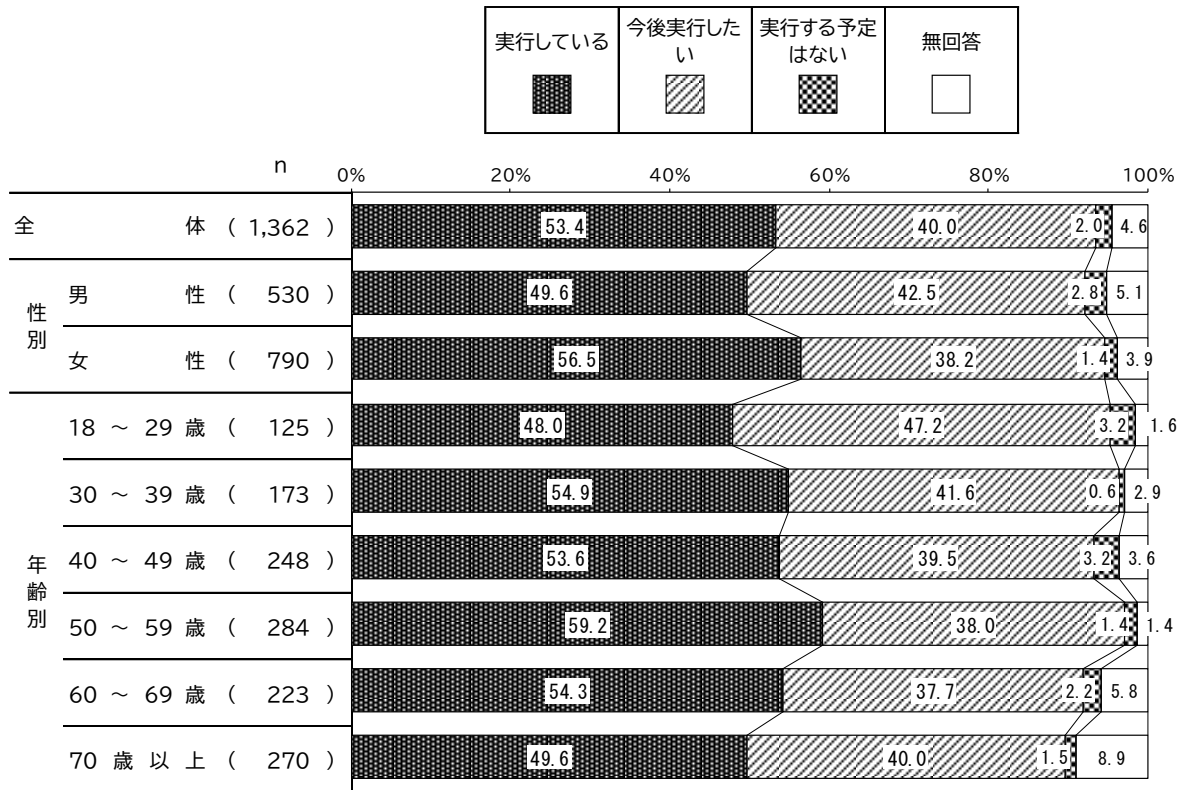
※性別、年齢別でみた場合、n数が少ないため、性別、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－１０８ (シ)ハザードマップ等を活用して避難場所・経路を確認しよう（全体）

(2-13) (ス)災害発生に備えて防災グッズを準備しよう

性別で比較すると、「実行している」は、女性（56.5%）が男性（49.6%）より 6.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「実行している」は、最も低い 18～29 歳（48.0%）と最も高い 50～59 歳（59.2%）では、11.2 ポイントの差がある。

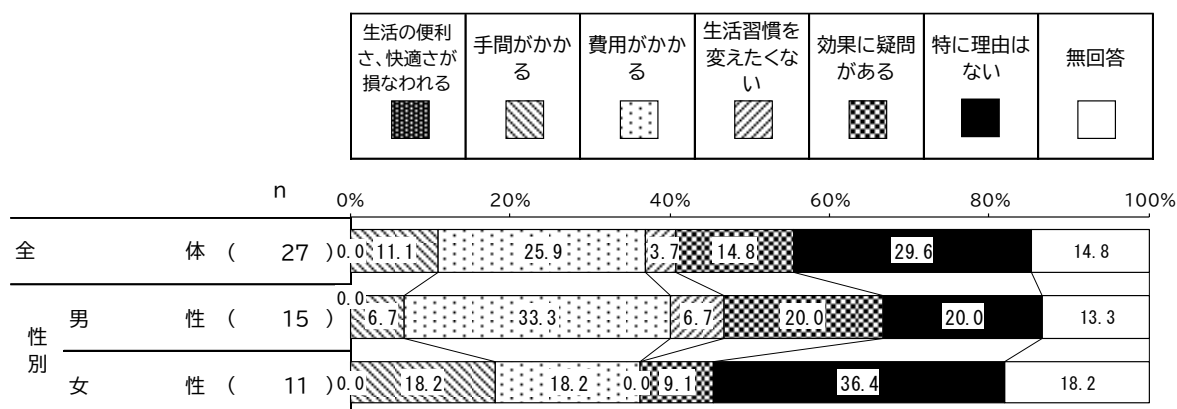


図Ⅲ－１０９ 「アクションプラン」に基づく地球温暖化対策の実行状況(ス)災害発生に備えて防災グッズを準備しよう（性別／年齢別）

【実行を妨げる主な理由】

「実行する予定はない」と答えた人（27人）に、その理由について聞いたところ、「特に理由はない」が29.6%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「手間がかかる」は女性（18.2%）が男性（6.7%）より11.5ポイント高く、「費用がかかる」、「効果に疑問がある」は男性（33.3%、20.0%）が女性（18.2%、9.1%）よりそれぞれ15.1、10.9ポイント高くなっている。



※年齢別でみた場合、n数が少ないため、年齢別の図は作図せず

図Ⅲ－１１０ （ス）災害発生に備えて防災グッズを準備しよう（性別）

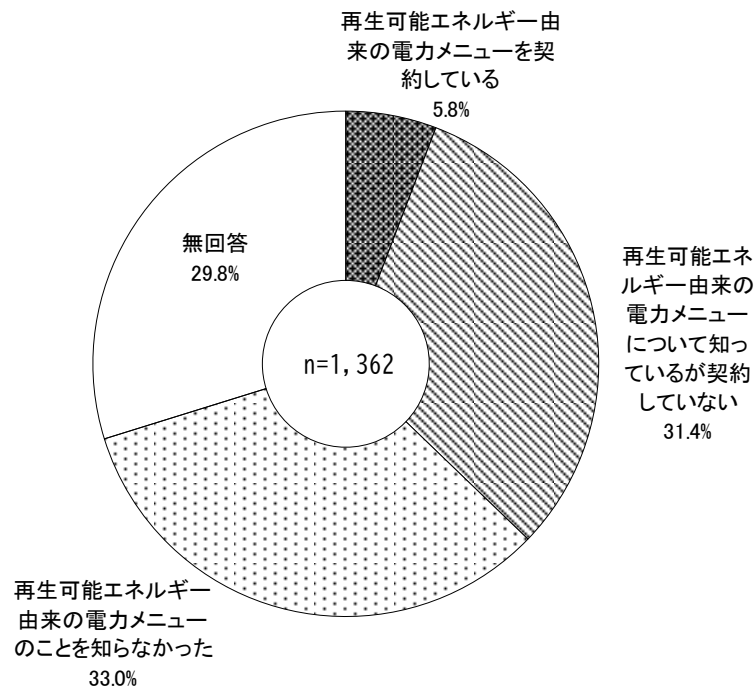
(3) 家庭での再生可能エネルギー由来の電力契約状況

「再生可能エネルギー由来の電力メニューを契約している」は1割未満

【問21】あなたのご家庭では、普段の生活において再生可能エネルギー由来の電力メニューを契約していますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(○は1つ)

ご家庭で、普段の生活において再生可能エネルギー由来の電力メニューを契約しているかを聞いたところ、「再生可能エネルギー由来の電力メニューのことを知らなかった」の割合が33.0%と最も高く、次いで「再生可能エネルギー由来の電力メニューについて知っているが契約していない」(31.4%)となっている。

なお、「再生可能エネルギー由来の電力メニューを契約している」の割合は5.8%で1割未満となっている。

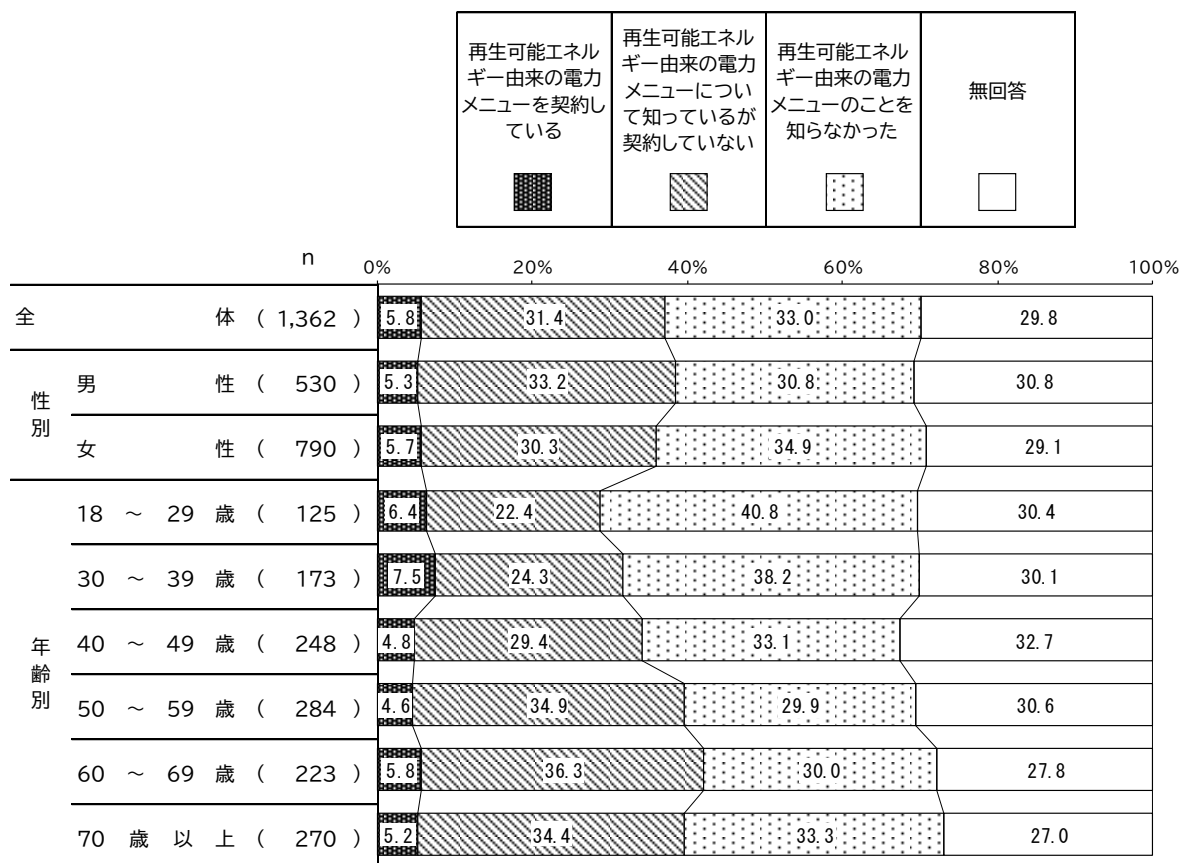


図Ⅲ－１１１ 家庭での再生可能エネルギー由来の電力契約状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「再生可能エネルギー由来の電力メニューについて知っているが契約していない」は、男性（33.2%）が女性（30.3%）より 2.9 ポイント高く、「再生可能エネルギー由来の電力メニューのことを知らなかった」は、女性（34.9%）が男性（30.8%）より 4.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「再生可能エネルギー由来の電力メニューについて知っているが契約していない」は、年齢が上がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 18～29 歳（22.4%）と最も高い 60～69 歳（36.3%）では、13.9 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１１２ 家庭での再生可能エネルギー由来の電力契約状況（性別／年齢別）

(4) 家庭での太陽光発電システム等の設置状況

「太陽光発電システム」の導入率が最も高いが1割未満

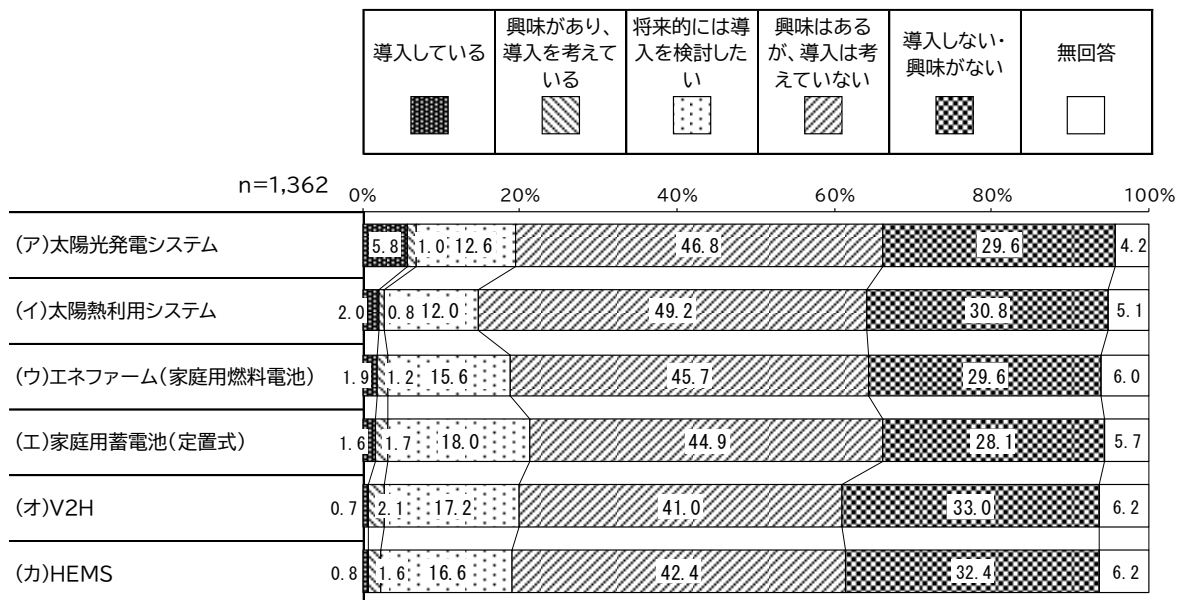
【問22】あなたは、自宅に下記（ア）から（カ）の機器または設備を導入していますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をしてください。また、その選んだ番号が4または5の場合は、下記の《導入していない理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「4・5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

ご自宅での太陽光発電システム等の機器または設備を導入しているか聞いたところ、「導入している」の割合は、「(ア)太陽光発電システム」(5.8%)が最も高く、次いで「(イ)太陽熱利用システム」(2.0%)、「(ウ)エネファーム(家庭用燃料電池)」(1.9%)、「(エ)家庭用蓄電池(定置式)」(1.6%)などと続いているが、いずれも1割にも満たない状況となっている。

なお、6つの全ての機器または設備に共通して、「興味はあるが、導入は考えていない」の割合は41.0～49.2%と4割を超え、「導入しない・興味がない」の割合は28.1～33.0%と概ね3割となっている。

※V2Hとは、Vehicle to home ビークルトゥーホームの略で、電気自動車やプラグインハイブリッド車に充電するだけでなく、停電時でも電気自動車等に貯めた電気を家庭でも使用できる設備。

※HEMSとは、Home Energy Management System ホームエネルギーマネジメントシステムの略で、家庭で使うエネルギーを管理するシステムのことで、家電と設備機器を連携することにより電気やガス使用量を見える化したり、家電を自動制御する。

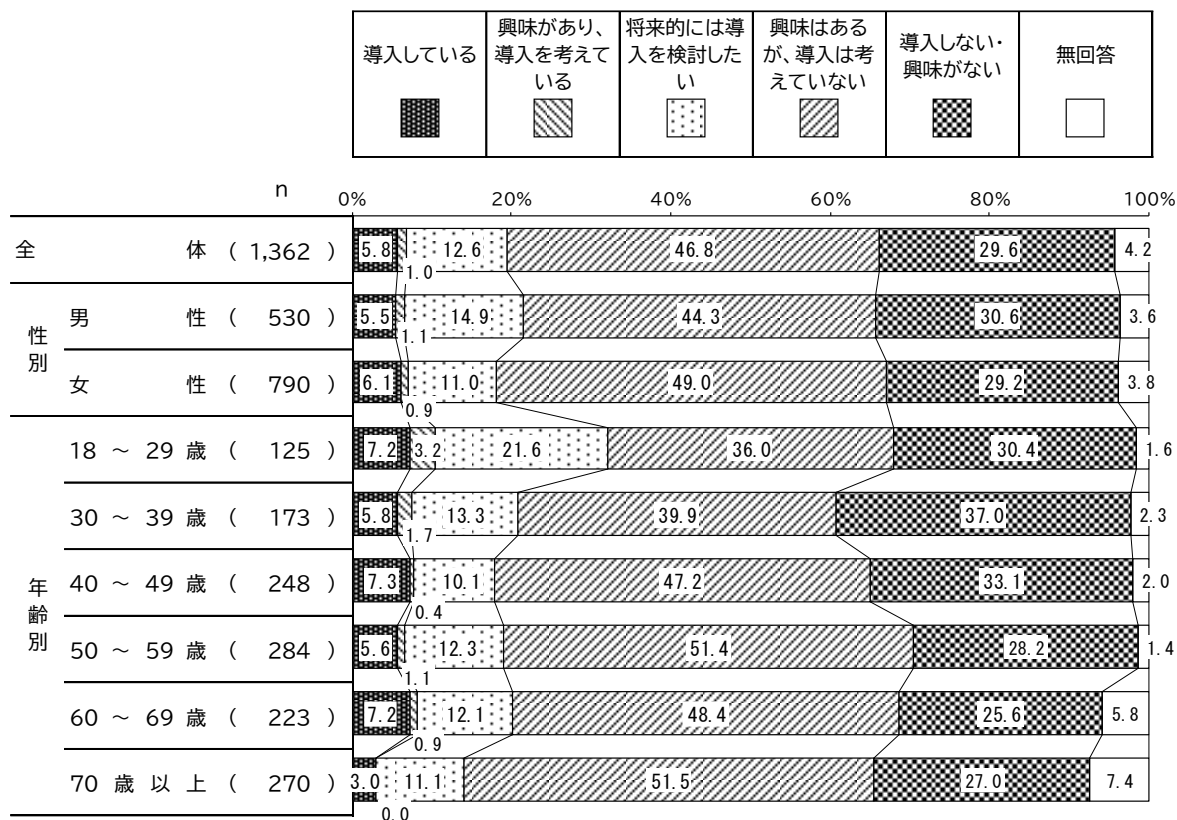


図Ⅲ－１１３ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況

(4-1) (ア)太陽光発電システム

性別で比較すると、「将来的には導入を検討したい」は、男性（14.9％）が女性（11.0％）より 3.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「将来的には導入を検討したい」は、最も低い 40～49 歳（10.1％）と最も高い 18～29 歳（21.6％）では、11.5 ポイントの差がある。



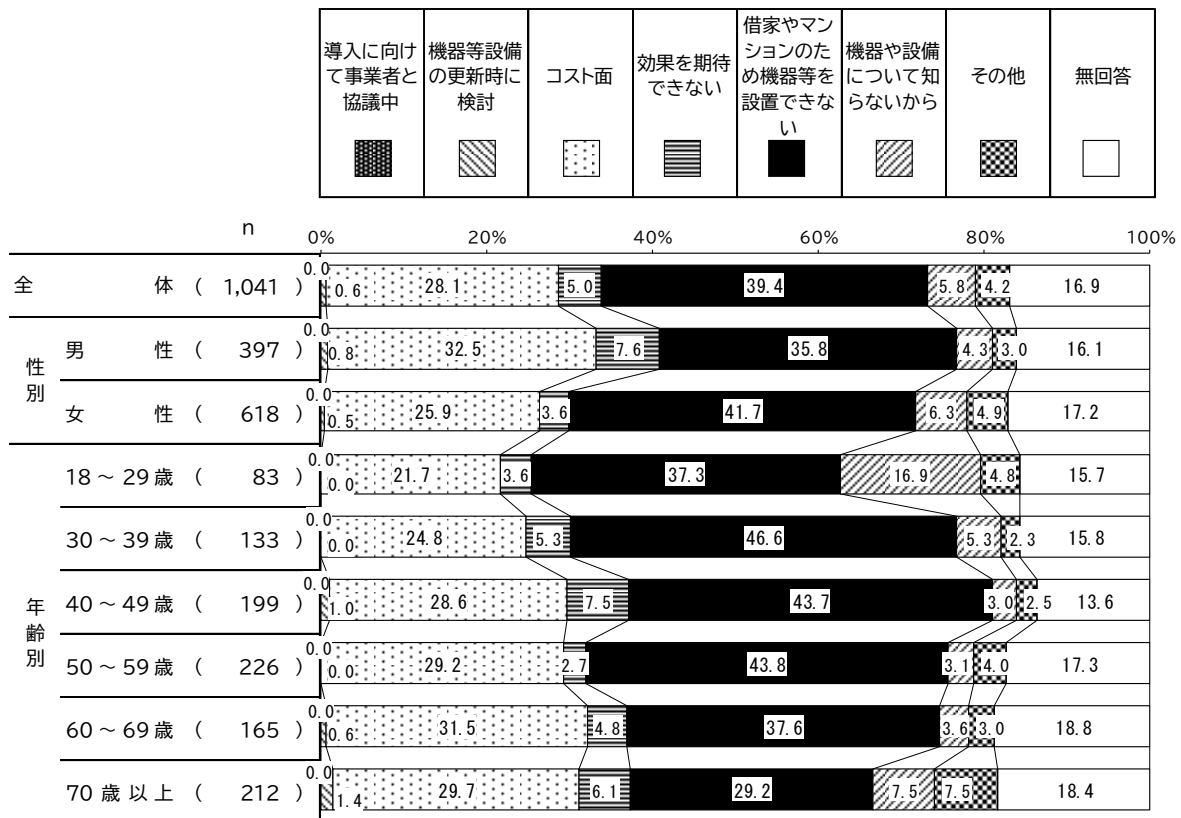
図Ⅲ－１１４ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況(ア)太陽光発電システム（性別／年齢別）

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人(1,041人)に、その理由について聞いたところ、「借家やマンションのため機器等を設置できない」が39.4%で最も高く、次いで、「コスト面」が28.1%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性(32.5%)が女性(25.9%)より6.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は、最も低い18～29歳(21.7%)と最も高い60～69歳(31.5%)では、9.8ポイントの差がある。

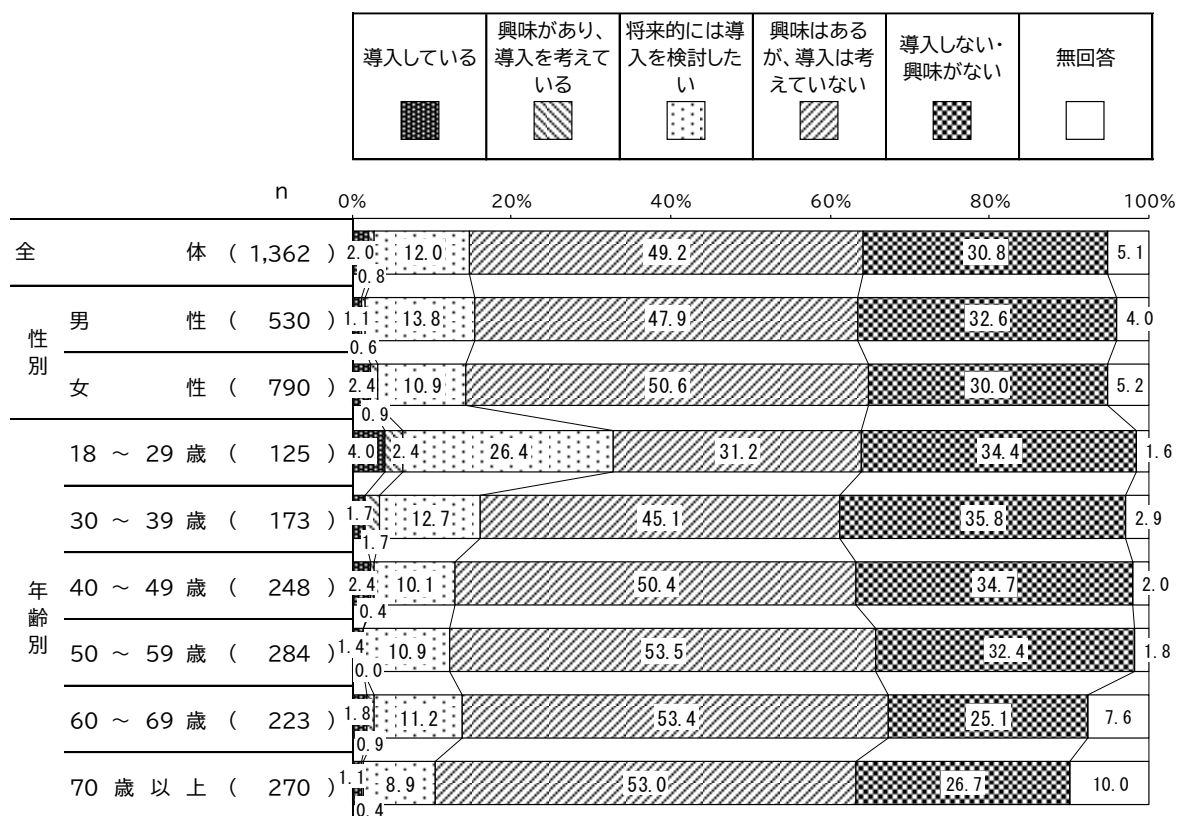


図Ⅲ－１１５ (ア)太陽光発電システム(性別／年齢別)

(4-2) (イ)太陽熱利用システム

性別で比較すると、「将来的には導入を検討したい」は、男性（13.8%）が女性（10.9%）より 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「将来的には導入を検討したい」は、最も低い 70 歳以上（8.9%）と最も高い 18～29 歳（26.4%）では、17.5 ポイントの差がある。



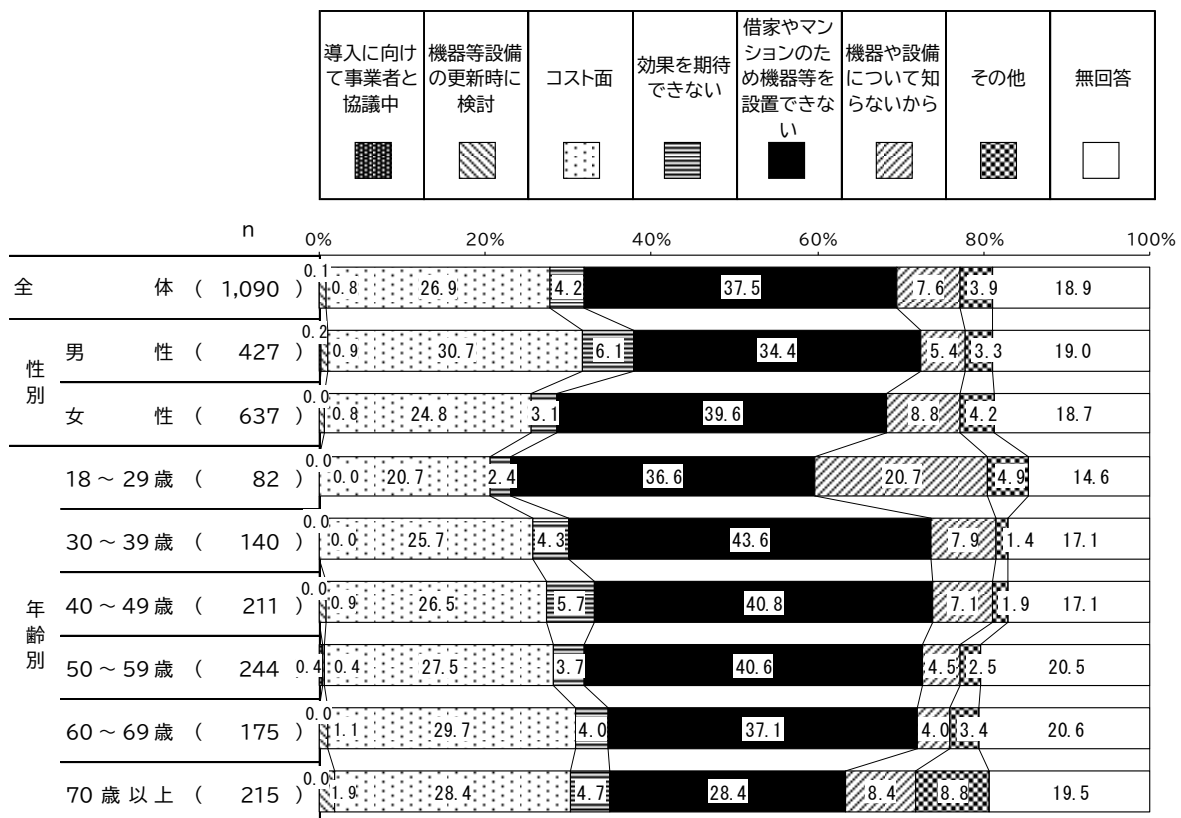
図Ⅲ－１１６ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況(イ)太陽熱利用システム（性別／年齢別）

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（1,090人）に、その理由について聞いたところ、「借家やマンションのため機器等を設置できない」が37.5%で最も高く、次いで、「コスト面」が26.9%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性（30.7%）が女性（24.8%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い18～29歳（20.7%）と最も高い60～69歳（29.7%）では、9.0ポイントの差がある。

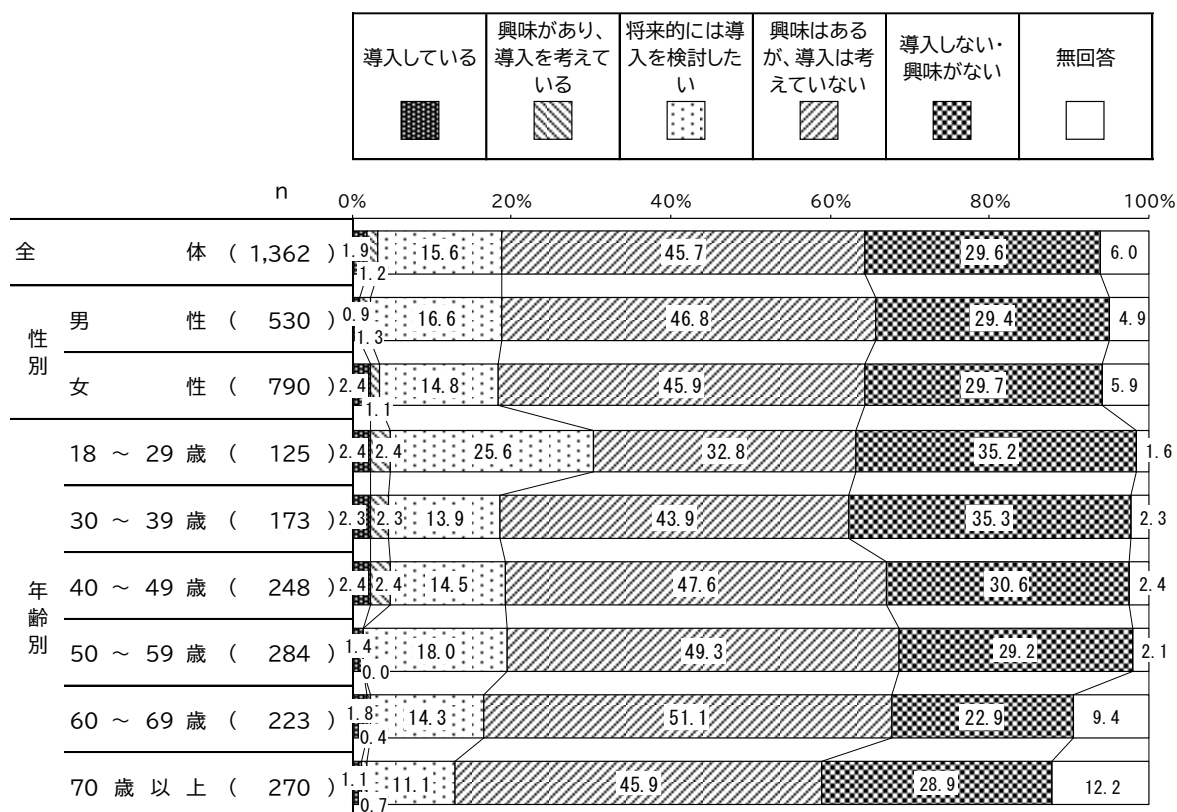


図Ⅲ－１１７ (イ)太陽熱利用システム（性別／年齢別）

(4-3) (ウ)エネファーム（家庭用燃料電池）

性別で比較しても、男女間で大きな差異は見られない。

年齢別にみると、「将来的には導入を検討したい」は、最も低い 70 歳以上（11.1%）と最も高い 18～29 歳（25.6%）では、14.5 ポイントの差がある。



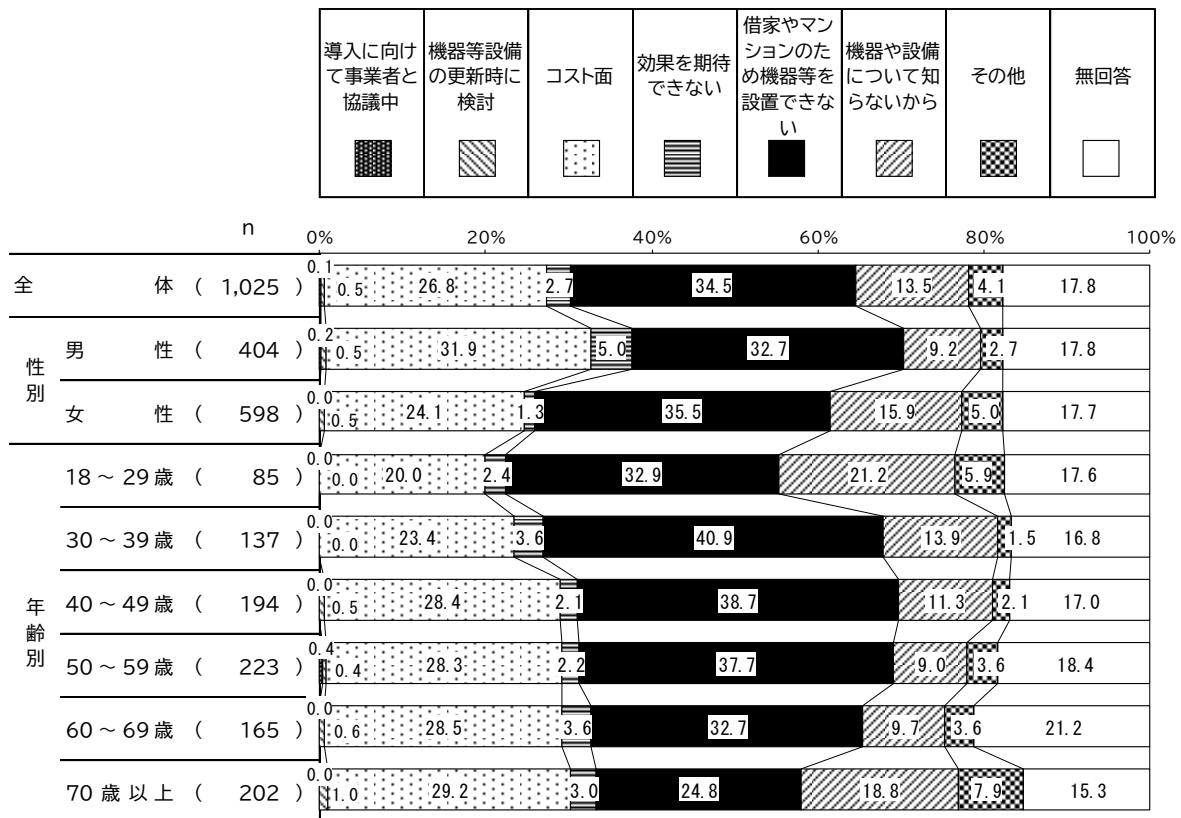
図Ⅲ－１１８ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況(ウ)エネファーム（家庭用燃料電池）
（性別／年齢別）

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（1,025人）に、その理由について聞いたところ、「借家やマンションのため機器等を設置できない」が34.5%で最も高く、次いで、「コスト面」が26.8%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性（31.9%）が女性（24.1%）より7.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は年齢が上がるに従い高くなり、最も低い18～29歳（20.0%）と最も高い70歳以上（29.2%）では、9.2ポイントの差がある。

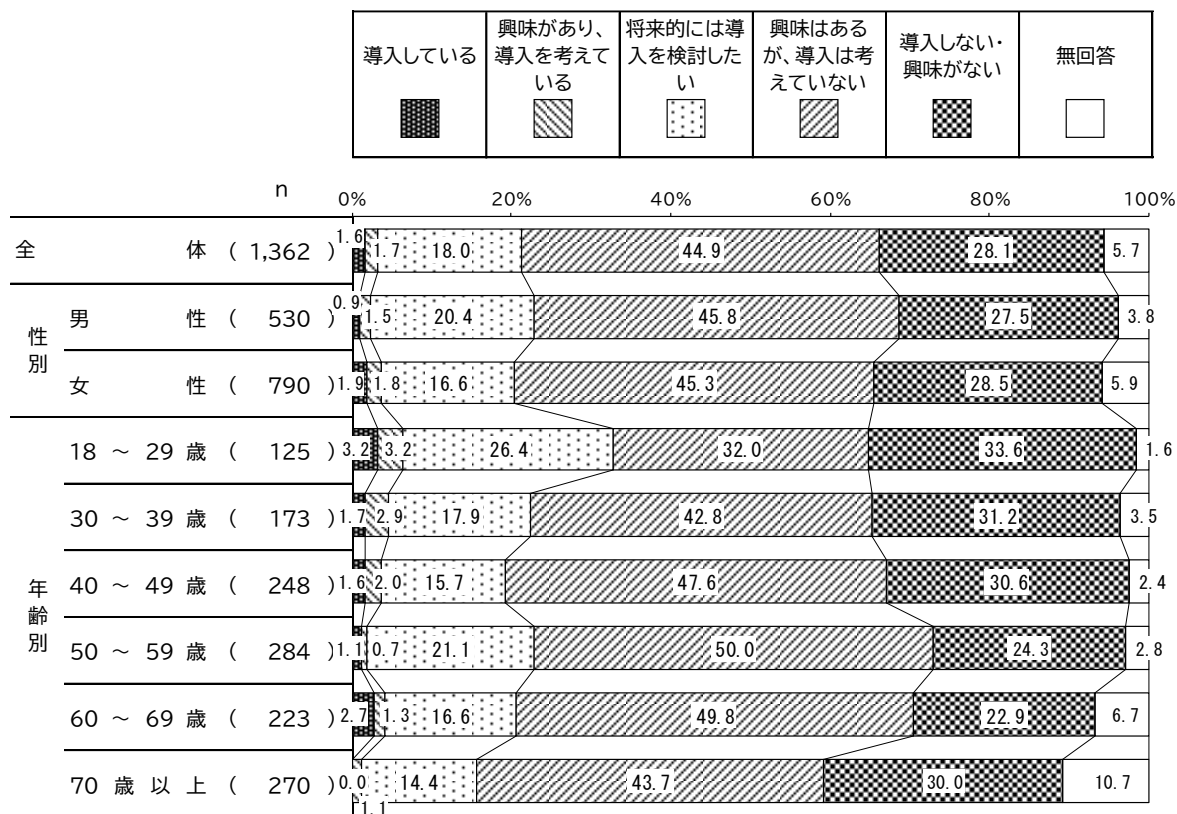


図Ⅲ－１１９ (ウ)エネファーム（家庭用燃料電池）（性別／年齢別）

(4-4) (工)家庭用蓄電池（定置式）

性別で比較すると、「将来的には導入を検討したい」は、男性（20.4%）が女性（16.6%）より 3.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「将来的には導入を検討したい」は、最も低い 70 歳以上（14.4%）と最も高い 18～29 歳（26.4%）では、12.0 ポイントの差がある。



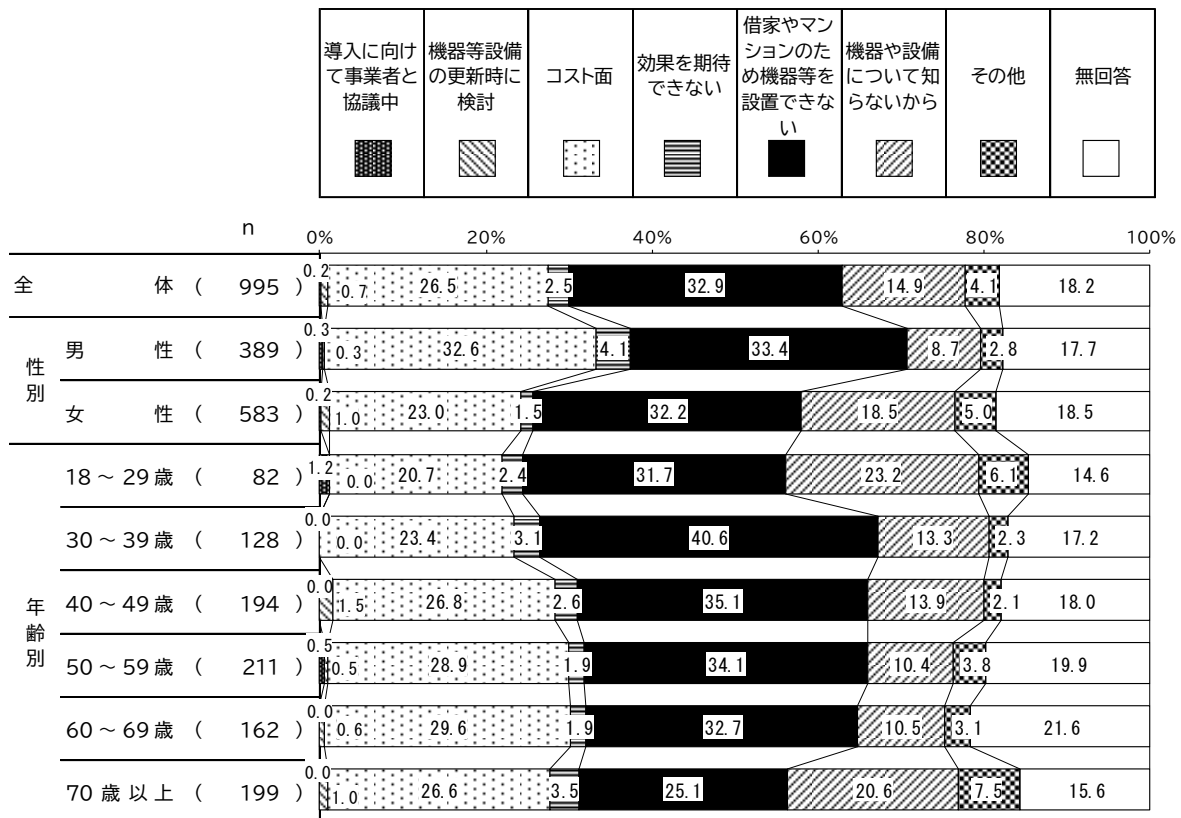
図Ⅲ－１２０ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況(工)家庭用蓄電池（定置式）（性別／年齢別）

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（995人）に、その理由について聞いたところ、「借家やマンションのため機器等を設置できない」が32.9%で最も高く、次いで、「コスト面」が26.5%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性（32.6%）が女性（23.0%）より9.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い18～29歳（20.7%）と最も高い60～69歳（29.6%）では、8.9ポイントの差がある。

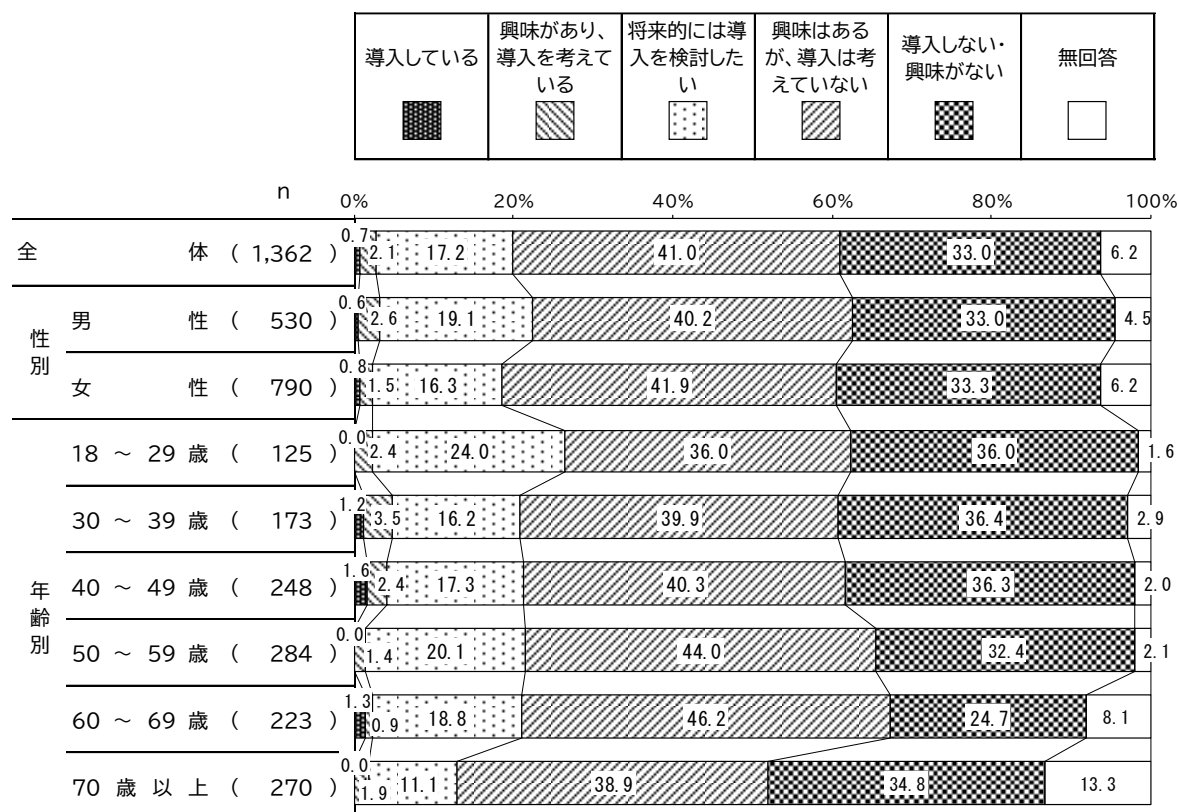


図Ⅲ－１２１ (エ)家庭用蓄電池（定置式）（性別／年齢別）

(4-5) (オ)V2H

性別で比較すると、「将来的には導入を検討したい」は、男性（19.1％）が女性（16.3％）より 2.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「将来的には導入を検討したい」は、最も低い 70 歳以上（11.1％）と最も高い 18～29 歳（24.0％）では、12.9 ポイントの差がある。



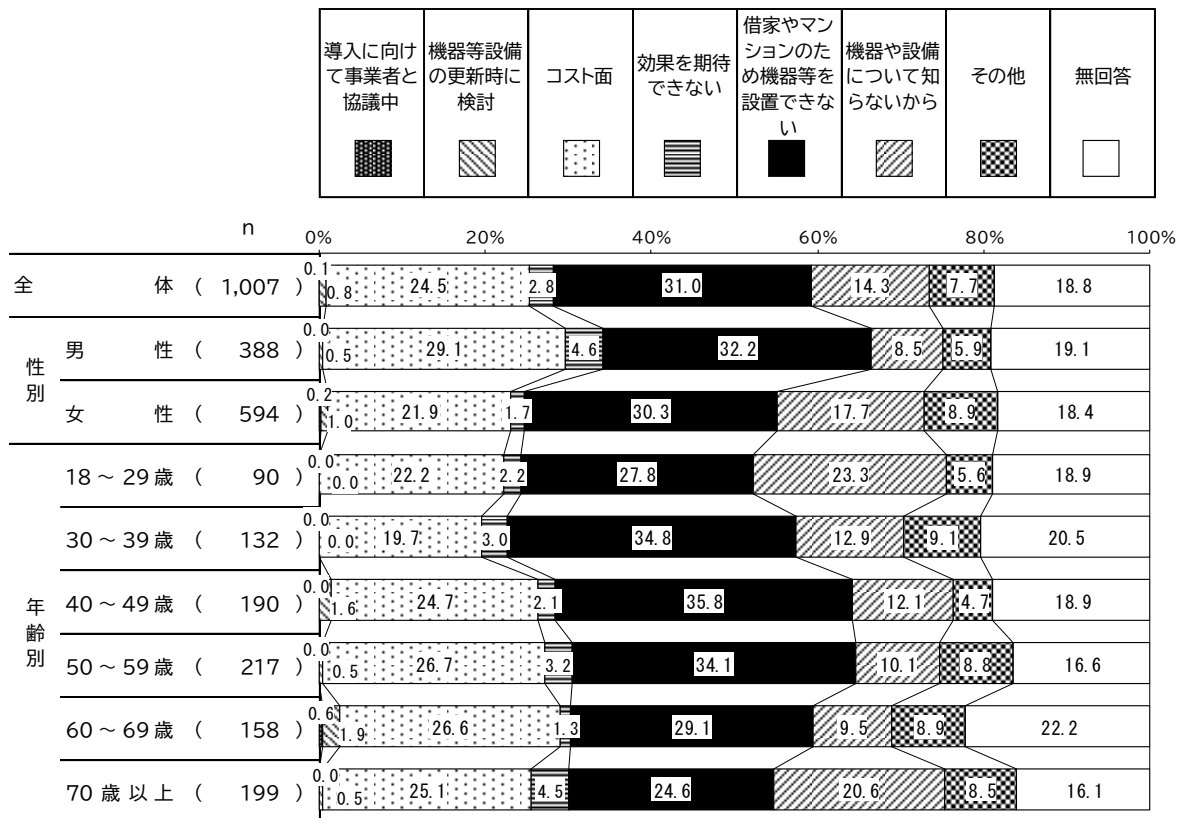
図Ⅲ－１２２ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況(オ)V2H（性別／年齢別）

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（1,007人）に、その理由について聞いたところ、「借家やマンションのため機器等を設置できない」が31.0%で最も高く、次いで、「コスト面」が24.5%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性（29.1%）が女性（21.9%）より7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は、最も低い30～39歳（19.7%）と最も高い50～59歳（26.7%）では、7.0ポイントの差がある。

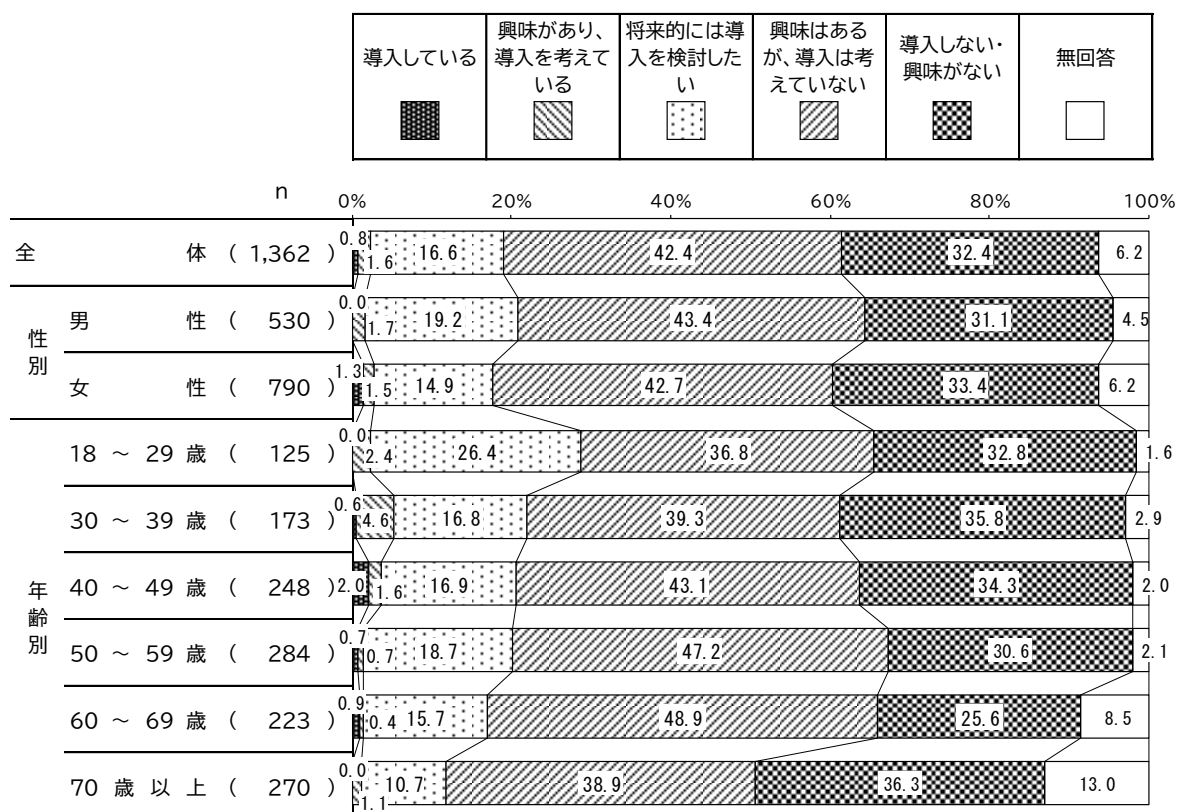


図Ⅲ－１２３ (オ) V 2 H (性別／年齢別)

(4-6) (カ)HEMS

性別で比較すると、「将来的には導入を検討したい」は、男性（19.2%）が女性（14.9%）より 4.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「将来的には導入を検討したい」は、年齢が下がるに従い高くなる傾向があり、最も低い 70 歳以上（10.7%）と最も高い 18～29 歳（26.4%）では、15.7 ポイントの差がある。



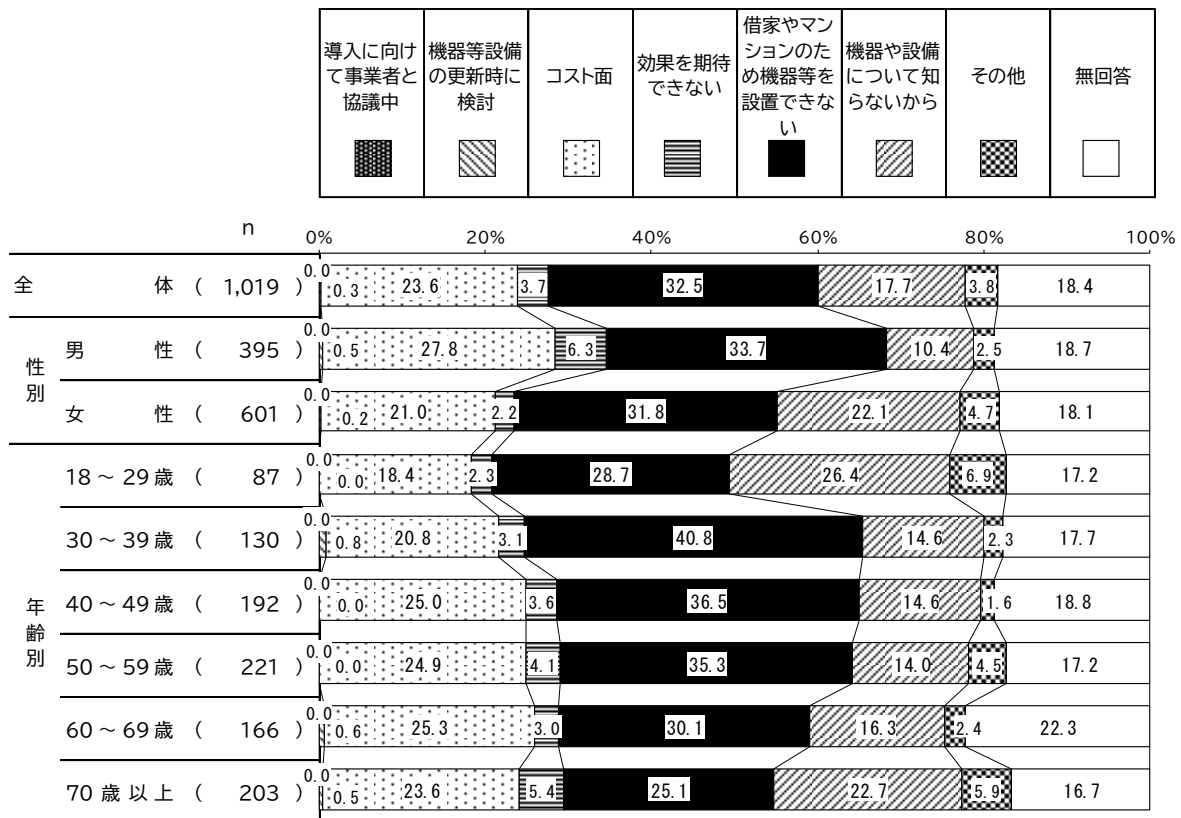
図Ⅲ－１２４ 家庭での太陽光発電システム等の設置状況(カ)HEMS（性別／年齢別）

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人(1,019人)に、その理由について聞いたところ、「借家やマンションのため機器等を設置できない」が32.5%で最も高く、次いで、「コスト面」が23.6%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性(27.8%)が女性(21.0%)より6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は、最も低い18～29歳(18.4%)と最も高い60～69歳(25.3%)では、6.9ポイントの差がある。



図Ⅲ－１２５ (カ) HEMS (性別／年齢別)

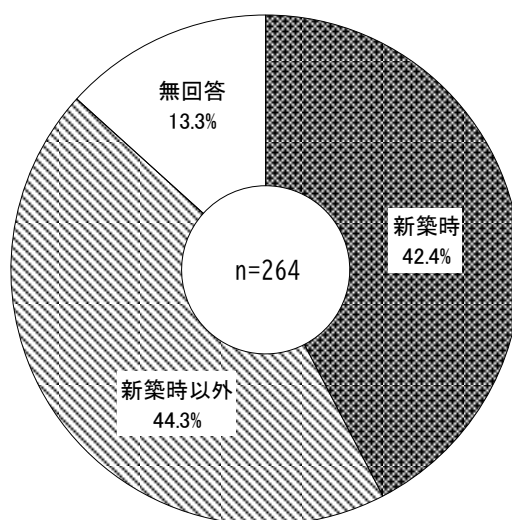
(5) 太陽光発電システムの設置時期と導入予定時期

「新築時」と「新築時以外」が4割超

(問22で(ア) 太陽光発電システムのご回答が「1、2、3」のいずれかとお答えの方)

【問22-1】太陽光発電システムの設置の時期はいつでしたか。またはいつ導入の予定ですか。(〇は1つ)

ご自宅で太陽光発電システムを導入しているかの問いで、「導入している」、「興味があり、導入を考えている」、「将来的には導入を検討したい」のいずれかを答えた人(264人)に、太陽光発電システムの設置の時期」または「導入予定時期」を聞いたところ、「新築時」(42.4%)、「新築時以外」(44.3%)で、ともに4割を超えている。

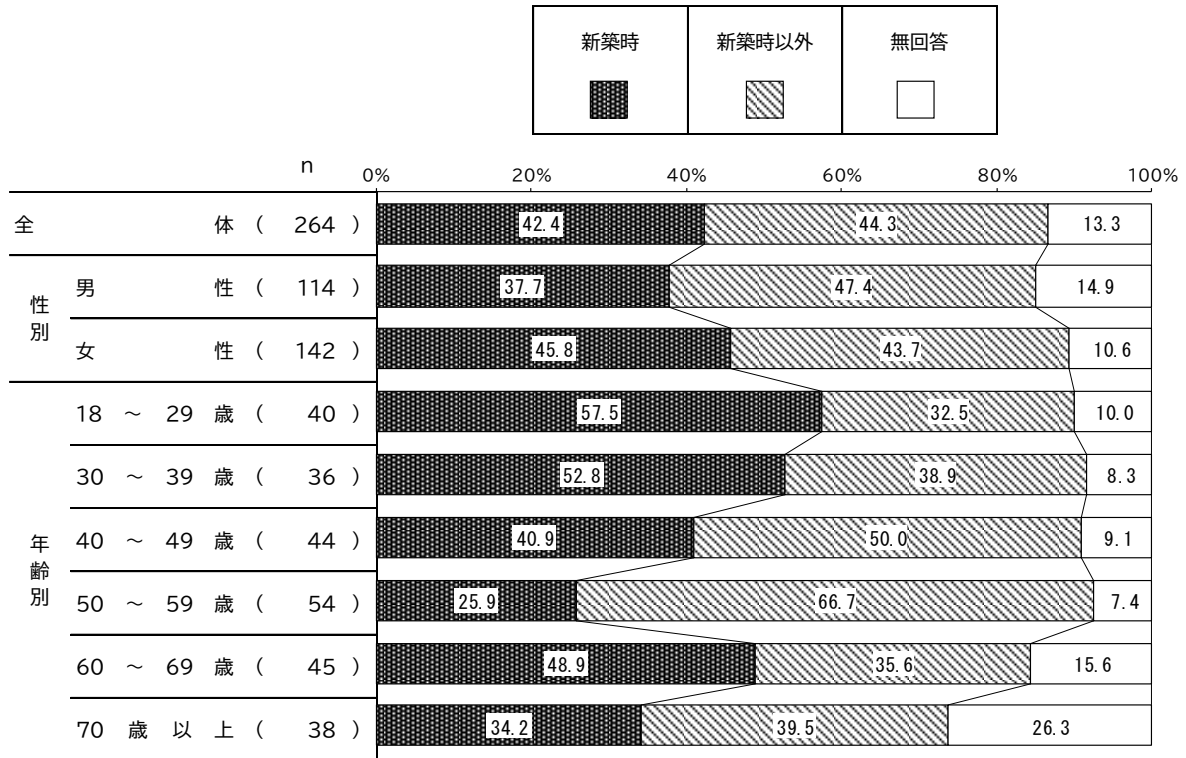


図Ⅲ－１２６ 太陽光発電システムの設置時期と導入予定時期

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「新築時」は女性（45.8%）が男性（37.7%）より 8.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「新築時」は 18～29 歳（57.5%）で最も高く、「新築時以外」は 50～59 歳（66.7%）で最も高くなっている。



図Ⅲ－１２７ 太陽光発電システムの設置時期と導入予定時期（性別／年齢別）

(6) 家庭で所有する自動車の種類

「ガソリン車・ディーゼル車など」が5割超、「HV（ハイブリッド車）」が2割近く

【問23】あなたのご家庭では、現在、どの種類の自動車を所有していますか。下記（ア）から（オ）の種別ごとに、その台数をご記入ください。

なお、自動車を所有されていない方は、問23-1へお進みください。

ご家庭で、どの種類の自動車を所有しているか聞いたところ、「(オ)ガソリン車・ディーゼル車など」の割合が50.7%と最も高く5割を超え、次いで、「(イ)HV（ハイブリッド車）」(17.2%)が2割近く、「(ウ)PHV（プラグインハイブリッド車）」(0.7%)、「(ア)EV（電気自動車）」(0.5%)「(エ)FCV（燃料電池自動車）」(0.2%)はいずれも1%を割り込んでいる。

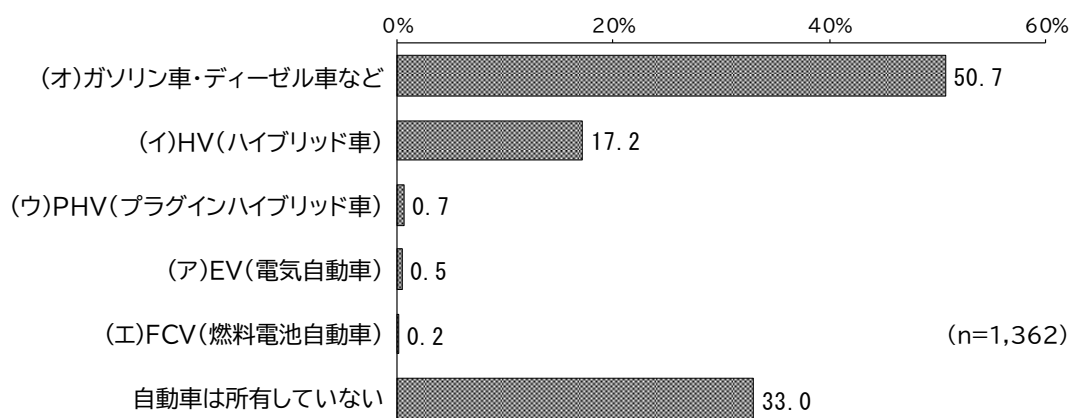
※次世代自動車の種別

(ア)EV車とは、電気をエネルギー源として電動モーターで走行する自動車

(イ)HV車とは、一般的に、ガソリンエンジンと電動モーターを備えている自動車

(ウ)PHV車とは、HV（ハイブリッド車）のうち、外部から充電・外部へ給電できる自動車

(エ)FCV車とは、水素と酸素の化学反応により発電した電気エネルギーで走行する自動車

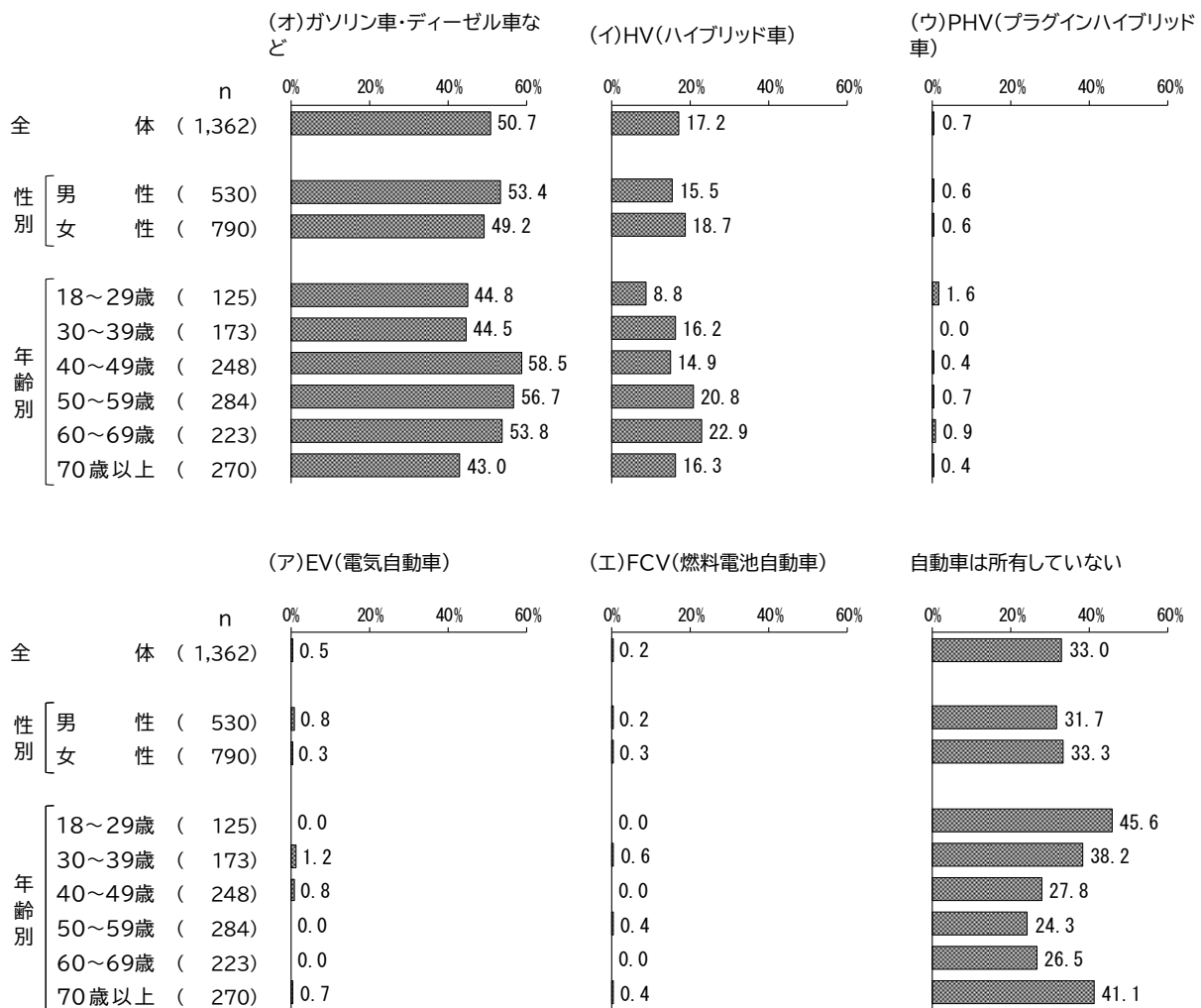


図Ⅲ－１２８ 家庭で所有する自動車の種類

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「(イ)HV（ハイブリッド車）」では、女性（18.7%）が男性（15.5%）より 3.2 ポイント高くなっている。

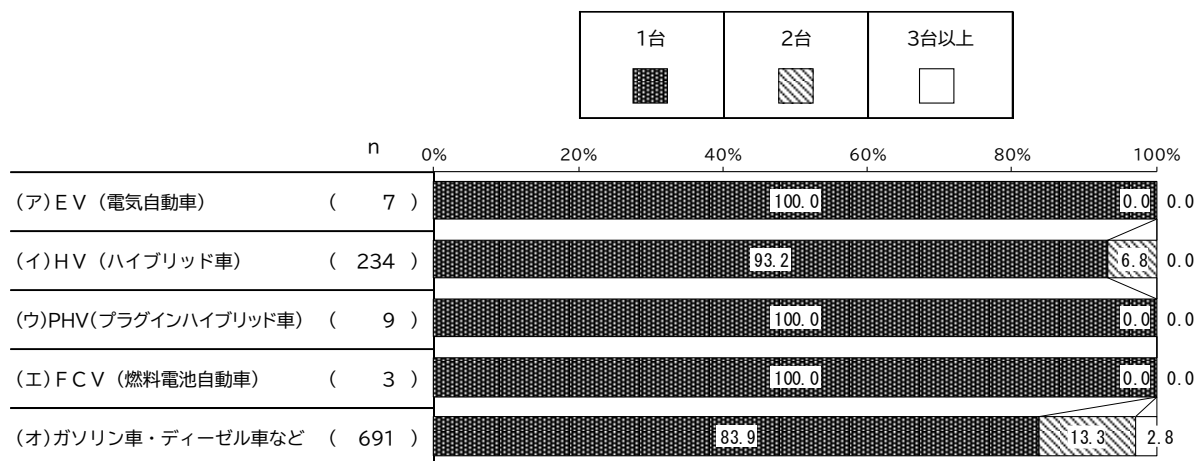
年齢別にみると、「(イ)HV（ハイブリッド車）」は、60～69 歳（22.9%）が最も高く、次いで 50～59 歳（20.8%）で 2 割を超えている。一方、「自動車は所有していない」は、18～29 歳（45.6%）、70 歳以上（41.1%）で 4 割を超えている。



図Ⅲ－１２９ 家庭で所有する自動車の種類（性別／年齢別）

(6-1) 家庭で所有する自動車の台数

ご家庭で所有している自動車の種類ごとに所有している台数を聞いたところ、「(イ)HV(ハイブリッド車)」(234人)は、1台が93.2%、2台が6.8%となっている。「(ア)EV(電気自動車)」(7人)、「(ウ)PHV(プラグインハイブリッド車)」(9人)、「FCV(エ)燃料電池自動車」(3人)の次世代自動車は、1台が100.0%となっている。



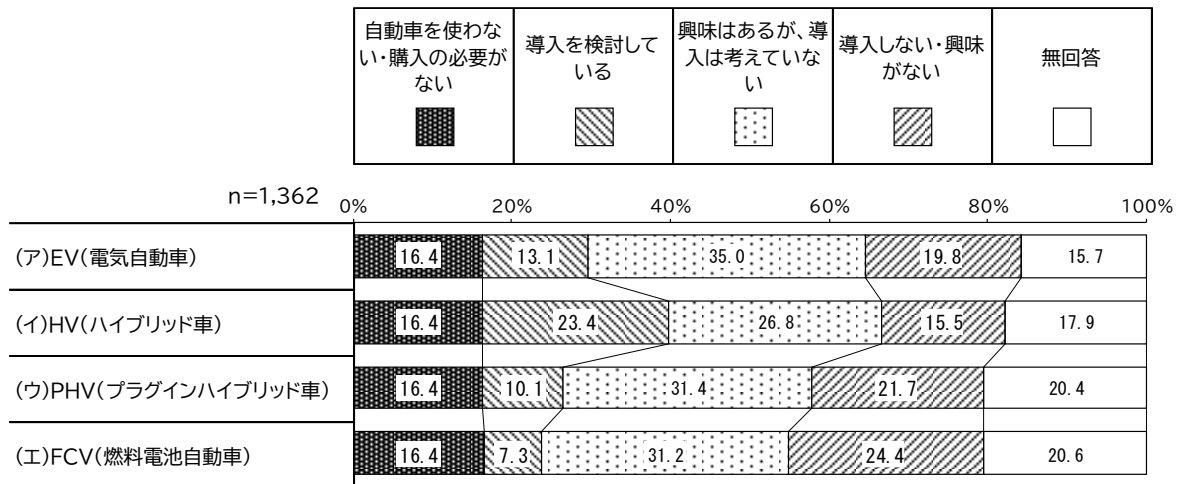
図Ⅲ-130 家庭で所有する自動車の台数

(7) 次世代自動車の導入意向

「導入を検討している」は「HV（ハイブリッド車）」が2割超で最も高い

【問23-1】今後、自動車を所有したり、買い替えなどをする時に、下記（ア）から（エ）の次世代自動車の導入を検討していますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をしてください。また、選んだ番号が「3または4」の場合は、《導入しない主な理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「3、4の場合の主な理由」欄にご記入ください。

今後、自動車を所有したり、買い替えなどをする時に、次世代自動車の導入を検討しているか聞いたところ、“導入を検討している”の割合は、「(イ)HV（ハイブリッド車）」（23.4%）が最も高く、次いで「(ア)EV（電気自動車）」（13.1%）、「(ウ)PHV（プラグインハイブリッド車）」（10.1%）などと続いている。なお、4種類の次世代自動車に共通して、“興味はあるが、導入は考えていない”の割合が26.8～35.0%と最も高くなっている。

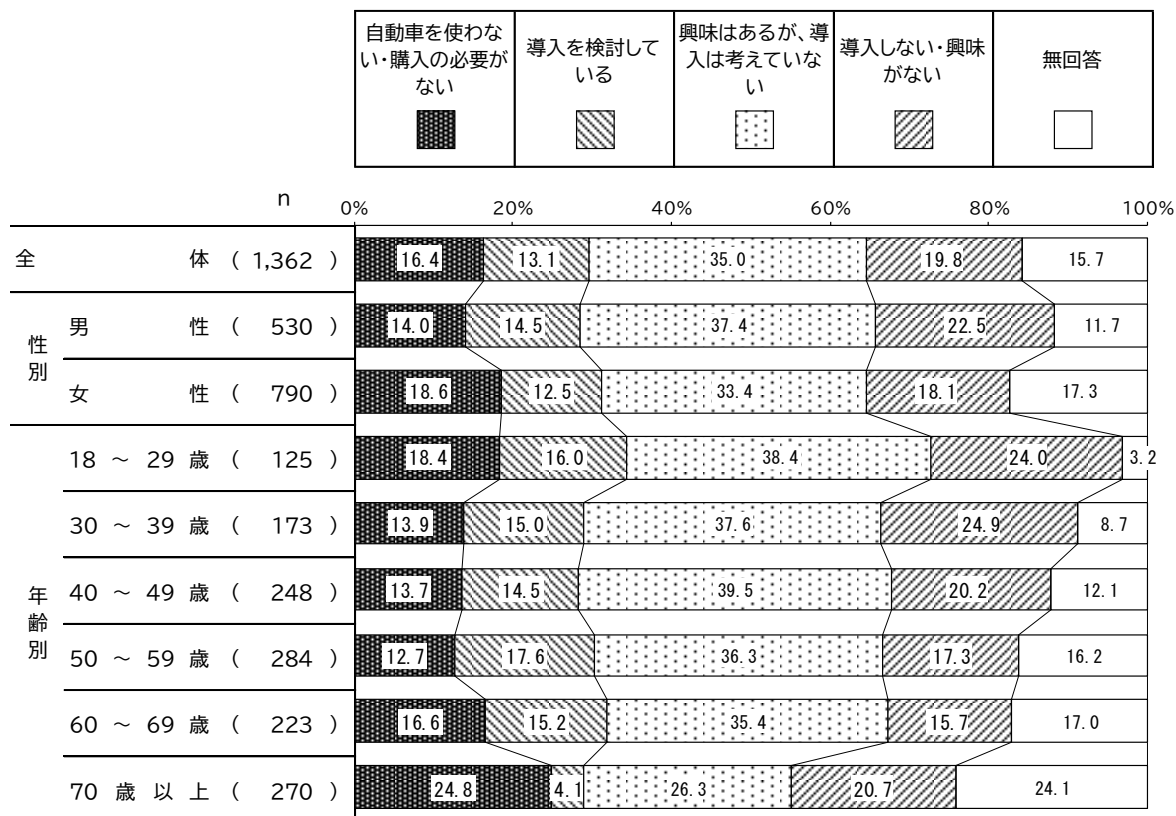


図Ⅲ－131 次世代自動車の導入意向

(7-1) (ア)EV (電気自動車)

性別で比較すると、「導入を検討している」は、男性（14.5%）が女性（12.5%）より 2.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「導入を検討している」は、最も低い 70 歳以上（4.1%）と最も高い 50～59 歳（17.6%）では、13.5 ポイントの差がある。



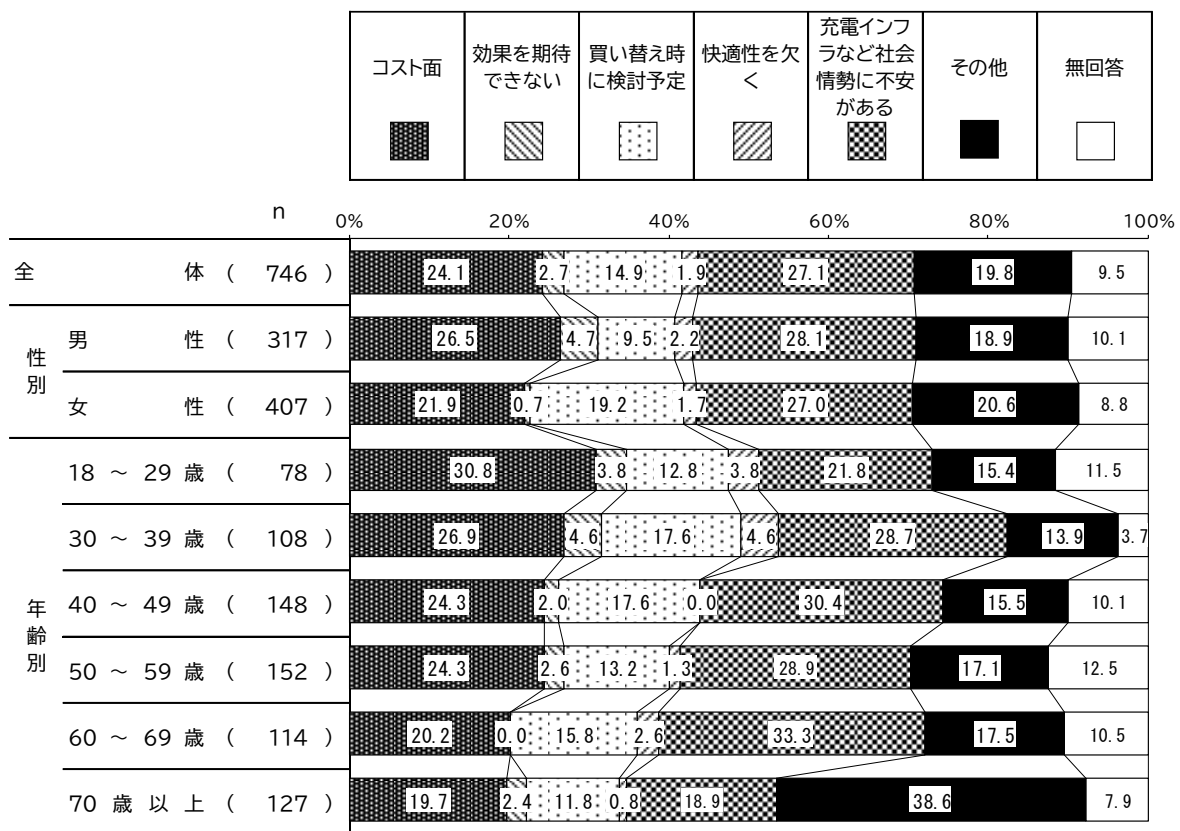
図Ⅲ－１３２ 次世代自動車の導入意向(ア)EV (電気自動車) (性別／年齢別)

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（746人）に、その理由について聞いたところ、「充電インフラなど社会情勢に不安がある」が27.1%で最も高く、次いで、「コスト面」が24.1%と続いている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性（26.5%）が女性（21.9%）より4.6ポイント高く、「買い替え時に検討予定」は女性（19.2%）が男性（9.5%）より9.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「充電インフラなど社会情勢に不安がある」は、最も低い70歳以上（18.9%）と最も高い60～69歳（33.3%）では14.4ポイントの差があり、「コスト面」では、年齢が下がるに従い高くなり、最も低い70歳以上（19.7%）と最も高い18～29歳（30.8%）では11.1ポイントの差がある。

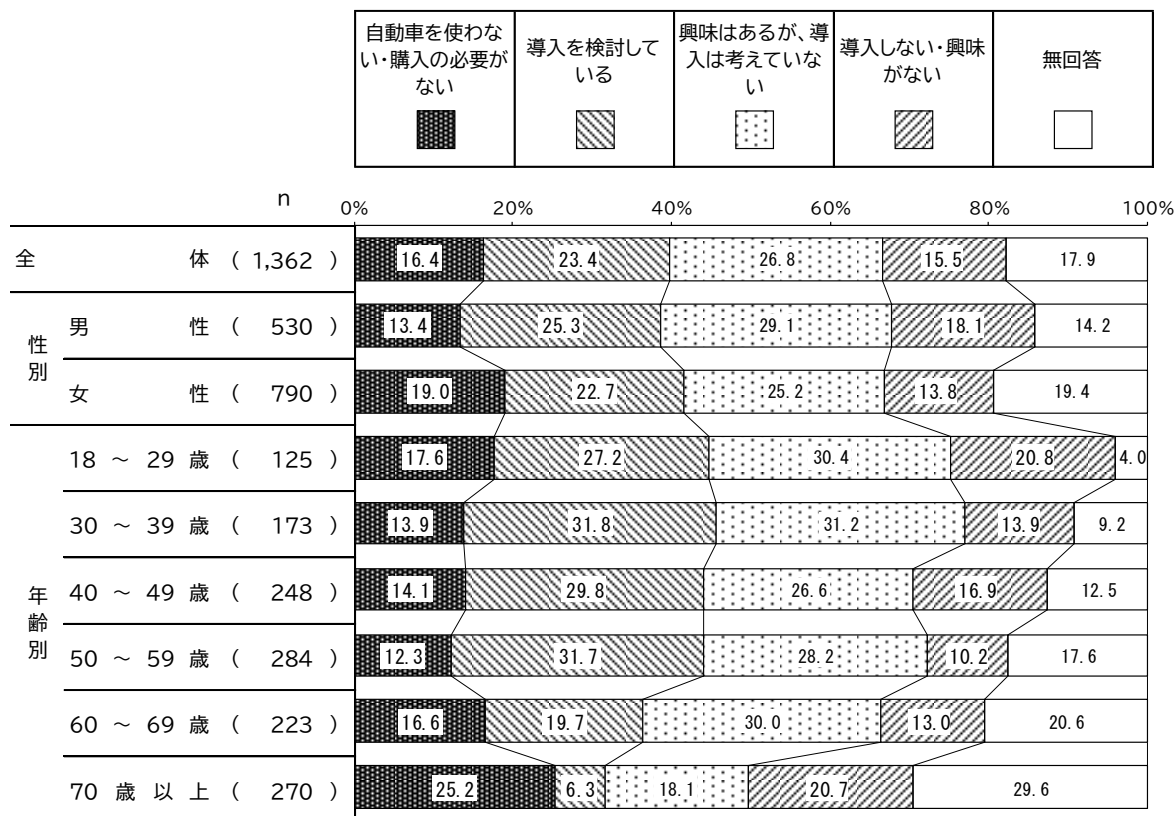


図Ⅲ－１３３ （ア）EV（電気自動車）（性別／年齢別）

(7-2) (イ)HV (ハイブリッド車)

性別で比較すると、「導入を検討している」は、男性（25.3%）が女性（22.7%）より 2.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「導入を検討している」は、最も低い 70 歳以上（6.3%）と最も高い 30～39 歳（31.8%）では、25.5 ポイントの差がある。



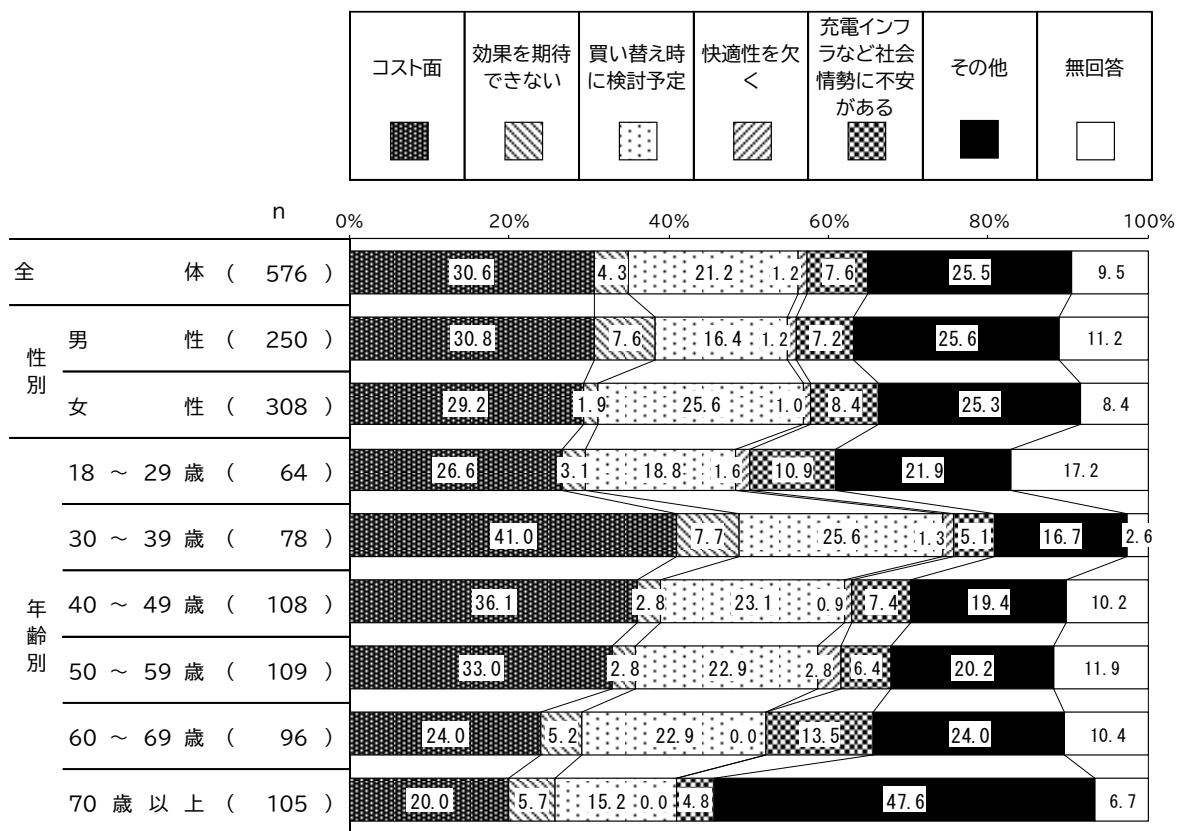
図Ⅲ－１３４ 次世代自動車の導入意向(イ)HV (ハイブリッド車) (性別／年齢別)

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（576人）に、その理由について聞いたところ、「コスト面」が30.6%で最も高く、「その他」（25.5%）に次いで「買い替え時に検討予定」が21.2%となっている。

性別で比較すると、「買い替え時に検討予定」は女性（25.6%）が男性（16.4%）より9.2ポイント高く、「効果を期待できない」は男性（7.6%）が女性（1.9%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」は、最も低い70歳以上（20.0%）と最も高い30～39歳（41.0%）では21.0ポイントの差があり、「買い替え時に検討予定」では、最も低い70歳以上（15.2%）と最も高い30～39歳（25.6%）では10.4ポイントの差がある。

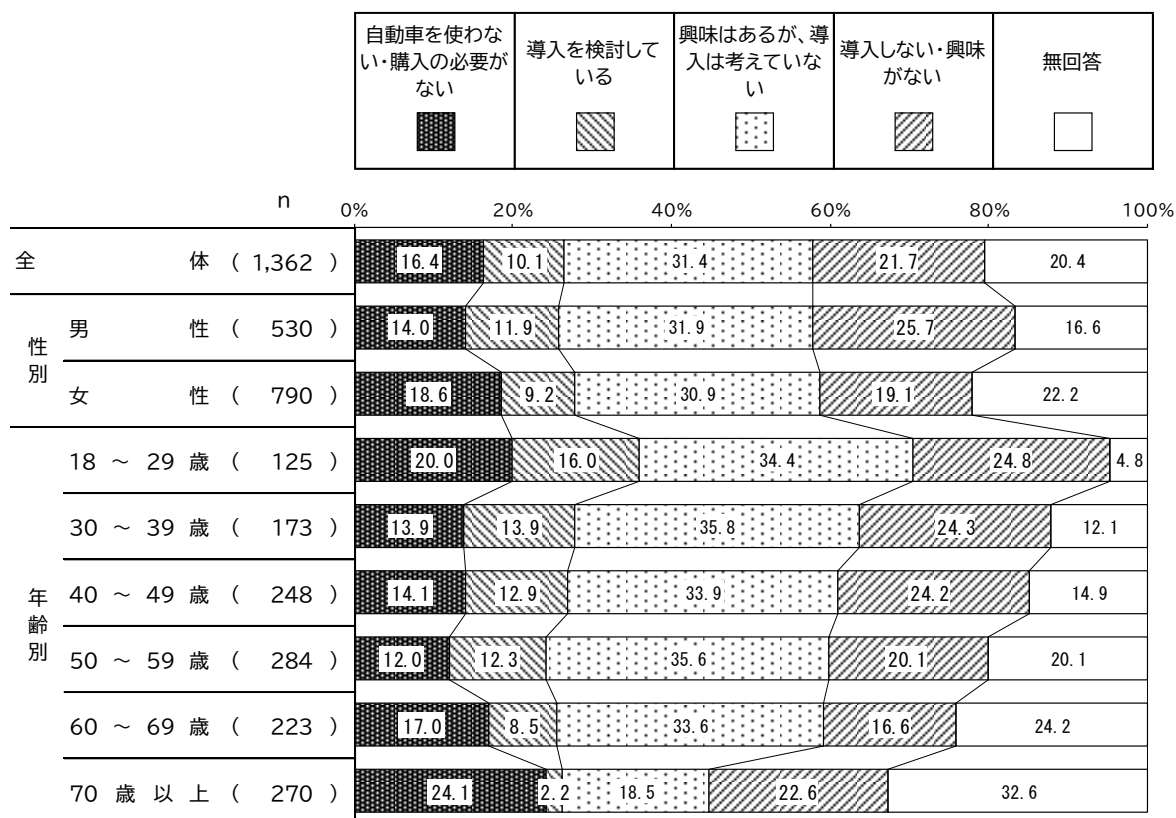


図Ⅲ－１３５ （イ）HV（ハイブリッド車）（性別／年齢別）

(7-3) (ウ)PHV (プラグインハイブリッド車)

性別で比較すると、「導入を検討している」は、男性（11.9%）が女性（9.2%）より 2.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「導入を検討している」は、最も低い 70 歳以上（2.2%）と最も高い 18～29 歳（16.0%）では、13.8 ポイントの差がある。



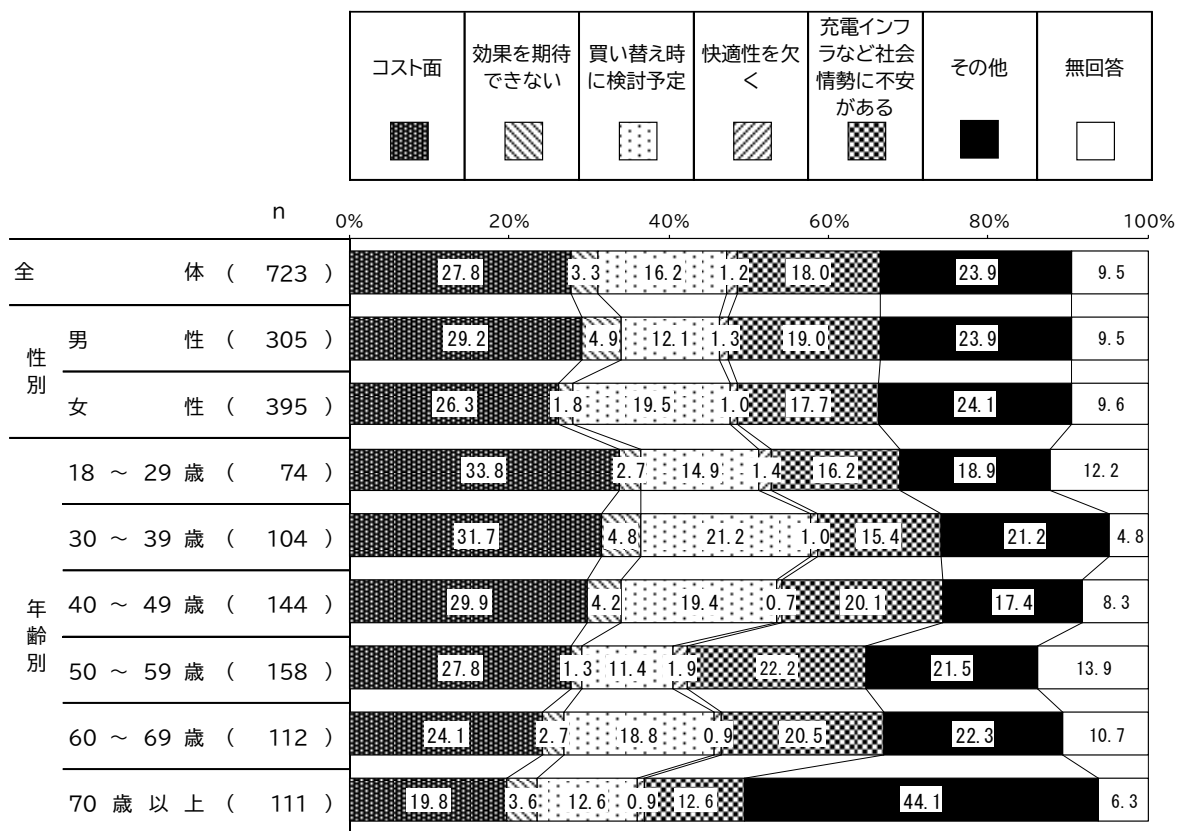
図Ⅲ－１３６ 次世代自動車の導入意向(ウ)PHV (プラグインハイブリッド車) (性別／年齢別)

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（723人）に、その理由について聞いたところ、「コスト面」が27.8%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「コスト面」は男性（29.2%）が女性（26.3%）より2.9ポイント高く、「買い替え時に検討予定」は女性（19.5%）が男性（12.1%）より7.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「コスト面」では、年齢が下がるに従い高くなり、最も低い70歳以上（19.8%）と最も高い18～29歳（33.8%）では14.0ポイントの差があり、「充電インフラなど社会情勢に不安がある」は、最も低い70歳以上（12.6%）と最も高い50～59歳（22.2%）では9.6ポイントの差がある。

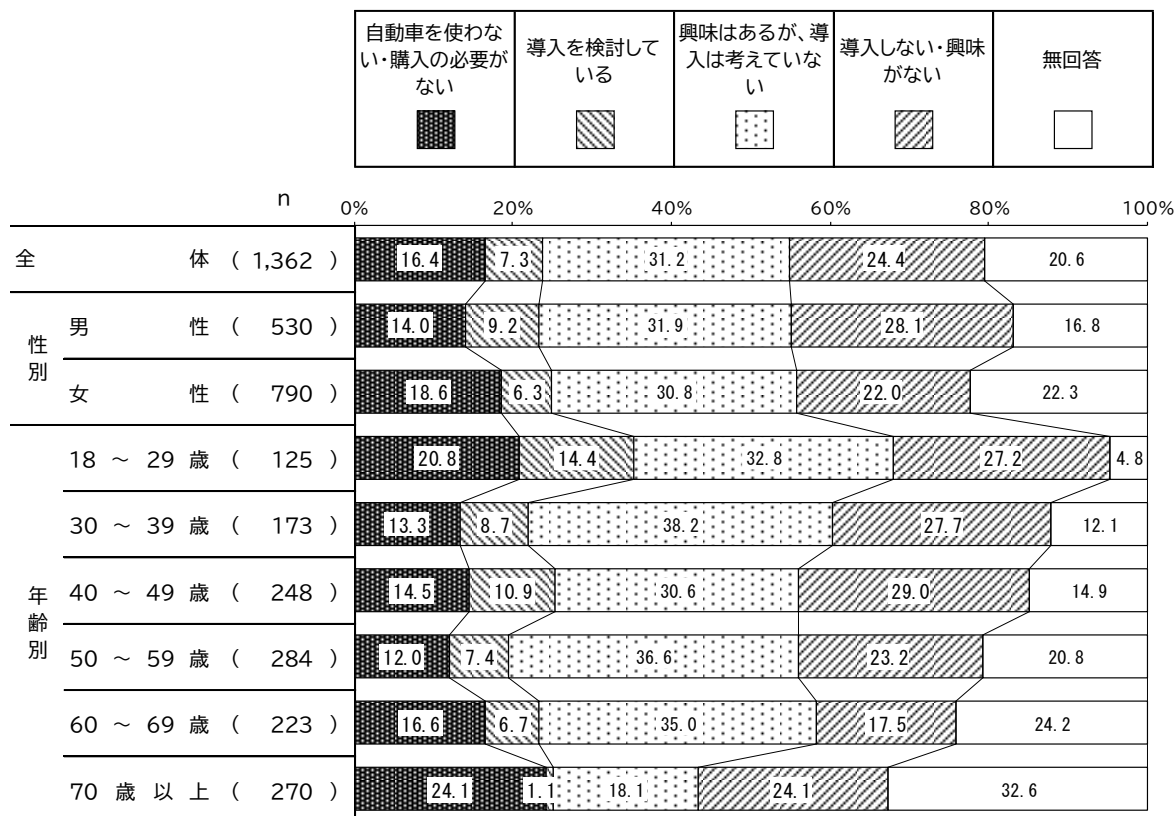


図Ⅲ－１３７ （ウ）PHV（プラグインハイブリッド車）（性別／年齢別）

(7-4) (エ)FCV (燃料電池自動車)

性別で比較すると、「導入を検討している」は、男性（9.2%）が女性（6.3%）より 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「導入を検討している」は、最も低い 70 歳以上（1.1%）と最も高い 18～29 歳（14.4%）では、13.3 ポイントの差がある。



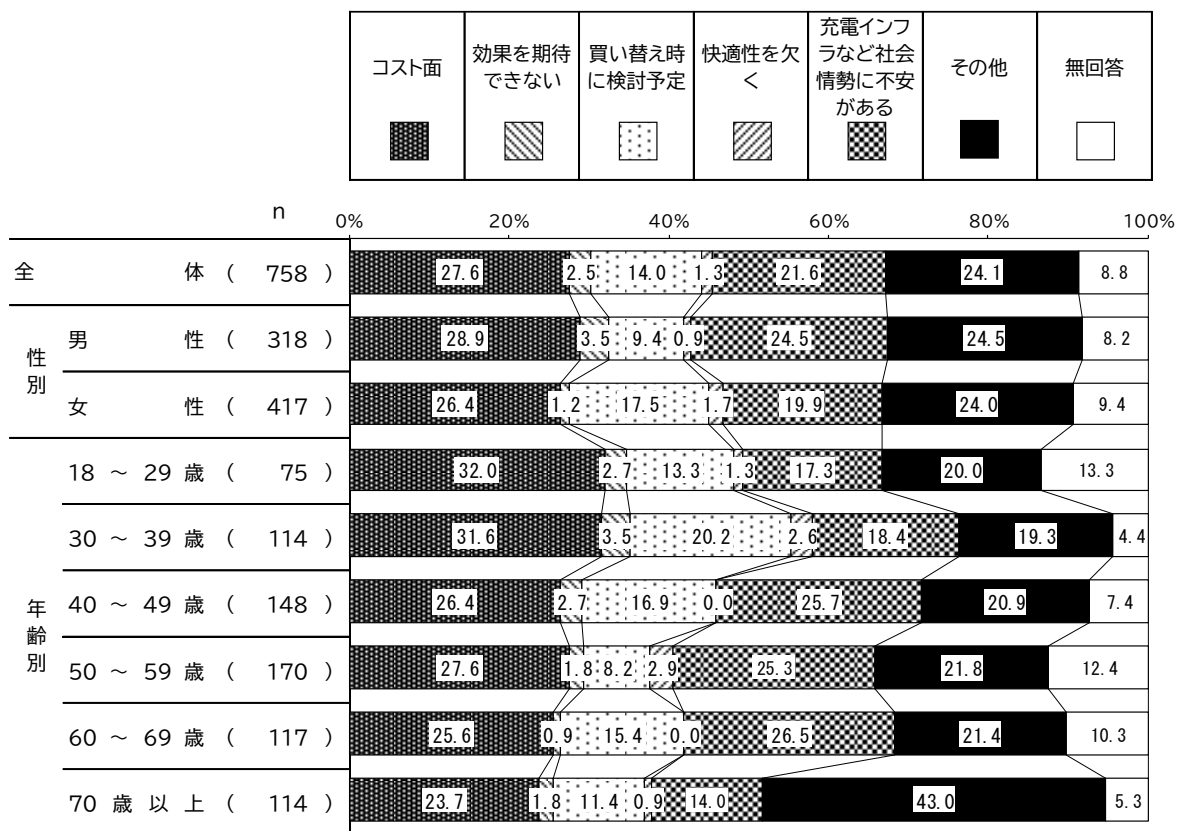
図Ⅲ－１３８ 次世代自動車の導入意向(エ)FCV (燃料電池自動車) (性別／年齢別)

【導入していない理由】

「興味はあるが、導入は考えていない」または「導入しない・興味がない」と答えた人（758人）に、その理由について聞いたところ、「コスト面」が27.6%で最も高くなっている。

性別で比較すると、「充電インフラなど社会情勢に不安がある」は男性（24.5%）が女性（19.9%）より4.6ポイント高く、「買い替え時に検討予定」は女性（17.5%）が男性（9.4%）より8.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「充電インフラなど社会情勢に不安がある」は、最も低い70歳以上（14.0%）と最も高い60～69歳（26.5%）では12.5ポイントの差があり、「コスト面」では、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い70歳以上（23.7%）と最も高い18～29歳（32.0%）では8.3ポイントの差がある。



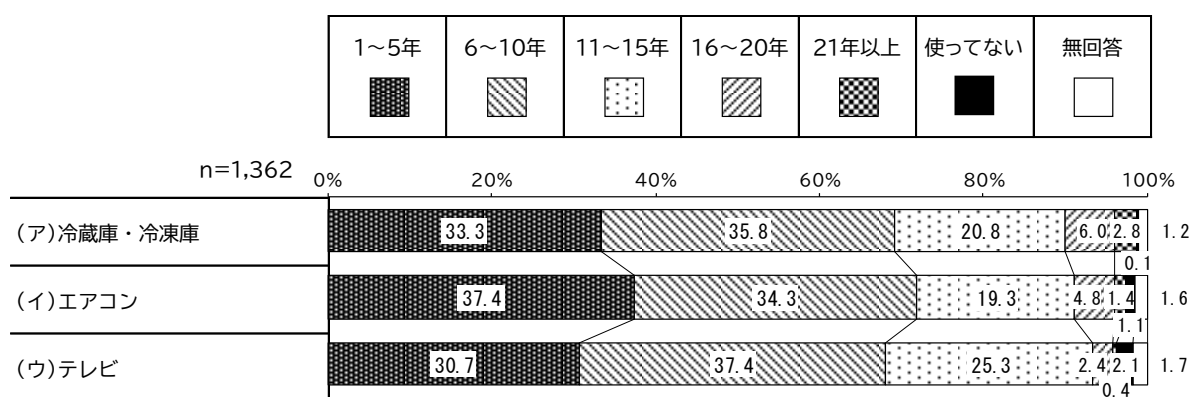
図Ⅲ－139 (エ) FCEV（燃料電池自動車）（性別／年齢別）

(8) 冷蔵庫等電化製品の使用年数

「エアコン」は「1～5年」が3割超、「テレビ」は「6～10年」が3割超

【問24】省エネルギー性能の高い家電は電気の使用量を抑えることで、温暖化対策につながるだけでなく、電気代を安くすることにもつながります。省エネ家電の買い替えについてお聞きします。下記の(ア)から(ウ)の電化製品について、おおよそ何年ぐらい使用していますか。あてはまる年数の番号に○をしてください。

冷蔵庫・冷凍庫、エアコン、テレビ等、電化製品の使用年数の使用年数を聞いたところ、「(ア)冷蔵庫・冷凍庫」と「(ウ)テレビ」は、「6～10年」がそれぞれ35.8%、37.4%と最も高く、「(イ)エアコン」では、「1～5年」が37.4%で最も高くなっている。

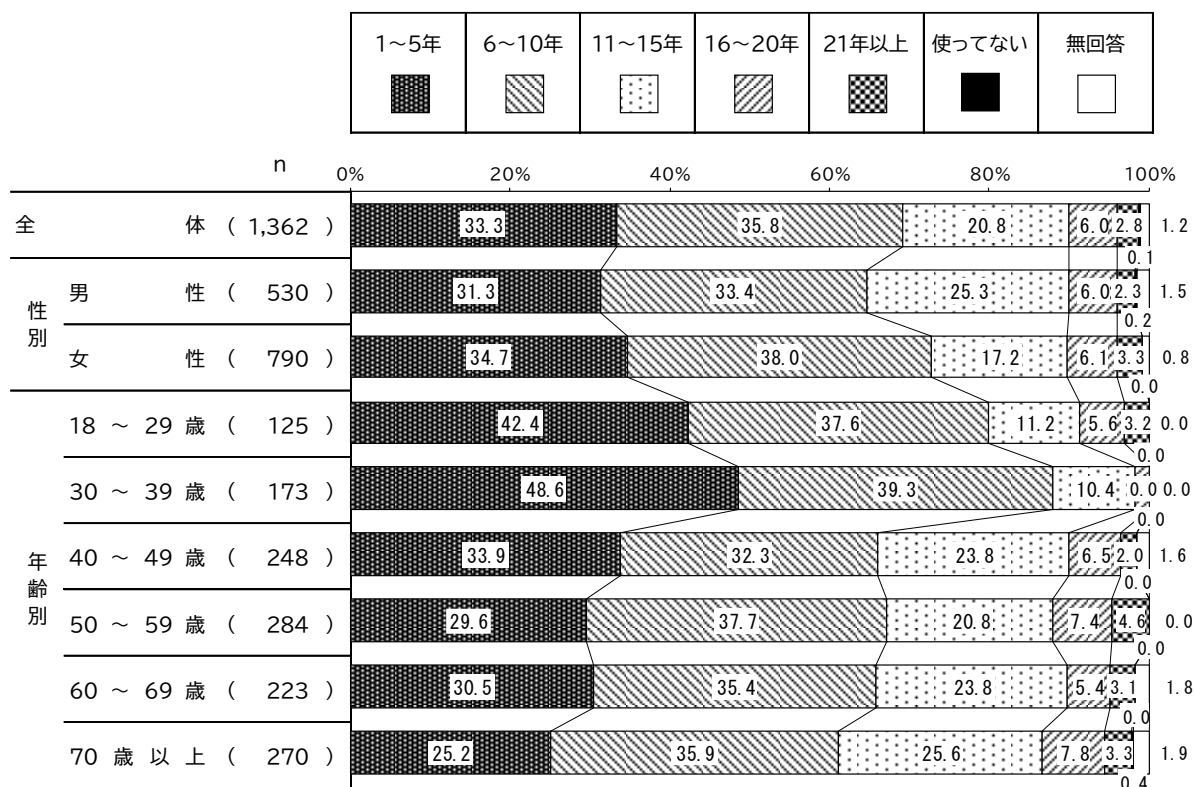


図Ⅲ－140 冷蔵庫等電化製品の使用年数

(8-1) (ア) 冷蔵庫・冷凍庫

性別で比較すると、「6～10年」は、女性（38.0%）が男性（33.4%）より 4.6 ポイント高く、「11～15年」では、男性（25.3%）が女性（17.2%）より 8.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「1～5年」は、最も低い 70 歳以上（25.2%）と最も高い 30～39 歳（48.6%）では、23.4 ポイントの差がある。

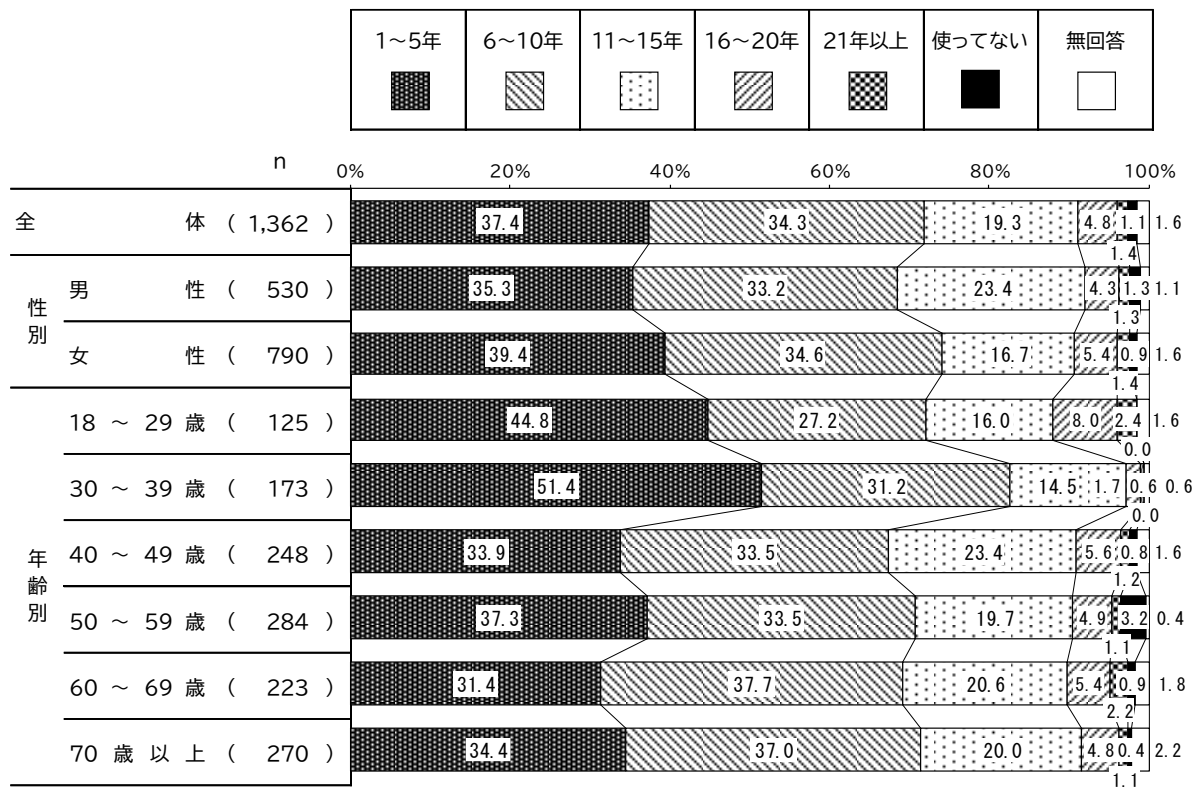


図Ⅲ－１４１ 電化製品の使用年数(ア)冷蔵庫・冷凍庫（性別／年齢別）

(8-2) (イ)エアコン

性別で比較すると、「1～5年」は、女性（39.4%）が男性（35.3%）より 4.1 ポイント高く、「11～15年」では、男性（23.4%）が女性（16.7%）より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「1～5年」は、最も低い 60～69 歳（31.4%）と最も高い 30～39 歳（51.4%）では、20.0 ポイントの差がある。

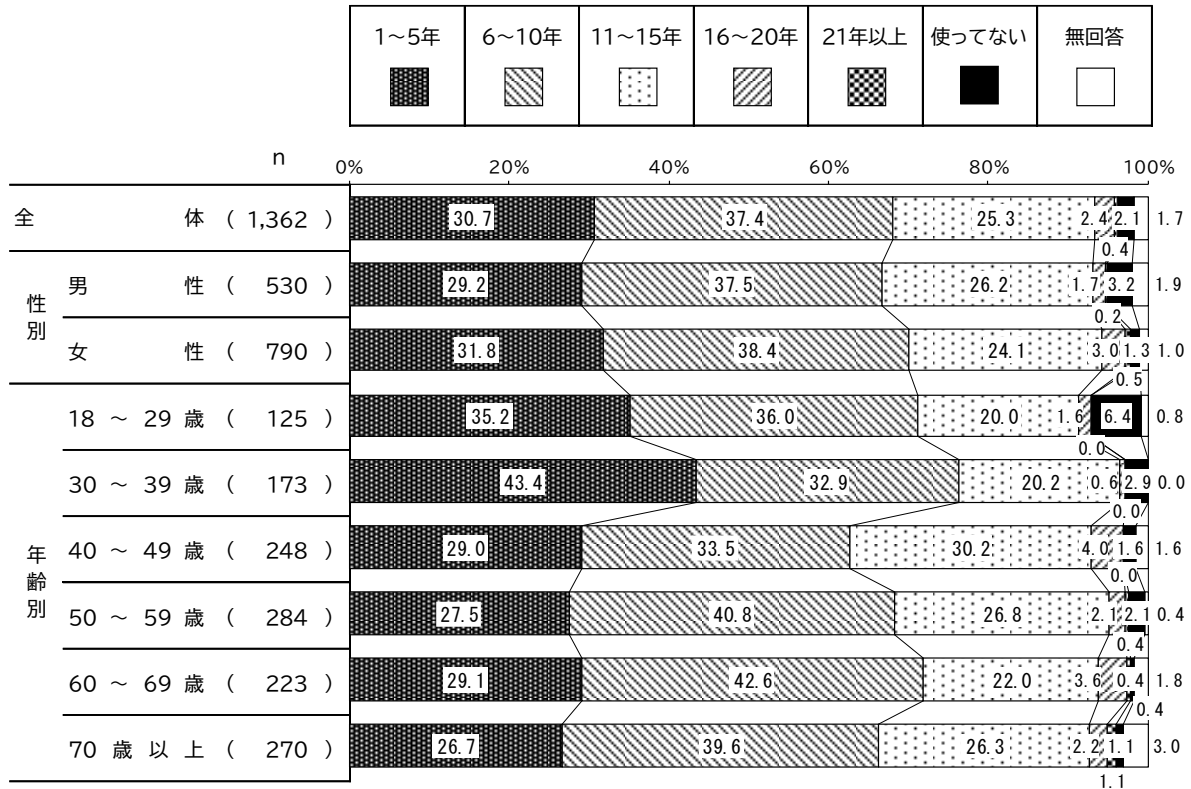


図Ⅲ－１４２ 電化製品の使用年数(イ)エアコン（性別／年齢別）

(8-3) (ウ) テレビ

性別で比較すると、「1～5年」は、女性（31.8%）が男性（29.2%）より2.6ポイント高く、「11～15年」では、男性（26.2%）が女性（24.1%）より2.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「1～5年」は、最も低い70歳以上（26.7%）と最も高い30～39歳（43.4%）では、16.7ポイントの差がある。



図Ⅲ－１４３ 電化製品の使用年数(ウ)テレビ（性別／年齢別）

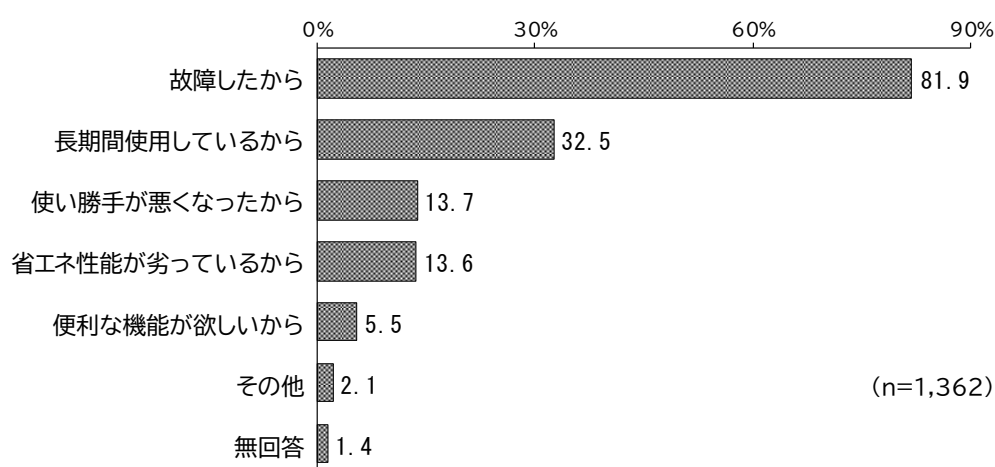
(9) 冷蔵庫等電化製品の買い替えの契機

「故障したから」が8割超

【問24-1】冷蔵庫やエアコンなどの電化製品の買い替えをするきっかけは何ですか。次の中から選んで○をしてください。(○はいくつでも)

冷蔵庫やエアコンなどの電化製品の買い替えをする契機について聞いたところ、「故障したから」が81.9%と最も高く、次いで、「長期間使用しているから」(32.5%)、「使い勝手が悪くなったから」(13.7%)、「省エネ性能が劣っているから」(13.6%)などと続いている。

「その他」については、「引っ越し・転居」(11件)などが挙げられている



図Ⅲ－１４４ 冷蔵庫等電化製品の買い替えの契機

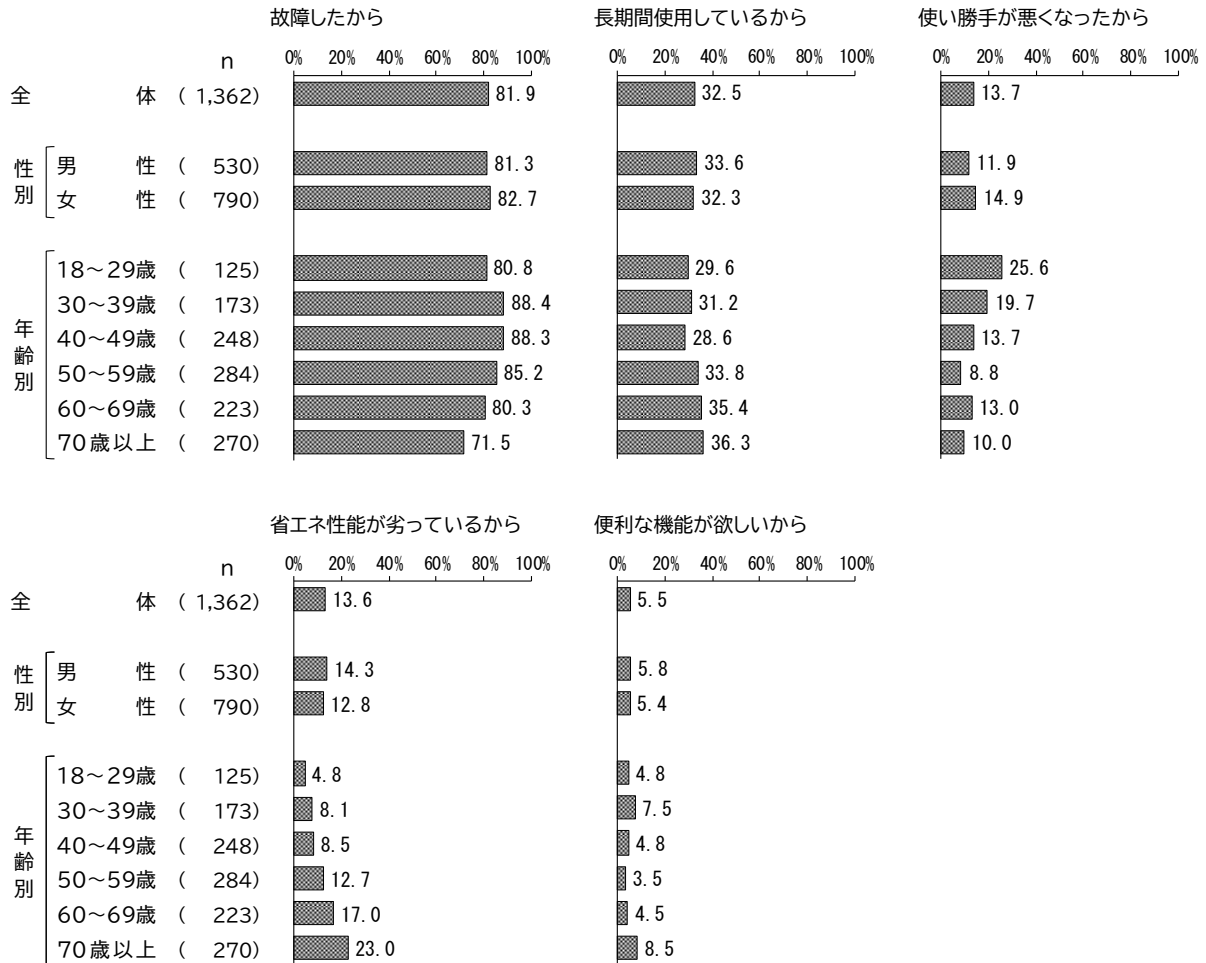
表Ⅲ－１７ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
引っ越し・転居	11
建て替え・リフォーム	3
その他	8
(記載なし)	6
合 計	28

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「使い勝手が悪くなったから」は、女性（14.9％）が男性（11.9％）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「故障したから」は、30～39歳で88.4％と最も高く、「使い勝手が悪くなったから」は、18～29歳で25.6％と高くなっている。「省エネ性能が劣っているから」は、年齢が上がるに従い高くなっており、最も低い18～29歳（4.8％）と最も高い70歳以上（23.0％）では18.2ポイントの差がある。



図Ⅲ－145 冷蔵庫等電化製品の買い替えの契機（性別／年齢別）

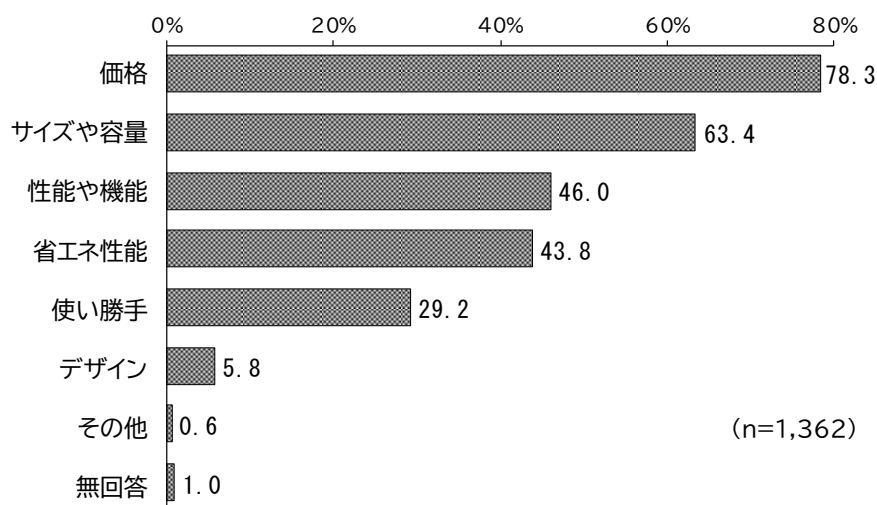
(10) 冷蔵庫等の電化製品買い替え・新規購入時の商品選びの優先項目

「価格」が8割弱、「サイズや容量」が6割超

【問24-2】冷蔵庫やエアコンなどの電化製品の買い替えや新規購入に際して、どの項目を優先して商品を選びますか。次の中から選んで○をしてください。(○は3つまで)

冷蔵庫やエアコンなどの電化製品の買い替えや新規購入に際して、どの項目を優先して商品を選ぶか聞いたところ、「価格」が78.3%と最も高く、次いで「サイズや容量」(63.4%)、「性能や機能」(46.0%)、「省エネ性能」(43.8%)、「使い勝手」(29.2%)と続いている。

「その他」については、「メーカー」(3件)などが挙がっている



図Ⅲ－１４６ 冷蔵庫等の電化製品買替・新規購入時の商品選びの優先項目

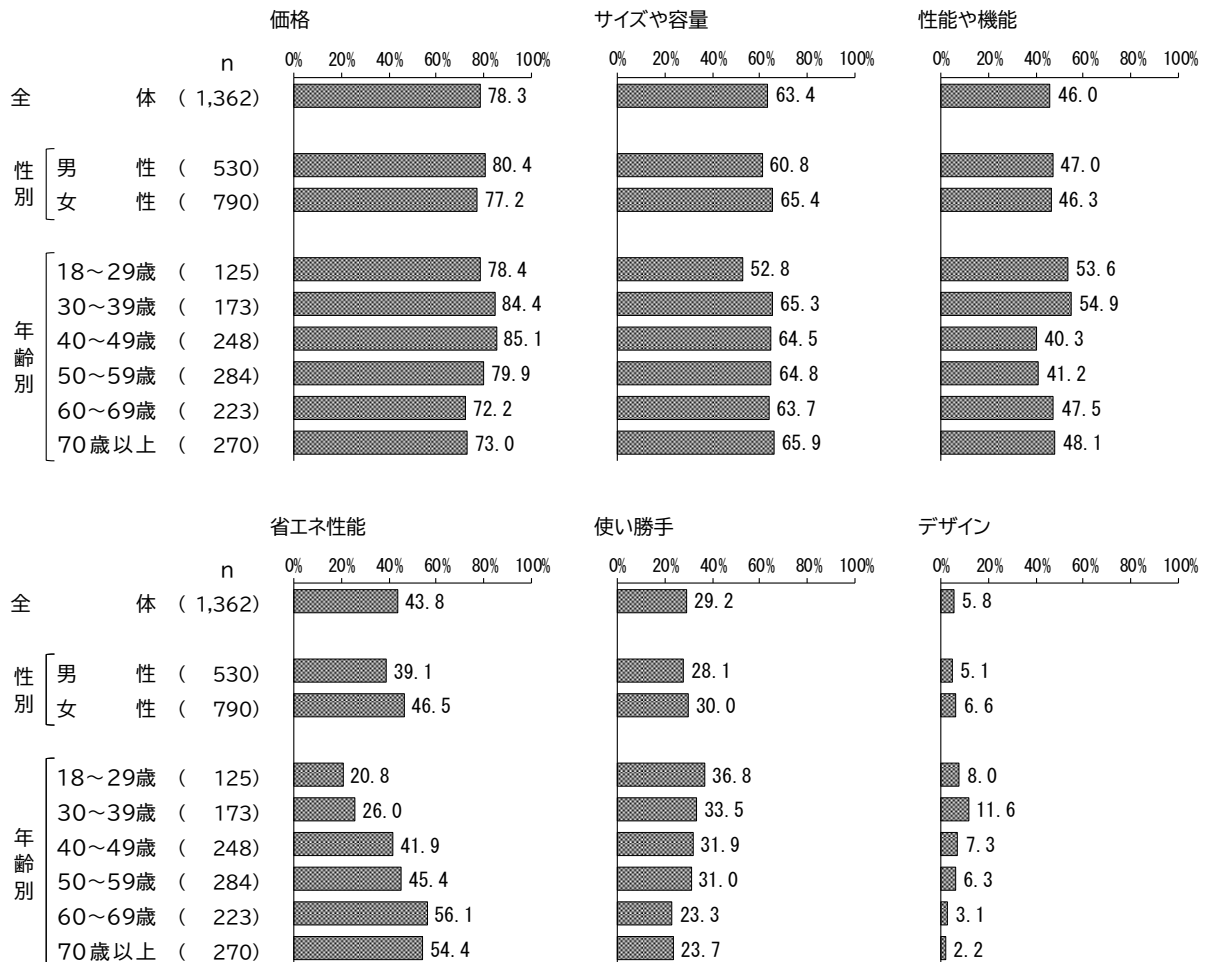
表Ⅲ－１８ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
メーカー	3
その他	4
(記載なし)	1
合 計	8

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「価格」では、男性（80.4%）が女性（77.2%）より 3.2 ポイント高く、「サイズや容量」、「省エネ性能」では女性（65.4%、46.5%）が男性（60.8%、39.1%）より各々4.6、7.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「省エネ性能」の割合は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、60～69 歳（56.1%）と 70 歳以上（54.4%）で 5 割を超えている。「使い勝手」は、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も低い 60～69 歳（23.3%）と最も高い 18～29 歳（36.8%）では 13.5 ポイントの差がある。



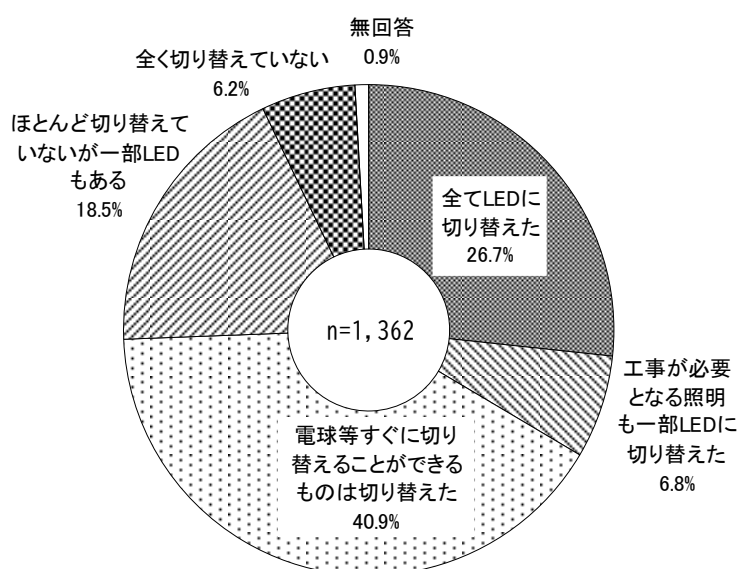
図Ⅲ－１４７ 冷蔵庫等の電化製品買替・新規購入時の商品選びの優先項目（性別／年齢別）

(11) 自宅の照明機器のLED電球への切替状況

「電球等すぐに切り替えることができるものは切り替えた」が4割超

【問25】ご自宅の照明機器のうち、蛍光灯や白熱電球からどの程度LED電球に切り替えられていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(○は1つ)

ご自宅の照明機器のうち、蛍光灯や白熱電球からどの程度LED電球に切り替えているか聞いたところ、「電球等すぐに切り替えることができるものは切り替えた」が40.9%で最も高く、次いで、「全てLEDに切り替えた」(26.7%)、「ほとんど切り替えていないが一部LEDもある」(18.5%)、「工事が必要となる照明も一部LEDに切り替えた」(6.8%)となっている。一方、「全く切り替えていない」は6.2%となっている。

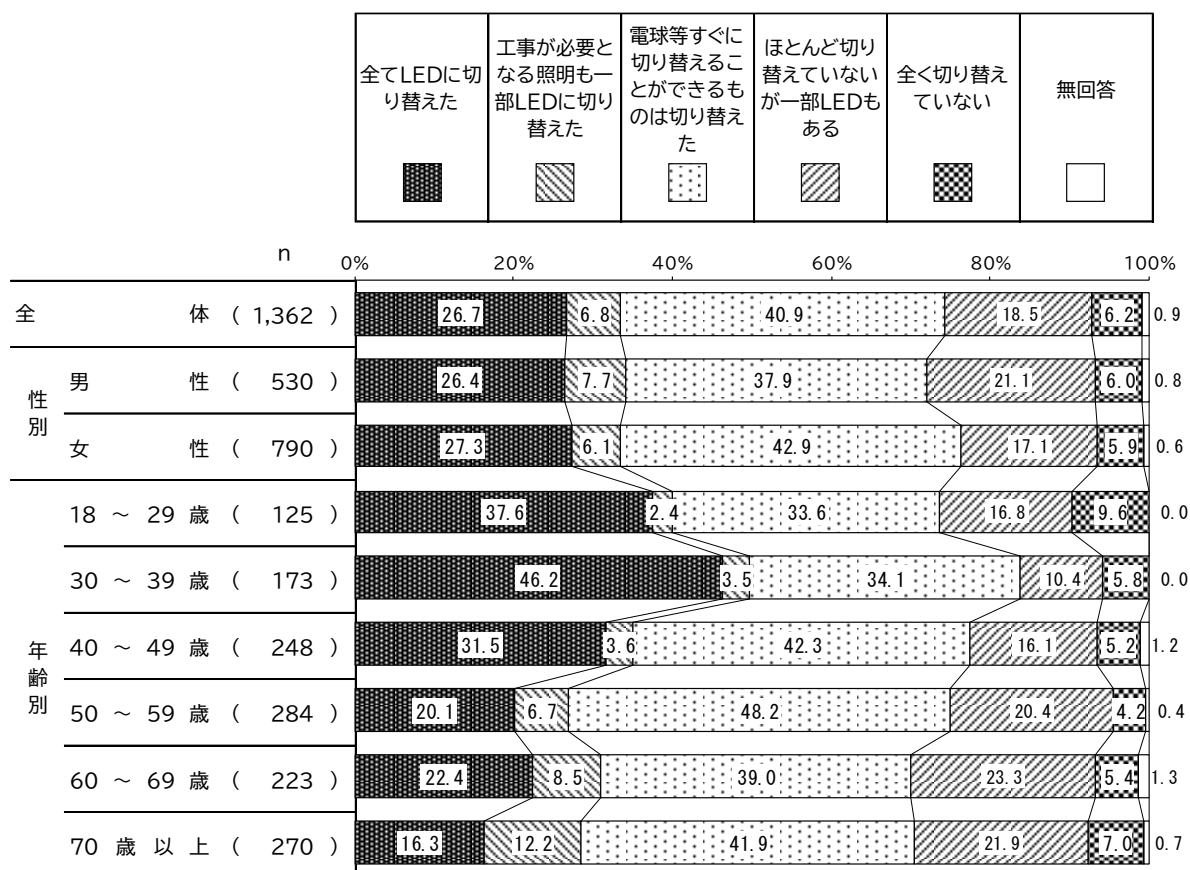


図Ⅲ－148 自宅の照明機器のLED電球への切替状況

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「電球等すぐに切り替えることができるものは切り替えた」では、女性（42.9%）が男性（37.9%）より 5.0 ポイント高く、「ほとんど切り替えていないが一部 LED もある」は、男性（21.1%）が女性（17.1%）より 4.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「全て LED に切り替えた」は、最も高い 30～39 歳では 46.2%となっており、最も低い 70 歳以上の 16.3%と比べて 29.9 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１４９ 自宅の照明機器の LED 電球への切替状況（性別／年齢別）

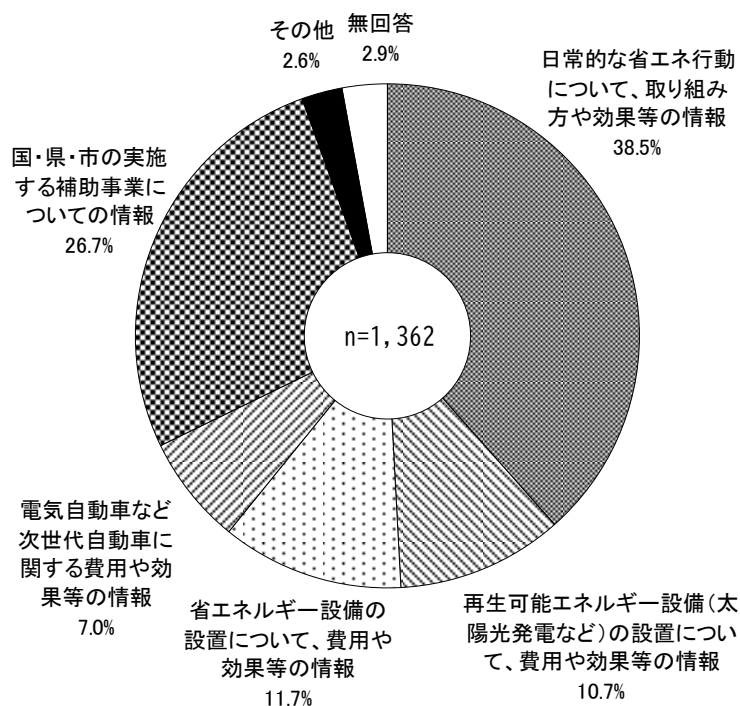
(12) 市から発信して欲しい情報(地球温暖化防止)

「日常的な省エネ行動について、取り組み方や効果等の情報」が4割弱

【問26】地球温暖化防止のために、あなたが必要とする市からの情報として最もあてはまるものを、次の中から1つ選んで○をしてください。(○は1つ)

地球温暖化防止のために必要とする市からの情報について聞いたところ、「日常的な省エネ行動について、取り組み方や効果等の情報」が38.5%で最も高く、次いで、「国・県・市の実施する補助事業についての情報」(26.7%)、「省エネルギー設備の設置について、費用や効果等の情報」(11.7%)、「再生可能エネルギー設備(太陽光発電など)の設置について、費用や効果等の情報」(10.7%)、「電気自動車など次世代自動車に関する費用や効果等の情報」(7.0%)となっている。

「その他」については、「市からの情報は必要ない」(9件)などが挙げられている



図Ⅲ－１５０ 市から発信して欲しい情報(地球温暖化防止)

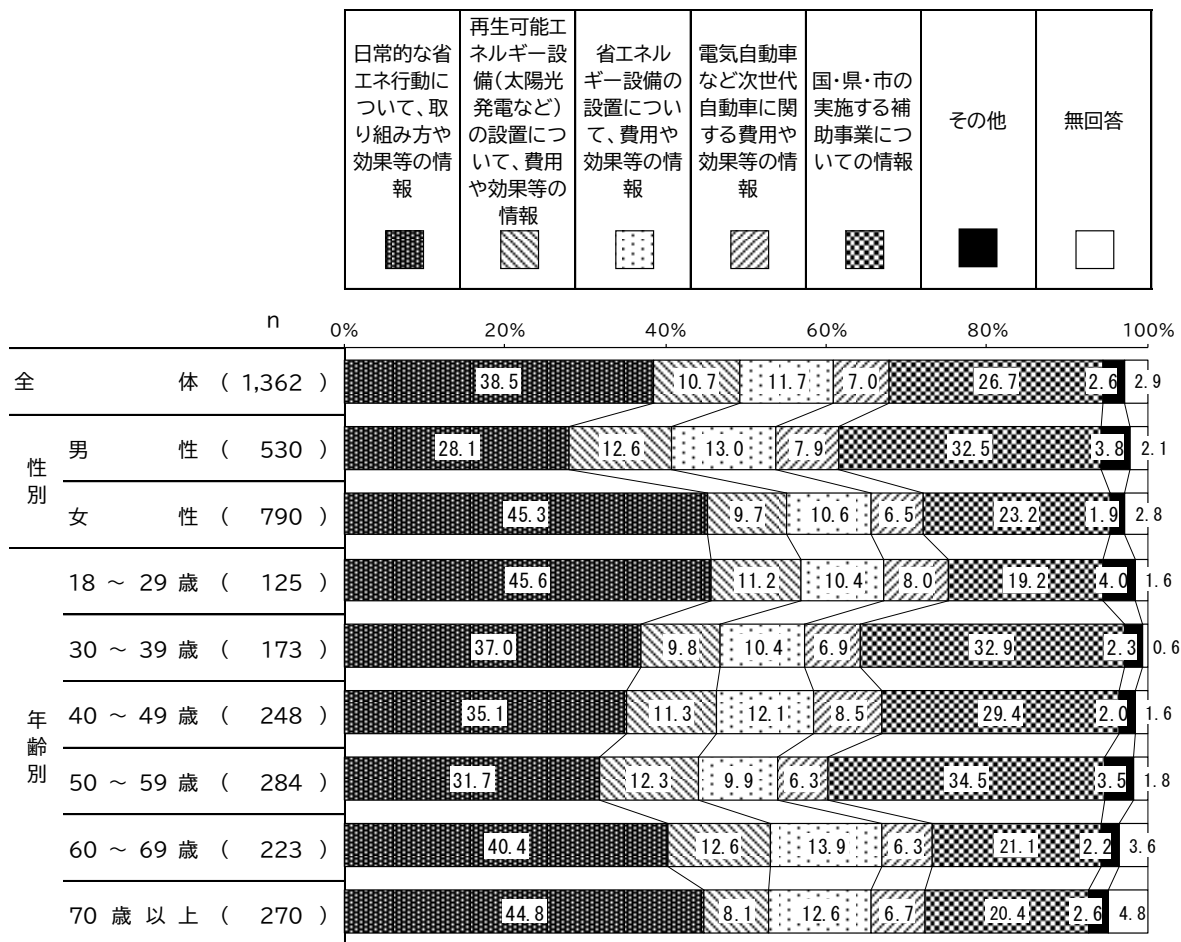
表Ⅲ－１９ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
市からの情報は必要ない	9
温暖化防止策実施のための給付金・ポイント等の情報	4
市からの情報は伝わっていない・見たことがない	3
わからない	2
その他	15
(記載なし)	3
合 計	36

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「日常的な省エネ行動について、取り組み方や効果等の情報」では、女性（45.3%）が男性（28.1%）より 17.2 ポイント高く、「国・県・市の実施する補助事業についての情報」は、男性（32.5%）が女性（23.2%）より 9.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「日常的な省エネ行動について、取り組み方や効果等の情報」は、18～29 歳で 45.6%と最も高く、「国・県・市の実施する補助事業についての情報」は、50～59 歳で 34.5%と最も高くなっている。



図Ⅲ－１５１ 市から発信して欲しい情報(地球温暖化防止) (性別／年齢別)

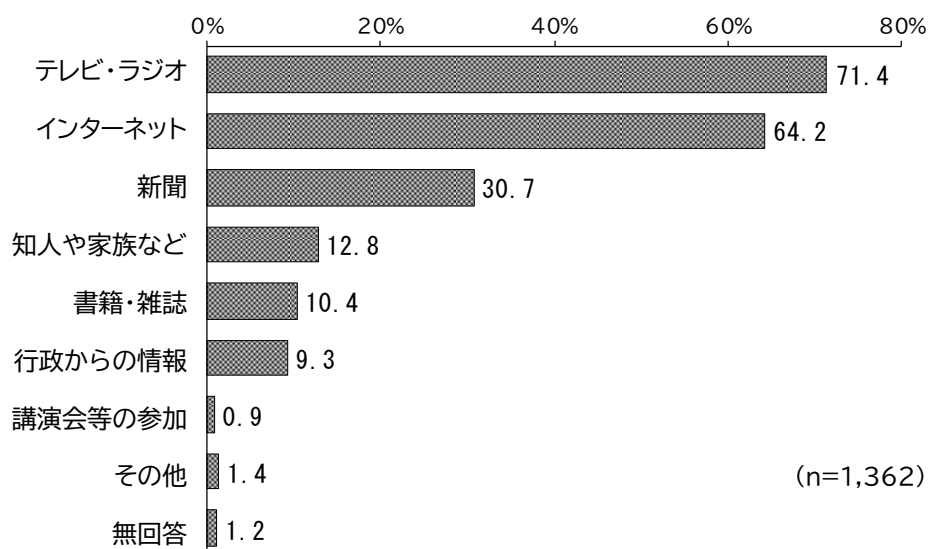
(13) 地球温暖化や省エネの主たる情報源

「テレビ・ラジオ」が7割超、「インターネット」は6割超

【問27】あなたは、地球温暖化や省エネに関する情報を主にどこから得ていますか。次の中からあてはまるものを3つ選んで○をしてください。(○は3つまで)

地球温暖化や省エネに関する情報を主にどこから得ているか聞いたところ、「テレビ・ラジオ」が71.4%で最も高く、次いで、「インターネット」(64.2%)が6割を超えて高く、「新聞」(30.7%)、「知人や家族など」(12.8%)、「書籍・雑誌」(10.4%)、「行政からの情報」(9.3%)などと続いている。

「その他」については、「職場・社内研修」(7件)などが挙げられている



図Ⅲ－152 地球温暖化や省エネの主たる情報源

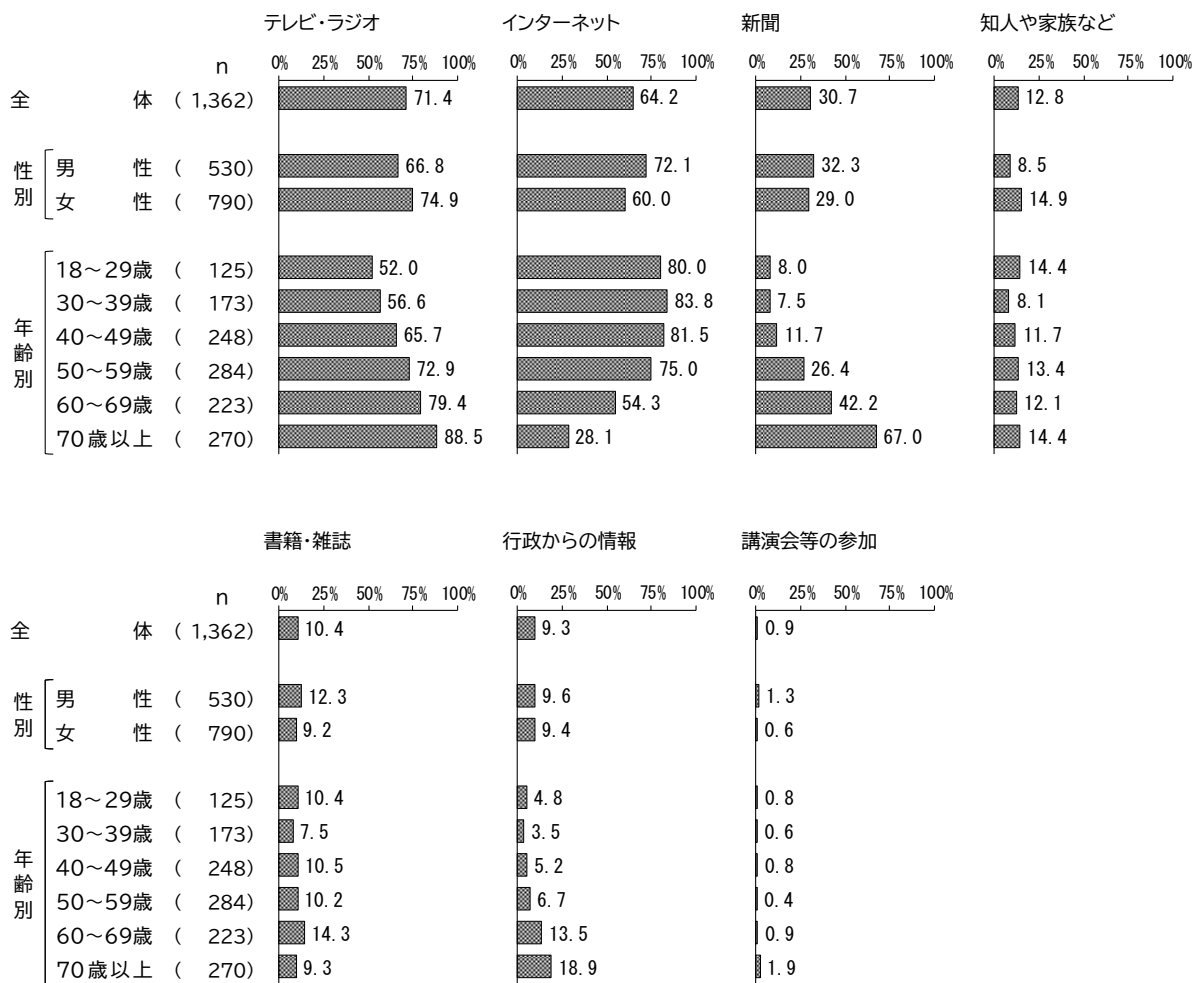
表Ⅲ－20 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
職場・社内研修	7
店舗・施設	5
その他	2
得ていない・特になし	4
(記載なし)	1
合 計	19

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「テレビ・ラジオ」は、女性（74.9%）が男性（66.8%）より 8.1 ポイント高く、「インターネット」は、男性（72.1%）が女性（60.0%）より 12.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「テレビ・ラジオ」は、年齢が上がるに従い高くなり、最も低い 18～29 歳（52.0%）と最も高い 70 歳以上（88.5%）では 36.5 ポイントの差がある。また、「新聞」は、最も低い 30～39 歳（7.5%）と最も高い 70 歳以上（67.0%）で 59.5 ポイントの差があり、「インターネット」は、最も低い 70 歳以上（28.1%）と最も高い 30～39 歳（83.8%）で 55.7 ポイントの差がある。

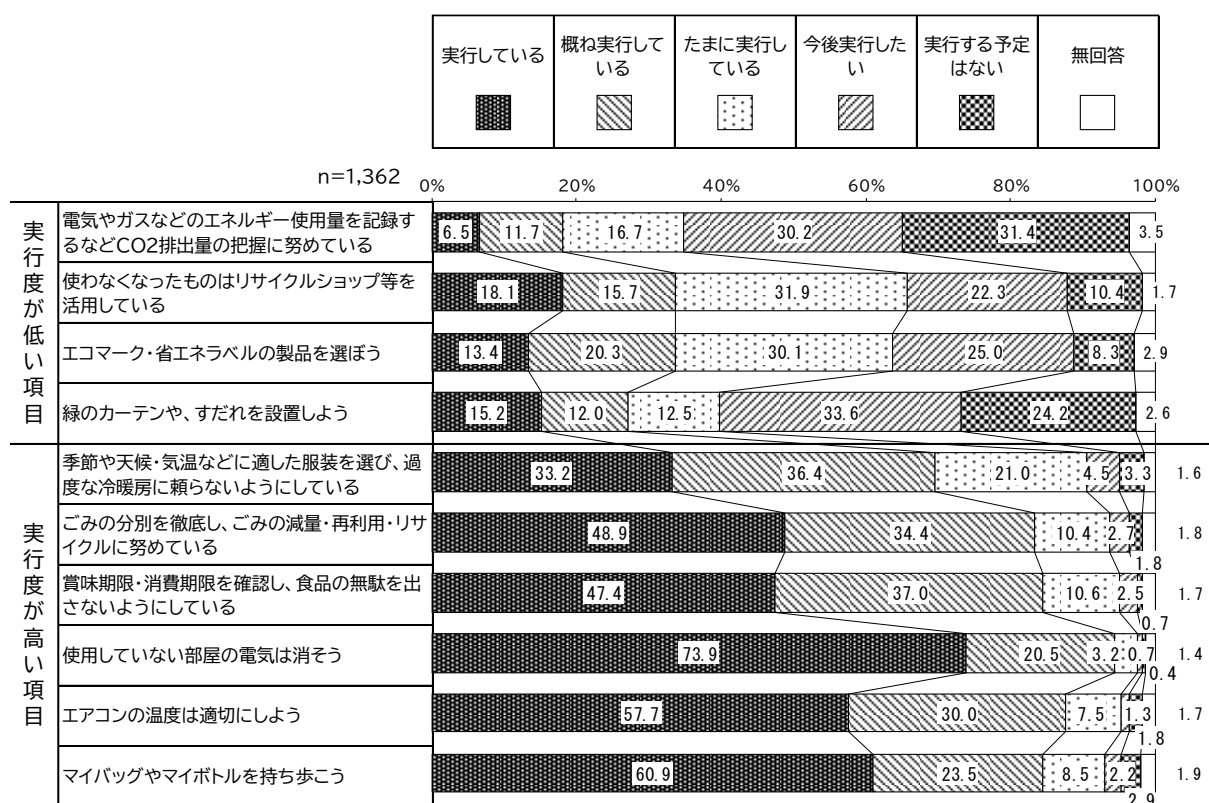


図Ⅲ－１５３ 地球温暖化や省エネの主たる情報源（性別／年齢別）

(14) 「地球温暖化」概観

実行度が高い項目は「手軽」にでき、かつ「もったいない」意識が働くが、実行度が低い項目は「手間」がかかり、その効果にも疑問があるものが多い

地球温暖化対策の実行状況を日常的に行っているものと「アクションプラン」で推進しているものを合わせて横断的にみると、実行度が低い項目には「電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなど CO2 排出量の把握に努めている」、「使わなくなったものはリサイクルショップ等を活用している」、「エコマーク・省エネラベルの製品を選ぼう」、「緑のカーテンや、すだれを設置しよう」などがあり、実行を妨げる理由をみると、いずれも「手間がかかる」あるいは「効果に疑問がある」の割合が特に高くなっている。一方、実行度が高い項目には「季節や天候・気温などに適した服装を選び、過度な冷暖房に頼らないようにしている」、「ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている」、「賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている」、「使用していない部屋の電気は消そう」、「エアコンの温度は適切にしよう」、「マイバッグやマイボトルを持ち歩こう」で、これら6項目の「実行している」、「概ね実行している」、「たまに実行している」を合わせた『実行している』割合は9割を超えている。



図Ⅲ－154 地球温暖化対策の実行状況（一部編集し再掲）

5. 「市の施策」について

市では、市の政策目標を示し、それを実現するための施策や事業を関連付けて、総合的・体系的に取りまとめた第3次船橋市総合計画を令和4年度に策定した。

この新たな総合計画においては、市の基本施策を24に分類し、それぞれの施策ごとに事業を実施していくが、計画期間内における施策ごとに評価を行う際の基準とするため、策定段階での各施策に対する評価を調査した。

なお、令和3年度までの市民意識調査においては、第2次船橋市総合計画後期基本計画の内容に沿った内容にて調査を行っており、今回の調査結果との単純な時系列比較は行えない。

今後については、今回の調査結果を基準として時系列比較を行っていく。

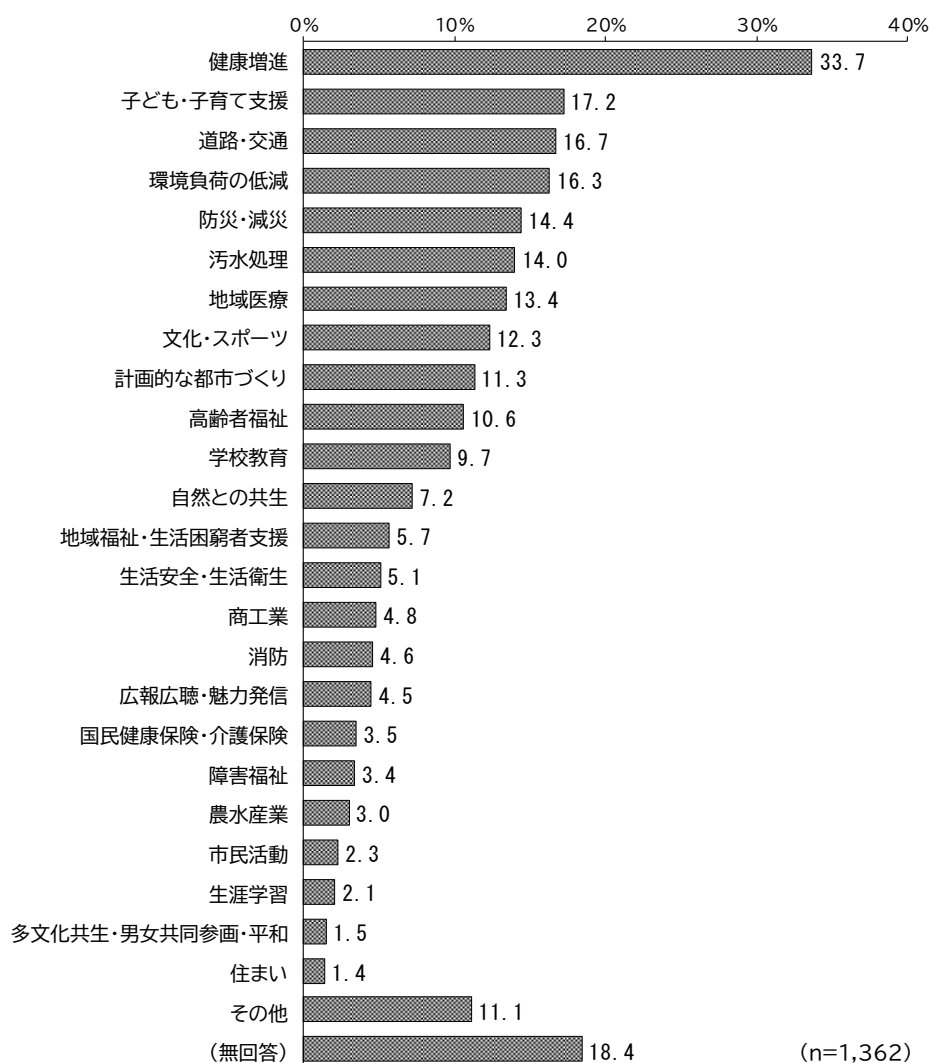
(1) ここ数年でよかったもの

よかったものは、「健康増進」が最も高く 3 割超

【問28】次ページ以降の「表 市の施策（72項目）」について、どのように感じていますか。

① ここ数年でよかったもの（5つまで選んで番号を記入してください）

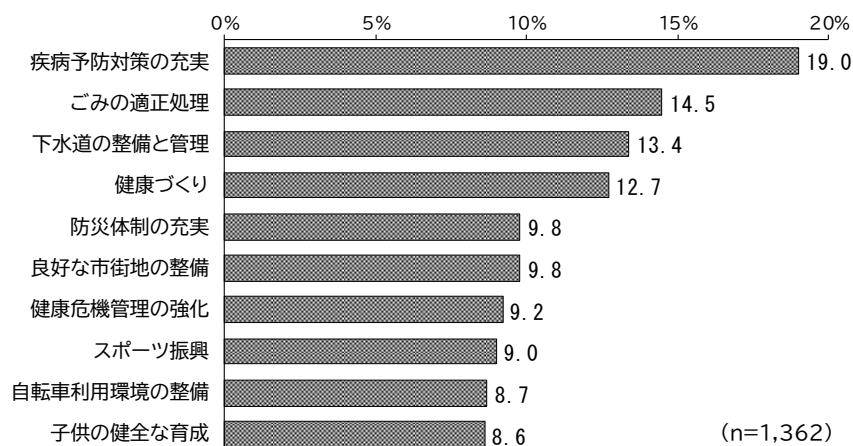
72 項目の市の施策について、「ここ数年でよかったもの」は何か聞いたものを基本施策の 24 項目（その他、無回答を含めて 26 項目）に分類したところ、「健康増進」が 33.7%で最も高く、次いで「子ども・子育て支援」(17.2%)、「道路・交通」(16.7%)、「環境負荷の低減」(16.3%)、「防災・減災」(14.4%)、「污水处理」(14.0%)、「地域医療」(13.4%)、「文化・スポーツ」(12.3%)、「計画的な都市づくり」(11.3%)、「高齢者福祉」(10.6%) の順で上位 10 項目が挙がっている。



図Ⅲ－１５５ ここ数年でよかったもの（24 項目の市の基本施策）

【72 項目の市の施策】（上位 10 項目）

72 項目の市の施策について、「ここ数年でよくなったもの」をみると、「疾病予防対策の充実」が 19.0%で最も高く、次いで「ごみの適正処理」（14.5%）、「下水道の整備と管理」（13.4%）、「健康づくり」（12.7%）、「防災体制の充実」、「良好な市街地の整備」（ともに 9.8%）、「健康危機管理の強化」（9.2%）、「スポーツ振興」（9.0%）、「自転車利用環境の整備」（8.7%）、「子供の健全な育成」（8.6%）の順で上位 10 項目が挙げられている。



図Ⅲ－１５６ ここ数年でよくなったもの（72 項目の市の施策）（上位 10 項目）

【性別／年齢別／地区別】（上位 10 項目）

性別で比較すると、「疾病予防対策の充実」、「子供の健全な育成」では、女性（20.3%、10.5%）の方が男性（16.6%、6.0%）の割合より各々3.7、4.5 ポイント高くなっている。

「スポーツ振興」では、男性（12.1%）が女性（7.3%）より 4.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「疾病予防対策の充実」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い 70 歳以上（27.0%）と最も低い 18～29 歳（7.2%）との差は 19.8 ポイントとなっている。

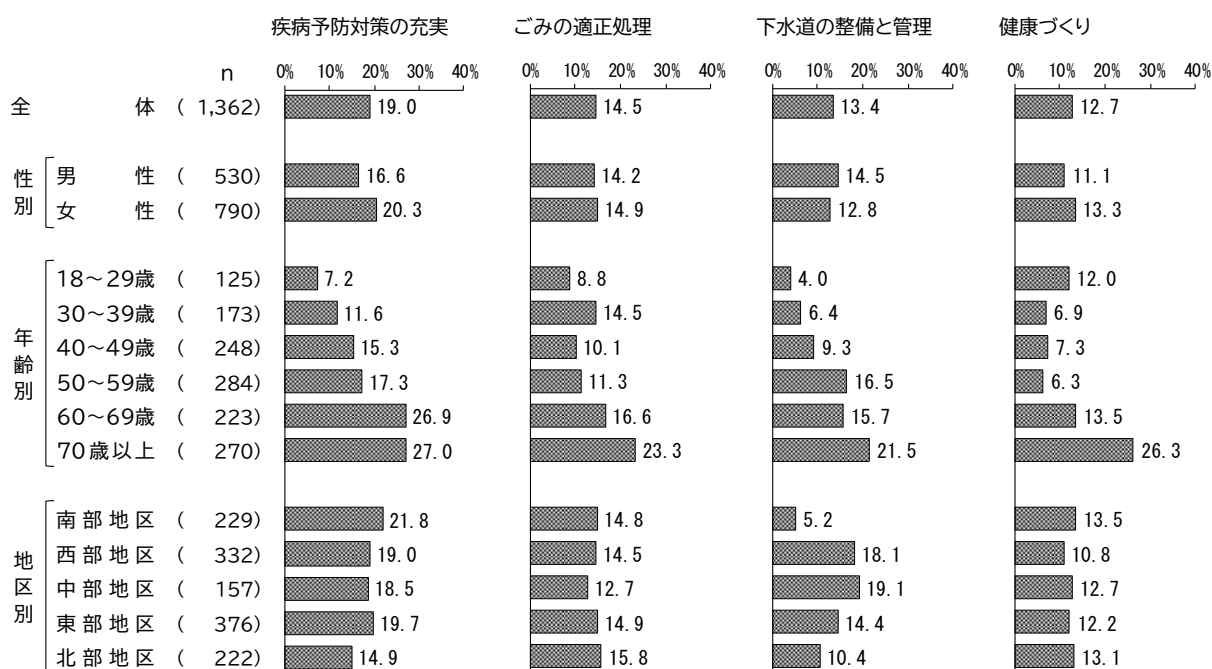
「ごみの適正処理」、「下水道の整備と管理」、「健康づくり」では、70 歳以上（23.3%、21.5%、26.3%）の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

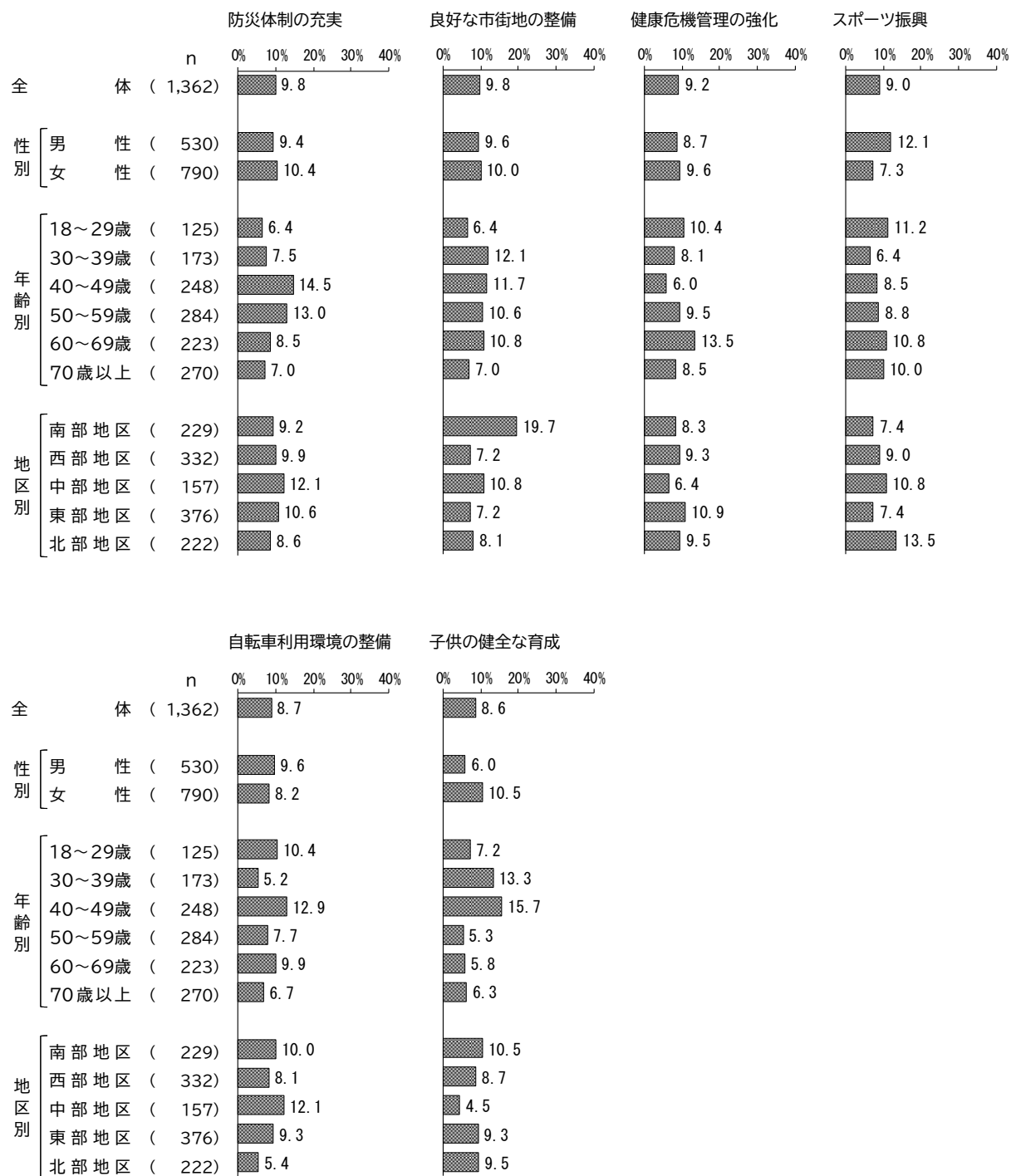
「防災体制の充実」では 40～49 歳（14.5%）と 50～59 歳（13.0%）の割合が他の年齢に比べ高く、「子供の健全な育成」では 30～39 歳（13.3%）と 40～49 歳（15.7%）の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

地区別にみると、「下水道の整備と管理」では、最も高い中部地区（19.1%）と最も低い南部地区（5.2%）との差は 13.9 ポイントとなっている。

「良好な市街地の整備」では、最も高い南部地区（19.7%）と最も低い西部地区、東部地区（ともに 7.2%）との差は 12.5 ポイントとなっている。

「スポーツ振興」では、最も高い北部地区（13.5%）と最も低い南部地区、東部地区（ともに 7.4%）との差は 6.1 ポイントとなっている。





図Ⅲ－１５７ ここ数年でよくなったもの（性別／年齢別／地区別）（上位 10 項目）

表Ⅲ－２１ ここ数年でよかったもの

【72 項目の市の施策】

n=1,362				n=1,362			
基本施策 (24項目)	施策 (72項目)	基数	構成比 (%)	基本施策 (24項目)	施策 (72項目)	基数	構成比 (%)
健康増進	健康づくり	173	12.7	市民活動	市民活動への支援と協働の推進	11	0.8
	疾病予防対策の充実	259	19.0		町会・自治会活動の促進	21	1.5
	健康危機管理の強化	125	9.2	多文化共生・男女 共同参画・平和	国際交流・多文化共生の推進	14	1.0
地域医療	在宅医療の推進	41	3.0		男女共同参画の推進	7	0.5
	難病患者等の支援体制の充実	7	0.5		平和施策の推進	1	0.1
	医療提供体制の充実	98	7.2	住まい	住宅セーフティネットの充実	9	0.7
	救急医療体制の充実	58	4.3		住宅ストックの適正な管理と質の向上	10	0.7
高齢者福祉	生きがいづくり	52	3.8	生活安全・ 生活衛生	交通安全意識の啓発	18	1.3
	施設整備・人材確保の推進	42	3.1		防犯体制の充実	41	3.0
	相談支援体制の充実	49	3.6		安心できる消費生活の確立	6	0.4
	生活支援の充実	28	2.1		生活衛生の向上	8	0.6
地域福祉・ 生活困窮者支援	地域福祉の体制整備	26	1.9	商工業	商業環境の整備	34	2.5
	生活困窮者への支援	41	3.0		企業活動の活性化支援	10	0.7
	包括的な相談支援体制の構築	13	1.0		安定的な雇用の確保	8	0.6
障害福祉	障害への理解の促進	28	2.1		卸売市場の機能強化・充実	19	1.4
	相談・生活支援の充実	22	1.6	農水産業	人材育成と農地活用	5	0.4
国民健康保険・ 介護保険	国民健康保険事業の適正な運営	26	1.9		流通・販売の強化	36	2.6
	介護保険事業の適正な運営	27	2.0	計画的な 都市づくり	持続可能なまちづくり	29	2.1
子ども・ 子育て支援	教育・保育の充実	88	6.5		良好な市街地の整備	133	9.8
	子供の健全な育成	117	8.6	道路・交通	歩行者空間の整備	74	5.4
	妊娠期から子育て期にわたる支援	41	3.0		自転車利用環境の整備	119	8.7
	特別な配慮を要する子供への支援	22	1.6		道路ネットワークの構築	45	3.3
	ひとり親家庭等の自立支援	24	1.8		地域公共交通の活性化	29	2.1
	児童虐待防止対策	11	0.8	汚水処理	下水道の整備と管理	183	13.4
学校教育	教育内容の充実	88	6.5		し尿処理体制の充実	16	1.2
	ニーズに応じた支援の充実	39	2.9	自然との共生	自然を活かした水辺の整備	34	2.5
	教育体制の整備	22	1.6		緑の保全と公園緑地の整備	59	4.3
生涯学習	多様な学習ニーズへの対応と 充実した学習機会の提供	21	1.5		生物多様性の保全・利用	13	1.0
	学習と活動の循環	9	0.7	環境負荷の低減	ごみの適正処理	197	14.5
文化・スポーツ	文化振興	43	3.2		地球温暖化対策の推進	16	1.2
	文化財の保存・活用	18	1.3		生活環境の保全	28	2.1
	スポーツ振興	122	9.0	広報広聴・ 魅力発信	広報・広聴機能の充実	54	4.0
防災・減災	地域防災力の向上	45	3.3		魅力発信の充実	11	0.8
	防災体制の充実	134	9.8	その他		151	11.1
	都市防災機能の向上	38	2.8	無回答		251	18.4
消防	火災予防の推進	5	0.4				
	消防体制の充実	12	0.9				
	救急体制の充実	49	3.6				

表Ⅲ－２２ 「その他」の内容

「その他」の内容	件数
待機児童問題の解決・子育て支援	3
健康づくり・伝染病に関する各申請手続きの通知、対応	2
駅前の開発	2
その他	12
興味がない	2
よかったものは何もない・特にない・実感できない・住みにくくなっている	67
わからない	65
合 計	153

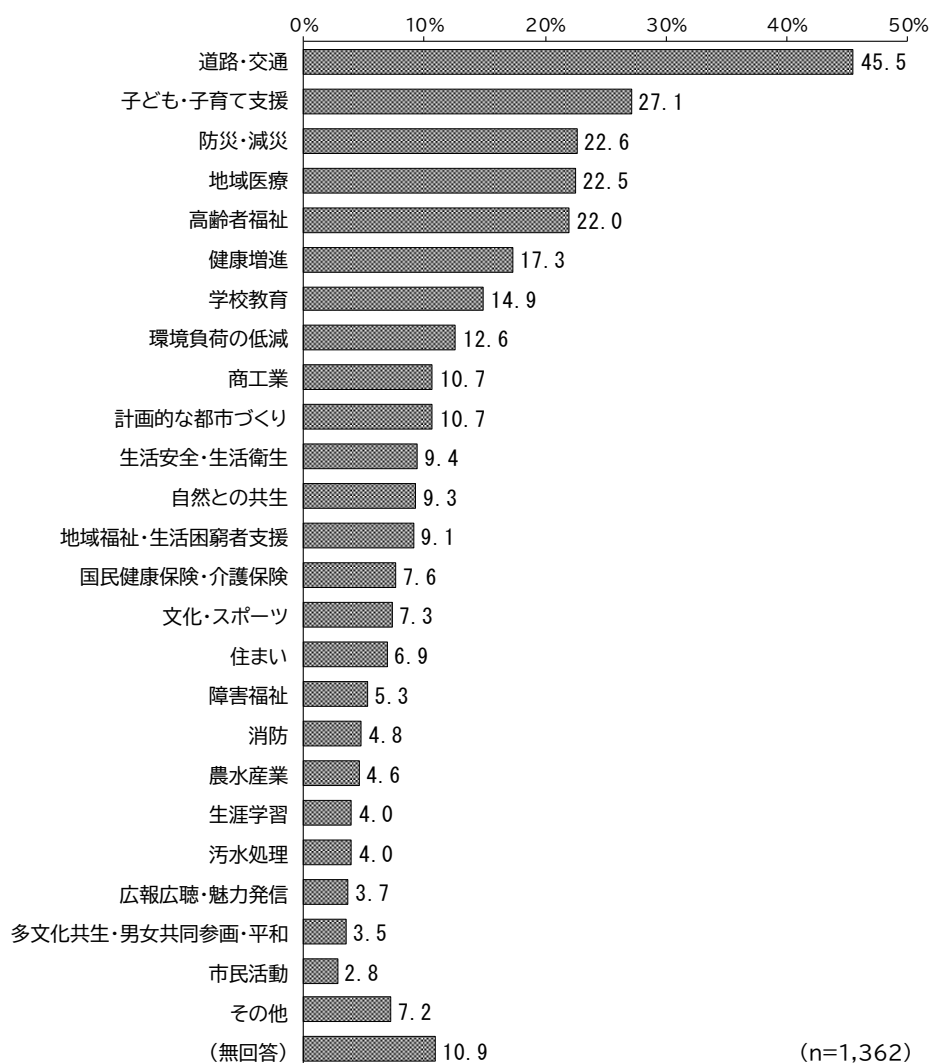
(2) 力を入れるべきもの

力を入れるべきものは、「道路・交通」が最も高く 4 割超

【問28】次ページ以降の「表 市の施策（72項目）」について、どのように感じていますか。

② 力を入れるべきもの（5つまで選んで番号を記入してください）

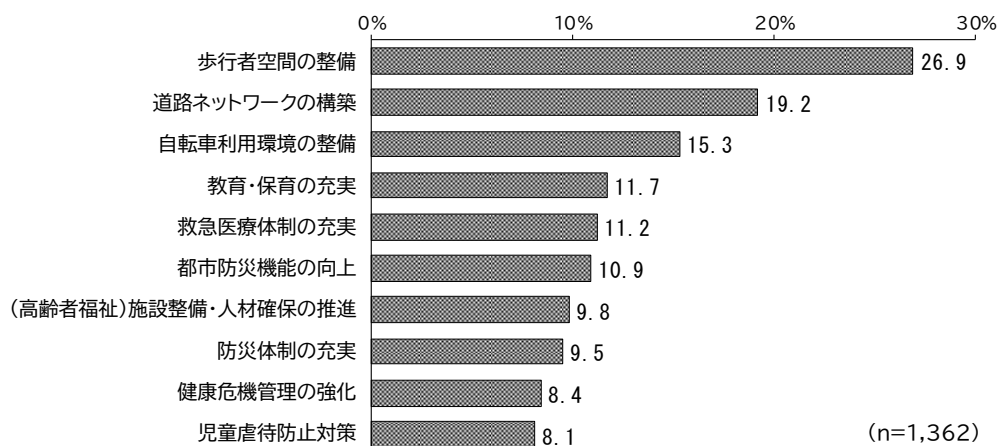
72 項目の市の施策について、「力を入れるべきもの」は何か聞いたものを基本施策の 24 項目（その他、無回答を含めて 26 項目）に分類したところ、「道路・交通」が 45.5%で最も高く、次いで「子ども・子育て支援」（27.1%）、「防災・減災」（22.6%）、「地域医療」（22.5%）、「高齢者福祉」（22.0%）、「健康増進」（17.3%）、「学校教育」（14.9%）、「環境負荷の低減」（12.6%）、「商工業」、「計画的な都市づくり」（ともに 10.7%）の順で上位 10 項目が挙がっている。



図Ⅲ－１５８ 力を入れるべきもの（24 項目の市の基本施策）

【72 項目の市の施策】（上位 10 項目）

72 項目の市の施策について、「力を入れるべきもの」をみると、「歩行者空間の整備」が 26.9% で最も高く、次いで「道路ネットワークの構築」(19.2%)、「自転車利用環境の整備」(15.3%) と上位 3 位まで基本施策【道路・交通】に関する施策となっている。以下、「教育・保育の充実」(11.7%)、「救急医療体制の充実」(11.2%)、「都市防災機能の向上」(10.9%)、「(高齢者福祉)施設整備・人材確保の推進」(9.8%)、「防災体制の充実」(9.5%)、「健康危機管理の強化」(8.4%)、「児童虐待防止対策」(8.1%) の順で上位 10 項目が挙げられている。



図Ⅲ－１５９ 力を入れるべきもの（72 項目の市の施策）（上位 10 項目）

【性別／年齢別／地区別】（上位 10 項目）

性別で比較すると、「道路ネットワークの構築」では、男性（24.0％）が女性（16.5％）より 7.5 ポイント高くなっている。

「健康危機管理の強化」、「児童虐待防止対策」では、女性（9.9％、9.4％）の方が男性（6.2％、6.2％）の割合より各々 3.7、3.2 ポイント高くなっている。

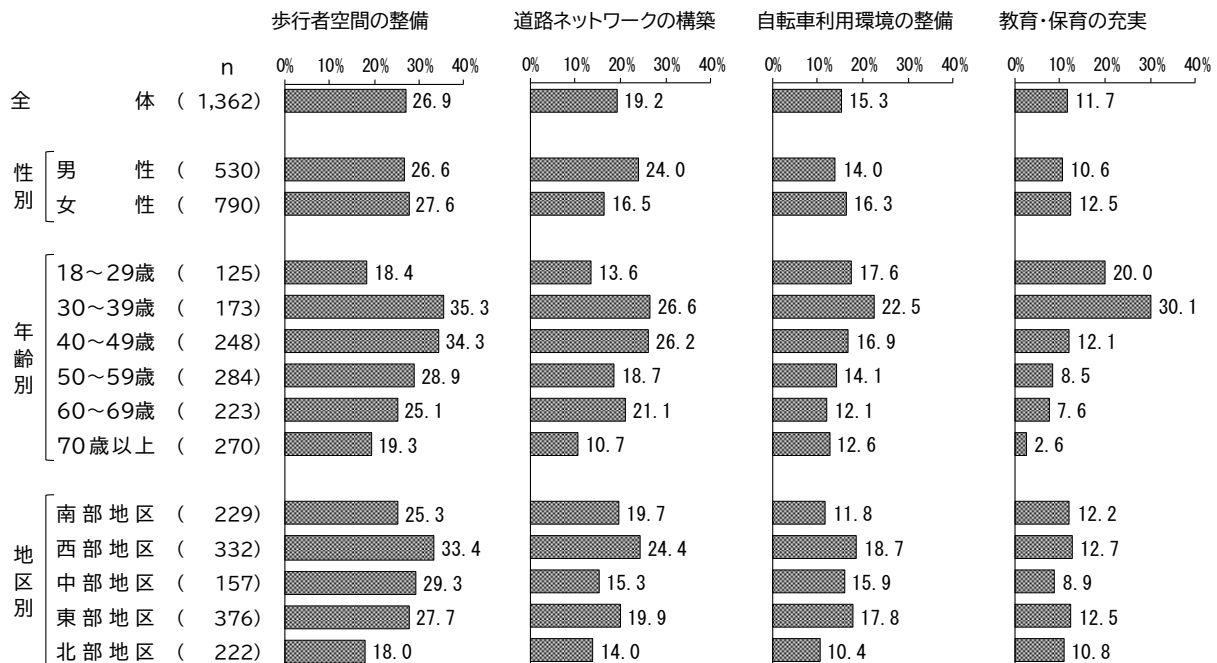
年齢別にみると、「救急医療体制の充実」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い 70 歳以上（15.2％）と最も低い 18～29 歳（4.0％）との差は 11.2 ポイントとなっている。

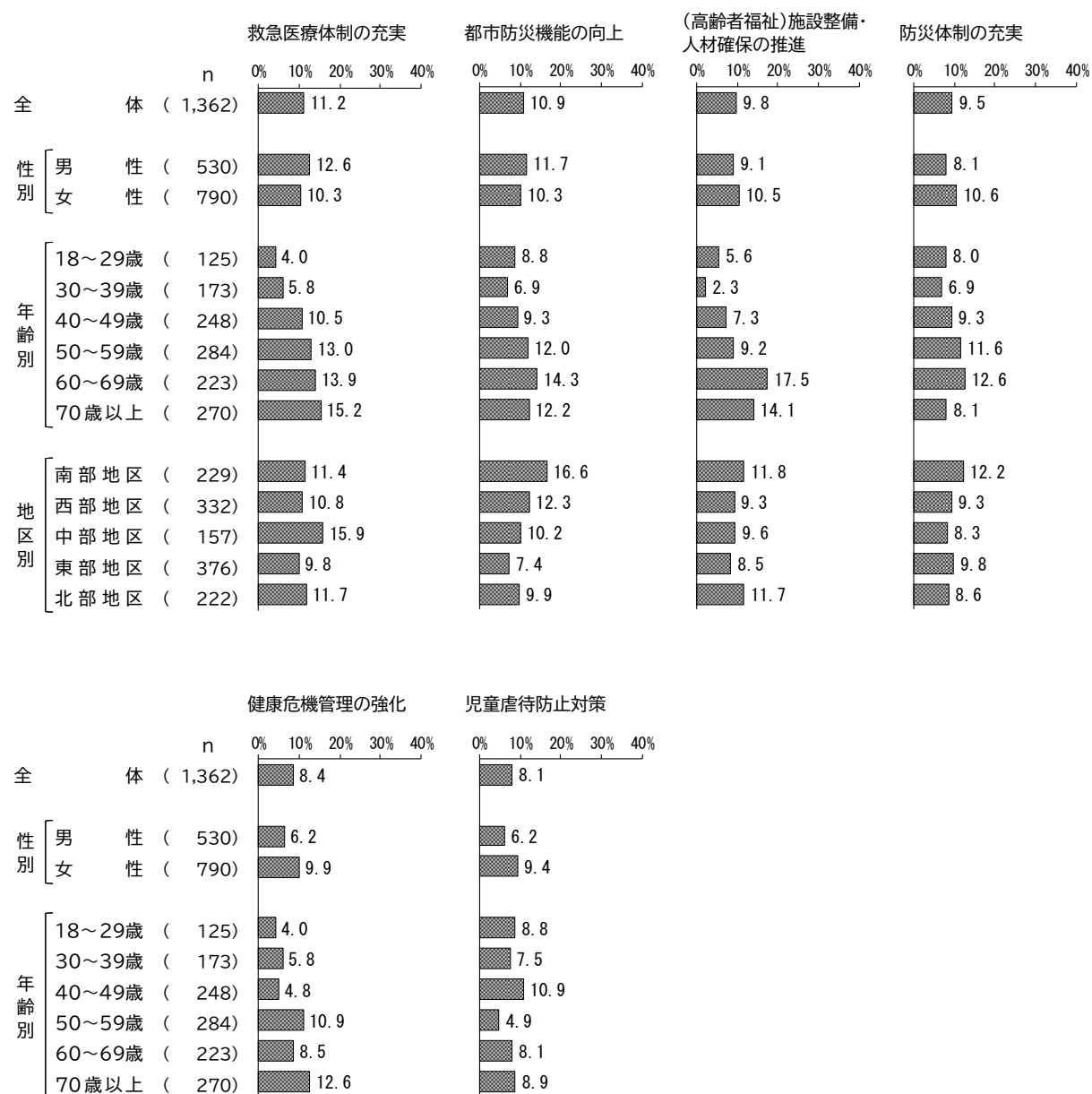
「歩行者空間の整備」、「道路ネットワークの構築」、「自転車利用環境の整備」、「教育・保育の充実」では、30～39 歳（35.3％、26.6％、22.5％、30.1％）の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

「都市防災機能の向上」、「（高齢者福祉）施設整備・人材確保の推進」では、60～69 歳（14.3％、17.5％）の割合が他の年齢に比べ高くなっている。

地区別にみると、「歩行者空間の整備」、「道路ネットワークの構築」、「自転車利用環境の整備」では、最も高い西部地区（33.4％、24.4％、18.7％）と最も低い北部地区（18.0％、14.0％、10.4％）との差は各々 15.4、10.4、8.3 ポイントとなっている。

「救急医療体制の充実」では、最も高い中部地区（15.9％）と最も低い東部地区（9.8％）で 6.1 ポイントの差があり、「都市防災機能の向上」では、最も高い南部地区（16.6％）と最も低い東部地区（7.4％）で 9.2 ポイントの差がある。





図Ⅲ－１６０ 力を入れるべきもの（性別／年齢別／地区別）（上位 10 項目）

表Ⅲ－２３ 力を入れるべきもの

【72 項目の市の施策】

n=1,362				n=1,362			
基本施策 (24項目)	施策 (72項目)	基数	構成比 (%)	基本施策 (24項目)	施策 (72項目)	基数	構成比 (%)
健康増進	健康づくり	87	6.4	市民活動	市民活動への支援と協働の推進	15	1.1
	疾病予防対策の充実	67	4.9		町会・自治会活動の促進	23	1.7
	健康危機管理の強化	114	8.4	多文化共生・男女 共同参画・平和	国際交流・多文化共生の推進	24	1.8
地域医療	在宅医療の推進	104	7.6		男女共同参画の推進	22	1.6
	難病患者等の支援体制の充実	22	1.6		平和施策の推進	4	0.3
	医療提供体制の充実	104	7.6	住まい	住宅セーフティネットの充実	62	4.6
	救急医療体制の充実	152	11.2		住宅ストックの適正な管理と質の向上	37	2.7
高齢者福祉	生きがいづくり	79	5.8	生活安全・ 生活衛生	交通安全意識の啓発	59	4.3
	施設整備・人材確保の推進	134	9.8		防犯体制の充実	59	4.3
	相談支援体制の充実	87	6.4		安心できる消費生活の確立	18	1.3
	生活支援の充実	73	5.4		生活衛生の向上	12	0.9
地域福祉・ 生活困窮者支援	地域福祉の体制整備	37	2.7	商工業	商業環境の整備	74	5.4
	生活困窮者への支援	81	5.9		企業活動の活性化支援	18	1.3
	包括的な相談支援体制の構築	15	1.1		安定的な雇用の確保	55	4.0
障害福祉	障害への理解の促進	40	2.9		卸売市場の機能強化・充実	19	1.4
	相談・生活支援の充実	43	3.2	農水産業	人材育成と農地活用	43	3.2
国民健康保険・ 介護保険	国民健康保険事業の適正な運営	69	5.1		流通・販売の強化	24	1.8
	介護保険事業の適正な運営	50	3.7	計画的な 都市づくり	持続可能なまちづくり	68	5.0
子ども・ 子育て支援	教育・保育の充実	159	11.7		良好な市街地の整備	97	7.1
	子供の健全な育成	87	6.4	道路・交通	歩行者空間の整備	367	26.9
	妊娠期から子育て期にわたる支援	83	6.1		自転車利用環境の整備	209	15.3
	特別な配慮を要する子供への支援	53	3.9		道路ネットワークの構築	262	19.2
	ひとり親家庭等の自立支援	60	4.4		地域公共交通の活性化	81	5.9
	児童虐待防止対策	110	8.1	汚水処理	下水道の整備と管理	52	3.8
学校教育	教育内容の充実	109	8.0		し尿処理体制の充実	6	0.4
	ニーズに応じた支援の充実	59	4.3	自然との共生	自然を活かした水辺の整備	45	3.3
	教育体制の整備	85	6.2		緑の保全と公園緑地の整備	91	6.7
生涯学習	多様な学習ニーズへの対応と 充実した学習機会の提供	31	2.3		生物多様性の保全・利用	11	0.8
	学習と活動の循環	27	2.0	環境負荷の低減	ごみの適正処理	75	5.5
文化・スポーツ	文化振興	41	3.0		地球温暖化対策の推進	65	4.8
	文化財の保存・活用	12	0.9		生活環境の保全	48	3.5
	スポーツ振興	49	3.6	広報広聴・ 魅力発信	広報・広聴機能の充実	28	2.1
防災・減災	地域防災力の向上	81	5.9		魅力発信の充実	26	1.9
	防災体制の充実	129	9.5	その他		98	7.2
	都市防災機能の向上	149	10.9	無回答		149	10.9
消防	火災予防の推進	4	0.3				
	消防体制の充実	9	0.7				
	救急体制の充実	58	4.3				

表Ⅲ－２４ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
都市計画・まちづくり・道路・渋滞対策に関すること	23
路線バス・鉄道・駅など交通に関すること	8
子育て支援・助成・無償化などに関すること	8
教育・生涯学習などに関すること	8
マナー（自転車の運転、路上喫煙・ポイ捨て・喫煙所など）に関すること	5
環境問題、エコ、リサイクルに関すること	5
その他	47
特になし	3
わからない	11
（記載なし）	2
合 計	120

6. 自由意見

(1) 自由意見のまとめ

自由意見については、554 人から回答があり、回答内容を下表のとおり分類したところ、927 件の意見が寄せられた。

1 人の回答者が複数の意見を記入している場合は、各々の項目で 1 件、明確に良い意見と悪い意見が併記されている場合には、同じ項目で 2 件としている。

回答内容を分類し集計した結果は以下のとおりである。

表Ⅲ－２５ 自由意見のまとめ

項 目	件数	構成比 (%)
道路・渋滞・歩道	164	17.7
まちづくり・都市計画	68	7.3
保育・子育て	65	7.0
税金・財政・政策等	63	6.8
市役所・フェイス・議会	52	5.6
自然・環境	42	4.5
教育・文化・スポーツ	37	4.0
病院・医療	35	3.8
アンケート関連	35	3.8
治安・災害	33	3.6
ごみ・リサイクル	33	3.6
交通機関	29	3.1
コロナ対策	28	3.0
自動車・自転車	28	3.0
高齢者対策	25	2.7
介護・福祉	24	2.6
広報・HP・SNS	23	2.5
商工業・農業・イベント	23	2.5
公園	22	2.4
地域社会・自治会	21	2.3
学区・学校	12	1.3
雨水・上下水道	11	1.2
ペット・動物・虫	8	0.9
たばこ	8	0.9
国際社会	7	0.8
空き家	5	0.5
雇用・就労支援	4	0.4
その他	22	2.4
合 計	927	100.0

(2) 自由意見の抜粋

自由意見の回答内容を分類した項目ごとに、主な意見を抜粋して示す。

【道路・渋滞・歩道】

- ・自転車専用道路（道幅も多めの）がもっと増えるとよい。自転車に乗る人々も多くなり、省エネにもなると思う。（女性・70歳以上）
- ・自宅周辺の道路が狭く、歩道もない広さにもかかわらず車の交通量が多く、毎日危険を感じています。特に小学校の通学路になる道は歩道を整備してほしいと思います。（女性・30～39歳）
- ・幹線道路の渋滞、抜け道の多さ、とにかく道が悪い。東京へ行く道も、埼玉方面へ行く道も限られており混む。船橋市は車がないと不便な地域なのに道も狭く、常に渋滞していて住みにくい。（女性・30～39歳）
- ・渋滞の解消、交通の改善をお願いします。停止状態の車数を減らすことがCO₂削減にも繋がるはずです。（男性・30～39歳）
- ・薬円台駅～飯山満駅あたりの道路が、歩行者にとって安全なスペースがないため子育て世帯にとっては不安です。近隣の習志野市、千葉市に比べて整備が遅れていることが課題に思います。（男性・30～39歳）
- ・木下街道の歩道が狭すぎて、通行がとても大変です。車も多い道なので車道にも避けられず、ベビーカーなどはすれ違えません。それに車1台しか通れないくらいの道幅なのに一方通行じゃないところが多すぎだと、船橋に引っ越してきて思いました。（女性・40～49歳）
- ・船橋駅周辺の渋滞、特に朝の船橋中学校付近の渋滞、道路が少し広くなったため自転車が増えてかなり危険な運転をしている。ららぽーと周辺の渋滞、アリーナができたらどうなるのか。（女性・40～49歳）
- ・様々な要素で難しいかもしれないが、学校周辺の通学路からは危険リスクを減らしてほしい（ガードレール内の距離確保ができずに仕方なく車道へ）。同様に安全性の確保と渋滞軽減の目的で「歩車分離式信号」を積極的に採用してほしい。さらに単なる「時間差信号」は分かりづらい方も多いので、「右折信号」を設置し、ドライバーにも優しい街づくりに期待する。（男性・60～69歳）
- ・渋滞の対策をもっとしてほしい。交通量と信号の切り替わりが合っていない所が多く、これは改善できる気がする。（女性・30～39歳）
- ・道路状況が最悪。特に現住の法典地区。計画性が全くない。例えば、角地の住宅を建て替えるにあたり、道の角取りができなくて、安全上問題があると思えるにも関わらず角取りなしで確認がおりている。この道はバスも通っていて問題であるが、このような現状を知らない行政はNG。（男性・70歳以上）
- ・西船橋駅周辺の整備。JRを挟んだ北側と南側を安全に行き来できる道を早急に作ってください。本町通りや海神（船橋インター近辺）の道はとても危険です。ベビーカーや自転車で通る時、子どもの通学、とにかく危険です。（女性・50～59歳）
- ・道路がせまく、歩行・自転車・自動車どの手段をとっても危ないと思うことが多いです。曲ってしまったガードレールがそのまま等気があります。塚田「旭町1丁目」線路沿いの急な坂道カーブのガードレールが曲がったままになっています。曲がったことにより、ベビーカーがガードレール内を通ることができなくなりました。狭くなって入れないので、外側の道路を通るしかない状態です。（女性・40～49歳）

【まちづくり・都市計画】

- ・公共の建物は建設が決まる前に周辺住民への説明をしてほしい。決定後の説明会は全く意味がない。(女性・60～69歳)
- ・駅前の西武船橋店跡はオフィスビルではなく市民のための商業施設がよかったです。映画館など。(男性・30～39歳)
- ・二和東5丁目市有地活用事業を早く進めてほしい(女性・50～59歳)
- ・北習志野周辺の団地の整備を行い船橋市、住民にとって利益のある再建を行ってほしい(一部の団地では反対派ともめて工事がストップしている)。(女性・40～49歳)
- ・津田沼パルコ跡地や西武船橋店跡地の再開発が進んでいない状況をコロナ禍においてららぼーとのみに頼らない経済、船橋駅周辺の再開発を希望いたします(現在、津田沼駅、船橋駅周辺に活気がない街になりつつあります)。(女性・50～59歳)
- ・1人暮らしでも住みやすいまちづくりにしてほしい(駅前にコインランドリーがあると便利)。(女性・40～49歳)
- ・南船橋駅周辺、船橋駅周辺などの開発に力を入れていただいていると思いますが、東葉高速線沿いは開発しないのでしょうか？(女性・40～49歳)
- ・津田沼駅北口の再開発もぜひお願い致します。(女性・50～59歳)
- ・西武船橋店跡地がきれいに整備されたら良いと思っています。(男性・50～59歳)
- ・北部地区は商業施設及び医療機関があまりなく他市にすべて頼っており船橋市内で完結できる様に改善が必要。北部地区を開発して商業施設及び医療施設の誘致を早急に行ってほしい。(男性・60～69歳)

【保育・子育て】

- ・男性のひとり親についての支援が少なすぎているのでお願いします。現状は母子のフルタイムで働く人の収入。生活保護より父子フルタイムで働く人が収入が少なく、生活が辛い。(男性・40～49歳)
- ・子育て支援にもっと力を入れてほしい。医療費の無償化や出産祝いギフト(支援金)、おむつやミルクなどの支援など、他の市区町村より少ないと感じています。地域のこれからを担う子どもたちのフォローをもっとしてほしいです。そういうのがあればもう一人子どもを…と考える人や船橋に住みたいと思う人が増えると思う。(女性・30～39歳)
- ・子ども受給券の発券を現在の中3から高3までにしてもらえたら助かる。(女性・30～39歳)
- ・保育園に入れるのが難しい。特に市境においては隣市の保育園に入れたくても不利になる。行政境界があるせいで住民にとって不利益にならないようにしてほしい。(女性・18～29歳)
- ・小規模保育園から幼稚園に行ったが、預かりサービスが脆弱で預けられない(17時までお金がかかる、夏休みなど預かりを必要とする日が多い)。西習志野は幼稚園もなくバス通園が基本で、習い事できる場所も少ない。図書館も遠く、子どもが遊べる場所が限られている。環境はいいのでもっと施設が充実しているといいなと思います。(女性・40～49歳)
- ・非課税世帯ばかり優遇するのはやめてください。皆、生活が苦しい中でも高い税金を支払っています。頑張っている人よりも何もしないで楽をして生活保護で生活している人の方が贅沢しているのをみます。これからさらに高齢化が進みますが、もう少し子育て世帯への対策を強化してほしいです。(女性・40～49歳)

- ・流山市で実施している、駅まで子どもを連れていくとそこから各保育園まで送迎してくれる体制をぜひ船橋市でも導入してほしい。現実問題、乳幼児を持つ親が保育園、幼稚園を選ぶ際、自宅からの距離、送り迎えできるかが大きなポイントとなってくる。駅をハブにすれば教育機関の選択の自由度が増すし、施設による待機児童の偏りも軽減されると思う。(女性・30～39歳)
- ・子育て世帯への金銭的支援の充実。八千代市や柏市、我孫子市など近隣の市と比べて PayPay などのキャッシュレス決済サービスとの連携などが弱いと思う。(男性・30～39歳)

【税金・財政・政策等】

- ・船橋市はケチすぎる。コロナ陽性になっても何の支援もない（他の人は1週間分の食料や検査キットが送られてきている）。円安や急激な物価高騰に他の自治体は（八千代市は水道基本料2ヶ月免除、鎌ヶ谷市は15歳以下の子どもに1万円給付等）など救済処置を施しているのに船橋は限られた世帯にたった4,400円分のお米券配布というありさま。(女性・40～49歳)
- ・非課税世帯&ひとり親家庭だけが生活が大変なわけではありません。もっと「非課税ではない中流家庭」にも目を向けてください。高い税金を納めているんです、お願いします。(男性・40～49歳)
- ・物価高に対する策を至急行ってほしい。(男性・50～59歳)
- ・市民税減額希望。現状の税額であれば、相当の待遇（免除割引）がもっとあっても良いではないか。他の市町村と比較しても船橋市は税額がとにかく高い！と感じています。(男性・50～59歳)
- ・太陽光発電システムが東京都や川崎市で義務化されていく様ですが、色々問題もある様なので、船橋市では義務化しないでほしいと思います。又、それに対する補助金も税の公平利用の観点から多額の助成金はつけないでほしいです。(女性・70歳以上)
- ・コロナで低所得の方への支援はされているようですが、他の県のように中間層も生活面で大変になっています。県でできないのなら船橋市独自でなにか支援を考えて頂きたいです。(女性・40～49歳)
- ・支払っている市民税がより良く市民のために使われていると実感できるような市政を行ってほしい。(女性・40～49歳)
- ・高齢者ばかりではなく、子どもにもっと予算を使ってほしい。手当を非課税世帯だけではなく、もっと広げてほしい。非常に不公平感があります。税金を払っても良いと思えるような施策をお願いします。(男性・40～49歳)
- ・商業施設が少なく、船橋で若者が遊ぶとなると船橋ららぽーとくらいになってしまうので、遊べる施設、広場（ショッピングやスポーツ・ジム等）を増やしてほしい。(女性・18～29歳)

【市役所・フェイス・議会】

- ・船橋駅前総合窓口センター（ミニ市役所）のように、津田沼駅近くにも総合窓口センターを設置してもらいたい。(女性・70歳以上)
- ・コロナワクチン予約のシステムが整備されていて、とても使いやすかったです。フェイスの窓口が遅くまでやっていて便利です。ありがとう。(女性・40～49歳)
- ・フェイスの窓口、土曜日にも開いていて便利です。入籍時など手続き関係を予め教えていただいで助かりました。(女性・30～39歳)

- ・市役所は人数（働く人）が多いように思いますが、待ち時間が長いようにも感じます。仕事の内容が分かる方が少なく、分かる人に頼りがちのようにも思います。仕事に責任感（若い方）がないようにも思います。マニュアル通りの説明など、仕事なのでマニュアル通りも分かりませんが、もっと分かりやすくこちらの気持ちになって説明していただけるといいと思います。（女性・40～49歳）
- ・「船橋市」と書いてある市の社用車による運転のルール違反が多くみられる。市役所から出てくる小路からの飛び出し、信号無視、商業施設駐車場での休憩等、目立っています。（女性・50～59歳）
- ・船橋に引越してきたばかりですが、行政の方が不適切だと感じる事が多々ありました。わからないから聞いているのに自分で調べろ的な。（女性・50～59歳）
- ・市役所の出張所、連絡所の場所、出来る内容がわからない。市のホームページが見にくい、使いにくい（女性・50～59歳）
- ・市会議員が多すぎる。（男性・70歳以上）

【自然・環境】

- ・緑化規定に沿った意味のない緑化廃止。年に何度も草刈り、除草、枝の剪定に費用がかかる。（女性・50～59歳）
- ・船橋アリーナの近くに住んでいます。歩道の草が以前と比べると伸び放題になっているように感じます。今後ジェッツの本拠地が新しいアリーナに移ると、もっと荒れてしまうのではないかと危惧しています。（女性・50～59歳）
- ・船橋市はあまりにも自然環境がなく、また遠くて困っています。大きな川がなく、散策コースが全くありません。（男性・70歳以上）
- ・市内に引越した時は、東京に近くても自然があるイメージでよかったのですが、最近は近隣の林が宅地工事で伐採されて開発が進んでいます。「近く緑」が「公園」とは別に心の癒しとなっていたものですが、それがなくなる寂しさ…。私有地だからしょうがないのでしょうか、制限なり、市で買い取るなどの保存をお願いしたいです。（男性・60～69歳）
- ・再生可能エネルギーV2H、次世代自動車を積極的にとり入れ、公的施設で使用し、市民にアピールする。（女性・70歳以上）
- ・空気が汚れていて、数日で自転車等が黒く汚れます。外にある物全て。大気汚染を改善してほしいです。（女性・30～39歳）

【教育・文化・スポーツ】

- ・教育現場の先生方が激務だったり、心を病まれる方も多くてとても心配です。サポート体制を増やして（支援員など）人員確保していただけたら幸いです。（女性・30～39歳）
- ・子どもの教育・教育環境の整備に注力してほしい。スポーツと同じように勉学でも日本トップクラスのレベルにしてほしい。（男性・60～69歳）
- ・法典、夏見地区以外にも公共のテニスコート（八木が谷地区からでは遠い）があるとよい。（女性・50～59歳）

- ・船橋アリーナの使用料が高すぎる。卓球などは現在 2 時間で 440 円、ほか自治体と比べるとかなり高額であるにも関わらず、さらに駐車場代までかかる。またさらに使用料金を上げようとしているようなので、船橋はスポーツをあまりさせたくないのではと感じてしまう。今のところ船橋で卓球の個人使用ができるのは（毎日）アリーナのみで、公民館などは団体使用のみ。料金もかなり高額である（千葉市は無料）。（男性・18～29 歳）
- ・現在、居住している田喜野井地区は、図書館やスポーツ施設なども近くになく、市の行政サービスを十分に享受しているとは思えない。（女性・70 歳以上）
- ・図書館の書籍貸出システムの自動化は便利です。開館時間を平日～21:00、土日祝 20:00 までに変更していただきたいと思います（市川市は火～金 PM9:00 まで、土日は 18:00 まで）。（男性・50～59 歳）
- ・文化ホールが老朽化している様に思います。文化都市とは言えないです。市役所 1 階のトイレは最悪です。他市にはないトイレです。（女性・70 歳以上）

【病院・医療】

- ・医療体制など隣接する習志野市と連携を取ってほしい。市の検診を受けるためにわざわざ電車、バス、車を利用しないと行けないのは温暖化対策に反している。（女性・60～69 歳）
- ・市立医療センターの建て替え、最新式医療機の設備と医療体制の充実を切にお願いします。船橋市は柏市に劣っています。（男性・60～69 歳）
- ・小児科が少ない気がする。地域医療の充実化が希望です。（男性・40～49 歳）
- ・带状疱疹のワクチン接種補助、鎌ヶ谷市のようにするのは船橋市では無理ですか？（男性・50～59 歳）
- ・子ども医療費助成制度の拡充。都のように高校生まで対象にする。（女性・40～49 歳）
- ・小室町在住です。9 月末で小室町にある医療機関（阿部小児科）が閉院してしまいます。小室町唯一の医療機関ですので今後、大変不安に思っています。特に高齢者の方々は多く利用されていたのでとても心配です。何か対策があればお願いしたいです。例えば検診提携医療機関を白井市まで広げてくれるなど。（女性・40～49 歳）

【アンケート関連】

- ・発送、回収コストや、回答・データ収集の労力を考えるとこのアンケートをインターネットで回答できるようにしてほしい。例えばハガキに QR コードを印刷する等。お年寄りもスマホを持っている時代であるし、カメラをかざせばすぐに Web ページでアクセスできるので。（男性・30～39 歳）
- ・問のボリュームが多すぎる。何でもかんでも情報を収集したいのは理解できるが、もっと効率的な簡便な方法を考えてアンケートを作成してください。（男性・70 歳以上）
- ・本アンケートも真面目に回答した方には図書カード等の謝礼があってもいいのではないかと思います。（女性・18～29 歳）
- ・問 28 の設問は回答が難しかったです。「施策」を何度読んでも理解しづらい。量が多いです。（女性・70 歳以上）
- ・この調査も、デジタル化したらもっと答えやすいし、回答率も高まると思う。紙媒体にこだわらず、ネットやアプリをもっと活用して、情報入手しやすい体制、活用しやすい制度を整えていくことで、若い人からも選んでもらえる船橋になると思う。（女性・18～29 歳）

- ・今回のようなアンケートをされていることをはじめて知りました。こちらをきっかけに自分はあまり市のことを知らないと気づけて市の広報など、積極的に読んでみようと思えました。(女性・30～39歳)
- ・このアンケートを手書きさせることで人が集計しなくてはならず、人件費の無駄が多いと思います。もっとデジタル部門の拡充を行っていけば、コストダウンできるはず。新しいメディアや技術を取り入れることで伝わりやすくサービスの幅が広がると思います。ご意見を聞くという姿勢は良いと思うので、自分も、より良い船橋になるように日々気をつけていきたいです。(女性・50～59歳)

【治安・災害】

- ・夕方から市の方がぼったくりの店の予防のため拡声器で注意を呼び掛けています。これって、とてもうれしいです。(女性・60～69歳)
- ・船橋駅前の客引き対策が穴だらけ。客引きと注意をしている警備員さんが仲良く話しているのを何度も見たことがあります。なানা関係になっていたら、いくら注意をマイクでしていても聞いていないですよ。客引きは山口横丁で我が物顔で道をふさいで何人もでたむろしています。道行く人が困っているのに、もっと強めの対策をしてください。(女性・40～49歳)
- ・被災時の生活をイメージできるような体験（井戸水を飲むなど）や、市の備蓄や充電池などを確認できるツアーなどがあったら参加したい。(男性・30～39歳)
- ・法典地区に住んでいますが、防犯対策のため、町の中にも防犯カメラを設置していただきたいです。(女性・30～39歳)
- ・長年船橋に住み続けている理由は、災害が少ないためである。しかし今後は大きな地震、洪水などの災害が来ると思う。防災力の向上をお願いします。(女性・70歳以上)
- ・時々流れる無線放送が窓を開けて聞いても何を言っているのかよくわからないことが多い。スピーカーが遠いのか、数が少ないのか…。過去に市役所に行った時に受付の方にそのことを話したら、その時は電話して下さいと言われたのですが、災害などの緊急の場合は電話ができる状況にないと思うのですが。(男性・70歳以上)

【ごみ・リサイクル】

- ・ごみステーションの管理が高齢化や共働き世帯の増加により負担になっています。そのため個別回収ができるようご検討のほどお願いします。(女性・30～39歳)
- ・可燃ごみの回収が夜なのが、共働き世帯には難しい。せめて週2回の回収のうち1回は朝、1回は夜にするなど配慮してほしい(町内会のルールなのか朝から出しておくのは禁止)。(女性・30～39歳)
- ・ごみの収集を前のように週3回にしてほしい。2回だとゴミがあふれてステーションが汚れる。ゴミの不法投棄のパトロールを強化してほしい。(女性・60～69歳)
- ・テレワークの普及などで、家庭ゴミが増えており、ゴミの回収を週3回へ戻してほしい。(男性・50～59歳)
- ・小型家電リサイクルBOXを西船橋出張所か西図書館に設置してほしいです。(女性・40～49歳)

【交通機関】

- ・東葉高速鉄道について、新駅にかかる期待は大きいものの、運賃の値下げにも前向きに取り組んでほしい。船橋在住者は定期券の割引等、なにか施策検討をお願いしたい。(男性・40～49歳)
- ・東武鉄道の線路を高架にしていきたい。(女性・50～59歳)
- ・西船橋駅の利用者が多くホームも外もごった返している。改善が必要だと考えられます。よろしくお願いします。(男性・40～49歳)
- ・交通手段が十分ではない。「田喜野井循環バス」は乗車定員が12名と少なく、当てにできない。(女性・70歳以上)
- ・鎌ヶ谷の様にコミュニティバスを導入してほしい。丸山循環バス(新京成バス)がありますが、運賃が高いと思います。(男性・50～59歳)

【コロナ対策】

- ・船橋市はコロナ陽性になっても何の支援もない(他の人は1週間分の食料や検査キットが送られてきている)。(女性・40～49歳)
- ・コロナ禍でのワクチン接種が東京、埼玉に比べて遅かった。1回目が遅いので2、3、4回目とも遅れて不安だった。(女性・70歳以上)
- ・コロナ対策は重要ですが、子育てをしていると不便に感じる人が多いです(福祉サービスの制限や保育園見学ができないなど)。早期に改善してもらえれば嬉しいです。(女性・30～39歳)
- ・オミクロンのワクチン、かかりつけの町医者でもスムーズにできるようにしてほしい。(女性・60～69歳)
- ・医療体制を充実してほしい。特にコロナに対する対応が十分ではない。(男性・50～59歳)
- ・新型コロナの対応はワクチン接種会場等、人口が多い市なので対応がすばやかだったと思う。(女性・40～49歳)

【自動車・自転車】

- ・歩行者、自転車での横断歩道の渡り方、基本的道路マナー、交通ルールの指導を小学生(小さいうち)から教えていただきたいです。車ばかりがいつも悪くなる。(女性・50～59歳)
- ・放置自転車の撤去、回収等の対策。(女性・40～49歳)
- ・自転車の運転マナーが悪く、危険だと思うことが多々あります。自転車用の道路の整備といったハード面だけでなく、安全運転のマナーを身につけさせるソフト面の対策を打っていく必要があると感じます。(男性・50～59歳)
- ・始まったばかりのレンタルサイクル、西船橋近隣でも貸りられるようにしてほしいです。(男性・30～39歳)
- ・交通信号の右折レーンを増やしてほしいです。自転車が左右関係なく、又信号無視者も多く、危険度が高いと思います。(女性・70歳以上)

【高齢者対策】

- ・高齢者の独居対策に力を入れてほしい(いずれ私もそうなるので)。(女性・40～49歳)

- ・市が行っている高齢者福祉のサービスは、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が対象のものが多く、親子で同居していると利用できない。介護者が高齢でなくても家事など時々代行してもらえるサービスがあれば、家族の負担が減り、在宅介護を一人で行っている自分のような立場の人でもゆとり時間を作りたい。(女性・50～59歳)
- ・高齢者の一人暮らしの支援、サポートの拡充。定期的な声かけ等。(女性・40～49歳)
- ・高齢化の進行に伴い、老夫婦の一方が亡くなったり施設に入所し、1人で生活を始める時、コロナ以上に身体に苦痛が起ります。そのような時に、民生委員の方達が、声掛けしてくれて元気をもらいます。市の準職員という立場の民生委員の方々を増員して、団塊世代の老人を支援する新規チームを立ち上げてほしい。効果として、病院通院が減少し効果が出ない薬を試飲する量が少なくなり、毎日に笑顔が見られる老人に変化して行くと思う。(男性・70歳以上)

【介護・福祉】

- ・発達障害児へのサポートを充実してほしい。小学校～高校など見通しが分からないので、説明できる人を配置してほしい。(女性・30～39歳)
- ・父が認知症で老健に入所していますが、特養に入所しようとする多床室は満室でなかなか入れません。ある施設の方の話では船橋市は男性の多床室の数が圧倒的に少ないと聞きました。高齢者は増える一方ですので、そういった面の充実をぜひお願いしたいと思います。(女性・50～59歳)
- ・将来的にもずっと船橋に住みたいと思っていますが、これから介護の施設、サービスが気になるのですが、安心信頼できる施設やサービスの情報があると心強いです。姑の時は結局、他市の施設に入りましたので。(女性・70歳以上)
- ・娘が双極性障害と診断され、自主退職に追い込まれました。ハローワークに行きましたが、週20時間の就労が可能な場合でないと失業保険はでないと言われてしまいました。それでも家賃・光熱費等の請求は容赦なく来ますし、支援している側の精神も参ってきます。運良く、さーくるといって団体を紹介して頂きましたが、それまでそういう団体があることさえ知りませんでした。何かあった時にすぐ相談出来る場所があるということをもっと大々的にうたうべきだと思います。(女性・40～49歳)
- ・認知症の両親の相談で、地域包括支援センターの対応が具体的でとてもよくわかりました。高齢者へのサポートの充実を望みます。(女性・50～59歳)

【広報・ホームページ・SNS】

- ・広報ふなばしを見ていると、若年／中年層向け情報が限られているように感じます。生涯学習の場、ネットワークを築く機会など、もちろん高齢者向けニーズは高いのですが、それ以外をも対象に情報を充実させることで地域の活性化につながるのではないのでしょうか。(女性・40～49歳)
- ・広報活動に力を入れてほしい。デジタル難民もいるので大変だと思いますが、防災マップ、病院情報、生涯学習制度、発信をもっとしてほしいと思います。(男性・18～29歳)
- ・市で取り組んでいることやお知らせ等、こちらから調べないと何も知らない状況だと思います。広報もある場所がわかっていて、出向き、手にしないと入手できません。たまたまみかけて手にすることがある程度です。全世帯にお知らせできるようなシステムがあったらいいと思います。以前は回覧板で届いていましたが、今はありませんので広報もしばらく見ていないです。市のHPがわかりづらいです。知りたいことになかなかとりつきません。(女性・40～49歳)

- ・船橋市の公式ツイッターの投稿がパッと見でかたくるしく、読む気がなくなる。情報がわかりづらい。リアルタイム情報をもう少ししてほしい。公式のツイッターを見るより、一般の方のツイッターを見たほうが船橋市のことがわかりやすい。SNS が得意な人を募って、船橋のリアルタイムを発信するとかしたほうがいいのでは？と思います。(女性・30～39 歳)
- ・千葉県以外の都市から移住してくると地域のコミュニティーに入るのがなかなかハードルが高い。イベントや SNS の利用でもうちょっと発信してほしい。(女性・50～59 歳)

【商工業・農業・イベント】

- ・ベッドタウン的な位置づけから、在宅ワークのひろがりといったここ最近の変化もあるかと思いますので、地域、市をあげたお祭りごとや憩いの場が増えると船橋に愛着がもっと出るように思います。(女性・30～39 歳)
- ・気候変動対策については、緩和策だけではなく、適応策を考えていく必要がある。船橋の美味しい梨が今後も同じように収穫できるとは限らない。そのために産官学一体の取り組みを今から始めるべきではないか。(高温耐性品種の開発・導入など)(女性・70 歳以上)
- ・船橋市でフリーマーケットや朝市がありません。(女性・30～39 歳)

【公園】

- ・ボール遊びできる公園を増やしてほしい。自由に好きなスポーツができずに困っています。(女性・40～49 歳)
- ・大きな公園（防災のため避難場所として）が少ないと思う。住宅が過密な所は逃げ場がないと思う。(女性・50～59 歳)
- ・スポーツのできる公園、器具を増やしてほしい（高鉄棒がある公園）。今は防犯上、小中学校には入れない。ジョギングが可能な公園。(男性・60～69 歳)
- ・公園ではボール遊びが禁止されています。公園、道、放課後に学校で遊ぶのも禁止。このような小さな？禁止事項が多数あり、子どもをのびのびと育てにくく感じています。遊びにくい為、公園にあまり子供がいない。年配の方にどなられたりする経験があると、2 度とその公園には行かない。マンション横公園などでうるさい！とどなられている子を何度も見たことがあります。(女性・40～49 歳)
- ・子どもの遊べる公園の整備をお願いします。前原西地区は、子ども（小さい子向け）の遊ぶ遊具が全くない。とくに駅近く…。待機児童も多く保育園も入りにくいのに、駅近く（津田沼）には公民館があっても図書も借し出ししていません。子育てに十分とはいえない。(男性・30～39 歳)

【地域社会・自治会】

- ・自治体の在り方について、自治会に在籍している方の多くが高齢者となっておりボランティアでの運営は負担が多いと思います。生活する上で最低限必要な「ゴミ捨て」について、自治会に入っている入っていないに関係なく管理、運営できるような仕組み作りを市政主導で構築してほしいです。(女性・30～39 歳)
- ・親戚が東京なのですが、町会費が船橋は東京と比べてかなり高いので安くしてほしい。(男性・18～29 歳)

- ・ゴミステーションについて 都内のある区では個人宅で出している。町内会等関係なくゴミは個人宅前で出したい。地区で新築の住宅ができたときゴミステーションをどこにするかもめた。ゴミ問題は生活に関わるので改善してほしい。町内会は必要なのか？昔からそうだが町内会は高齢者中心で若い世代は意見を言えず何でも頼られる（いろいろとわがまま）。古いコミュニティの土地柄の為、退会しました。（女性・50～59歳）

【学区・学校】

- ・LEDを推奨するのであれば、市内の学校全てをLEDにするべきである。（女性・60～69歳）
- ・学校の図書室の充実、本の修繕。（男性・30～39歳）
- ・いじめ対策が全くなっていない（学校）。（女性・50～59歳）
- ・小中学校で生徒が清掃するのはとても良いことだと思いますが、ボランティアで保護者清掃に行ったときにあまりの汚なさにビックリした経験があります。先生ではなく、清掃業者の定期的な清掃をお願いしたいです。その方が子ども達もキレイを保とうと努力する気がします。（女性・40～49歳）

【雨水・上下水道】

- ・船橋市の中心部は色々と整備されて変化があるのに対し、北部はいまだに下水道も整備されていない所もあり、全てにおいて後回しです。（女性・70歳以上）
- ・引越して2年になりますが、いい所が思いつかなくて残念な町です。水道料金の高さには驚きです。子どもに転校させたくないのでもうしばらく住むことになりますが、次の機会には引越して別の市へ移動したいです。（女性・40～49歳）
- ・県道路にある雨水側溝が泥でつままったままなので点検して取り除いてほしい（三咲8丁目）。（女性・70歳以上）
- ・ゲリラ豪雨が増え家の前が冠水する。そのことを市に『なんとかしてほしい』と伝えたが『どこもそうだ』と住所も何も聞かれなかった。予算のこともあると思うがやる気がない、市民に寄り添ってないとあきらめた。（女性・50～59歳）

【ペット・動物・虫】

- ・長津川遊水地はたいへんよく整備されており、散歩等で利用させて頂いていますが、外周の桜の木に毛虫が発声しております。駆除、見回り等お願いします。（女性・60～69歳）
- ・最近マンションの敷地内でネコのエサやりがひどく、駐車場に住み着いて住民を困らせています。管理会社に数年伝えてもネコは増える一方で改善されず、保健所の方と電話で話しをしました。住みやすい船橋のため、どうぞよろしく願いいたします。（女性・40～49歳）
- ・ペットを飼っている人のマナーの強化（犬猫）他人への迷惑 畑 庭 ビニールなど破かれてこまっています。強い指導をお願い致します。（女性・70歳以上）
- ・犬の散歩の尿やフンの対策をしてほしい（そのまま放置して行く人が多すぎる）。（女性・40～49歳）

【たばこ】

- ・公園でタバコを吸っている人も多いので、子どもが安心して遊べるよう管理してほしい。（男性・30～39歳）

- ・引越してきて、家の前にタバコの吸い殻ポイ捨て。そのたびに腹が立ち掃除していましたが、道路を歩いて罰金の看板も虚しくポイ捨ての多さに驚き。パトロールで減少するのですか？ない頭で考えましたが怖い世の中、掃除するのみです。(女性・60～69歳)
- ・西船橋に在住していますが、駅前の灰皿を撤退(去?)してから自宅近辺や駐車場での喫煙者を多く見ます。船橋駅には商業施設内に何ヶ所か喫煙場所を見かけますが西船橋にもせめて1ヶ所設置してほしいです。喫煙者は灰皿のある所があれば集まります。(女性・40～49歳)
- ・船橋駅北口に設置された喫煙所から来る煙が、ロータリーの乗降場所やタクシー乗り場、東武2階のATMコーナーに全て流れ込んでいて大変不愉快です。今時公共の場所にそのようなものを設置した理由が全く理解できません(特に狭い場所なのに)。許可した機関は分かりませんが、子どもたちも多く利用する場所ですので、早急な撤去を強く希望します。(男性・50～59歳)

【国際社会】

- ・ボランティアの日本語のクラスを開いてほしいです。あと国際文化交流会もあればうれしいです。(女性・18～29歳)
- ・外国人の居住がみられるが、規則等モラルに関することは事前に徹底することが重要である。(男性・70歳以上)

【空き家】

- ・古家解体の際に、道路に突出した土地だったら、セットバックして区画整理を行うべきかと思う。(男性・30～39歳)
- ・空家対策をお願いします。何年も放置状態のものが目立ちます。条例化できないものでしょうか？(女性・70歳以上)
- ・空き屋の有効活用など。遺族が家屋解体せずに土地建物を市の寄付ができる法律を整備。(男性・50～59歳)

【雇用・就労支援】

- ・市の施策に就職支援がない。NPOなど活動しているのは知っているがサポートが少ないと感じる。子ども3人中2人引きこもり。家族以外の信頼できる人のサポートが必要だと感じる。ハローワークの求人情報は魅力がない。ジョブカフェを通しての就職もちよっと。(女性・50～59歳)
- ・市で働く人の給料を上げてほしい。私は市で働いていませんが臨時や会計期間だけでなく、将来を考えられるようなお給料になりませんか。正社員？の公務員ではなくパートなどの人です。1年更新や1ヶ月ほど休んで再契約でなく、働きたい人が安心して働けるようにしてほしい。ワーキングプアはかわいそうです。私もワーキングプアですが…。(女性・40～49歳)

IV. 調査票

令和4年度 船橋市 市民意識調査

船橋市のまちづくりについて あなたの声をお聞かせください

日頃より、船橋市政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

市は、「人も まちも 輝く 笑顔あふれる船橋」を将来都市像として、市民の皆様が自分らしく輝くとともに、都市としての輝きも創出することで、笑顔の輪が広がり、さらに活気あふれるまちを目指しています。

本調査は、このようなまちを目指すうえで、市民の皆様の生活についての実感や日頃の行動などについてご意見をお聞かせいただき、これまでの市の取組みを評価するとともに、今後の市政運営に反映させるものとして行うものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、これまでの市の取組みに対する市民の皆様の実感をしっかりと把握し、今後の取組みや、まちづくりに生かしていくためにも、ぜひ、本調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査の実施にあたりましては、市内にお住いの満18歳以上の方の中から無作為に選んだ3,000名の方へお送りしています。

調査結果については、「広報ふなばし」や市のホームページなどで公表しますが、統計的に処理されます(この調査は無記名であり、個人が特定されることはありません。)ので、個人の考え方が公表されることはありません。また、調査の目的以外に使用することは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

令和4年9月

船橋市長 松戸 徹

～ ご記入にあたって ～

1. 調査票や返信用封筒に、住所・氏名を記入する必要はありません。
2. ご記入は、必ず宛名のご本人がおこなってください。
3. ご記入は、黒や青のボールペン、濃い色の鉛筆などをご使用ください。
ご記入方法は、別紙の「■ご回答にあたって■」をご覧ください。
4. 「その他」を選んだ場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
5. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、

令和4年9月26日(月)まで にご投函ください。

6. ご不明の点などありましたら下記までお問い合わせください。

＜お問い合わせ先＞ 〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号
船橋市役所 市民の声を聞く課
電話：047-436-2784 F A X：047-436-2789
e-mail：shiminokoe@city.funabashi.lg.jp

1 「住みごころ」についてお聞きします

【すべての方に】

【問1】あなたは、「船橋市」に愛着を持っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 愛着がある | 3. あまり愛着がない | 5. わからない |
| 2. やや愛着がある | 4. 愛着がない | |

【問2】あなたは、今後も「船橋市」に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|--------------|----------|
| 1. 住み続けたい | 3. できれば移転したい | 5. わからない |
| 2. しばらくは住み続けたい | 4. 移転したい | |

【問3】あなたは、「船橋市」を住みよいまちと感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|--------|
| 1. 住みよい | 2. まあまあ住みよい | ⇒問3-1へ |
| 3. あまり住みよくない | 4. 住みよくない | ⇒問3-2へ |
| 5. わからない | | ⇒問4へ |

（問3で「1. 住みよい」または「2. まあまあ住みよい」とお答えの方）

【問3-1】住みよいと感じるのはどのようなことですか。(○は2つまで)

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. 鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから | 6. 公園などの憩いの場所が多いから |
| 2. 商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから | 7. 福祉の施設・制度が充実しているから |
| 3. 道路、下水道などの都市基盤が整備されているから | 8. 保健や医療の施設・体制が充実しているから |
| 4. 公民館、図書館などの社会教育・文化施設が充実しているから | 9. 親しみのある自然が残っているから |
| 5. スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから | 10. 防災・防犯体制が充実しているから |
| | 11. 静かさなどの周辺環境がよいから |
| | 12. 近隣とのつきあいがうまくいっているから |
| | 13. その他（.....） |
- ⇒問4へ

（問3で「3. あまり住みよくない」または「4. 住みよくない」とお答えの方）

【問3-2】住みよくないと感じるのはどのようなことですか。(○は2つまで)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 通勤・通学に不便だから | 6. 公園などの憩いの場所が少ないから |
| 2. 商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから | 7. 福祉の施設・制度が十分でないから |
| 3. 道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから | 8. 保健や医療の施設・体制が十分でないから |
| 4. 公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分でないから | 9. 自然が少ないから |
| 5. スポーツ・レクリエーション施設が十分でないから | 10. 防災・防犯体制が十分でないから |
| | 11. 騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから |
| | 12. 近隣とのつきあいがうまくいっていないから |
| | 13. その他（.....） |
- ⇒問4へ

2 「広報活動」についてお聞きします

【すべての方に】

【問4】 普段、情報を入手するためによく利用する情報媒体は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 新聞 | 5. ケーブルテレビ |
| 2. パソコン | 6. ラジオ |
| 3. 携帯機器（スマートフォン、タブレット等） | 7. その他（.....） |
| 4. テレビ（ケーブルテレビを除く） | |

【問5】 普段、市の事業やイベント情報などをどこから入手しますか。（○はいくつでも）

1. 広報ふなばし（紙）
2. 広報ふなばし（電子媒体。スマートフォン用アプリ「マチイロ」など）
3. 船橋市ホームページ（検索サイトからの取得も含む）
4. ふなばし CITYNEWS（ケーブルテレビ／地上デジタル 11ch・YouTube）
5. デジタルサイネージ（船橋駅前歩道橋デジタルサイネージ、庁舎にあるモニターなど）
6. データ放送（チバテレビ※d ボタンの「市町村情報」）
7. ふなばし情報メール・船橋市公式 LINE
8. 船橋市公式 Twitter
9. 船橋市公式 Facebook
10. 船橋市広報課公式 YouTube
11. 船橋市公式アプリ（「ふなっぶ」など）
12. 地域の情報誌
13. 船橋市ホームページ以外のインターネット
14. 新聞、新聞折り込み
15. テレビ
16. 家族や友人、知人との会話から
17. その他（.....）
18. 入手していない

【問6】 広報紙やホームページで知りたい情報は何ですか。（○は3つまで）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 公共施設の利用案内 | 10. 消費生活や食生活など |
| 2. 催し物やイベント、サークル活動 | 11. 国民健康保険や国民年金の加入手続きなど |
| 3. 医療（予防接種、休日診療など） | 12. 市議会の活動内容 |
| 4. 都市計画や再開発のまちづくり | 13. ボランティア活動 |
| 5. 福祉（給付、貸付、サービスなど） | 14. 規制や公共サービスの有料化など |
| 6. 散策コースやレジャー | 15. 市勢や統計調査などの基礎データ |
| 7. 地域の気象、防災 | 16. 新型コロナウイルス関連情報 |
| 8. まちの話題 | 17. その他（.....） |
| 9. 教育、文化 | 18. 特になし・わからない |

【問7】「広報ふなばし」を読んでいますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|--------|
| 1. よく読んでいる | 2. ときどき読んでいる | ⇒問7-1へ |
| 3. あまり読んでいない | | |
| 4. 読まない | | ⇒問7-4へ |

(問7で「1. よく読んでいる 2. ときどき読んでいる 3. あまり読んでいない」とお答えの方)

【問7-1】「広報ふなばし」をどこで入手していますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 新聞折り込み | 5. 郵便局・銀行 |
| 2. 自宅にポスティング | 6. 商業施設 |
| 3. 公共施設(市役所・フェイス・出張所・公民館など) | 7. 船橋市ホームページ |
| 4. 駅スタンド | 8. スマートフォン用アプリ「マチイロ」 |
| | 9. その他(.....) |

【問7-2】「広報ふなばし」は月2回(1日・15日)発行しています。発行回数で好ましいものを、次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|----------|---------|---------------|
| 1. 現行の通り | 2. 毎月1回 | 3. その他(.....) |
|----------|---------|---------------|

【問7-3】「広報ふなばし」は読みやすいですか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 読みやすい | ⇒問8へ |
| 2. 読みにくい | ⇒問7-5へ |

(問7で「4. 読まない」とお答えの方)

【問7-4】「広報ふなばし」を読まない理由を次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1. 読みにくい | ⇒問7-5へ |
| 2. 読みたい情報がない | |
| 3. 他の手段で情報を得ている(船橋市ホームページなど) | ⇒問8へ |
| 4. 入手方法がわからない | |
| 5. その他(.....) | |

(問7-3で「2. 読みにくい」とお答えの方)または、

(問7-4で「1. 読みにくい」とお答えの方)

【問7-5】読みにくいとされた具体的な理由をご自由にお書きください。

⇒問8へ

3 「自殺対策に関する意識」についてお聞きします

船橋市では、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すため、平成 31 年度から「船橋市自殺対策計画」を定めて、自殺対策に取り組んでおります。

今後の自殺対策の推進方法を検討するにあたり、「自殺に対する考え方」や「自殺対策がどのように認知されているか」などを把握したいと思います。

皆様のご意見をお聞かせください。

【すべての方に】

【問8】あなたは、市の自殺対策に関する以下の取組みについて知っていますか。知っているもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 自殺予防週間(9月)、自殺対策強化月間(3月)における普及啓発
2. 広報、ホームページでの自殺予防の普及啓発
3. 出前講座等で行う「ゲートキーパー研修」
4. 様々な悩みの相談窓口を掲載したリーフレット「ひとりで悩まず相談を…」
5. 保健所による電話や対面で行う相談「こころの相談」
6. LINE を活用した相談「SNS 相談@船橋」
7. 船橋市自殺対策計画
8. どれも知らなかった

【問9】あなたは、「ゲートキーパー(※)」という言葉について聞いたことがありますか。また、その意味を知っていますか。いずれか1つに○をしてください。(○は1つ)

1. 聞いたことがあります、意味も知っている
2. 聞いたことがあるが、意味は知らない
3. 聞いたことがないし、意味も知らない

※ゲートキーパーとは

自殺のリスクにつながるような悩みに気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る人のこと。

【問10】あなたは自分の気持ちを理解してくれる人がいると思いますか。いずれか1つに○をしてください。(○は1つ)

1. いると思う
2. どちらかというといないと思う
3. いないと思う

【問1 1】あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると思いますか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 実際に会って、個人的に相談できる人がいる
2. 電話で、個人的に相談できる人がいる
3. メールや SNS (LINE ほか) 等で、個人的に相談できる人がいる
4. 対面や電話による相談機関に、相談できる
5. メールや SNS (LINE ほか) 等による相談機関に、相談できる
6. いない

【問1 2】あなたが悩みを抱えたとき、相談できる相手は誰(どこ)ですか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. 家族、親族 | 8. 介護関係職員 |
| 2. 友人、知人 | 9. 保健所、保健センター |
| 3. 民生・児童委員 | 10. 地域包括支援センター |
| 4. 学校の先生、スクールカウンセラー | 11. 警察、消防 |
| 5. 職場の同僚・上司・事業所内メンタルヘルス担当者 | 12. 市役所(上記以外) |
| 6. かかりつけ医療機関の医師・看護師等 | 13. NPO 法人等の民間団体 |
| 7. かかりつけ薬局の薬剤師 | 14. その他(.....) |
| | 15. 相談できる人がいない |

【問1 3】あなたは自殺について、どのように思いますか。以下の中から、あなたが「そう思う」もの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 自殺せずに生きていればよいことがある
2. 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている
3. 自殺する人が、よほどつらいことがあったのだと思う
4. 自殺は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題である
5. 生死は最終的に本人に任せるべきである
6. 責任をとって自殺することは仕方がない
7. そう思うものは1つもない

【問1 4】あなたはこれまでの人生のなかで、本気で自殺したいと思ったことがありますか。いずれか1つに○をしてください。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 自殺したいと思ったことがある | →問1 4-1へ |
| 2. 自殺したいと思ったことがない | →問1 5へ |

【問14で「1. 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方】

【問14-1】あなたが、自殺、またはそれに近いことを考えた要因となったものは何ですか。
以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病、虐待など）
2. 健康問題（自分の病気の悩み、身体の悩みなど）
3. 経済・生活問題（倒産、事業不振、負債、失業、就職失敗、生活困窮など）
4. 勤務問題（仕事の失敗、職場の人間関係、職場環境の変化、仕事疲れなど）
5. 交際問題（失恋、結婚をめぐる悩み、不倫など）
6. 学校問題（いじめ、学業不振、進路に関する悩み、教師との人間関係など）
7. その他（.....）

（引き続き、問14で「1. 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方）

【問14-2】どのように考えた時に、どのようにして自殺を思いとどまりましたか。
以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家、弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した
3. 家族や恋人など身近な人が悲しむことを考えた
4. できるだけ休養を取るようにした
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた
6. 将来を楽観的に考えるようにした
7. 我慢した
8. 自殺を試みたが死にきれなかった
9. まだ「思いとどまれた」とは言えない
10. その他（.....）
11. 特に何もしなかった

【すべての方に】

【問15】あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたら、どう対応するのが良いと思いますか。以下の中であなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をしてください。(○は1つ)

1. 「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す
2. 「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する
3. 耳を傾けてじっくりと話を聞く
4. 「死んではいけない」と説得する
5. 「つまらないことを考えるな」と忠告する
6. 「がんばって生きよう」と励ます
7. 一緒に相談機関を探す
8. 解決策と一緒に考える
9. 相談に乗らない、もしくは、話題を変える
10. その他（.....）
11. わからない

「うつ病のサイン」

以下に掲げた症状をいいます。

○自分で感じる症状

気分が沈む、悲しい、イライラする、集中力がない、好きなこともやりたくない、大事なことを先送りする、物事を悪いほうへ考える、決断ができない、自分を責める、死にたくなる

○周りから見てわかる症状

表情が暗い、涙もろい、反応が遅い、落ち着きがない、飲酒量が増える

○身体に出る症状

眠れない、食欲がない、便秘がち、身体がだるい、疲れやすい、性欲がない、頭痛、動悸、胃の不快感、めまい

※ このような症状が2週間以上続く場合、うつ病の可能性あります。

【問16】もし仮に、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたら、以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。以下の中であなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をしてください。(○は1つ)

1. かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）
2. 精神科や心療内科等の医療機関
3. 保健所等の公的機関の相談窓口
4. いのちの電話等の民間機関の相談窓口
5. その他（.....）
6. 何も利用しない

【問17】今後求められるものとして、どのような自殺対策が有効であると思いますか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。(○はいくつでも)

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 様々な分野におけるゲートキーパーの養成
3. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
4. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
5. 危険な場所、薬品等の規制など
6. 自殺未遂者の支援
7. 自殺対策に関わる民間団体の支援
8. 自殺予防に関する広報・啓発
9. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
10. 子どもや若者の自殺予防
11. 一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まりや支援情報の案内などのネットパトロール
12. 自死遺族などの支援
13. 適切な精神科医療体制の整備
14. 自殺報道の影響への対策（報道機関への注意喚起など）
15. その他（.....）

【問18】今後求められるものとして、どのような子ども・若者向けの自殺対策が有効であると思いますか。以下の中からあてはまるもの全てに○をしてください。（○はいくつでも）

1. 悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）
2. 子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施
3. 学校における、児童・生徒に対するゲートキーパー研修の実施
4. 学校における積極的な相談窓口の周知・啓発（プリント配布、ポスター掲示など）
5. GIGA スクール構想で整備された1人1台端末で児童生徒の心身の状況把握や相談受付
6. いじめ防止対策の強化
7. 不登校対策の充実
8. 家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策
9. SNS での広報・啓発
10. 一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まりや支援情報の案内などのネットパトロール
11. ネット上での誹謗中傷に関する対策
12. ネット上で「死にたい」などと検索した際に相談窓口の情報を表示する取組み
13. その他（.....）

＜各種相談窓口のご紹介＞

もし、悩みや不安を抱えていたら、ためらわずにご相談ください。

こころの相談

（地域保健課 精神保健福祉係）

☎047-409-2859

眠れない、自殺に関する
不安、お酒やギャンブル
が止められないなど

千葉いのちの電話

☎043-227-3900

精神的危機に直面し、死
にたいほどの思いを抱く
方に寄り添いお話を伺い
ます

SNS 相談@船橋



LINE 友だち追加

上記のほか、さまざまな悩みごとに応じた相談窓口があります。

相談先については、

以下の QR コードを読み取っていただくか、 パソコン・スマートフォンなどから、



船橋市 ひとりで悩まず相談を

検索

と入力すると、市ホームページでご相談先
が確認できます。

4 「地球温暖化」についてお聞きします

市では、令和3年3月に「船橋市地球温暖化対策実行計画」（計画期間：令和3～令和12年度）を策定し、市民・事業者・行政が一体となって地球温暖化問題に対する取り組みを進めています。本計画では、中期目標として2030年温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）、長期目標として2050年ゼロ・カーボンへの挑戦を掲げており、達成には市民の皆様のご協力が不可欠です。

この調査では、市民の皆様の地球温暖化問題に対する関心や取り組み状況を把握し、温室効果ガスの排出状況と併せた総合的な評価により、計画の進捗管理の目安とするとともに、今後市が実施する温暖化対策事業の参考として活用させていただきます。

【すべての方に】

【問19】あなたは日常生活の中で、下記（ア）から（ク）の地球温暖化防止のための配慮や行動をどの程度実行していますか。それぞれ最も近いと思う番号を1つ選んで○をしてください。また、「実行する予定はない」の「5」を選んだ場合は、下記の《実行を妨げる主な理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

行 動 内 容	実行している	概ね実行している	たまに実行している	今後実行したい	実行する予定はない	5の場合の主な理由
（ア）電気やガスなどのエネルギー使用量を記録するなどCO ₂ 排出量の把握に努めている	1	2	3	4	5	
（イ）季節や天候・気温などに適した服装を選び、過度な冷暖房に頼らないようにしている	1	2	3	4	5	
（ウ）公共交通機関を活用してマイカー使用を控えている	1	2	3	4	5	
（エ）ごみの分別を徹底し、ごみの減量・再利用・リサイクルに努めている	1	2	3	4	5	
（オ）賞味期限・消費期限を確認し、食品の無駄を出さないようにしている	1	2	3	4	5	
（カ）使わなくなったものはリサイクルショップ等を活用している	1	2	3	4	5	
（キ）照明はLEDを選んでいる	1	2	3	4	5	
（ク）住宅の断熱性能を向上するため、断熱材やペアガラスを採用している	1	2	3	4	5	

《実行を妨げる主な理由》 上記で「実行する予定はない」の「5」を選んだ場合、その理由に最も近いものを以下から1つ選び、その番号を「5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 生活の便利さ、快適さが損なわれる | 4. 生活習慣を変えたくない |
| 2. 手間がかかる | 5. 効果に疑問がある |
| 3. 費用がかかる | 6. 特に理由はない |

市では、平成 21 年 3 月に設立された船橋市ゼロカーボンシティ推進地域協議会※が中心となり、市民・事業者・行政等が協働で日常生活に関する温室効果ガス排出を抑制するため、情報提供や啓発事業を行っています。

※船橋市ゼロカーボンシティ推進地域協議会（愛称:ふなエコ）（以下「ふなエコ」）は、船橋市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の目標達成のため、市民・事業者・行政等が協働で温暖化防止のための情報提供や啓発イベントを実施している組織です。

【問20】「ふなエコ」では、市民の皆様身近にできる地球温暖化対策として「行動計画（アクションプラン）」を推進しております。下記（ア）から（ス）の行動内容の中であなたの実行状況にあてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をしてください。また、「実行する予定はない」の「5」を選んだ場合は、下記の《実行を妨げる主な理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

行 動 内 容	実行している	概ね実行している	たまに実行している	今後実行したい	実行する予定はない	5の場合の主な理由
(ア)使用していない部屋の電気は消そう	1	2	3	4	5	
(イ)冷蔵庫の温度は適切にしよう（夏、冬で変えるなど）	1	2	3	4	5	
(ウ)エアコンの温度は適切にしよう	1	2	3	4	5	
(エ)マイバッグやマイボトルを持ち歩こう	1	2	3	4	5	
(オ)エコマーク・省エネラベルの製品を選ぼう	1	2	3	4	5	
(カ)エコドライブ※ ¹ を実践しよう	1	2	3	4	5	
(キ)省エネ性能の高い家電や機器を選択しよう	1	2	3	4	5	
(ク)地元の食材を使うなどエコ・クッキング※ ² を実践しよう	1	2	3	4	5	
(ケ)宅配便の再配達を防止しよう	1	2	3	4	5	
(コ)緑のカーテン※ ³ や、すだれを設置しよう	1	2	3	4	5	
(サ)暑さを避け、こまめな水分補給などの熱中症対策をしよう	1	2	3	4	5	
(シ)ハザードマップ等を活用して避難場所・経路を確認しよう	1			4	5	
(ス)災害発生に備えて防災グッズを準備しよう	1			4	5	

《実行を妨げる主な理由》 上記で「実行する予定はない」の「5」を選んだ場合、その理由に最も近いものを以下から1つ選んで、その番号を「5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 生活の便利さ、快適さが損なわれる | 4. 生活習慣を変えたくない |
| 2. 手間がかかる | 5. 効果に疑問がある |
| 3. 費用がかかる | 6. 特に理由はない |

※1 エコドライブ・・・急発進・急加速・空ぶかしなどを行わず、燃料を効率的に使用するような自動車の運転方法のこと。経済性も良く地球温暖化対策にもなる。

※2 エコ・クッキング・・・食べ物やエネルギーを無駄にせず、水を汚さないよう工夫したり、ごみを減らしたりして、環境に配慮しながら料理すること。

※3 緑のカーテン・・・夏に南側の窓につける性植物（ゴーヤ、アサガオ等）をネットなどにはわせて育てたもの。日差しをさえぎり、部屋の温度上昇を防ぐ効果が期待できる。

～再生可能エネルギー^{※1}の利活用～

太陽光発電設備を自宅に設置する以外にも、家庭で使用する電力を再生可能エネルギー由来のものにする方法があります。現在、複数の小売電気事業者が再生可能エネルギー由来の電力メニューが提供され、契約を見直すことで環境にやさしい電気を利用することができます。（※1 再生可能エネルギーとは、エネルギー源として持続的に利用することができると認められるもので太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスが定められている。）

【すべての方に】

【問21】あなたのご家庭では、普段の生活において再生可能エネルギー由来の電力メニューを契約していますか。次の中から1つ選んで○をしてください。（○は1つ）

1. 再生可能エネルギー由来の電力メニューを契約している
2. 再生可能エネルギー由来の電力メニューについて知っているが契約していない
3. 再生可能エネルギー由来の電力メニューのことを知らなかった

【問22】あなたは、自宅に下記（ア）から（カ）の機器または設備を導入していますか。

あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をしてください。また、その選んだ番号が4または5の場合は、下記の《導入していない理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「4・5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

機器または設備	導入している	興味があり、導入 を考えている	検討したい	将来的には導入を 入は考えていない	興味はあるが、導 入は考えていない	導入しない・興味 がない	4・5の場合の主 な理由
(ア) 太陽光発電システム	1	2	3	4	5		
(イ) 太陽熱利用システム	1	2	3	4	5		
(ウ) エネファーム（家庭用燃料電池）	1	2	3	4	5		
(エ) 家庭用蓄電池（定置式）	1	2	3	4	5		
(オ) V2H ※1	1	2	3	4	5		
(カ) HEMS ※2	1	2	3	4	5		

（ア）太陽光発電システムのご回答が「1、2、3」のいずれかとお答えの方 ➡ 問22-1 へ
 《導入していない理由》 上記（ア）から（カ）のご回答が「4または5」を選んだ場合、その理由に最も近いものを、以下から1つ選んで、その番号を「4・5の場合の主な理由」欄にご記入ください。

1. 導入に向けて事業者と協議中
2. 機器等設備の更新時に検討
3. コスト面
4. 効果を期待できない
5. 借家やマンションのため機器等を設置できない
6. 機器や設備について知らないから
7. その他

※1 V2H（Vehicle to home ビークルトゥーホーム）の略で、電気自動車やプラグインハイブリッド車に充電するだけでなく、停電時でも電気自動車等に貯めた電気を家庭でも利用できる設備。

※2 HEMS（Home Energy Management System ホームエネルギーマネジメントシステム）の略で、家庭で使うエネルギーを管理するシステムのことで、家電と設備機器を連携することにより電気やガス使用量を見える化したり、家電を自動制御する。

【問22で（ア）太陽光発電システムのご回答が「1、2、3」のいずれかとお答えの方】

【問22-1】太陽光発電システムの設置の時期はいつでしたか。またはいつ導入の予定ですか。（○は1つ）

1. 新築時

2. 新築時以外

【すべての方に】

【問23】あなたのご家庭では、現在、どの種類の自動車を所有していますか。下記（ア）から（オ）の種別ごとに、その台数をご記入ください。

なお、自動車を所有されていない方は、問23-1へお進みください

種 別	台数	種 別	台数
(ア)EV（電気自動車）		(イ)HV（ハイブリッド車）	
(ウ)PHV（プラグインハイブリッド車）		(エ)FCV（燃料電池自動車）	
(オ)ガソリン車・ディーゼル車など			

（次世代自動車の種別）

（ア）EV車とは、電気をエネルギー源として電動モーターで走行する自動車

（イ）HV車とは、一般的に、ガソリンエンジンと電動モーターを備えている自動車

（ウ）PHV車とは、HV（ハイブリッド車）のうち、外部から充電・外部へ給電できる自動車

（エ）FCV車とは、水素と酸素の化学反応により発電した電気エネルギーで走行する自動車

【問23-1】今後、自動車を所有したり、買い替えなどをする時に、下記（ア）から（エ）の次世代自動車の導入を検討していますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をしてください。また、選んだ番号が「3または4」の場合は、《導入しない主な理由》からそれぞれ1つ選んで、その番号を「3、4の場合の主な理由」欄にご記入ください。

車 種	購入の必要がない	自動車を使わない・導入を検討している	興味はあるが、導入は考えていない	興味はない・導入しない	3、4の場合の主な理由
(ア) EV（電気自動車）	1	2	3	4	
(イ) HV（ハイブリッド車）	1	2	3	4	
(ウ) PHV（プラグインハイブリッド車）	1	2	3	4	
(エ) FCV（燃料電池自動車）	1	2	3	4	

《導入しない主な理由》

上記（ア）から（エ）のご回答が「3または4」の場合、その理由に最も近いものを以下から1つ選んで、その番号を「3、4の場合の主な理由」欄にご記入ください。

1. コスト面	4. 快適性を欠く
2. 効果を期待できない	5. 充電インフラなど社会情勢に不安がある
3. 買い替え時に検討予定	6. その他

【すべての方に】

【問24】省エネルギー性能の高い家電は電気の使用量を抑えることで、温暖化対策につながるだけでなく、電気代を安くすることにもつながります。省エネ家電の買い替えについてお聞きします。下記の（ア）から（ウ）の電化製品について、おおよそ何年ぐらい使用していますか。あてはまる年数の番号に○をしてください。

家電 (複数台ある場合は、最も古いものとします)	1 5 年	6 10 年	11 15 年	16 20 年	21 年 以上	使 っ て な い
(ア) 冷蔵庫・冷凍庫	1	2	3	4	5	6
(イ) エアコン	1	2	3	4	5	6
(ウ) テレビ	1	2	3	4	5	6

【問24-1】冷蔵庫やエアコンなどの電化製品の買い替えをするきっかけは何ですか。次の中から選んで○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 長期間使用しているから | 4. 便利な機能が欲しいから |
| 2. 故障したから | 5. 省エネ性能が劣っているから |
| 3. 使い勝手が悪くなったから | 6. その他 (.....) |

【問24-2】冷蔵庫やエアコンなどの電化製品の買い替えや新規購入に際して、どの項目を優先して商品を選びますか。次の中から選んで○をしてください。(○は3つまで)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 価格 | 5. 省エネ性能 |
| 2. サイズや容量 | 6. デザイン |
| 3. 使い勝手 | 7. その他 (.....) |
| 4. 性能や機能 | |

【問25】ご自宅の照明機器のうち、蛍光灯や白熱電球からどの程度LED電球に切り替えられていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(○は1つ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 全てLEDに切り替えた |
| 2. 工事が必要となる照明も一部LEDに切り替えた |
| 3. 電球等すぐに切り替えることができるものは切り替えた |
| 4. ほとんどか切り替えていないが一部LEDもある |
| 5. 全く切り替えていない |

【問26】地球温暖化防止のために、あなたが必要とする市からの情報として最もあてはまるものを、次の中から1つ選んで○をしてください。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 日常的な省エネ行動について、取り組み方や効果等の情報 |
| 2. 再生可能エネルギー設備（太陽光発電など）の設置について、費用や効果等の情報 |
| 3. 省エネルギー設備の設置について、費用や効果等の情報 |
| 4. 電気自動車など次世代自動車に関する費用や効果等の情報 |
| 5. 国・県・市の実施する補助事業についての情報 |
| 6. その他 (.....) |

【問27】あなたは、地球温暖化や省エネに関する情報を主にどこから得ていますか。次の中からあてはまるものを3つ選んで○をしてください。（○は3つまで）

- | | |
|------------|---------------|
| 1. インターネット | 5. 知人や家族など |
| 2. 書籍・雑誌 | 6. 行政からの情報 |
| 3. 新聞 | 7. 講演会等の参加 |
| 4. テレビ・ラジオ | 8. その他（.....） |

5 「市の施策」についてお聞きます

市では、市の政策目標を示し、それを実現するための施策や事業を関連付けて、総合的・体系的に取りまとめた第3次船橋市総合計画を令和4年度に策定しました。

この新たな総合計画においては、市の施策を24に分類し、それぞれの施策ごとに事業を実施してまいります。計画期間内における施策ごとの評価を行う際の基準とするため、策定段階での各施策に対する皆様の評価（ここ数年でよかったもの、力を入れるべきもの）をお聞きます。

【問28】次ページ以降の「表 市の施策（72項目）」について、どのように感じていますか。

① ここ数年でよかったもの

（5つまで選んで番号を記入してください）

--	--	--	--	--

「72. その他」を回答した場合は、具体的内容をお書きください。

② 力を入れるべきもの

（5つまで選んで番号を記入してください）

--	--	--	--	--

「72. その他」を回答した場合は、具体的内容をお書きください。

表 市の施策（７２項目のうち「１」～「１８」）

※ 右面の表に続きます

基本施策	番号	施策	施策における主な取り組み
健康増進	1	健康づくり	市民の自主的な健康づくりの意識づけと環境整備、高齢者自身による身体・生活状態の把握、介護予防知識の啓発及び運動実践の場づくり・支援
	2	疾病予防対策の充実	各種がん検診・健康診査の受診率の向上及び保健指導の推進、予防接種の接種率の向上
	3	健康危機管理の強化	感染症等の感染拡大時に対応できる市の業務継続・行動体制の強化、関係機関との連携による感染症感染拡大防止対策の推進、感染症等の健康危機に対する市民への意識啓発の推進、食品等事業者及び消費者に対する衛生教育、感染症及び食品衛生等に係る検査技術向上と機能強化
地域医療	4	在宅医療の推進	在宅医療の相談体制の充実、在宅医療の提供体制の拡充
	5	難病患者等の支援体制の充実	難病・小児慢性特定疾病児童等の相談支援の充実、依存症に関する普及啓発及び相談支援体制の充実
	6	医療提供体制の充実	市立医療センターの建て替え、医療機関等への医療安全に関する意識啓発及び指導
	7	救急医療体制の充実	救急医療体制の維持・充実、医療機関への適正な受診の周知・啓発
高齢者福祉	8	生きがいづくり	生きがいづくりのための活動機会や場の提供
	9	施設整備・人材確保の推進	需要に応じた特別養護老人ホームの整備、介護事業所の人材確保の支援
	10	相談支援体制の充実	認知症の本人や家族への支援、成年後見制度の利用促進、地域包括支援センターの機能強化とセンター間の連携協力
	11	生活支援の充実	家事援助ボランティアの確保、地域における見守り体制の構築支援
地域福祉・生活困窮者支援	12	地域福祉の体制整備	地域に関わる組織・団体との連携・協働の推進、生活支援コーディネーターによる地域のネットワーク強化、新たな市民ボランティアの発掘や活動機会の提供
	13	生活困窮者への支援	保健と福祉の総合相談窓口による支援体制の強化、困難を抱える生活困窮世帯の子供への支援、生活保護世帯への相談・支援体制の充実
	14	包括的な相談支援体制の構築	関係機関との連携による包括的な相談支援体制の構築
障害福祉	15	障害への理解の促進	啓発機会の拡大による市民・事業者の障害福祉への関心と理解の促進、児童生徒への理解啓発活動の推進
	16	相談・生活支援の充実	基幹相談支援センターを中核とした相談支援体制の充実、障害者就業・生活支援センターを中核とした雇用の促進、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築の推進
国民健康保険・介護保険	17	国民健康保険事業の適正な運営	適正な運営のための保険料率の見直し、国民健康保険料の収納率向上対策の強化
	18	介護保険事業の適正な運営	介護保険財政の安定性・健全性の維持、介護保険料の収納率向上対策の強化

表 市の施策（72項目のうち「19」～「35」）

※ 裏面の表もご覧ください

基本施策	番号	施策	施策における主な取り組み
子ども・子育て支援	19	教育・保育の充実	保育需要に応じた受け皿や保育士の確保、保護者のニーズに応える幼稚園の預かり保育の充実
	20	子供の健全な育成	「放課後ルーム」と「船っ子教室」の連携強化、子供たちの体験・交流活動の推進
	21	妊娠期から子育て期にわたる支援	切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策、子育て支援に関する情報提供・相談体制の充実
	22	特別な配慮を要する子供への支援	こども発達相談センターの相談体制の充実、保健、医療、福祉及び教育機関等との連携の強化
	23	ひとり親家庭等の自立支援	相談支援体制の充実、就業支援の強化
	24	児童虐待防止対策	児童虐待の未然防止や対象児童等の早期発見・早期支援、市児童相談所の設置及び設置に向けた体制整備
学校教育	25	教育内容の充実	学習指導要領を踏まえた主体的な学習の推進、ICTを活用した教育の充実、小中一貫英語教育の推進、主権者教育の推進、道徳教育・人権教育の推進、体力の向上・健康教育の推進
	26	ニーズに応じた支援の充実	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用促進、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校の機能の充実、要保護・準要保護世帯の就学援助
	27	教育体制の整備	教職員のための研修・相談窓口の充実、市立小・中学校の規模・配置の適正化、市立船橋高等学校の教育環境の充実
生涯学習	28	多様な学習ニーズへの対応と充実した学習機会の提供	新たな学習スタイルへの対応、社会教育施設での課題解決に向けた相談・情報提供の充実、青少年健全育成事業の充実
	29	学習と活動の循環	地域・社会で活躍する人材・団体の育成と支援、交流機会の創出と地域・社会への参画促進、学びの成果を活かすボランティア制度の構築
文化・スポーツ	30	文化振興	芸術文化の鑑賞機会、発表の場の提供、文化団体・市民ボランティアと協働した事業の推進、文化の担い手の育成
	31	文化財の保存・活用	重要な遺跡の保存と活用・整備、身近な地域の文化財や歴史を学ぶ機会の充実
	32	スポーツ振興	年齢や障害の有無に関わらず参加できるイベントの開催、スポーツに関する情報発信の充実、地域住民と連携・協働したスポーツイベントの開催、プロスポーツチーム等との連携の推進
防災・減災	33	地域防災力の向上	自主防災組織の結成と活動の支援、総合防災訓練及び各種講習の実施、在宅避難を含めた多様な避難方法の周知、要配慮者に対する避難支援等の推進
	34	防災体制の充実	防災行政無線やメール、SNS、FAX、電話、広報車等を活用した災害情報の提供、避難所の備蓄品及び設備の充実、避難所等における感染症対策の推進、病院前救護所訓練の実施及び医療機関等との連携強化、被災者生活再建支援システムを活用した被災者支援の推進
	35	都市防災機能の向上	橋りょうの耐震化、下水道施設の耐震化、民間の住宅や緊急輸送道路沿道建築物の耐震化促進、河川の改修、公共下水道（雨水）の整備、雨水貯留浸透施設の整備、海岸保全施設の早期整備の促進

表 市の施策（72項目のうち「36」～「55」）

※ 右面の表に続きます

基本施策	番号	施策	施策における主な取り組み
消防	36	火災予防の推進	予防査察（立入検査）の推進、各種広報媒体を活用した火災予防広報活動の推進
	37	消防体制の充実	消防本庁舎等の整備、消防車両、水利の整備、消防団の活性化、消防職員の育成強化
	38	救急体制の充実	救急隊員・救急救命士の育成強化、救急隊及び救急資器材の整備、救急車の適正利用推進、市民に対する応急手当の普及啓発推進
市民活動	39	市民活動への支援と協働の推進	市民活動を体感できるイベントの開催や支援、市民活動に関する情報提供の充実・情報交換の促進
	40	町会・自治会活動の促進	町会・自治会への加入促進策の推進、町会・自治会活動への支援
多文化共生・男女共同参画・平和	41	国際交流・多文化共生の推進	姉妹・友好都市交流をはじめとした市民主体の国際交流の活性化、外国人住民に対する情報提供や相談体制の充実
	42	男女共同参画の推進	男女共同参画推進のための意識改革、理解の促進、暴力根絶のための予防啓発や被害者の安全確保、自立支援の推進、性の多様性への理解の促進
	43	平和施策の推進	平和式典派遣の推進、平和の集いの実施内容の充実
住まい	44	住宅セーフティネットの充実	高齢者の住み替えや親世帯と子育て世帯の近居同居の支援、市営住宅の適正供給・住宅確保要配慮者の優先入居、住まいるサポート船橋における民間賃貸住宅への入居支援（居住支援協議会）
	45	住宅ストックの適正な管理と質の向上	住宅バリアフリー化の支援、分譲マンション管理組合による主体的な維持管理の促進、空き家の相談体制の整備や情報発信
生活安全・生活衛生	46	交通安全意識の啓発	交通安全教室の開催、自転車や自動車の安全利用に係る広報啓発活動の推進
	47	防犯体制の充実	特殊詐欺予防啓発活動の推進、自主防犯活動の支援
	48	安心できる消費生活の確立	消費生活相談の受付、消費者教育・啓発の充実
	49	生活衛生の向上	動物の適正飼養の啓発、合葬墓等の整備の推進
商工業	50	商業環境の整備	商店街を活性化するイベント等の支援、空き店舗の活用促進、移動販売等による買い物支援
	51	企業活動の活性化支援	ビジネスマッチング・異業種交流の推進、EC（電子商取引）導入支援等による国内外への販路拡大、新たなサービスやビジネスモデルの創出に向けたICT活用の支援、起業・創業の促進
	52	安定的な雇用の確保	多様な人材の雇用に対する体制の整備の推進、障害のある人や求職中の若者への就労支援
	53	卸売市場の機能強化・充実	卸売市場再整備の推進、市民向けのイベント等による卸売市場の活性化
農水産業	54	人材育成と農地活用	新規就農者・漁業就業者の育成、農地の貸付・借受のマッチングの促進、ふるさと農園の活用促進
	55	流通・販売の強化	地元小売店や卸売市場との連携、地産地消の推進、農水産物のブランド化の促進や六次産業化などへの支援、スマート農業や施設・設備の導入支援

表 市の施策（72項目のうち「56」～「72」）

基本施策	番号	施策	施策における主な取り組み
計画的な都市づくり	56	持続可能なまちづくり	「船橋市都市計画マスタープラン」に基づく土地利用の規制・誘導、地区計画制度等の活用
	57	良好な市街地の整備	JR南船橋駅南口市有地活用事業の推進、「ふなばしメディカルタウン構想」に基づく海老川上流地区のまちづくりの推進、二和東5丁目市有地活用事業の推進、船橋駅南口市街地再開発事業の推進、飯山満地区土地区画整理事業の推進
道路・交通	58	歩行者空間の整備	歩道やコミュニティ道路の整備、無電柱化の推進
	59	自転車利用環境の整備	自転車走行環境の整備、駐輪場の整備等、放置自転車対策の推進
	60	道路ネットワークの構築	都市計画道路の整備、交差点の改良、交通ビッグデータを活用した分析・検討・実施
	61	地域公共交通の活性化	公共交通不便地域における路線バス運行事業者の支援、路線バス等の利用促進
汚水処理	62	下水道の整備と管理	公共下水道の整備、下水道施設の計画的な老朽化対策の推進、下水道事業の投資・財政計画に基づく経営の実行及び計画の推進・改善
	63	し尿処理体制の充実	高度処理型合併処理浄化槽の普及促進、バイオマスの活用を行う前処理施設への西浦処理場再整備
自然との共生	64	自然を活かした水辺の整備	多自然川づくりの推進、調整池等を活用した水辺空間の整備、海老川調節池の多目的利用の促進
	65	緑の保全と公園緑地の整備	樹林地等の緑の保全・活用、公園緑地の整備、施設の改修
	66	生物多様性の保全・利用	生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する普及啓発・人材育成、ふなばし三番瀬環境学習館の活用等による環境学習の促進と三番瀬の保全
環境負荷の低減	67	ごみの適正処理	ごみの発生抑制の促進、資源化の促進、廃プラスチックの飛散及び海洋流出の防止に向けた啓発活動、産業廃棄物の適正処理の促進と監視体制の強化
	68	地球温暖化対策の推進	市民・事業者への環境配慮行動の普及・啓発、省エネルギー設備・機器や再生可能エネルギーの普及促進
	69	生活環境の保全	パトロール等による路上喫煙及びボイ捨て防止対策の推進、大気汚染物質の排出事業者への排出抑制の指導
広報広聴・魅力発信	70	広報・広聴機能の充実	多様な媒体を活用した市政情報の発信、市民ニーズを幅広く把握する機会の充実
	71	魅力発信の充実	地域資源を活かした観光プロモーションの推進、インバウンド対応の推進
その他	72	—	—

6 「回答していただいた方」についてお聞きします

【F1】性別を教えてください。(Qは1つ)

1. 男性 2. 女性 3. 自認する性別をご記入ください(.....)

【F2】年齢を教えてください。(Qは1つ)

1. 18～29歳 3. 40～49歳 5. 60～69歳
2. 30～39歳 4. 50～59歳 6. 70歳以上

【F3】職業を教えてください。(Qは1つ)

1. 農業・漁業 6. 学生(予備校生を含む)
2. 会社員・公務員 7. 専業主婦(主夫)
3. 自営・自由業・経営者 8. 無職(年金生活を含む)
4. 家族従業(1を除く)※ 9. その他(.....)
5. アルバイト・パート・契約(派遣)社員

※「家族従業」とは、個人事業主の家族で、その事業を手伝っている者

【F4】世帯状況を教えてください。(Qは1つ)

1. 単身世帯(ひとり暮らし) 4. 三世帯世帯(親と子と孫など)
2. 一世帯世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ) 5. その他(.....)
3. 二世帯世帯(親子など)

【F5】「船橋市」に何年くらいお住まいですか。(Qは1つ)

1. 5年未満 4. 20年以上
2. 5年以上10年未満 5. 生まれたときから
3. 10年以上20年未満

【F6】現在お住まいの地区を教えてください。

次ページの「表 居住地区一覧」から該当する「地区の番号」を1つ記入してください。

【F7】現在お住まいのところに住む以前は、どちらにお住まいでしたか。(Qは1つ)

1. 生まれたときから現在のところ 4. 東京都・神奈川県・埼玉県
2. 船橋市内の他の地区 5. 「1～4」以外の道府県
3. 千葉県の他の市町村 6. 日本国外

「 表 居住地区一覧 」

番号	地区名	住所
1	宮本	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台
2	湊町	本町3丁目、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町
3	本町	本町1～2丁目・4～7丁目
4	海神	南本町、海神、海神町、海神町東・西・南、南海神
5	葛飾	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山
6	中山	二子町、本中山
7	塚田	旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町
8	法典	丸山、上山町、馬込町、馬込西、藤原
9	夏見	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町
10	高根・金杉	高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台
11	高根台	高根台1～6丁目
12	新高根・芝山	芝山、新高根、高根台7丁目
13	前原	前原東、前原西、中野木
14	二宮・飯山満	二宮、飯山満町、滝台町、滝台
15	薬円台	薬円台、薬園台町、七林町
16	三山・田喜野井	三山、田喜野井、習志野
17	習志野台	習志野台、西習志野
18	二和	二和東、二和西
19	三咲	三咲町、三咲、南三咲
20	八木が谷	八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台
21	松が丘	松が丘
22	大穴	大穴町、大穴南、大穴北
23	豊富	小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町
24	坪井	坪井町、坪井東、坪井西

7 「市政に関するご意見・ご要望」についてお聞きします

最後に、船橋市の市政に関するご意見やご要望など、どんなことでも結構ですので
ご記入ください。

以上で質問は終了です。

ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、**9月26日（月）まで**に
ご投函ください。

（お知らせ）

- ・調査結果及び活用状況は、船橋市ホームページにて公表いたします。
- ・ご希望の方には、調査結果概要版（ふなばしタウンレポート）と活用状況を送付いたしますので、市民の声を聞く課までメール、電話、FAXにてご連絡ください。（送付の時期は、ホームページ公表後の来年4～5月頃になります）
- ・ご連絡先は、表紙（1ページ目）の枠内に記載してあります。

都市宣言

スポーツ健康都市宣言（昭和五十八年十月十日）

私たち船橋市民は、地域に根ざしたスポーツ活動を通じて健康で豊かな心とからだを育て、活力ある近代的な都市をめざして、ここにスポーツ健康都市を宣言します。

- 一、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康な生活を営もう。
- 一、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり、こどもを健やかに育てよう。
- 一、スポーツを通じて、いきいきとした地域の輪を広げよう。
- 一、スポーツを通じて多くの仲間とふれあい、はすむ心を世界に伸ばそう。

平和都市宣言（昭和六十一年十二月十九日）

船橋市は、現在人口五十万人を擁する首都圏有数の中核都市に成長し、第二の飛躍期を迎えている。そして、「活力ある近代的都市」を市政の目標に掲げ、より豊かな福祉社会実現のため懸命な努力を続けているところである。

しかし、郷土船橋の限らない繁栄は、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

私たち船橋市民は、世界の恒久平和を願い、我が国の国是である非核三原則を遵守し、平和を脅かす核兵器の廃絶を目指して最大の努力を払うことを決意し、ここに「平和都市」を宣言する。

福祉と緑の都市宣言（平成四年九月十四日）

船橋市は、今や人口五十四万人を擁する首都圏屈指の中核都市へと成長し、二十一世紀に向けさらに大きく飛躍しようとしております。

私たち船橋市民は、緑豊かな環境の中で、お年寄りや障害をもつ方々を大切にする優しい心をはぐくみ、次代を担う子供たちが、すくすくと成長できる生きがいと温もりに満ちたまちづくりを目指し、ここに「福祉と緑の都市」を宣言いたします。

令和4年度 市民意識調査報告書

令和5年2月発行

- | | |
|------|---|
| 【発行】 | 〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号
船橋市市長公室 市民の声を聞く課
☎ 047 (436) 2784 (直通)
ホームページ https://www.city.funabashi.lg.jp
メールアドレス shiminnokoe@city.funabashi.lg.jp |
| 【実施】 | 〒261-8501 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目3番地
幕張テクノガーデン CB 棟 3 階 MBP
株式会社 総合企画 千葉事務所
☎ 043 (330) 3600 (代表) |

●この冊子は、地球環境保全推進のため、再生紙を使用しています。

